

Syllabus

平成27年度

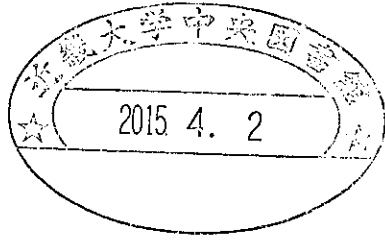
薬学部授業計画

< 共通教養科目 >



< 外国語科目 >

近畿大学

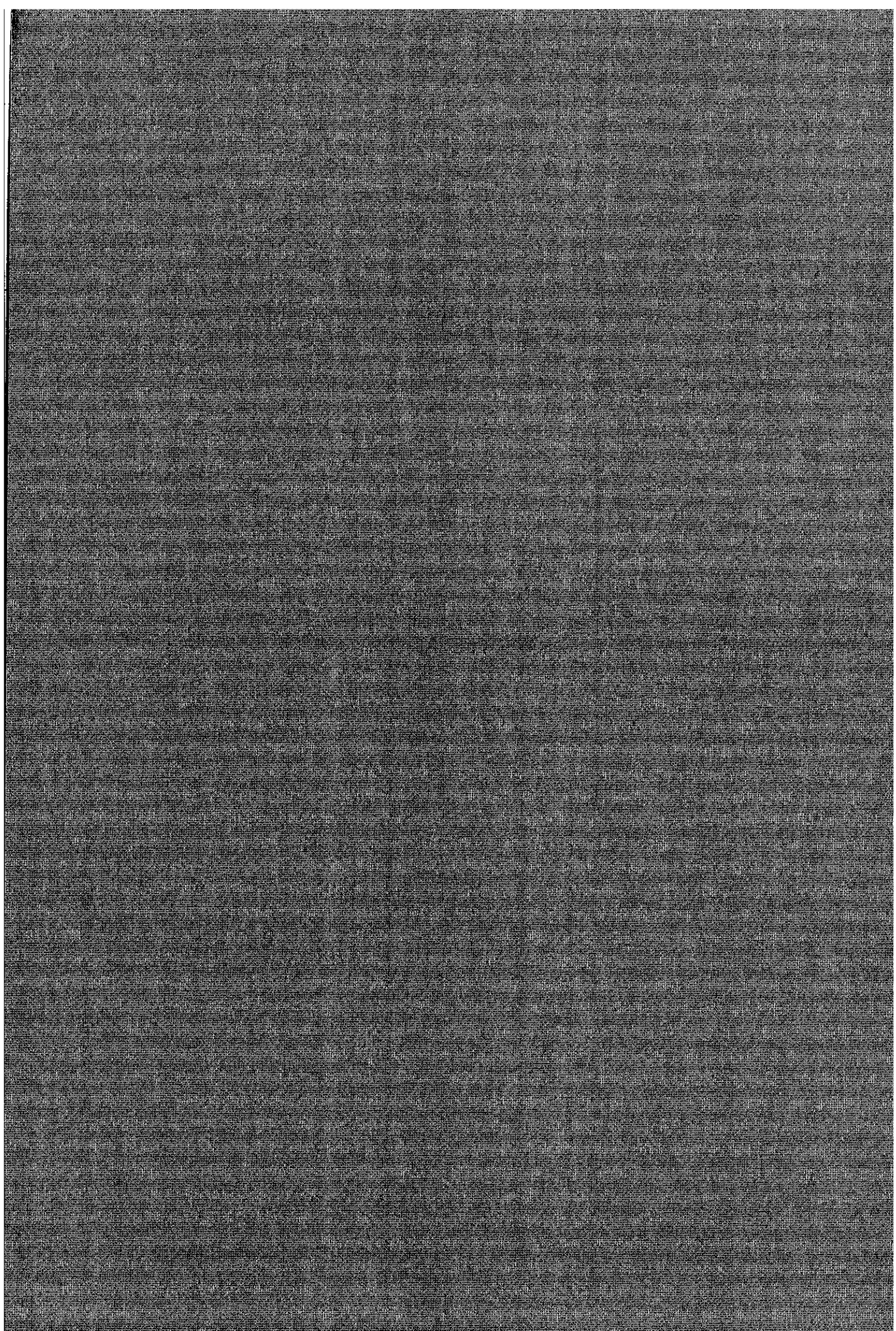


目 次

共通教養科目	1
生涯スポーツ	49
英 語 医療薬学科・創薬科学科 平成 27 年度以降入学生	63
英 語 医療薬学科 平成 26 年度以前入学生・創薬科学科 平成 23 年度以前入学生	73
英 語 創薬科学科 平成 24 ～ 26 年度入学生	89
英 語	99
第二外国語	195



共通教養科目



近畿大学の教養教育の目的と目標

前文

近畿大学の建学の精神は、「実学教育」と「人格の陶冶」にあり、教育の理念である「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人」を育成することを教育の目的としている。この建学の精神に基づき、社会の発展に貢献できる有為な人材を育成するために、教育の中核に教養教育と専門教育を据え、それを通して総合的な教育を行うところに、本学の教育の特色がある。

さらに、近畿大学は、「世の中にないものを創り、生み出す」ことを社会的使命と任じ、新たな地平の開拓へ果敢に挑戦する人材を育成する。このような観点に立脚し、近畿大学の教養教育の目的を次のように謳うものである。

目的

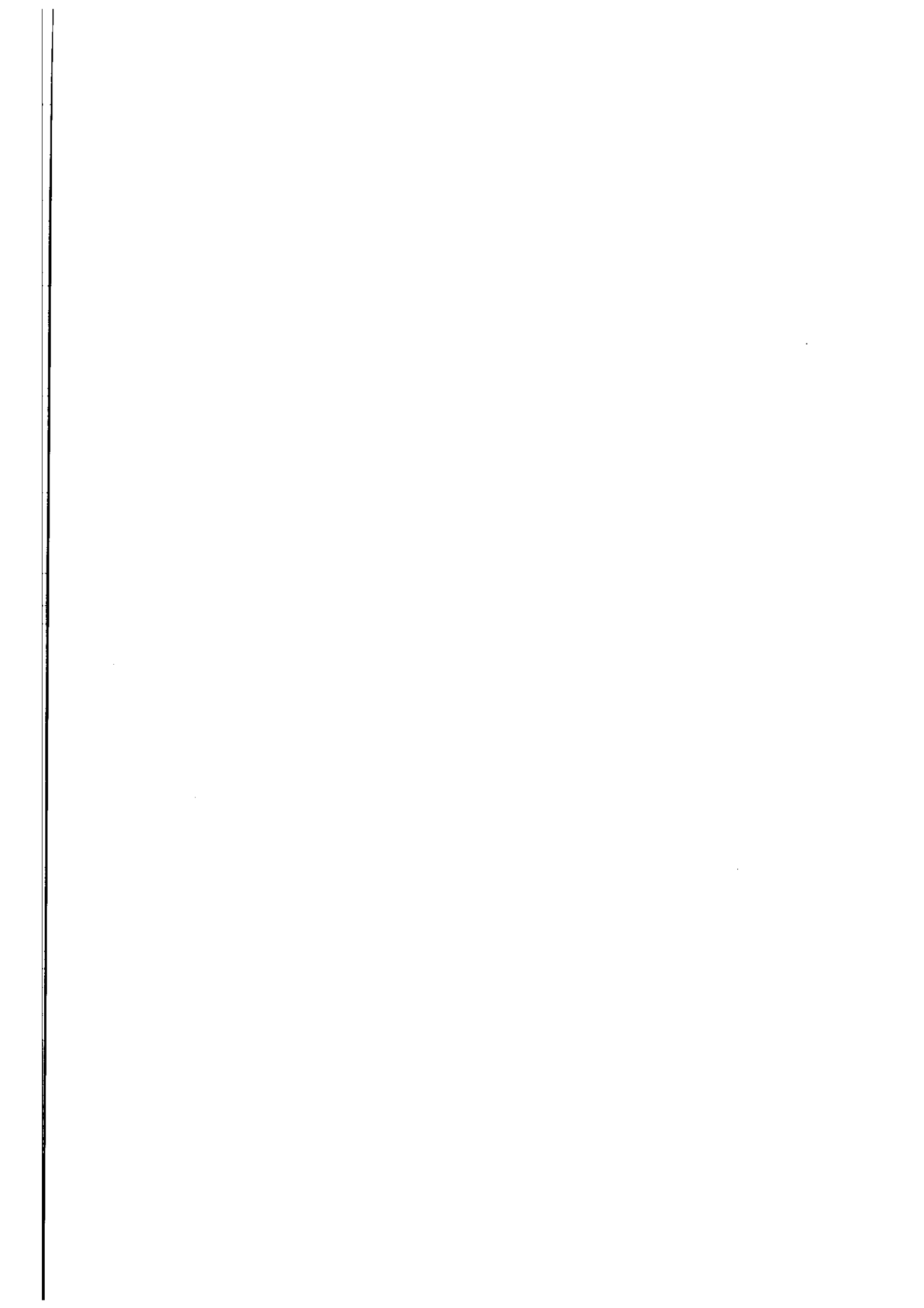
「近畿大学の教養教育は、幅広い知識と深い洞察力を培い、豊かな人間関係と確かな主体性を確立することを目的とする」

この目的の達成のために以下の目標をおく。

1. 個人の自由と平等を尊重し、社会において担うべき責任を理解し、公正に判断する能力を養う。
2. 日本文化と外国文化の理解を通じ、国際感覚を高め、相互の個性を尊重し、信頼し合う精神を養う。
3. 課題設定と問題解決の能力を高め、課題に積極的に挑戦する意欲を養う。
4. 健康な精神と肉体を培うとともに、趣味の涵養を通して豊かな人間性を養う。
5. 国際社会に対応できる英語をはじめとする外国語によるコミュニケーション能力を養う。
6. 総合的な視野から専門分野を理解し、その研究に必要な基礎知識を養う。

科目群は、上記目標に対応させて以下のとおりとする。

- ① 人間性・社会性科目群（個人の尊重・社会的責任の認識）
- ② 地域性・国際性科目群（国際的感覚の育成）
- ③ 課題設定・問題解決科目群（課題設定・解決能力の育成）
- ④ スポーツ・表現活動科目群（スポーツ・表現活動を通じた人間性の育成）
- ⑤ 外国語科目群（外国語によるコミュニケーション能力の育成）
- ⑥ 専門基礎科目群



科目名： 人権と社会1			
英文名： Human Rights and Society 1			
担当者： ^{フジモト ノブキ} 藤本 伸樹			
単 位：	開講年次：	開講期： 後期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

私たちが暮らす身近な地域社会、そして日本において、さらに他のアジア諸国・地域における人権状況を認識するとともに、人権の保護と推進に向けた課題は何なのかについて考えていきます。

同時に、人権保障をめざして、政府や地方自治体、市民社会（人権団体をはじめとするNGO、NPOなど）、さらには国連をはじめとする国際機関がどのような取り組みを行っているのかについて検証していきます。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、多様なルーツや属性を持つ人々、「社会的弱者」などが差別・排除されることなく、人権が保障され、各人が平等に参画できるような社会の実現に向けた道筋を考えるための知識と人権感覚を学修します。

■授業時間外に必要な学修

主に現代社会における人権や社会問題に焦点をあてて授業を進めることから、テレビや新聞などのメディア報道に日頃から「アンテナ」を張っておくとともに、それらは本当に「正しい情報・解説」なのかどうかを読み解こうとする姿勢が大切です。

■教科書

教科書は使用しません。プリントを適宜配布します。ビデオ、DVDなどを使用してビジュアルな授業を行います。

■参考文献

[ISBN]9784759267211 『世界人権宣言の実現にむけて－日本の人権課題から』（部落解放・人権研究所,解放出版社）[入手可、中央図書館所蔵]

[ISBN]9784759282795 『知っていますか? 部落問題 一問一答 第3版』（奥田 均,解放出版社）[入手可、中央図書館所蔵]

[ISBN]9784759210262 『見なされる差別－なぜ、部落を避けるのか』（奥田 均,解放出版社）[入手可、中央図書館所蔵]

[ISBN]9784759282689 『知っていますか? ジェンダーと人権 一問一答（第2版）』（船橋邦子,解放出版社）[入手可、中央図書館所蔵]

[ISBN]9784000092661 『在日コリアン権利宣言』（田中 宏,岩波書店）[入手可、中央図書館所蔵]

[ISBN]9784759282849 『知っていますか? 在日コリアン 一問一答』（川瀬 俊治,解放出版社）

[ISBN]9784004314608 『ヘイト・スピーチとは何か』（師岡 康子,岩波書店）[入手可、中央図書館所蔵]

[ISBN]9784750329482 『外国人研修生 時給300円の労働者2』（外国人研修生権利ネットワーク,明石書店）[入手可、中央図書館所蔵]

[ISBN]9784759261189 『障害者の権利条約でこう変わる Q&A』（東 俊裕,解放出版社）[入手可、中央図書館所蔵]

[ISBN]9784166608874 『ブラック企業・日本を食いつぶす妖怪』（今野 晴貴,文藝春秋）[入手可、中央図書館所蔵]

■関連科目

人権と社会2

■成績評価方法および基準

レポート試験 50%

授業時の小レポート 50%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

E-mailアドレス：nfuji@hurights.or.jp

授業日以外の平日の連絡先：TEL：06-6543-7003

（一般財団法人）アジア・太平洋人権情報センター（ヒューライツ大阪）

〒550-0005 大阪市西区西本町1-7-7

CE西本町ビル8F

■オフィスアワー

質問や相談は、毎回の授業前、あるいは終了後に教室で受け付けます。もしくは、E-mail(アドレス: nfuji@hurights.or.jp) にて連絡してください。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション（授業内容と目的の説明）

授業の内容や進め方について

第2回 人権とはなにかー日本と世界の人権課題

人権(human rights)とはなにかを理解したうえで、グローバル化のなかの日本の人権状況と、国際社会における人権の課題や国際人権基準の概要を知る

第3回 身近な地域で考える人権（1）被差別部落出身者の人権

部落差別の現状と、差別撤廃のための課題

第4回 身近な地域で考える人権（2）女性の人権

就職や職場における課題を中心に、女性の人権を考える
「男女共同参画社会」とは？

第5回 身近な地域で考える人権（3）在日コリアンの人権

在日コリアンに対する差別の歴史と現状、人権保障の課題を考える

第6回 身近な地域で考える人権（4）新来の在日外国人（ニューカマー）の直面する人権問題

日本における人種差別の現状と、多民族・多文化共生社会への挑戦

第7回 身近な地域で考える人権（5）日本における外国人女性の人身売買

外国人女性が直面する日本での人身売買の実態と、解決への道

第8回 身近な地域で考える人権（6）日本への外国人労働者受け入れの課題

少子・高齢社会を迎えている日本における外国人労働者・移民の受け入れをめぐる課題を考える

第9回 身近な地域で考える人権（7）子どもの人権

子どもが直面している人権課題と、子どもの権利を考える

第10回 身近な地域で考える人権（8）障害者の人権

障害者が直面する課題を人権の視点から考える

第11回 アジアを歩いて考える人権（1）貧富の格差と児童労働の現状

南北問題や、国内外の貧富の格差を考える

第12回 アジアを歩いて考える人権（2）日本の国際開発協力

日本の政府開発援助（ODA）の課題

第13回 アジアを歩いて考える人権（3）企業の社会的責任（CSR）と人権

国内外で活動する企業の社会的責任をめぐる国際基準を知る

第14回 アジアを歩いて考える人権（4）「ブラック企業」の問題

若者を使い潰す「ブラック企業」の問題を考える

第15回 総括 - 人権保障とは

各回の授業を振り返りながら、本当の人権とは何か、いかに保障するかについてあらためて考える

試験は、授業時に課す小レポートおよびレポート試験

授業で取りあげるさまざまな人権課題に関して、学習したことに基づき自分の考えを述べること

科目名： 人権と社会1			
英文名： Human Rights and Society 1			
担当者： <small>クマモト リサ</small> 熊本 理抄			
単 位：	開講年次：	開講期： 前期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

現代社会における人権課題を、その歴史的背景、自己・他者・社会との関係性、および社会構造の視点から学修します。「生存権」「労働権」「教育を受ける権利」の保障について、その実態を考察していきます。「人権」「平等」「特権」「貧困」「自尊感情」「性」「社会的排除」「社会的包摂」などの概念や実体を歴史的視点と現代的視点から学修します。

マイノリティたちによる人権獲得に向けたとりくみについて学修します。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、現代社会における人権課題についての知識を得るとともに、自己および他者の人権ならびにそれらと関連する社会構造に対する理解力、思考力、分析力を深め、人間らしく生きること（自立）や他者とつながりあうこと（共生）を日常生活や他者との関係性において実践する力を身につけることを目標とします。

■授業時間外に必要な学修

授業で習ったことを日常の生活や人間関係へ応用し、その思考や理解を深めること。
日々の国内外の社会の動きについて新聞等でよく接し把握しながら、それらを論理的に思考すること。

■教科書

適宜プリントを配布します。

■参考文献

適宜授業中に紹介します。

■関連科目

人権と社会2

■成績評価方法および基準

授業中課題（ふりかえりシート）90%
レポート 10%

■授業評価アンケート実施方法

各学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

研究室（本館5階・507号室）
E-mailアドレス（kumamoto@kindai.ac.jp）

■オフィスアワー

月曜日3限と金曜日3限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション：授業概要について

第2回 人権とは何か：歴史的概要と日本国憲法

第3回 平等とは何か：「形式的平等」と「実質的平等」

第4回 「特権」を考える

第5回 貧困と人権

第6回 教育を受ける権利

第7回 働く権利

第8回 雇用におけるジェンダー平等の課題

第9回 多様な性（1）sexとgender

第10回 多様な性（2）性別二元論

第11回 多様な性（3）sexual minority

第12回 自尊感情

第13回 人権のまちづくり

第14回 ふりかえり

第15回 春期人権講演会

科目名： 人権と社会2			
英文名： Human Rights and Society 2			
担当者： ^{クマモト リサ} 熊本 理抄			
単 位：	開講年次：	開講期： 後期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

国際人権保障システムがどのように発展してきたか、その歴史をたどるとともに、それが現代社会において果たしている役割や限界について考察を深めます。
 国際的な人権保障システムが日本国内における具体的な人権問題に対してどのような実効性や課題を有しているかについて学修します。
 日本の人権状況を国際人権基準に照らして検討し、課題や今後の方向性を考察します。
 国際人権基準や日本の人権水準の向上のための国際社会や日本社会の努力を学修します。
 地域・国内・国際レベルにおいて、人権を促進する活動を展開しているNPOやNGOのとりくみについて学修します。

■学習・教育目標および到達目標

受講者がこの授業を履修することによって、
 1) グローバルかつローカルな視点から、自らの歴史的・社会的立場を理解・認識するとともに、社会を論理的に分析する力を身につける
 2) 人権の視点を持ちながら現代社会をどのように生きるか、どのような社会をめざすかを思考する力を身につけることを目標とします。

■授業時間外に必要な学修

授業で習ったことを日常生活や人間関係へ応用し、その思考や理解を深めること。
 日々の国内外の社会の動きについて新聞等でよく接し把握しながら、それらを論理的に思考すること。

■教科書

適宜プリントを配布します。

■参考文献

適宜授業中に紹介します。

■関連科目

人権と社会1

■成績評価方法および基準

授業中課題（ふりかえりシート）90%
 レポート 10%

■授業評価アンケート実施方法

各学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

研究室（本館5階・507号室）
 E-mailアドレス（kumamoto@kindai.ac.jp）

■オフィスアワー

月曜日3限と金曜日3限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション：授業概要について

第2回 国際的な人権保障システムの歴史的発展と国際人権法の国内的実施

第3回 ヘイトスピーチと差別の法規制

第4回 多文化共生のまちづくり

第5回 女性差別撤廃条約と女性に対する暴力①

- 第6回 女性差別撤廃条約と女性に対する暴力②
- 第7回 障害者権利条約と「障害」概念
- 第8回 NPO / NGOとは何か：歴史的概要と活動のあり方
- 第9回 国連とNGO
- 第10回 国際社会とつながるわたしたちの暮らし
- 第11回 エンパワーメント・アプローチ
- 第12回 コミュニティベースのまちづくり
- 第13回 社会的企業のとりくみ
- 第14回 秋期人権講演会
- 第15回 人権週間人権講演会

科目名：暮らしのなかの憲法			
英文名：The Constitution in Everyday Life			
担当者：廖 修雅 <small>リョウ シュウガ</small>			
単 位：	開講年次：	開講期：	必修選択の別：

■授業概要・方法等

憲法の意義、歴史について概観した後、憲法が保障する基本的人権をめぐる解釈上の諸問題について講義する。また、憲法は権力分立制を採用し、立法・行政・司法の各作用を国会・内閣・裁判所に分担させるとともに、財政や地方自治についても規定をおいている。これらの統治機構をめぐる解釈上の諸問題についても具体的に検討する。

■学習・教育目標および到達目標

- (1) 基本的人権の機能及び概念を学習し、憲法解釈の基礎を身につけること。
- (2) 憲法が定める統治機構の基本構造を理解し、具体的な解釈上の問題について説得的に論じることができるようになること。

■授業時間外に必要な学修

新聞等で憲法に関わる記事を読むこと。

■教科書

適時プリント配付

■参考文献

なし

■関連科目

民法、刑法、労働法

■成績評価方法および基準

小テスト 40%

中間試験 60%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行う。

■オフィスアワー

授業終了直後

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 ガイダンス

第2回 憲法と立憲主義

第3回 国民主権の原理

第4回 平和主義の原理

第5回 基本的人権の原理、限界

第6回 包括的基本権と法の下での平等

第7回 精神的自由権

第8回 経済的自由権

第9回 人身の自由権

第10回 国務請求権と参政権

第11回 社会権

第12回 国会

第13回 内閣

第14回 裁判所

第15回 まとめ

憲法の全体像

中間試験

科目名：現代社会と倫理			
英文名：Modern Society and Ethics			
担当者： ^{モリモト サトシ} 森本 聡			
単 位：	開講年次：	開講期：	必修選択の別：

■授業概要・方法等

今日は、この科目を担当しています森本です。倫理学（りんりがく）とは、かんたんに言えば、我々の行動ないし行為の善悪について考える学問です。倫理学の講義では、様々な哲学者の倫理に関する考え方を古いものから順番に紹介していくという講義スタイルが普通のようなのですが、この講義はそのようなやり方をなるべくやらないで、現代社会のさまざまな問題を通じて倫理的な考え方を身につけることをめざしています。そもそも倫理学という学問も現実の社会を理解し、その問題点を解決するための学問のほうです。ですから、この講義では過去の学説（がくせつ）の紹介は必要最小限にとどめて、現実の様々な問題に直接、斬（き）りこんでいくことを優先（ゆうせん）したいと思います。なお、今年度の講義テーマのほとんどは、いわゆる生命倫理の分野に属しています。生命倫理とはなにかということも講義中に説明します。それでは新学期にお会いしましょう。

☆昨年度の受講生の感想例（原則として原文のまま。ただし、少し句読点など変更をしている場合あり。）

○出生前診断の講義が頭に残っている。社会にとって重要な問題となっている事柄でも、私（たち）が普段気に留（と）めたり自ら考えたりしないことを取り扱っていたので、自分にとって考える機会となった。良かったと思う。

○この現代社会と倫理の講義をうけて、いままでクローンについて羊が世界で初めて（哺乳類の体細胞）クローンに成功したなど簡単なことしか知らなかったが、詳しく学ぶことが出来た。他にもカントの思想や功利主義などの倫理的思考も学ぶことが出来た。ありがとうございました。

○今までテレビなどで聞いたことがあった、様々なことについて深く考える講義であった。医療に関する話も多く取り上げられているので興味を持ちやすい。現在も最新の医療技術が開発されているが、倫理的に問題のあるものがあり、それを考えることで自分の知識が増え、考え方も変わったりすることもあった。

■学習・教育目標および到達目標

この講義は、

- (1) 受講生諸君の倫理的感覚を養うこと、
- (2) ドイツの哲学者・カントの倫理的立場や功利主義など、倫理学の基本的立場を理解できるようになること、
- (3) 将来、受講生諸君が社会人となった時に、現実の社会や医療現場などで直面（ちよくめん）する可能性のある様々な倫理的問題に自分なりのしっかりした考え方でもって対処（たいしょ）できるようになることなどを学習・教育目標および到達目標としています。

■授業時間外に必要な学修

(1) 講義で使用使用するプリントはなるべく早い目に配布するように心がけているので、配布されたプリントは前もって必ず読んでおくこと。

(2) 講義終了後は必ず講義の復習をして、分からないことを後に残さないようにすること。

(3) また、原則として講義のたびごとに違う参考書を紹介するので、紹介した参考書等は、図書館などで必ず目を通し、重要な部分はメモをとるようにすること。

(4) その上で、新聞やインターネットのポータルサイトなどをこまめに閲覧し、この講義で取り上げるインフォームド・コンセントや遺伝子診断（いでんししんだん）などに関する記事が掲載（けいさい）されていたら、スクラップブックを作り、そこに自分の感想を記入するなどして、講義に関する理解をより深めること。

（これらは、すべて定期試験対策に役立ちます。）

■教科書

特定の教科書は使用しません。そのつどプリントを配り、それを用いて講義をします。そのため、ある程度プリントの枚数が多くなること避けられません。そのことに関する苦情はお断りします。

■参考文献

たくさんありますので、ここにはどうも書ききれません。講義中に紹介します。

■成績評価方法および基準

定期試験 100%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

以下の講義計画はあくまで予定であって、変更の可能性があります。また一つのテーマが一回の講義で終わるとは限りません。また、講義のたびごとに質問カードを配布しますので、もし分からないことがあれば、そのカードを用いて必ず質問し、疑問点は後に残さないようにして下さい。（重要な質問には次回の講義でお答えします。）

第1回 倫理学とは何かということおよび講義に関する諸注意など

倫理学とはそもそも何を学ぶ学問かという質問をよく受けますので、そのことについてまずお答えします。

また、この講義を受講する上での諸注意などを行います。

第2回 インフォームド・コンセントについて――医療関係者のさりげない一言が患者を傷つける!?(1)

今回の講義では、病院などで医療行為を受けるの場合でも、また、医療関係者が医療行為をおこなう場合でも大切なインフォームド・コンセントという概念（がいねん）が成立した過程（かてい）について学びます。

第3回 インフォームド・コンセントについて――医療関係者のさりげない一言が患者を傷つける!?(2)

今回の講義は、主としてインフォームド・コンセントの正式な手続きについてお話しいたします。

第4回 遺伝子（いでんし）診断（しんだん）――もしあなたの遺伝子診断の結果が悪かったら、あなたはどうする？(1)

今回の講義は、主としてめざましく進歩している遺伝子診断の現状（げんじょう）について講義します。

第5回 遺伝子診断――もしあなたの遺伝子診断の結果が悪かったら、あなたはどうする？(2)

今回の講義は、主として遺伝子診断の倫理的な問題点について勉強します。

第6回 人体の商品化と臓器売買（ばいばい）の問題――あなたの死後、あなたの臓器や組織が「商品」として売られても、あなたは平気？

今回の講義は、先進国における人体の商品化と発展途上国における臓器売買の問題について考えます。

第7回 偉大な哲学者・カントの倫理的立場

今回の講義は、生命倫理を支える重要な柱であるカントの倫理的立場について学びます。

第8回 安楽死（あんらくし）――「植物状態」になった時、あなたは延命（えんめい）を拒否しますか？

今回の講義は、安楽死のはらむ問題性について講義します。一口に安楽死と言っても、消極的安楽死と積極的安楽死とは違います。

第9回 功利（こうり）主義について

今回の講義は、生命倫理を支えるもう一つの柱である功利主義についてお話します。

第10回 ホスピスと末期（まつき）医療――死は怖いだけのものか？

今回の講義は、生命倫理と関係するホスピスと末期医療の現状と問題点について勉強します。

第11回 生命倫理学についての時事（じじ）ネタコーナー(1)

今回の講義は、生命倫理学の分野およびそれと関連する分野で今現在問題になっているいわば時事ネタを取り上げます。内容はその時のお楽しみ!

第12回 生命倫理学についての時事ネタコーナー(2)

今回の講義も、生命倫理学の分野およびそれと関連する分野で今現在問題になっているいわば時事ネタを取り上げます。内容はその時のお楽しみ!

第13回 非配偶（ひはいぐう）者からの精子提供による人工授精の問題と卵子の値段――あなたは札束（さつたば）をつまれば卵子（らんし）を売りますか？

非配偶者からの精子提供による人工授精の問題では、これまでその技術によって生まれてくる人の立場に立って考えるという視点がありませんでした。また一方では、人間の卵子の売買もアメリカなどを中心に広がってきています。今回の講義は、これら問題について考えます。

第14回（社会倫理に関する特別番外編）ワーキングプアと格差（かくさ）社会の問題――あなたも私も将来は公園で空き缶（かき）をひろい？

働いているのに年収が二百万円に満たない人をワーキングプアと言います。日本の労働者の三人に一人はすでにワーキングプアとも言われています。今回の講義は、現在の日本の社会に深刻（しんこく）な影響（えいきょう）を与えつつあるワーキングプアと格差の問題について考察します。

第15回 講義のまとめと試験対策

今回は、今までの講義のまとめをすると同時に、試験対策をおこないます。

定期試験

定期試験期間中に定期テストを行います。

科目名： 心理と行動			
英文名： Psychology and Action			
担当者： <small>ナカミチ キヨ</small> 中道 希容			
単 位： 2単位	開講年次： 1～4年次	開講期： 半期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

心理学全般について、行動の観察、行動を指標として実施された調査や実験等から得られた“こころ”のはたらきの基本法則を身近な日常例を題材にして学びます。また、その基本法則を理解するために、教室内で簡単な実験、調査を実施し、その結果を分析します。

■学習・教育目標および到達目標

履修者は、以下のことが習得できます。

- (1)心理学全般にわたる人間のこころの働きについての基本法則、現象、それらを説明する専門用語についての知識を得る。
- (2)講義で得た知識が日常生活のさまざまな場面をどのように説明するかを知る。
- (3)その知識を土台として、自分や自分の周りの人々の行動を理解することの一助とする。

■授業時間外に必要な学修

講義内容について、日常生活のどのような場面にどのように適用できるかを考え、理解を深めること。各授業テーマごとに何を考えるのかを呈示します。

■教科書

【留意事項】 授業内容に即したプリントを適宜配布します。

■参考文献

[ISBN]9784563056704『心理学の基礎』(今田寛, 培風館)

[ISBN]9784762820328『不思議現象 なぜ信じるのか—こころの科学入門』(菊池 聡, 北大路書房)

【留意事項】

心理学の様々な分野についての基礎知識を得るためには、培風館から発刊されている今田寛・八木昭弘監修の現代心理学シリーズ全16巻を推薦します。

■関連科目

なし

■成績評価方法および基準

定期試験 65%

授業時間内に出す課題と小実験、調査の分析 35%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

nakamichi@kindai.ac.jp

■オフィスアワー

出講曜日：前期後期ともに金曜日

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 心理学とは？

一般社会における心理学という学問に対する誤解を示し、心理学とはいかなる学問かを説明する。また、講義目的、到達目標について説明する。また、簡単な心理学の知識についてのテストを実施し、どれだけ心理学を知っているかを測る。

第2回 心理学の歴史、方法論について

心理学が今までどのように歩んできたかを「研究対象」の歴史を追うことで説明する。

第3回 パーソナリティ①

性格とは何か、また、性格はどのようにして形成されるのかについて講義する。

第4回 パーソナリティ②

性格の測定方法について解説する。

第5回 パーソナリティ③

性格検査を実施して“自分”を測定し、性格検査についての理解を深める。

第6回 学習の理論①

学びの法則に基づき、自分の行動や他人の行動をコントロールする方法について考える（その1）。

第7回 学習の理論②

学びの法則に基づき、自分の行動や他人の行動をコントロールする方法について考える（その2）。

第8回 学習の理論③

日常に起こるさまざまな行動の問題を学習理論を用いて解決する方法を探る。

第9回 記憶①

簡単な記憶力テストの実施。自分の記憶力を測ってみよう。

第10回 記憶②

記憶の過程とそれぞれの過程に関わるさまざまな要因について考えよう。記憶の法則を駆使して、記憶力向上法を見つけよう。

第11回 人を愛する心

「恋愛」に対する心理学の取り組みを紹介する。

第12回 適応の心理①（動機）

行動を分析する上で重要な概念である『動機』について解説する。

第13回 適応の心理②（欲求不満、ストレス）

欲求不満に対する反応の種類について説明する。普段自分がよく使用する反応について考えてみよう。ストレスとその対処法について説明する。効果的なストレ対処法とは？何かを模索する。

第14回 「ニセ科学」について心理学的に考える①

『血液型と性格』を題材にして、どうして人間がニセ科学を信じるのかを考える。

第15回 「ニセ科学」について心理学的に考える②

『血液型と性格』を題材にして、どうして人間がニセ科学を信じるのかを考える。

定期試験

記号選択問題、内容記述問題、穴埋め問題、用語解説問題とさまざまな問題形式から出題します。

科目名：現代経済の課題			
英文名：Problems of Modern Economics			
担当者： ^{ヒガシ ユウゾウ} 東 裕三			
単 位：2単位	開講年次：1～4年次	開講期：半期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

ミクロ経済学の基本的な内容を講義します。私たちの身の回りにある財・サービスの価格や販売されている量は日々変化していますが、なぜそのような現象が起こるのかを、需要曲線や供給曲線を用いて考え、自身の言葉で説明できるようになることを目標に講義を進めていきます。また、需要曲線や供給曲線がどのような意味を持っているのか、そして、需要曲線と供給曲線の交点で与えられる価格は経済においてどのような意味があるのを詳しく解説します。若干の数式を用いますが、基礎から丁寧に解説します。

■学習・教育目標および到達目標

この講義の到達目標は次の5つです。

- (1)トレード・オフや機会費用、コストとベネフィットなどの経済学独自の考え方を修得する。
- (2)需要曲線と供給曲線を用いて、現実経済に生じている価格の変化、財の需要量と供給量の変化を説明することができる。
- (3)財・サービスを購入するという消費者の行動が、どのように需要曲線に表されているのかを理解する。
- (4)財・サービスを生産し、販売するという企業の行動が、どのように供給曲線に表されているのかを理解する。
- (5)消費者や企業が自由に財・サービスを取引することで、何をどれだけ生産し、消費するのかが決定されるという経済の仕組みの性能を理解する。

■授業時間外に必要な学修

ミクロ経済学の考え方に慣れることが重要です。授業時間外ではミクロ経済学の内容を理解できるまでテキストをしっかりと熟読してください。そして、宿題で出題された練習問題を繰り返し解き、経済学の考え方に慣れてください。

■教科書

[ISBN]9784535552616『ミクロ経済学』(伊藤 元重, 日本評論社: 2003)

■参考文献

[ISBN]9784492314371『マンキュー経済学 I ミクロ編 (第3版)』(N.グレゴリー マンキュー, 東洋経済新報社: 2013)

[ISBN]9784535553910『ミクロ経済学パーフェクトマスター』(伊藤 元重, 日本評論社: 2007)

■関連科目

特になし

■成績評価方法および基準

確認演習 35%

定期試験 50%

宿題とレポート 15%

■授業評価アンケート実施方法

各学部の実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

B館1階非常勤控室

■オフィスアワー

講義前、講義後の時間に質問を受け付けます。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 ミクロ経済学とは

・ミクロ経済学の全体像を概説する。特に、ミクロ経済学の重要点である「経済主体は費用と便益を比較し行動すること」や「希少性」、「機会費用」、「トレードオフ」の概念について学ぶ。

第2回 需要と供給

・「需要曲線と何か」、「供給曲線とは何か」について概説する。そして、なぜ、需要曲線と供給曲線の交点で与えられる価格において市場価格が決定されるのかを学ぶ。

第3回 需要・供給の分析

・「需要・供給分析」のとはどのような分析なのかを学ぶ。

第4回 需要・供給分析の応用

・「需要・供給分析」を用いて、様々な財の価格や取引量がどのように変化するのかを考える。例えば、街に新たな駅が開設されたとき、その地域の住宅市場（住宅価格、住宅の供給量・需要量）に対して、どのような影響を与えるのかを学ぶ。

第5回 需要曲線、需要の価格弾力性

・財の需要量は価格や他の要因に依存して決定されることを学ぶ。
・需要の価格弾力性の計算方法とその意味を学び、需要の価格弾力性と企業の売上げ収入がどのような関係にあるのかを学ぶ。

第6回 需要曲線と消費者余剰

・消費者余剰は何を表した概念なのかを学ぶ。
・消費者は消費者余剰を最大にするように財の購入量を決定することを学ぶ。

第7回 確認演習

・確認演習：第1回から第6回の講義で学んだ範囲で出題

第8回 供給曲線、供給の価格弾力性財

・財の供給量は、財の価格とその他の様々な要因に依存して決定されることを学ぶ。
・供給の価格弾力性の計算方法、その概念が何を表しているのかを学ぶ。

第9回 生産関数から費用関数を導出する

・企業が財をどのように生産し、そして財を生産したとき、企業にどのような費用が発生するのかを学ぶ。

第10回 費用の構造と供給構造

・企業の利潤最大化行動を数値例を用いて学ぶ。
・企業がどのようにして、財の供給量を決定しているのかを学ぶ。

第11回 資源配分の効率性

・需要曲線と供給曲線が交わる均衡点で与えられる需要量、供給量は経済学的に効率的であることを学ぶ。

第12回 資源配分のゆがみ

・課税や貿易規制は資源配分の効率性を歪ませ、消費者の満足度や企業の利潤を低下させる可能性があることを学ぶ。

第13回 独占と競争の理論

・完全競争市場と独占市場の違いを学ぶ。
・独占市場において企業がどのような行動をとるのかを学ぶ。

第14回 市場の失敗(1)

・外部効果が存在すると市場の失敗が生じることを学び、市場の失敗の解決策を考える。

第15回 市場の失敗(2)

・公共財、費用逓減産業などが存在すると市場の失敗が生じることを学び、市場の失敗の解決策を考える。

定期試験

科目名： 自校学習			
英文名： Studies of Kinki University			
担当者： <small>ナカムラ タケオ</small> 中村 武夫・ <small>マツノ スミオ</small> 松野 純男・ <small>オノウチ ヒデアキ</small> 大内 秀一・ <small>タガ アツシ</small> 多賀 淳			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 通年・集中	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

「実学教育」、「人格の陶冶」を重視する建学精神と「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人を育成すること」を教育目的とする近畿大学は創設以来、実社会に役立つ人材を育成する「実学」を中心とした実践的な教育と研究を行ってきました。様々な問題を抱える現代社会にあって、「未来志向の実学精神」が求められています。共通教養科目は、その根幹となる重要な科目群であり、今後、社会人として必要な幅広い見識を形成するためのものです。本授業は、近畿大学の学生として、本学の教育理念、教育目標・目的を理解し、自ら学ぶ意欲と習慣を身につけ、今後の学園生活を有意義に送ることができる、その動機づけを目指すものです。実施の順序、内容については、変更になることもあります。

■学習・教育目標および到達目標

近畿大学の歴史と伝統および今後の展望を知り、大学の一員としての自覚と誇りを持つことができるよう、総合大学としての近畿大学の概要、また近畿大学薬学部ならではの教育・研究内容を知る。さらに自ら学ぶ意欲と習慣を身につけ、社会の要請に応えられるべく人材となるために必要とされる社会人基礎力や人間力修得への動機づけを到達目標とする。

■授業時間外に必要な学修

近畿大学のホームページを定期的に閲覧し、近畿大学について知ること。また社会の動向についてニュース等を通して知ること。

■教科書

適宜、プリント等を配布する。

■参考文献

[ISBN]9784903966052『なせば成るースタートアップセミナー学習マニュアル』(山形大学出版会：2010)

■関連科目

基礎ゼミ、薬学概論等の主として1年次開講科目

■成績評価方法および基準

課題レポート 100%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

(中村) 教育専門部門naktak@phar.kindai.ac.jp
 (松野) 教育専門部門smatzno@phar.kindai.ac.jp
 (大内) 教育専門部門ouchi@phar.kindai.ac.jp
 (多賀) 病態分子解析学研究室punk@phar.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

随時

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 自校学習について

自校学習とは何か、なぜ自校学習を学ぶ必要があるのかについて説明するとともに、大学での授業の受け方等について説明する。

第2回 自己発見レポート

自己分析、学習意欲改善等を目的とした自己発見レポートを実施する。

第3回 近畿大学の理念、教育目標

近畿大学全体における教育の理念、目標について説明する。

第4回 近畿大学の建学の精神

「近畿大学の過去・現在・未来」について、DVDを視聴しながら説明する。

第5回 自己発見レポートフォローガイダンス

自己発見レポートの診断結果に基づき、自分の長所・短所を認識し、各自に適した学習意欲改善についてフォローガイダンスを行う。

第6回 マイキャンパスプランの作成

自己発見レポートの診断結果を参考にしながら、近畿大学での学生生活について、自分で目標・計画を立てる。また、マイキャンパスプラン（学生生活の目標・実行計画）を作成する。

第7回 大学での学び

これまでの受身的また暗記タイプの学習ではなく、大学で学ぶに際しての統合型教育（学習）の重要性について述べ、また学習方法の例を紹介する。

第8回 OB、OGの話を聞こう（1）

近畿大学の卒業生である(株)中村プレイス 中村俊郎氏からの近畿大学でこれから学ぼうとする人たちへのメッセージをDVDを通して視聴し、有意義な学生生活への心構えについて各自が考究する。

第9回 近畿大学薬学部を知る（1）

近畿大学薬学部における教育内容や各学科ごとの進路等について説明する。

第10回 近畿大学薬学部を知る（2）

近畿大学薬学部での教育・研究におけるトピックを紹介する。

第11回 社会人基礎力について

集団の中で多様な人々と関わりをもち、生活していく上において必要な社会人基礎力について説明する。

第12回 人間力について

社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力である人間力について説明する。

第13回 OB、OGの話を聞こう（2）

社会の中で活躍されている近畿大学卒業の先輩たちから大学での学びの重要性、こころ構え等についての話を聞く。

第14回 近畿大学を体験する（1）

人権講演会への参加を通して、人権を重んじる近畿大学の特色を体験する。

第15回 近畿大学を体験する（2）

近畿大学のユニークな施設の1つである英語村で開催されるアクティビティへの参加を通して、近畿大学の特色を体験する。

科目名： **住みよい社会と福祉**

英文名： Welfare and Society Better to Live In

担当者： **久保 克己**

単 位： 2単位

開講年次： 1～4年次

開講期： 半期

必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

生活資金の窮乏、自殺、虐待、精神疾患などが昨今益々増えています。非正規労働やブラック企業化など、雇用状況も益々悪化しています。これら生活困窮という事象に対して、わが国は、生活扶助、年金、各種手当等の金銭給付や医療、介護等の事後的な福祉制度で対応してきました。

しかし、事後的な対応には限界があり、生活困窮の元となる原因を究明したり、根絶しようという方略が生まれません。生活困窮事象を根絶するためには、事後的な福祉施策対応で終始するのではなく、全ての国民を対象としての普遍的で予防的な福祉政策、教育施策、医療施策、労働施策、環境政策などと連携した総合的な福祉施策を充実させていくことが望まれます。諸外国では、WHOの健康の定義にもあるようにwell-beingという捉え方を前提として、全ての国民を対象とする福祉施策が基本となりつつあります。

well-beingとは、「健康であること、うまくいっていること、元気なこと、幸福で満たされていること、暮らしぶりがよいこと」等と訳されますが、原語の意図はもっと深いものと思われます。

現行の福祉サービスの限界性を探り、すべての人を対象とする普遍的な福祉施策こそ、次世代の生活状況を想定すれば、喫緊の課題と思われる。

1%の富裕層を対象とした経済施策よりも、99%の国民1人ひとりの生活を守ること、豊かにすることこそ国家施策の最重点課題ではないでしょうか。

国民1人ひとりのできること（functioning）を増やすことの意味を理解し、他方、できないことや困難事象を軽減するためには何が必要なのか。講義を通して、今後の福祉施策を共に考えていきましょう。

■学習・教育目標および到達目標

お互いの特技等を協働を介せば新たな能力となること、連帯による新たな努力、共同性を広げること、関係性を豊かにすること、分かち合うことなど、人間存在の本来の姿を探ることを目標とします。

■授業時間外に必要な学修

講義用参考資料をよく読み、講義内容等と融合させ整理すること。

■教科書

特に指定しない

講義用参考資料（毎回資料を配布する）

■関連科目

人類学、社会保障論、日本国憲法、経済学など

■成績評価方法および基準

定期試験 60%

授業中課題 40%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

なし

■オフィスアワー

なし

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 生活の社会化、共用化にともなう利点と課題

- ①社会福祉的機能について
- ②welfareとwell-being
- ②講義の流れについて

第2回 現代社会の状況について

- ①一人一人が個人として尊重されていない
- ②個人と社会との関係について
- ③高い自死率

- ④正規雇用が減少し非正規雇用が増加
- ⑤犯罪の増加

第3回 人間性について探る

- ①他の動物（犬や猫や象など）との違い
- ②そもそもは狩猟・採集を主な生活手段としていた中で生まれてきた人間性というもの
- ②関係力、社会力、コミュニケーション
- ③道具の使用と随意運動
- ④コトバ、記号化と記憶容量の拡大、意識の生成
- ⑤個別化と社会化

第4回 働く：傍（ハタ）を楽（ラク）にするということ

- ①働くことがヒトと他の動物との違いを生み出してきた
- ②働くことを介して他者との関係性が豊かになる
- ③貨幣の出現が働く目的、働き方を変えてしまった

第5回 働くことが尊重されていない現代社会

- ①労働者派遣法とワーキングプア現象
- ②安い賃金、厳しい労働条件、ブラック企業化現象
- ③消費活動と自己表現
- ④地域間による求人需要の格差
- ⑤decent workについて

第6回 国際障害分類 ICF について

- ①WHOの障害定義
- ②制度や環境を改良すればできることが増える
- ③誰にでもある障害

第7回 障害があっても活躍している人達

- ①ケーパビリティ (capability)について
- ②障害と文化的補償
- ③ZPD（発達の最近接領域理論）について

第8回 障害者雇用の意味

- ①障害者雇用事業所紹介
- ②諸外国の状況
- ③この人達の感性を労働環境に活かせば、働きやすくなる

第9回 環境問題

- ①かつての公害・産業汚染
- ②個人の努力では解決できない
- ③原発と廃棄物処理
- ④国家規制というものの必要性

第10回 住宅・居住問題

- ①狩猟採集遊動生活様式
- ②農耕が主流となって定住化が進む
- ③定住に伴う各種問題
- ④人生の2分の1、1日の半分位を過ごす空間と場をどう考える
- ⑤居住環境と健康問題 狭小住宅と寝たきり老人

第11回 GDP再考

- ①GDPが世界で第3位でも幸福を実感できないのはなぜ
- ②GDPの増大よりも国民のagency(実行力)増大をめざすべき
- ③負のコストについて
- ④GPI（真の発展指標）について

第12回 社会参加度の不平等、機会の不平等について

- ①全世界の労働者28億人の内半数14億人は1日2ドル以下の収入
- ②ジニ係数（経済格差の指標）が増加しつつある
- ③富める者には機会が多く、貧しき者には選択肢が少ない
- ④お金がないとできないことが増えていく

第13回 生きる権利、学ぶ権利、働く権利、幸福追求権等の保障を誰もが実感しているか

わが国の社会福祉施策の現状について

第14回 時流に沿ったトピックスについて共に考える

- ①ベーシックインカム
- ②アクチベーション論

第15回 まとめ

これまでの講義内容に関連した課題を与え、各自の考え、提案等をお互いに討議する

定期試験

これまでの講義内容から課題を集約し、小論文を作成していただく

科目名：生活環境科学			
英文名：Living Environmental Science			
担当者： ^{ナカムラ タケオ} 中村 武夫			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

人は、その取り巻く種々の環境の中で生活、生存しています。地球環境のみならず、地域社会環境、家庭環境、教育環境、医療環境、経済環境など、さまざまな環境が人を取り巻いており、その環境の変化は、人の健康状態、生活の質に影響を及ぼします。また日本国憲法第25条において「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」と記されています。本授業では、適宜、配布プリントを使用しながら、健康で文化的な生活を営むことについて科学的視点から考究していきます。

■学習・教育目標および到達目標

生活環境の中で起こっているさまざまな事象について、科学的な視点から考え、関連する知識を習得することのみならず、健康で文化的な生活を営むための知恵に関心を持ち、能動的学習態度を修得することを教育目標とします。

■授業時間外に必要な学修

新聞、インターネットやテレビ報道の中に本科目に関連した内容が多く見受けられます。常日頃より報道内容に関心を持ち、本科目との関連を意識してください。

■教科書

適宜、プリントを配布します。

■関連科目

環境衛生学、保健衛生学、生命倫理、医療・薬事関係法規1

■成績評価方法および基準

定期試験 100%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

教育専門部門 naktak@phar.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

随時

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 インTRODクシヨン

生活とは何かについて共に考え、さらに生活環境の具体例を挙げながら、その中での問題点、社会的課題をピックアップしながら若干の概説を行う。

第2回 健康で文化的な生活

日本国憲法第25条に謳われている健康で文化的な最低限度の生活とはいかなるものかについて、ナショナルミニマムやヘヴァリッジ報告といった語句から概説する。

第3回 健康な生活（1）

健康の定義における身体的、精神的また社会的側面について説明し、健康な生活とはいかなるものかについて考える。

第4回 健康な生活（2）

健康な生活に関して、特に精神的な側面よりメンタルヘルスケアについて説明し、生活における休養の重要性について考える。

第5回 文化的な生活

「文化（的）」の定義について概説し、文化的な生活とはいかなるものかについて考える。

第6回 幸福な生活

日本国憲法第13条にある幸福追求における国民の権利、幸福感（観）について概説し、幸福な生活とはいかなるものかについて考える。

第7回 生活基盤としての家庭・家族（1）

家族を中心とした個人の生活空間である家庭は、生活の拠りどころ、拠点である。ヒトが健康で幸福な生活を営む場である家庭、また家庭を構成する家族のあるべき姿について概説し、家庭での虐待という問題点について考える。

第8回 生活基盤としての家庭・家族（2）

生活基盤である家庭・家族における諸問題（赤ちゃんポスト、養子縁組）について概説し、「家庭とは、家族とは」について考える。

第9回 生活環境からの廃棄物（1）

人が生活を営んでいる中で、種々の廃棄物が発生する。食品廃棄物を中心に、排出の現状や行政による取組みを紹介し、食品廃棄物の有効利用について考える。

第10回 生活環境からの廃棄物（2）

「廃棄物」を「有用副産物」として認識し、その資源化有効利用について、「バイオマスニッポン総合戦略」と関連付けながら説明する。

第11回 生活環境における有害物質

生命維持に必須である「水」、また生活を営む上で欠くことのできない水、特に飲料水の安全性について概説する。

第12回 生活の基本的要件

生活の確固とした安全保障は災害発生によって覆われてしまう。ライフラインの重要性を再認識し、生活の基本的要件から防災計画について考える。

第13回 生活環境の中で出会う「生」

生活の開始は生命の誕生であり、生活環境の中で出会う「生」は大きな喜びの1つである。生命の誕生は家族にとって歓迎されるべきものであるが、出生前診断や望まない妊娠等によって中絶が選択されることがある。生活基盤となる家族・家庭における生命の誕生について考える。

第14回 生活環境の中で出会う「死」（1）

生活環境の中で出会うさまざまな「死」は大きな悲しみの1つである。自ら生命を断つ自殺は、本人のみならず家族をはじめ多くの人々に影響を及ぼす。自殺の実情や予防対策等について考える。

第15回 生活環境の中で出会う「死」（2）

生活の最終到着点は「死」であり、どのように「死」を迎えるか、安楽死や尊厳死、死生観等の視点から考える。

定期試験

授業中の課題を中心とした記述形式の試験を行う。

科目名：国際化と異文化理解			
英文名：International and Crosscultural Understanding			
担当者： ^{マサゴ} 眞砂 ^{カオル} 薫・フィゴーニ ウィリアム			
単 位：2単位	開講年次：	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

薬学部の共通教養科目で、地域性と国際化分野科目の一つです。国際化に対応し、異文化理解の基礎を学ぶ科目です。国際化社会をどうとらえるかについての基本講義と演習を前半7回の授業を、日本人教員によって日本語で行い、異文化理解とコミュニケーションについて後半7回の演習を後半7回を、ネイティブ教員によって英語で行います。最後に総括、またはプレゼンテーションを行います。Part2 is a course in cross cultural communication. Students will learn how some essential ideas and theories that form the study of culture. The students will conduct a survey on "context and culture." The students will do a short research project on another culture and present their findings in class.

■学習・教育目標および到達目標

国際化する世界の問題は、何であるかを指摘でき、その背景や解決方法を簡潔に、英語または日本語で述べることができる。異文化理解をするうえで、英語を中心とした外国語でのコミュニケーション上の問題を体験し、考え、対応できるようになる。The students can explain how cultural communication patterns influence how people express themselves.

■授業時間外に必要な学修

授業前に配布される資料を読み、指示されたレポートを作成するか、授業中に発表できるように準備する。講義、演習によっては、用語・術語を事前に調べ、英単語などの語彙学習の準備をする。

■教科書

適宜、プリントを配布する。

■参考文献

適宜、授業中に指示、紹介する。

■関連科目

英語演習1・2。オーラルイングリッシュ1・2。

■成績評価方法および基準

定期試験 40%
日本語講義部分演習点 30%
英語講義部分演習点 30%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

39号館4階、眞砂研究室、フィゴーニ研究室。masagok@kindai.ac.jp billfigoni@kindai.ac.jp

■オフィスアワー

眞砂薫：水曜日2時間目、月・水・木・土の12:10～13:10
ウィリアム・フィゴーニ：水曜日1時間目、水曜日12:10～13:10

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Orientation 概論と授業方法

授業内容の概要を紹介し、成績評価の方法や授業方法を紹介し確認する。日本語講義部分の資料配布、また次回のための準備課題を課す。

第2回 Recognition of History and Globalization 国際化時代の歴史認識

社会科の年表的な歴史認識の必要性和、問題点を考え、討議する。

第3回 Internet and Globalization 国際化時代のインターネットの功罪

国際化社会におけるインターネットが果たす役割を考え、討議する。インターネットの利点のみならず、問題点にも十分踏み込んで議論する。

第4回 Religion and Globalization 国際化時代の宗教

国際化時代の、主要な宗教に関する知識を確認し、また新しい国際化時代の宗教の在り方も含めて討論し、考える。

第5回 Economy and Globalization 国際化時代の経済

国際化時代のグローバル経済とは何か、また歴史的に経済が世界に及ぼした影響について討議し、考える。

第6回 Culture, Identity and Globalization 国際化時代の自国文化と異文化

国際化時代に、自国文化をどのように理解し紹介できるか。異文化をどのように理解するか。自分のアイデンティティーのなかの自国文化とはなにかを考え討議する。

第7回 English as an International Language and Globalization 国際化時代の共通語としての英語

国際化時代の共通語としての英語と、英米人の母語としての英語の違いは何かを考え、英語が母語ではない世界の人々が英語でコミュニケーションをする方法と問題点を考える。

第8回 Introduction

- a) "What is Culture?"
- b) Edward T. Hall-Surface culture v. Deep culture
- c) Discussion

第9回 Context - High vs. Low

- a) Context - High vs. Low
- b) Class survey + discussion
- c) Homework assignment 1

第10回 Report and presentation on "Context"

- a) report and presentation on "Context"
- b) Culture - Surface v. Deep culture
- c) Begin research project

第11回 Verbal vs. Nonverbal communication

- a) Verbal and Nonverbal communication
- b) Video - "Politeness"
- c) Research project
- d) Quiz #1

第12回 Culture shock

- a) Culture shock
- b) Discuss and present research findings

第13回 Stereotyping part1

- a) Stereotyping part1
- b) What's lies beneath the "statement," Reactions and group discussion

第14回 "Images"

- a) Images
- b) Q & A session

第15回 "Keeping a conversation going" - strategies and techniques

- a) "Keeping a conversation going"
- b) Review

定期試験を行う。

講義内容から出題する筆記試験である。英語による解答を求める問題もある。

科目名：基礎ゼミ

英文名：Foundation Seminar

担当者：中村 武夫・村岡 修・岩城 正宏・杉浦 麗子・西田 升三・川畑 篤史・松田 秀秋・鈴木 茂生・高田 充隆・眞砂 薫・仲西 功・松山 賢治・伊藤 栄次・川崎 直人・松野 純男・小竹 武・中山 隆志・大内 秀一・角谷 晃司・益子 高・森川 敏生・藤原 俊伸・伊藤 将・田邊 元三・和田 哲幸・関口 富美子・北小路 学・三田村 邦子・細見 光一・森山 博由・大鳥 徹・石渡 俊二・多賀 淳・前川 智弘・木下 充弘・川瀬 篤史・村田 和也・西脇 敬二・井上 知美・二宮 清文・船上 仁範・長井 紀章・樺 正寛・緒方 文彦・中村 恭子・田中 博晃・喜多 綾子・松尾 一彦・坪田 真帆・中村 真也・山本 哲志・山本 佐知雄・藤本 麻依・八軒 浩子・中村 光・佐藤 亮介・深尾 亜喜良・鳥倉 知里・武田 朋也

単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：必修科目
---------	----------	--------	-------------

■授業概要・方法等

医療の高度化、薬学の進歩、また医療現場においては患者さんを中心とするチーム医療や医薬分業の推進により、薬剤師には高い能力が求められる。また、科学の進歩や変化に対応して年々新しい知識が加わるため、薬学の勉強量は膨大なものとなっている。したがって、社会のニーズに応える薬剤師、創薬研究者となるためには、自ら問題を見つけ、情報を検索・収集し、得た知識を持って自ら問題を解決する能力が必要となる。そのため薬学生には、これまでの“知識偏重型”の受動的な勉強スタイルから脱却し、自らが課題を見出す「問題発見型」の能動的な勉強スタイルでの学習態度を身につける必要がある。

そこで基礎ゼミでは、提起された課題について少人数のグループでの討論を通じて論理的思考力、表現力、判断力を養成し、またグループの意見を整理して発表することによって、社会に通用するプレゼンテーション能力を獲得することを目指している。

討論する課題は、各グループ内で協議して決定する。そのために、基礎ゼミ開講までに、参考書に指定された図書あるいは薬学に関する任意の図書を読んでおき、その中から討議したいテーマ(課題)を各自提案する。提案された複数のテーマの中から、一つの課題に絞り込む。

毎回の授業は、提起された課題について各自が調査してきた内容を発表し、進行係のリードのもと討論を行う。したがって、図書館やインターネットあるいはフィールドワークなどを駆使して授業時間外に調査・学習することが必須となる。約10回のゼミで議論した内容は、最終的に1枚のポスターにまとめ、ポスター発表形式で成果を発表し、グループ間による討議を実施する。

以上のような内容に重点を置く一方で、この授業は教員と学生間あるいは学生同士のコミュニケーションを促し、大学生活が円滑に送れるようにするための第一歩と位置づけている。

■学習・教育目標および到達目標

基礎ゼミでは、卒業まで目的意識を持って計画的に勉強に取り組めるようになるために学部教育に関するガイダンスを行う。また将来、薬剤師あるいは創薬研究者といった医療に関わる専門家となるために、特定の課題について科学的な視点から「調べる」、「発表する」、「討議する」そして「書く」という基本的なコミュニケーションやプレゼンテーション能力を習得する。

<一般目標> A 基本事項

(3) 信頼関係の構築

【①コミュニケーション】

5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。
6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。
7. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。
8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。
9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。

(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

1. 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。

4. 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。

<一般目標> 薬学準備教育ガイドライン

(9) プレゼンテーション

【①プレゼンテーションの基本】

2. 目的に応じて適切なプレゼンテーションを構成できる。
3. 目的、場所、相手に応じた、わかりやすい資料を作成できる。

【③口頭・ポスターによるプレゼンテーション】

2. 課題に関して意見をまとめ、決められた時間内で発表できる。
3. 効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。
4. 質問に対して的確な応答ができる。
5. 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。

■授業時間外に必要な学修

・参考書として指定された図書あるいは薬学に関する任意の図書を読み、その中から討議したいテーマ(課題)を考える。

・設定した課題に対して、図書館やインターネットあるいはフィールドワークなどを駆使して授業時間外に調査・学習をする。

■教科書

適宜、アドバイザー教員から助言等を与える。

■参考文献

入学時に配布した推薦図書リストにある書籍

■関連科目

総合薬学研究1、2、3

■成績評価方法および基準

レポート 55%

課題調査・発言内容・議事進行・議事録作成などの授業への取り組み姿勢 45%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

連絡は各アドバイザー教員、あるいは総括担当：中村武夫（教育専門部門）naktak@phar.kindai.ac.jpまで。

■オフィスアワー

各アドバイザー教員のオフィスアワーは、授業時に確認してください。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 基礎ゼミおよび薬学部履修要項について

基礎ゼミについて（趣旨、進めかた、参加の心構え、スケジュール、成績評価法など）の内容をかみ砕いてわかりやすく説明する。そして今後の各回における議事進行係、議事録作成係を決める。また、薬学部履修要項（履修登録、試験、成績評価、進級基準など）や履修確認表による単位認定確認についても詳細に解説するので、入学時に配布した薬学部履修要項冊子を忘れずに持参すること。

<到達目標>

- 1) 基礎ゼミの趣旨を理解し、毎回の授業で何をなすべきかを説明できる。
- 2) 薬学部の履修要項を理解し、試験システムや進級基準を説明できる。

第2回 テーマ（課題）設定1

各グループの討論テーマについて話し合う。各自が基礎ゼミ開講までに読んだ図書の概要、感想、疑問点、基礎ゼミで取り上げたいテーマなどを発表し、グループ全員で協議する。できるだけ全員の意見を聞きながらテーマを絞る。議事進行係は、グループのメンバー全員の発言を引き出すように工夫をし、グループの意見をまとめるように努めること。

<一般目標> A 基本事項

(3) 信頼関係の構築

【①コミュニケーション】

5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。
6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。
7. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。
8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。
9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。

(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

1. 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。
4. 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。

第3回 テーマ（課題）設定2

第2回目で絞ったテーマについて再度協議し、メンバー全員が納得した討論テーマを決める。少数意見をも無視することなく、メンバーが積極的に意見を出せるよう議事進行係が配慮・工夫しながら自分たちの取り上げるテーマを決定する。

<一般目標> A 基本事項

(3) 信頼関係の構築

【①コミュニケーション】

5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。
6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。

7. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。
8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。
9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。

(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

1. 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。
4. 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。

第4回 グループ討論1

第3回で設定したテーマに関し、各自が調査した内容を発表し、討論を行う。発表をうまく行うためには、調査した内容について資料をもとにあらかじめまとめておく必要がある。各回提出するレポートの別項として、発表内容のポイントを整理して記入しておくこと。グループによる討論は第9回まで続くので、議事進行係は結論を出し急ぐことなく、多くの意見を引き出すように工夫すること。

<一般目標> A 基本事項

(3) 信頼関係の構築

【①コミュニケーション】

5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。
6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。
7. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。
8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。
9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。

(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

1. 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。
4. 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。

第5回 グループ討論2

設定したテーマに関し、第4回に引き続き各自が調査した内容を発表し、討論を行う。他者の意見はよく聞き、よい点は認めつつ、問題点を指摘（批判）するように心がけること。また、批判に対しては感情的にならず、論理的に考えを整理しながら議論すること。対立意見が出ることもあるが、安易に妥協することなく納得できるまで十分な議論を行うこと。議事進行係は活発な議論となるように工夫すること。

<一般目標> A 基本事項

(3) 信頼関係の構築

【①コミュニケーション】

5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。
6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。
7. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。
8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。
9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。

(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

1. 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。
4. 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。

第6回 グループ討論3

設定したテーマに関し、第5回に引き続き各自が調査した内容を発表し、討論を行う。討論にも慣れてくると多くの意見が出てくるが、その中には少数意見も少なからずある。少数意見の中には、多くの人が気づいていない重要な点が含まれていることもあるので、議事進行係は少数意見も大切にしつつ討論を進めるように工夫すること。

<一般目標> A 基本事項

(3) 信頼関係の構築

【①コミュニケーション】

5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。
6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。
7. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。
8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。
9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。

(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

1. 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。
4. 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。

第7回 グループ討論4

設定したテーマに関し、第6回に引き続き各自が調査した内容を発表し、討論を行う。討論も回を重ねると、以前に出た意見や議論の方向性を再確認する必要も出てくる。その際に重要になるのが議事録である。したがって、各回でどのような意見が出たのか、どのような議論の経緯であったのかをしっかりと記録しておく必要がある。議事録作成担当者は、そのようなことを踏まえて議事録を作成し、内容に関しグループメンバー全員の確認を取っておくようにすること。

<一般目標> A 基本事項

(3) 信頼関係の構築

【①コミュニケーション】

5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。
6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。
7. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。
8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。
9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。

(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

1. 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。
4. 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。

第8回 グループ討論5

設定したテーマに関し、第7回に引き続き各自が調査した内容を発表し、討論を行う。これまでの討論内容の総括を行いつつ、調査や議論不足のないよう、議事進行係がグループをまとめるとともにメンバー全員が課題解決に向けて、積極的に討論、総括に参加する。

<一般目標> A 基本事項

(3) 信頼関係の構築

【①コミュニケーション】

5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。
6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。
7. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。
8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。
9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。

(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

1. 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。
4. 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。

第9回 グループ討論6

設定したテーマに関し、第8回に引き続き各自が調査した内容を発表し、討論を行う。今回はこれまでの討論の総括と発表用のポスターの作成に取り掛かるため、議事進行係は今回で討論を終了し、6回の討論内容をまとめられるようにすること。調査や議論不足の点が出てきた場合には、授業時間以外にも時間を作って全員が集まり、問題点を解決しておくこと。

<一般目標> A 基本事項

(3) 信頼関係の構築

【①コミュニケーション】

5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。
6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。
7. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。
8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。
9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。

(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

1. 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。
4. 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。

第10回 総括とポスター作成

これまでの議論を総括し、ポスター発表会で説明する事柄の整理を行う。聞き手がわかりやすい発表内容の構成を考え、ポ

スターの作成に着手する。ポスターに貼付する写真・グラフなどが必要となった場合は、その貼付スペースを空けておき、次回までに準備することを忘れないように。また、次の発表練習で、全体を通して一人で発表できるように準備しておくこと。発表用の原稿を作成しておくのも一つの方法である。

<一般目標> A 基本事項

(3) 信頼関係の構築

【①コミュニケーション】

5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。
6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。
7. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。
8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。
9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。

(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

1. 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。
4. 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。

<一般目標> 薬学準備教育ガイドライン

(9) プレゼンテーション

【①プレゼンテーションの基本】

2. 目的に応じて適切なプレゼンテーションを構成できる。
3. 目的、場所、相手に応じた、わかりやすい資料を作成できる。

【③口頭・ポスターによるプレゼンテーション】

2. 課題に関して意見をまとめ、決められた時間内で発表できる。
3. 効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。
4. 質問に対して的確な応答ができる。
5. 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。

第11回 ポスター作成と発表練習

ポスター発表会用のポスターを完成する。作製したポスターをもとにグループのメンバーを聞き手として発表する練習を行う。ポスターに書いてある内容を指し示しながら、要領よく説明できるように工夫する。うまく説明できなかった部分については、発表会までに十分に練習をしておくこと。また、想定される質問事項に対する回答、資料なども準備しておくこと。

<一般目標> A 基本事項

(3) 信頼関係の構築

【①コミュニケーション】

5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。
6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。
7. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。
8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。
9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。

(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

1. 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。
4. 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。

<一般目標> 薬学準備教育ガイドライン

(9) プレゼンテーション

【①プレゼンテーションの基本】

2. 目的に応じて適切なプレゼンテーションを構成できる。
3. 目的、場所、相手に応じた、わかりやすい資料を作成できる。

【③口頭・ポスターによるプレゼンテーション】

2. 課題に関して意見をまとめ、決められた時間内で発表できる。
3. 効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。
4. 質問に対して的確な応答ができる。
5. 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。

第12回 ポスター発表会 1

第12回と第13回の2回で各グループの発表を行う。発表を行う人と、発表を聞く人に分かれて実施する。2回の発表会の間にすべての発表を一通り聞くように努めること。その際、ただ聞くだけでなく、疑問点やわからない点は発表者に質問をし、また、異なる意見を持っている時にはその場で議論をするように心がけること。

<一般目標> 薬学準備教育ガイドライン

(9) プレゼンテーション

【①プレゼンテーションの基本】

2. 目的に応じて適切なプレゼンテーションを構成できる。
3. 目的、場所、相手に応じた、わかりやすい資料を作成できる。

【③口頭・ポスターによるプレゼンテーション】

2. 課題に関して意見をまとめ、決められた時間内で発表できる。
3. 効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。
4. 質問に対して的確な応答ができる。
5. 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。

第13回 ポスター発表会2

第12回に続きポスター発表を実施する。次回に、2回の発表会で議論した内容についてグループ討議を行うので、発表会終了後にレポート（A4用紙1枚程度）を作成しておくこと。議論した内容は、自分たちのグループの発表と他グループの発表とに分けて記入しておくこと。

＜一般目標＞薬学準備教育ガイドライン

(9) プレゼンテーション

【①プレゼンテーションの基本】

2. 目的に応じて適切なプレゼンテーションを構成できる。
 3. 目的、場所、相手に応じた、わかりやすい資料を作成できる。
- 【③口頭・ポスターによるプレゼンテーション】
2. 課題に関して意見をまとめ、決められた時間内で発表できる。
 3. 効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。
 4. 質問に対して的確な応答ができる。
 5. 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。

第14回 総合討論

自分の発表内容をうまく説明できたか、質問に適切に回答できたかなどを振り返り、よいプレゼンテーションをするにはどうすればよいかについて考える。また、他のグループの発表を聞いて議論した内容などをグループメンバーに紹介し、発表会で得た知識を確かなものにするとともに、他のメンバーの報告を聞いて興味を持った点について討論する。

＜一般目標＞薬学準備教育ガイドライン

(9) プレゼンテーション

【①プレゼンテーションの基本】

2. 目的に応じて適切なプレゼンテーションを構成できる。
 3. 目的、場所、相手に応じた、わかりやすい資料を作成できる。
- 【③口頭・ポスターによるプレゼンテーション】
2. 課題に関して意見をまとめ、決められた時間内で発表できる。
 3. 効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。
 4. 質問に対して的確な応答ができる。
 5. 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。

第15回 総括

グループ討論、発表会をふりかえり、基礎ゼミに対する自分の参加姿勢はどうであったか、「問題発見型」の能動的な学習に対する意識付けができたかなどを総括する。

科目名：基礎数学			
英文名：Fundamental mathematics			
担当者： ^{オオクボノリヒコ} 大久保 範彦			
単 位：2単位	開講年次：	開講期：半期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

三角関数・指数関数・対数関数・合成関数などの導関数、不定積分、定積分の求め方、および、その応用を学習する。また、変数分離形の微分方程式の解法を学習する。授業中に、実際に自分で問題を解くことによって定理などの内容を理解する。

■学習・教育目標および到達目標

1. 様々な関数の導関数が求められるようになる。
2. 微分法を応用して、様々な関数のグラフが描けるようになる。
3. 様々な関数の不定積分、定積分が求められるようになる。
4. 定積分を応用して、面積が求められるようになる。
5. 変数分離形の微分方程式を解くことができるようになる。

■授業時間外に必要な学修

1. 講義で配付するプリントの問題を解くこと。
2. 講義で指示された課題に取り組むこと。
3. 講義で疑問に思ったことは、自分なりに参考文献などで調べる。それでもわからない場合は教員に質問すること。

■教科書

適時プリント配付

■参考文献

[ISBN]9784563085520『微分積分(薬学生のための基礎シリーズ 2)』(高遠節夫, 培風館)

■関連科目

物理学概論

■成績評価方法および基準

確認演習 40%

定期試験 40%

日常の演習または小テストまたはレポート 20%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

21号館2階・講師控室

■オフィスアワー

火曜、金曜の4、5限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 三角関数

弧度法の定義と三角関数の定義をする。三角関数の性質を学ぶ。

第2回 指数関数と対数関数、片対数グラフ

指数関数の定義と性質を学ぶ。対数関数の定義と性質を学ぶ。片対数グラフの描き方を学ぶ。

第3回 逆関数、関数の極限

逆関数の求め方を学ぶ。関数の極限の計算方法を学ぶ。

第4回 微分係数、導関数

微分係数の定義をする。接線の方程式の求め方を学ぶ。導関数の定義をする。

第5回 導関数の性質

積と商の導関数の計算方法を学ぶ。合成関数の導関数の計算方法を学ぶ。

第6回 逆三角関数と導関数、曲線の媒介変数表示

逆三角関数の定義をする。逆三角関数の導関数を求める。媒介変数表示された曲線の接線の求め方を学ぶ。

第7回 高次導関数、ロピタルの定理、極大・極小

高次導関数の定義をする。ロピタルの定理を用いて関数の極限を計算する。関数の極大値と極小値の求め方を学ぶ。

第8回 関数の展開

マクローリン展開の定義をする。マクローリン展開の応用として、関数の1次近似式と関数の2次近似式を求める。

第9回 確認演習

第1回から第8回までの授業内容に関する演習を行う。

第10回 不定積分、置換積分

不定積分の定義をする。基本的な関数の不定積分を求める。置換積分法を学ぶ。

第11回 部分積分、分数関数の不定積分

部分積分法を学ぶ。分数関数の不定積分の求め方を学ぶ。

第12回 定積分、定積分の置換積分

定積分の定義をする。基本的な関数の定積分の値を求める。置換積分法により定積分の値を求める。

第13回 定積分の部分積分、面積、広義積分

部分積分法により定積分の値を求める。面積を求める公式を学ぶ。広義積分の定義をしてその値を求める。

第14回 微分方程式

変数分離形の微分方程式の解法を学ぶ。

第15回 今までの復習

第10回から第14回までの授業内容に関する復習を行う。

定期試験

第10回から第15回までの授業内容に関する試験を行う。

科目名：情報科学入門			
英文名：Introduction to Drug Information			
担当者：キノシタ ミツヒロ・ハチケン ヒロコ 木下 充弘・八軒 浩子			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

現在はICTの時代といわれ、コンピュータの進歩・インターネット環境や通信技術の発展は非常に目覚しく、多くの企業・職業分野だけではなく、一般家庭においても利用することが当たり前となっている。このような状況の中で、ICTを活用する能力を習得することの重要性は年々高くなっており、社会に出る前に習得していることが望ましい。このため本学では、情報リテラシー教育において、コンピュータの基礎知識や情報倫理、アプリケーションやインターネットの操作方法、またそれらを安全かつ有効に利用する方法や知識を早期に習得し、情報化社会に対応できる能力を養う。

■学習・教育目標および到達目標

1. Microsoft Officeアプリケーション(Word/Excel/Power Point)の基本的な操作方法を身に付ける。(ビジネス文章の作成、関数やグラフを使った表作成、スライドによる資料作成レベル)
2. コンピュータの構成などIT基礎知識の習得と、インターネット/SNSのメリットデメリットを理解し、適切な利用方法を身に付ける。
3. 情報セキュリティの重要性を理解し、さらには個人情報の取り扱いや著作権等の基本的なルールを身に付ける。
4. KudosKnowledge(eラーニング)を活用し、自らアプリケーション操作に関するスキルアップを図る。

<到達目標>

A基本事項 (5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

5. インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)

薬学準備教育ガイドライン(8)情報リテラシー

【①基本操作】

1. コンピュータを構成する基本的装置の機能と接続方法を説明できる。
3. 電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。(技能)
4. インターネットの仕組みを概説できる。
6. マナーを守り、電子メールの送信、受信、転送などができる。(技能・態度)
7. インターネットに接続し、Webサイトを閲覧できる。(技能)
8. 検索サイト、ポータルサイトの特徴に応じて、必要な情報を収集できる。(技能)

【②ソフトウェアの利用】

1. ソフトウェアの使用上のルール、マナーを守る。(態度)
2. ワードプロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを用いることができる。(技能)

【③セキュリティと情報倫理】

1. ネットワークセキュリティについて概説できる。
2. アカウントとパスワードを適切に管理できる。(技能・態度)
3. データやメディアを適切に管理できる。(態度)
4. 著作権、肖像権、引用と転載の違いについて説明できる。
5. ネットワークにおける個人情報の取り扱いに配慮する。(態度)

■授業時間外に必要な学修

講義ごとに指示される課題に積極的に取り組むこと。
講義内容を整理し独自のノートや資料を作成すること。

■教科書

[ISBN]978-4-86510-194-2 『情報リテラシー Windows7/Office2013対応版』(富士通FOM株式会社)

■関連科目

情報科学実習1、情報科学実習2

■成績評価方法および基準

中間試験 20%
定期試験 20%
eラーニング 60%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規定に準拠して行う。

■研究室・E-mailアドレス

薬品分析学研究室

木下充弘：m-kino@phar.kindai.ac.jp

教育専門部門

八軒浩子：hhachi@phar.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

平日10時～18時、上記研究室で受け付けます。
特にメールでの質問を歓迎します。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション／Web履修登録

KUDOS 施設案内>利用ガイドの確認・ID・パスワードの管理について
Kindai Mail>ログイン確認・初期設定
授業概要>授業日程・成績評価・出欠・宿題について
UNIPA>Web履修登録（スマートフォン履修登録紹介）
コンピュータの基本操作>ファイル管理（共有・個人ディレクトリ確認）・KUDOS BASKET

<到達目標>

A基本事項（5）自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

5. インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。（知識・態度）
薬学準備教育ガイドライン(8)情報リテラシー

【①基本操作】

1. コンピュータを構成する基本的装置の機能と接続方法を説明できる。
6. マナーを守り、電子メールの送信、受信、転送などができる。（技能・態度）

【②ソフトウェアの利用】

1. ソフトウェアの使用上のルール、マナーを守る。（態度）

【③セキュリティと情報倫理】

1. ネットワークセキュリティについて概説できる。
2. アカウントとパスワードを適切に管理できる。（技能・態度）
5. ネットワークにおける個人情報の取り扱いに配慮する。（態度）

第2回 情報倫理①

情報セキュリティの必要性（防御知識の習得）
情報化社会の現状と対策（様々な脅威と被害について）
トラブル事例紹介
グループワーク>様々な脅威が引き起こす被害と対策方法について考える
著作権について
ファイル共有ソフトの危険性と違法ダウンロードについて

<到達目標>

A基本事項（5）自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

5. インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。（知識・態度）
薬学準備教育ガイドライン(8)情報リテラシー

【①基本操作】

1. コンピュータを構成する基本的装置の機能と接続方法を説明できる。
3. 電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。（技能）
4. インターネットの仕組みを概説できる。
6. マナーを守り、電子メールの送信、受信、転送などができる。（技能・態度）
7. インターネットに接続し、Webサイトを閲覧できる。（技能）
8. 検索サイト、ポータルサイトの特徴に応じて、必要な情報を収集できる。（技能）

【③セキュリティと情報倫理】

1. ネットワークセキュリティについて概説できる。
2. アカウントとパスワードを適切に管理できる。（技能・態度）
3. データやメディアを適切に管理できる。（態度）
4. 著作権、肖像権、引用と転載の違いについて説明できる。
5. ネットワークにおける個人情報の取り扱いに配慮する。（態度）

第3回 SNS

SNSの特性について
企業における成功事例と炎上事例の紹介
グループワーク>炎上事例をもとに影響範囲とその度合いを考える・就職活動におけるSNS利用の是非について考える
LINEの特性について
LINEにおけるトラブル事例の紹介とトラブル回避対策について

<到達目標>

A基本事項 (5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

5. インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)

薬学準備教育ガイドライン(8)情報リテラシー

【①基本操作】

3.電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。(技能)

4.インターネットの仕組みを概説できる。

6.マナーを守り、電子メールの送信、受信、転送などができる。(技能・態度)

7.インターネットに接続し、Webサイトを閲覧できる。(技能)

【③セキュリティと情報倫理】

1.ネットワークセキュリティについて概説できる。

2.アカウントとパスワードを適切に管理できる。(技能・態度)

3.データやメディアを適切に管理できる。(態度)

4.著作権、肖像権、引用と転載の違いについて説明できる。

5.ネットワークにおける個人情報の取り扱いに配慮する。(態度)

第4回 メール／Power Point①

入力について …タッチタイピング習得のコツ・入力テクニックを紹介

ビジネスメールを意識したメールマナーについて

Power Pointについて>概要・画面構成

プレゼンテーション作成>基本操作・入力・編集・テーマ・印刷 …‘見せるスライド’を作成する編集テクニックを紹介

<到達目標>

薬学準備教育ガイドライン(8)情報リテラシー

【①基本操作】

3.電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。(技能)

【②ソフトウェアの利用】

1.ソフトウェアの使用上のルール、マナーを守る。(態度)

2.ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを用いることができる。(技能)

第5回 Power Point②

オブジェクトの挿入・編集>画像・クリップアート・図形・ワードアート・SmartArt・表・グラフ …配置テクニックを紹介

共通デザインの利用>スライドマスター・ヘッダーとフッター

<到達目標>

薬学準備教育ガイドライン(8)情報リテラシー

【①基本操作】

3.電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。(技能)

【②ソフトウェアの利用】

1.ソフトウェアの使用上のルール、マナーを守る。(態度)

2.ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを用いることができる。(技能)

第6回 Power Point③

スライドショーの実行>画面切替効果・アニメーション設定

プレゼンテーション作成手順とプレゼンター留意事項について

<到達目標>

薬学準備教育ガイドライン(8)情報リテラシー

【①基本操作】

3.電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。(技能)

【②ソフトウェアの利用】

1.ソフトウェアの使用上のルール、マナーを守る。(態度)

2.ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを用いることができる。(技能)

第7回 第7回：確認演習とその解説

第1回から第6回までの内容についてまとめの演習を行い、その解説を行う。

第8回 情報倫理②

ウイルス対策>様々なウイルスの特徴と感染経路について・予防と感染時の対応について
不正アクセス対策>様々な手口に対する防御策について・不正アクセス禁止法
グループワーク>情報セキュリティの今後について考える

<到達目標>

A基本事項 (5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

5. インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)

第9回 Word①

Wordについて>概要・画面構成

基本操作>範囲選択と段落について・書式設定・段落番号と箇条書き・印刷 …作成効率を上げるテクニックとレポート作成に必要な機能を紹介

ビジネス文書の形式>ビジネス文書の意義と種類・ビジネス文書作成練習 …ビジネス文書作成補助機能を紹介

<到達目標>

薬学準備教育ガイドライン(8)情報リテラシー

【①基本操作】

1. コンピュータを構成する基本的装置の機能と接続方法を説明できる。

3. 電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。(技能)

【③セキュリティーと情報倫理】

2. アカウントとパスワードを適切に管理できる。(技能・態度)

3. データやメディアを適切に管理できる。(態度)

第10回 Word②

オブジェクトの挿入・編集>画像・クリップアート・SmartArt・表・ワードアート

修飾機能>ページ罫線・均等割り付け・インデント・タブとリーダー

<到達目標>

薬学準備教育ガイドライン(8)情報リテラシー

【①基本操作】

1. コンピュータを構成する基本的装置の機能と接続方法を説明できる。

3. 電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。(技能)

【③セキュリティーと情報倫理】

2. アカウントとパスワードを適切に管理できる。(技能・態度)

3. データやメディアを適切に管理できる。(態度)

第11回 ICT

コンピュータの基礎>パソコンとは・パソコンの構成・CPU・メモリ・補助記憶装置とメディア・情報量の単位
ソフトウェアについて>種類と役割

拡張子について

インターネットの仕組みについて …情報セキュリティ対策を考える上で必要な知識を習得

全国の大学図書館等が所蔵する書籍(図書・雑誌)や論文の情報を検索できるデータベースサービス 'CiNii' の紹介

<到達目標>

A基本事項 (5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

5. インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)

薬学準備教育ガイドライン(8)情報リテラシー

【①基本操作】

3. 電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。(技能)

4. インターネットの仕組みを概説できる。

6. マナーを守り、電子メールの送信、受信、転送などができる。(技能・態度)

7. インターネットに接続し、Webサイトを閲覧できる。(技能)

【③セキュリティーと情報倫理】

4. 著作権、肖像権、引用と転載の違いについて説明できる。

第12回 Excel①

Excelについて:概要・画面構成

表作成>基本操作・データ入力と編集・連続データ作成・書式設定・行列操作・表示形式 …データの扱い方をはじめ、スキルアップ向上に必要な不可欠な実習とテクニックを紹介

計算>四則演算・セル参照

<到達目標>薬学準備教育ガイドライン(8)情報リテラシー

【①基本操作】

- 1.コンピュータを構成する基本的装置の機能と接続方法を説明できる。
- 3.電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。(技能)

【②ソフトウェアの利用】

- 1.ソフトウェアの使用上のルール、マナーを守る。(態度)
- 2.ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを用いることができる。(技能)

第13回 Excel②

関数の基礎>関数の挿入・相対参照と絶対参照 …SUM・AVERAGE・TODAY・COUNTなど、使用頻度が高い関数を紹介

<到達目標>薬学準備教育ガイドライン(8)情報リテラシー

【①基本操作】

- 1.コンピュータを構成する基本的装置の機能と接続方法を説明できる。
- 3.電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。(技能)

【②ソフトウェアの利用】

- 1.ソフトウェアの使用上のルール、マナーを守る。(態度)
- 2.ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを用いることができる。(技能)

第14回 Excel③

関数の活用>条件を判断して結果を返す関数(IF)・条件に合致したデータ数を数える関数(COUNTIF)
関連するデータを別表から抜き出す(VLOOKUP関数)・数値データをランキングする関数(RANK) …
ビジネスシーンで活用される関数を紹介

<到達目標>薬学準備教育ガイドライン(8)情報リテラシー

【①基本操作】

- 1.コンピュータを構成する基本的装置の機能と接続方法を説明できる。
- 3.電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。(技能)

【②ソフトウェアの利用】

- 1.ソフトウェアの使用上のルール、マナーを守る。(態度)
- 2.ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを用いることができる。(技能)

第15回 Excel④

グラフ作成>縦棒・折れ線・円グラフ・散布図の作成と編集
印刷に関する留意点
データベース機能>データベース概要・並べ替え・抽出

<到達目標>薬学準備教育ガイドライン(8)情報リテラシー

【①基本操作】

- 1.コンピュータを構成する基本的装置の機能と接続方法を説明できる。
- 3.電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。(技能)

【②ソフトウェアの利用】

- 1.ソフトウェアの使用上のルール、マナーを守る。(態度)
- 2.ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを用いることができる。(技能)

定期試験

第8回から第15回までの内容について試験を行う。

科目名：物理学概論			
英文名：Introduction to Physics			
担当者：堀口 哲男 <small>ホリグチ テツオ</small>			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

物理学は薬学専門教育に不可欠な科目であるが、薬学部に入学者の中には、高等学校で物理学を学んでいないものが多く含まれているのが現状である。本講義の第一の目的は、このような学生に物理学の基礎的事項を理解させ、大学における今後の学習・研究を行う上での下地を作ることである。また、本講義の第二の目的としては、国家試験に出題される基礎物理関連問題の内容を理解できるよう物理学的なものの考え方を会得することである。

■学習・教育目標および到達目標

薬学専門教育を受けるために必要な物理学の基礎的事項を理解する。過去の薬剤師国家試験・基礎薬学のなかの物理関連問題、特に、出題頻度の高い放射線・放射能に関連した知識と考え方を習得することを目的とする。

■授業時間外に必要な学修

講義で省略した部分を次回の講義までに学習しておくこと。疑問があれば、教員に質問すること。また、講義で学んだ物理現象について、自分の生活の中で確認すること。

■教科書

[ISBN]9784780600728『薬学の基礎としての物理—薬学準備教育ガイドライン準拠』(大林 康二,学術図書出版社)

■参考文献

[ISBN]9784320034617『薬学生のための物理入門—薬学準備教育ガイドライン準拠—』(廣岡 秀明, 共立出版)

[ISBN]9784062576055『マンガ 物理に強くなる—力学は野球よりやさしい(ブルーバックス)』(関口 知彦(原作), 講談社)

[ISBN]9784879623621『RIの逆襲—アイソトープを活用した簡単・安全バイオ実験(細胞工学別冊 実験プロトコールシリーズ)』(岡田誠治, 秀潤社)

■関連科目

応用物理学

■成績評価方法および基準

定期試験 80%

授業中課題 20%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

2 2号館4 階 原子力研究所第2研究室

thori@msa.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜日 4 限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 イン트로ダクション・基本概念 (1)

・物理量

・スカラー量とベクトル量

<到達目標>物理量にはすべて単位があり、基本単位を組みあわせることにより表わされることを理解させる。また、スカラー量とベクトル量の概念を説明できる。

第2回 イン트로ダクション・基本概念 (2)

・不確かさと有効数字

<到達目標>今後の実験に必要な有効数字、測定誤差について説明できる。

第3回 運動の法則 (1)

・速さと速度

・ニュートンの運動の法則

・力のつり合い

・落体の運動

<到達目標>位置、速度、加速度の概念を理解させ、ニュートンの運動の法則より、物体の運動について説明できる。

第4回 運動の法則(2)

・等速円運動

・単振動

<到達目標>等速円運動における加速度、周期を理解させる。また、ばねにより物体にはたらく力より単振動について説明できる。

第5回 運動の法則(3)

運動量と衝突問題

<到達目標>2つの物体の衝突問題より、運動量と力積の概念を説明できる。

第6回 エネルギー(1)

・仕事

・いろいろなエネルギー

<到達目標>仕事とエネルギー、エネルギー保存の法則を説明できる。

第7回 エネルギー(2)

・気体の法則

・気体分子の運動

<到達目標>気体分子の運動より、気体の圧力、内部エネルギー及び熱力学第1の法則を説明できる。

第8回 波動(1)

・波の表わし方

・波の基本的な性質

<到達目標>波を記述する量として周期、振幅等を理解させ、波の基本的な性質である重ね合せ、反射等を説明できる。

第9回 確認演習および解説

第7回までの学習内容のまとめの演習を行い、その解説を行う。

第10回 波動(2)

・音波

・光波

<到達目標>波の応用として、音波、特にドップラー効果、光波特に光の干渉について説明できる。

第11回 電荷と電流(1)

・クーロンの法則

<到達目標>電荷、電場、電位等の電磁気学の基本単位と、クーロンの法則による符電粒子にはたらく力を説明できる。

第12回 電荷と電流(2)

・電流と抵抗

<到達目標>符電粒子の流れとして電流を理解させ、電気抵抗をつかった簡単な回路の問題をとけるようにする。

第13回 量子化学入門

・光の粒子性

・X線

・粒子の波動性

<到達目標>光の粒子性を理解させ、放射線とその性質を理解する基本的な知識を習得する。

第14回 原子核と放射線

・原子核の構造

・放射線とその性質

・放射線測定器

<到達目標>原子核の構造と放射性崩壊について理解させるとともに放射線測定器の測定原理を理解する。

第15回 講義のまとめ

・放射線の医療分野への応用

・講義全体のまとめ

・授業評価

<到達目標>実際に医療分野で使用されている放射性物質や放射線測定器を紹介し、その原理や測定方法を説明できる。

期末試験

講義全体の内容理解度を確かめるテスト

科目名：キャリアデザインⅠ			
英文名：Career Design I			
担当者：八木章・松山賢治・木下充弘・村田和也			
単位：1単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：必修科目

■授業概要・方法等

現在の雇用・労働を取り巻く環境は大きく変わりつつあり、個人の選択肢も多様化し、それに伴ってチャンスとリスクも拡大する傾向にある。同時に企業組織、従業員個人の関係も変化してきており、かつてのような「会社任せ」でなく、自ら主体的に自分自身のキャリアをデザインしながら、その目標に向かって学習と経験を積み重ねていくことが必要になっている。

自分にとっての「働くこと」の意味を考察し、自立性・自律性をもったキャリア開発を行っていくことの重要性を理解することで、それにつながる有意義な学生生活を送ることを一人ひとりに自覚・認識させることを「キャリアデザイン」の狙いとする。

授業の中に企業人、OB OG、先輩学生からも事例の提示を受け、討議する形式も取り入れる。

■学習・教育目標および到達目標

自分の思いと、性格・行動特性などの自己分析結果をすり合わせ、将来の目標を考えることができる。またキャリアデザインの重要性を他人に説明できるようになると共に自分のキャンパスプランに反映させることができる。

■授業時間外に必要な学修

授業には、教科書の指定範囲を通読の上、臨むこととする。

それ以外に、適宜宿題を課すことがある。

■教科書

[ISBN]9784502399800『キャリア・マネジメント—企業・大学・公的機関の取り組み』（八木章,中央経済社）

■参考文献

[ISBN]9784822295738『理論と実践で自己決定力を伸ばす キャリアデザイン講座 第2版』（大宮登,日経BP社）

■関連科目

薬学概論 他

■成績評価方法および基準

毎回の授業での小テスト・レポート 30%

授業への積極的参画、質問・発表 20%

筆記試験（論述式）50%

■授業評価アンケート実施方法

「薬学部実施規程」に準拠して行う。

■研究室・E-mailアドレス

授業終了時に対応する。

■オフィスアワー

授業終了時に対応する。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 ガイダンス

科目の全体の流れ、個々の回のトピックスを紹介し、レポート課題など授業の進め方など履修上の留意点を説明する。

第2回 雇用・就労環境の変化

個人の選択肢が多様化してきており、漫然と生きていくと「流される」危険性が強くなっている。非正規雇用の拡大、ニート・フリーターの抱える課題など。

第3回 企業・公務員就職に関するガイダンス

企業就職における意識や業界研究の仕方を、業種を紹介しながら行う。就職内定者による体験談も行う。また、公務員就職については試験の概要やその準備について、職域等についても概説する。

第4回 企業の人的資源管理の変化とキャリアデザインの必要性・重要性

いわゆる日本的経営の三種の神器の後退一個人の自立と自律の必要性。エンプロイアビリティなど。「キャリア」の概念を理解し、自らのキャリアデザインを描くことの必要性・重要性を認識する。

第5回 自己理解

肯定的な自己概念等。パーソナリティ分析や、キャリア・アンカーなどからみた自分自身を考察する。

第6回 企業就職環境の変化とその対応課題

就職関連企業による就職環境の状況、及び準備、学修上の心構えなど実践的レクチャーをもとに、学生同士の討議、講師との質疑を行う。

第7回 キャリア形成と目標管理

目標設定と行動計画をもつことの重要性。PDCAサイクルなど。

第8回 メンタルヘルスとワーク・ライフバランス

ストレス管理、メンタル不全に陥らない対応など。ワークキャリアとライフキャリア（狭義と広義のキャリア）の関連。バランスのとれたキャリアデザイン、自分らしく生きることなど。

第9回 進路設定、実践活動の具体的な事例研究

OB・OGによる成功・失敗事例の発表と討議、質疑応答を通じて考察を深める。

第10回 働くことの意味、目的

職業観の変化、職業の意義とその要素など。

第11回 モチベーション

自らのキャリアデザインに向かっの主体性・自律性をもつことの重要性。組織のモラルとの関連。

第12回 企業が求める人材像、スキル

企業人による具体的な採用方針、選考方法、育成制度などの実践的な内容のレクチャーと学生からの質疑応答を通じ個人毎の対応を考察する。

第13回 本大学のキャリア・サポートシステム

課外講座、インターンシップ、就職支援体制など。

第14回 計画された偶発性（クランボルツ）

学習・経験を積むことの意義。偶発性を自らのキャリアデザインの好機にしていくこと。

第15回 自らの学生生活における目標設定と行動計画

自分自身のキャリアデザインをイメージし、そのための有意義な学生生活となるように目標と計画を考察する。

科目名：日本語の技法			
英文名：Skills of Japanese Language			
担当者： ^{ヨシダ ユイ} 吉田 唯			
単位：2単位	開講年次：	開講期：	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

この授業では、レポート・論文の作成方法を中心に、日本語の表現方法等を学ぶことを目標とする。実際に文章を書くことにより習得してもらう。

■学習・教育目標および到達目標

自らの考えを、口頭もしくは文章にて表現できるようになるための能力を習得する。

■授業時間外に必要な学修

友達にメールを送る際に、今一度文面を見直すこと。メールも立派な文章であり、本授業において最も効果的な学習である。

■教科書

特に指定しない。授業中にプリントを配布する。

■参考文献

授業中に随時紹介していく。

■関連科目

なし。

■成績評価方法および基準

論述式の定期試験 60%
授業内課題 40%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室 (21号館2階)

■オフィスアワー

授業終了後。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 ガイダンスと日本語表現について

第2回 日本語表現のルールについて

第3回 文章作成のための基礎知識1

第4回 文章作成のための基礎知識2

第5回 文章の作成と表現

第6回 論文・レポート作成のための基礎知識について1

第7回 論文・レポート作成のための基礎知識について2

第8回 論文・レポート作成のための基礎知識について3

第9回 口頭発表について1

第10回 口頭発表について2

第11回 口頭発表について3

第12回 グラフ・表を使って文章の作成と説明1

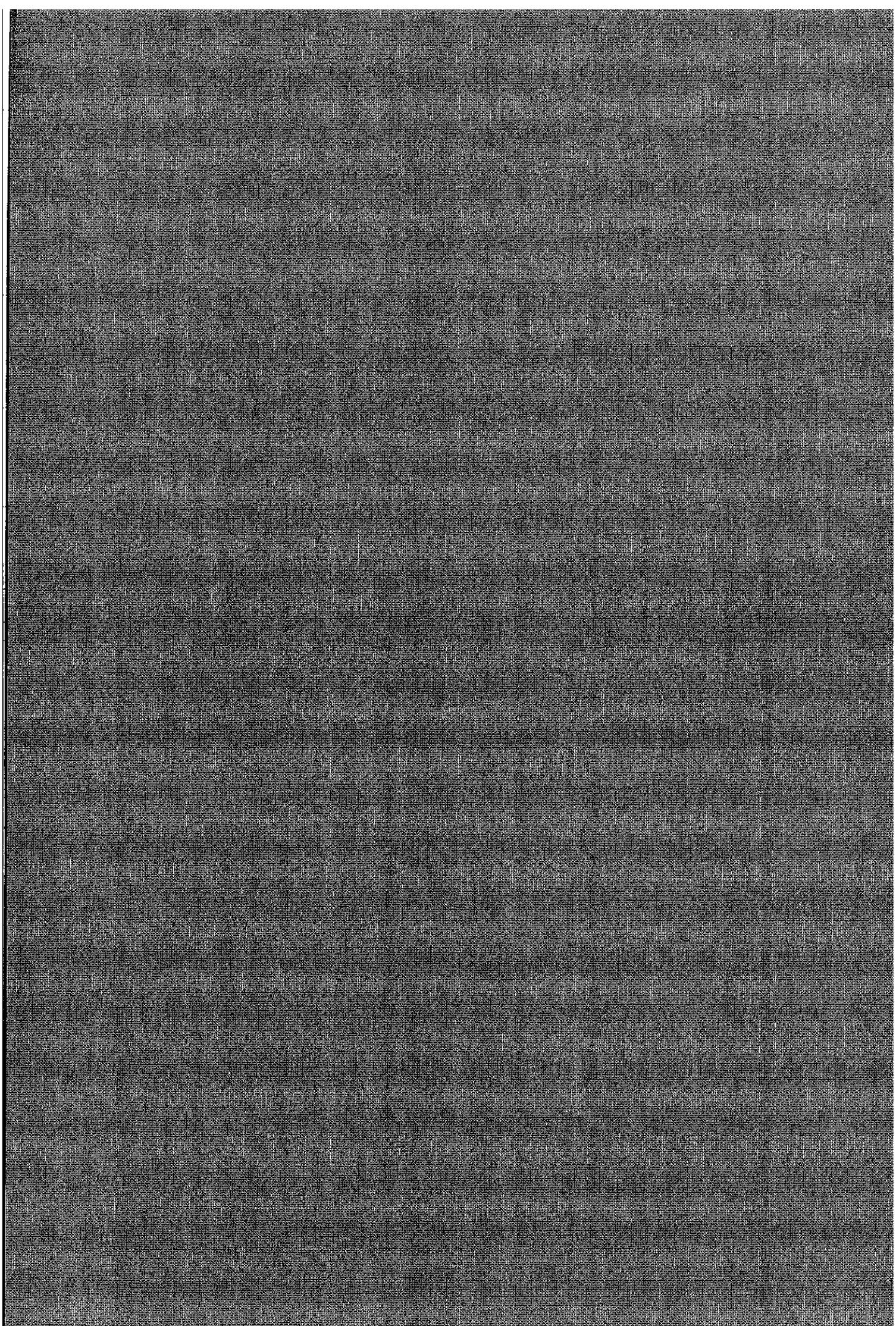
第13回 グラフ・表を使って文章の作成と説明2

第14回 敬語1

第15回 敬語2

定期試験

生涯スポーツ



近畿大学の健康スポーツ教育について

I. 大学における健康スポーツ教育の目的

大学における健康スポーツ教育の目的は、「自己のライフステージや心身の状態に適した身体運動やスポーツを生活の中に積極的に取り入れ、人々との交流を通じて、豊かなライフスタイルを形成できる能力を身につけること」です。

具体的には、一つは健康・体力の回復・維持・増進という「健康への配慮」、一つは余暇の増大、生活水準の向上、生活意識の変化にともなう文化的な欲求としての「豊かな生きがいの創造」です。

すなわち、生涯にわたる身体運動・スポーツ活動を通じてすべての人々が豊かに生き生きと生きることと、自己を表現できることを目的としたものであり、各自がライフステージに対応した自己開発や自己表現がなされること、そして身体運動・スポーツ活動をすることが自己目的化されることを教育の目的としています。

そのために、健康スポーツ教育の目標を以下のように焦点づけています。

1. 生涯にわたる健康管理や、健康・体力の回復・維持・増進を図るための素養を高める。
2. 身体運動・スポーツ活動の中で、「新しい動きの体験」を享受することにより、運動する喜びとともに共生する喜びを体得する。
3. 身体運動・スポーツ活動に関する科学的「知」を動くことによって実感し、探求する。
4. 身体運動・スポーツ活動をすることによって得られる集約的な身体の「知」を体得し、生涯スポーツ活動の素養を養う。

II. 授業について

本学がおこなう健康スポーツ教育の授業は以下の通りです。

1. 健康とスポーツの科学（講義 2単位）半期開講 ※一部の学部のみ開講
2. 心と体の健康（講義 2単位）半期開講 ※一部の学部のみ開講
3. 生涯スポーツ1（実技・実習 1単位）前期開講
4. 生涯スポーツ2（実技・実習 1単位）後期開講

*教職課程を履修する場合、生涯スポーツ1および生涯スポーツ2は必修科目です。

*健康運動実践指導者の称号資格を希望する場合（食品栄養学科・経営学科スポーツマネジメントコース）、生涯スポーツ1および生涯スポーツ2は必修科目です。

1) 健康とスポーツの科学（講義）

開講学部：理工学部・経営学部・短期大学部・総合社会学部・建築学部

今日の学生が持つ多様なニーズに応えるための試みとして、「生涯学習」の視点から

「健康とスポーツの科学」についてさまざまな角度から講義をします。

- (1) スポーツ科学の基礎知識
- (2) 健康科学の基礎から応用
- (3) 健康の自己管理論

※詳細は各学部シラバスを参照

2) 心と体の健康 (講義)

開講学部：経済学部・文芸学部

現代人が抱えるさまざまな心身の健康問題を「心」から「体」、「体」から「心」へ、そして「心身一如」といった視座から心身の密接で統合的な関係に気づき、総合的な人間の見方について、実践より見出されたスポーツ科学の視点から講義をします。

- (1) 健康という心身のあり方の理解
- (2) 自己理解・他者理解
- (3) コミュニケーションの理解
- (4) 社会のなかで生きているという自分の理解

3) 生涯スポーツ 1・2 (実技・実習) ※開講 (1～4年)

生涯スポーツ 1・2 は、体育・スポーツに関する専門的知識と基礎から応用まで運動技術・技能の習得を目指すものです。具体的には、

- (1) プレイ・レジャー・コミュニケーションとしてのスポーツ
- (2) 健康づくりとしてのスポーツ
- (3) 身体能力開発としてのスポーツ

と、3つの視点からスポーツのあり方を理解し、実技・実習を行います。尚、生涯スポーツ 1 は「基礎的」、生涯スポーツ 2 は「応用的」な視点で実施し、以下の授業目的、内容をもって実施します。

授業目的： 生涯スポーツ 1 および生涯スポーツ 2 の授業は、実技を中心とした実習科目です。健康やスポーツに関する専門的知識の獲得のための講義や VTR などの視聴覚教材を利用して授業を行う以外は、グラウンドや体育館で実施します。両科目ともスポーツ・運動教材を用い、体力・運動能力の向上あるいはその方法、健康の意義とその保持・増進の方法などを習得することを目標としています。

ただし、生涯スポーツ 2 は、生涯スポーツ 1 と比較して、より専門的な知識の獲得や幅広い体力・運動能力の習得を目指しています。

また、生涯スポーツ 1・2 とも、授業時に 2 回あるいは 3 回にわたってフィットネスチェックを実施します。フィットネスチェックとは、各自の健康状態に関わる心身状態 (日常生活における心身の健康に関わるチェック、形態・体格)、体力・運動能力の測定です。フィットネスチェックでの測定結果は、受講生の学習に役立つよう統計処理を行います。

授業内容： 生涯スポーツ 1 および生涯スポーツ 2 の授業は、一つの時限に複数の担当者が、それぞれ異なった運動教材で、それぞれが異なった授業展開をします。
スポーツ種目は、配布プリントもしくは近畿大学ホームページを参照してください。
<http://www.kindai.ac.jp/campus-life/lesson/lifelong-sport/index.html>

授業時間外に必要な学修：授業で与えた健康問題・課題を日常生活の中で取り組み、実践し、その理解を深めること。

III. 成績評価について

成績評価は、以下の2つの課題の達成度によって行われます。

身体的課題の達成度 (50 点)

身体活動量の確保、技術・技能の獲得、戦術戦略の理解

心理・社会的課題の達成度 (50 点)

努力・意欲の度合、コミュニケーションの度合、マナー・礼節の実践

IV. 履修登録についての注意

1. クラス分け (第1回目授業にて)

- 1) 受講生の各種目によるクラス分けは、記念会館において、「生涯スポーツ 1」は4月の第1回目の授業、「生涯スポーツ 2」は9月の第1回目の授業で行います。
- 2) 受講希望者は記念会館に集合すること。配布資料を参考に各担当教員の説明を聞き、第1希望から第3希望まで希望するクラスを選択しておきます。
- 3) 各クラスには、円滑な授業運営および安全確保のために定員 (20~40 名) を設けています。
- 4) 各クラスにおいて希望者が多数の場合は各担当教員が抽選を行います。

2. 受講許可証の発行

- 1) 受講クラス決定後、受講許可証を発行します。
- 2) 受講許可証は大切に保管すること。
- 3) 受講許可証をもとに各自で履修登録 (web 登録) を行います。曜日・時限・担当教員名を確認し、登録ミスがないよう細心の注意を払うこと。
- 4) **受講の許可なく履修登録をした学生の受講は認めない。**

3. クラス分けを欠席した場合

- 1) 諸事情で第1回目授業を欠席した学生は、履修相談窓口にて受け付けます。受講クラスは、定員に達していないクラスでの選択になります。
- 2) 履修相談窓口は、以下の日程で行います。

◎東大阪キャンパス

(生涯スポーツ 1)

期日：4月7日(火)～4月13日(月)ただし、土日祝は除く。

時間：午前11時～午後1時・午後1時～3時・午後4時～6時

場所：11号館1階 生涯スポーツ担当教員控室

(生涯スポーツ 2)

期日：日程は、11号館1階 生涯スポーツ担当教員控室入口に掲示します。

時間：午前11時～午後1時・午後1時～3時・午後4時～6時

場所：11号館1階 生涯スポーツ担当教員控室

※履修相談窓口にて、受講クラスを決定し、受講許可証受領後、

各自で履修登録(web登録)を行うこと。

◎奈良キャンパス

(生涯スポーツ 1)

期日：4月7日(火)、4月10日(金)および4月14日(火)

時間：ガイダンス終了後(詳細は掲示板を確認してください。)

(生涯スポーツ 2)

期日：9月15日(火)、9月18日(金)および9月25日(金)

時間：ガイダンス終了後(詳細は掲示板を確認してください。)

※履修相談窓口にて、受講クラスを決定し、受講許可証受領後、各自で履

修登録(web登録)を行うこと。

- 3) 履修登録を間違えた場合、履修登録期間内に各自、修正すること。
- 4) 決定した受講クラスの変更は、特別な理由がない限り認められません。
- 5) 上記1)～4)の手続きを怠ると、各自がweb登録を行っても「受講許可証」は発行されないの、受講は認めない。

V. 実技・実習の履修上の注意

1. 実技・実習は、巻末の地図に示されたスポーツ施設において実施します。
2. 授業場所は「生涯スポーツ時間割ホームページ」に記載しています。雨天などの天候変化、グラウンド状態不良等の理由により、授業場所を変更するときがあります。授業場所変更については、授業前に、生涯スポーツ担当教員控室(11号館1階)、記念会館ロビーの掲示板に掲示されますので、事前に確認すること。
3. 実技・実習等の服装はトレーニングウェア及び運動靴を使用すること。眼鏡、時計、指輪など、破損しやすい物は、危険防止の見地からも、授業中できるだけ携帯しないでください。万一破損があっても保障することはできません。外傷などの身体的事故についての注意、万一の場合の処置については「実技・実習上の安全対策」の項を熟読すること。
4. 屋内(記念会館、記念会館別館、剣道場など)の授業では必ず館内シューズを使用すること。また、グラウンドでは担当教員が認めた運動靴を使用し、テニスコートではテニスシューズを、人工芝グラウンドでは専用シューズを使用すること。
5. 各クラスの更衣場所については、担当教員の指示に従ってください。
6. 授業に関する不明な点は、生涯スポーツ担当教員控室(11号館1階)に問い合わせてください。

い。

7. 貴重品の管理は、各担当教員の指示に従うこと。
8. 実技科目である特性上、欠席日数が4回以上もしくは、それに相応する遅刻等がある場合は不可とする。
9. 再試験は、原則、実施しない。ただし、事情等を勘案し実施する場合、対象となるのは欠席回数が4回未満の者とする。

VI. 実技・実習上の安全対策

実技・実習における安全管理は、日常生活の自己管理からです。自己管理されたリズムある日常生活は、最優先されるべき実技・実習上の安全対策です。

しかし、実技・実習中には、避けることのできない不可効力的な事故も発生します。多くのケースは、もう少し注意しておけば、あるいはもう少し準備・配慮しておけばといったことがしばしば見受けられます。不摂生な生活、睡眠不足などによる注意不足・散漫などが起因である場合が多いです。事故は、自分だけでなく他の受講生に対しても多大な迷惑をかけることとなります。

日常生活の中での自己管理も踏まえ、実技・実習の際に以下の事に注意してください。

1. 自己管理について
 - 1) 暴飲、暴食をしない
 - 2) 十分な睡眠を取る
 - 3) 朝食を摂る
 - 4) 規則正しい生活を送る
2. 服装について
 - 1) トレーニングウェアを着用すること
 - 2) 指定された靴を使用すること
 - 3) 時計、指輪等の装飾品を身に付けないこと
 - 4) 爪は切っておくこと
 - 5) 長い髪は束ねること
3. 用具について
 - 1) 使用用具の取り扱いは、担当教員の指示に従うこと
 - 2) 各種目の用具の特殊性を熟知し、慎重に取り扱うこと
4. 活動中について
 - 1) 担当教員の指導上の注意、助言を厳守すること
 - 2) 各種目のルール、マナーを厳守すること
 - 3) 感情的にならないこと
 - 4) 心身の不調をきたした場合、すぐに担当教員に申し出ること
5. 事故の処置について

実技・実習中に万一外傷、その他授業が継続できないような事故が発生した場合、

以下のような要領で処置をします。

1) 事故発生時

担当教員に申し出て指示を受けること。原則として次のように処置をします。大学保健管理センター（11月ホール3階）または、農学部医務室で処置を受ける。

2) 学外の医療機関で治療した場合

学生部学生生活課に届け出ること。その際、大学で扱う医療費給付制度などを確認すること。

参考：近畿大学学園学生健保共済会ホームページ(<http://kindai-wellness.jp>)

近畿大学学園学生健保共済会発行「WELLNESSガイドブック」

科目名：生涯スポーツ1			
英文名：Lifelong Sports 1			
担当者：詳細はホームページを参照してください			
単 位：1単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

運動教材2種目を用いて授業が展開されます。

運動教材については、開講の曜日・時限により異なりますので、初回の授業時に確認してください。

第1回目の授業は記念会館へ集合し、配布する資料を参考に受講クラス(種目・担当者)を決定します。

安全な授業の展開のために、各クラスには定員があります。定員を超えて受講希望があった場合には第2、第3希望のクラスへ回ることがあります。

生涯スポーツ1の受講希望者は必ず出席し、「受講許可書」を得てから履修登録を行なってください。*「受講許可書」がなければ履修できません。

■学習・教育目標および到達目標

健康の維持・増進、体力・運動能力の向上とその意義についての科学的理論を理解し、各種スポーツの基本的運動技術・技能・ルールを学ぶことによって、自らすすんで運動・スポーツを楽しむことのできる態度を養い、生涯にわたり健康的な生活を営む能力の獲得を目指します。

生涯スポーツ1の学習内容は、生涯スポーツ2と比較し、より基礎的・一般的なものを扱います。

■授業時間外に必要な学修

選択したスポーツ種目のルールを復習する。

担当教員から指示された課題に取り組む。

平常より、十分な栄養摂取と休養・睡眠を心がける。

■教科書

必要に応じて担当教員が授業中に指示します。

■参考文献

必要に応じて担当教員が授業中に指示します。

■関連科目

「健康とスポーツの科学」

■成績評価方法および基準

身体的課題の達成度(身体活動量の確保、技術・技能の習得、戦術・戦略の理解と応用)50%

心理的・社会的課題の達成度(努力・意欲の程度、コミュニケーションの度合、マナー・礼節の実践)50%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

問い合わせは11号館1階「生涯スポーツ担当教員控室」まで。

(ihss@kindai.ac.jp)

■オフィスアワー

担当教員により異なるので、問い合わせること。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

授業計画は各担当者が作成し、「生涯スポーツ時間割ホームページ」(<http://www.kindai.ac.jp/gakusei/gym/>)に明示しています。ただし、第2回～第4回目の授業は全クラス共通でフィットネス・チェックを実施します。測定項目は、形態測定・安静時心拍数・血圧・筋力・筋持久力・柔軟性・敏捷性・全身持久力などです。

一般的な授業計画は以下に記します。

第1回 ガイダンス、クラス選択および受講許可証の発行/健康・体力テスト(アンケート)の記入

第2回 フィットネス・チェック

第3回 フィットネス・チェック

- 第4回 フィットネス・チェック
- 第5回 第1運動教材（種目）の基礎的運動技能・技術の習得
- 第6回 第1運動教材（種目）の基礎的トレーニング法の理解
- 第7回 第1運動教材（種目）のルールと審判法の習得
- 第8回 第1運動教材（種目）の基礎的戦術・戦略の理解と立案
- 第9回 第1運動教材（種目）の理解度確認と実技テスト
- 第10回 第2運動教材（種目）の基礎的運動技能・技術の習得
- 第11回 第2運動教材（種目）の基礎的トレーニング法の理解
- 第12回 第2運動教材（種目）のルールと審判法の習得
- 第13回 第2運動教材（種目）の基礎的戦術・戦略の理解と立案
- 第14回 第2運動教材（種目）の理解度確認と実技テスト
- 第15回 まとめ

科目名：生涯スポーツ2			
英文名：Lifelong Sports 2			
担当者：詳細はホームページを参照してください			
単 位：1単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

次に示す運動教材のうち1種目を用いて授業が展開されます。
 運動教材は、開講の曜日・時限により異なりますので、初回の授業で確認してください。
 生涯スポーツ2は9月第1回目の授業時に記念会館へ集合し、配布資料を参考に受講クラス（種目・担当者）を決定します。
 安全な授業展開のために、各クラスには定員があります。定員を超えて受講希望があった場合には第2希望、第3希望のクラスへ回ることがあります。
 生涯スポーツ2の受講希望者は必ず出席し、受講許可書を得てから履修登録を行なってください。*受講許可書がなければ履修不可です。

■学習・教育目標および到達目標

健康の維持・増進、体力・運動能力の向上とその意義についての科学的理論をより深く理解し、各種スポーツの専門的運動技術・技能・ルールを学ぶことによって、自らすすんで運動・スポーツを楽しむことのできる態度を養い、生涯にわたり健康的な生活を営む能力の獲得を目指します。
 生涯スポーツ2の学習内容は、生涯スポーツ1と比較し、より専門的なものを扱います。

■授業時間外に必要な学修

選択したスポーツ種目のルールを復習する。
 担当教員の指示する課題に取り組む。
 平常より、十分な栄養摂取と休養・睡眠を心がける。

■教科書

必要に応じて担当教員が授業中に指示します。

■参考文献

必要に応じて担当教員が授業中に指示します。

■関連科目

「健康とスポーツの科学」

■成績評価方法および基準

身体的課題の達成度（身体活動量の確保、技術・技能の習得、戦術・戦略の理解と応用）50%
 心理的・社会的課題の達成度（努力・意欲の程度、コミュニケーションの度合、マナー・礼節の実践）50%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

問い合わせは「11号館1階生涯スポーツ担当教員控室」(ihss@kinki.ac.jp)まで。

■オフィスアワー

担当教員により異なるので、各教員に問い合わせること。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

授業計画は各担当者が作成し、「生涯スポーツ時間割シラバス」に明示しています。ただし、第2回目・第3回目の授業は全クラス共通でフィットネス・チェックを実施します。測定項目は、形態測定・安静時心拍数・血圧・筋力・筋持久力・柔軟性・敏捷性・全身持久力などです。
 一般的な授業計画は以下に記します

第1回 ガイダンスおよびクラス選択、受講許可証の発行/健康・体力テスト（アンケート）の記入

第2回 フィットネス・チェック

第3回 フィットネス・チェック

- 第4回 フィットネス・チェックの評価とそれに基づく運動プログラムの考察
- 第5回 運動教材（種目）の特性とその健康・体力へ期待される効果
- 第6回 運動教材（種目）の特性と心理社会的効果
- 第7回 生涯にわたる運動・スポーツの実践と健康寿命の延伸
- 第8回 生涯にわたる運動・スポーツへの参加とQOL
- 第9回 運動教材（種目）の専門的運動技能・技術の習得
- 第10回 運動教材（種目）の専門的トレーニング法の理解
- 第11回 運動教材（種目）のルールと審判法の習得
- 第12回 運動教材（種目）の競技戦術・戦略の理解と立案
- 第13回 一流競技選手の体力・運動技能・戦術の観察（VTR等使用）
- 第14回 運動・スポーツに発生しがちに事故・障害と救急法
- 第15回 まとめ

近畿大学外国語教育の目的と共通基本目標

—外国語教育マニフェスト—

前 文

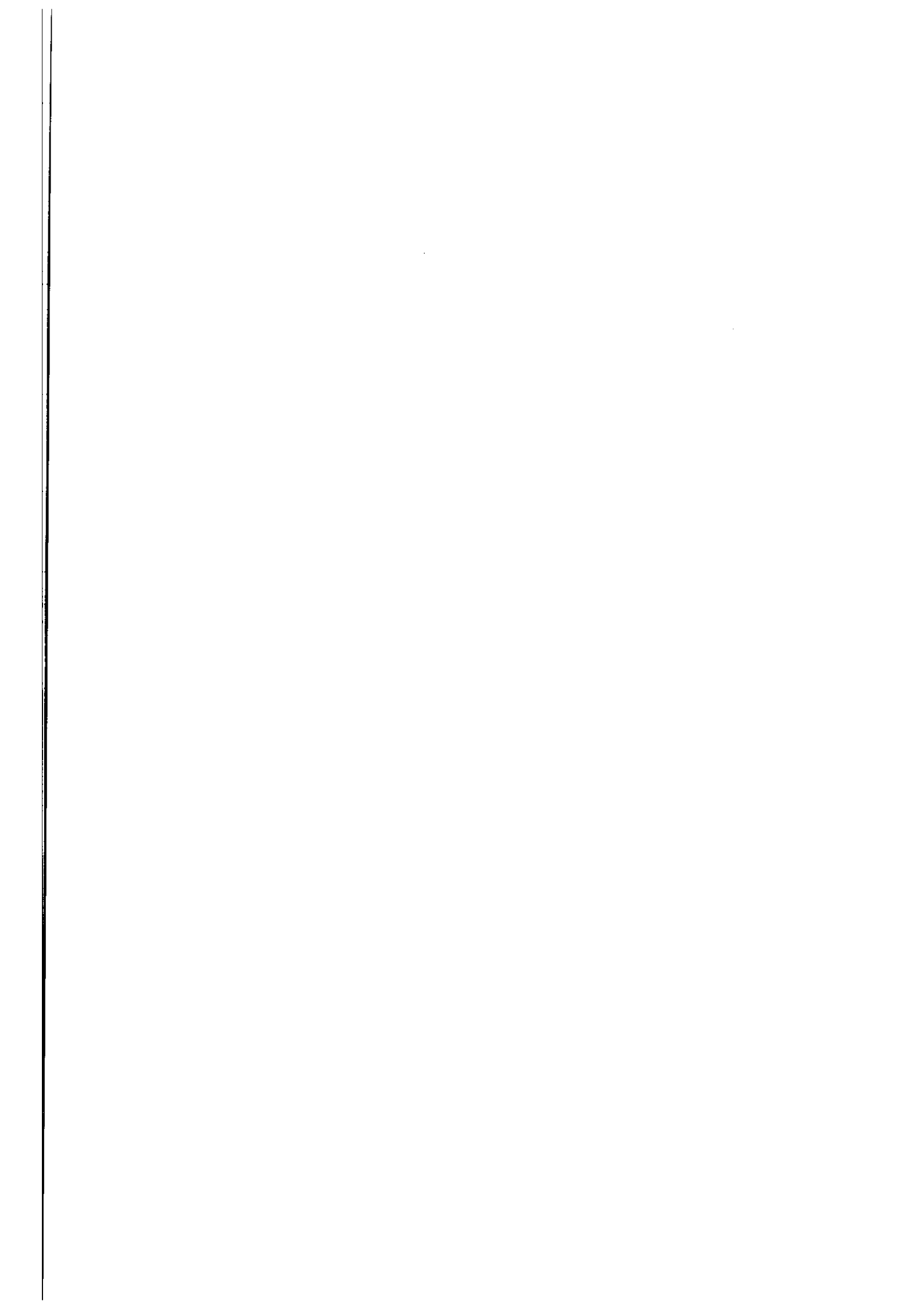
近畿大学の教養教育の目的は、幅広い知識と深い洞察力を培い、豊かな人間関係と確かな主体性を確立することにある。この教養教育の目的に基づいて掲げられた計6項目の目標のうち、特に外国語教育と密接に関係するものとして、2. 日本文化と外国文化の理解を通じ、国際感覚を高め、相互の個性を尊重し、信頼し合う精神を養う、5. 国際社会に対応できる英語をはじめとする外国語によるコミュニケーション能力を養う、の2項目がある。この2項目に立脚して、近畿大学の外国語教育の目的を次のように掲げる。

目 的

近畿大学の外国語教育は、国際社会に対応できる英語をはじめとする外国語によるコミュニケーション能力を養うとともに、日本文化と外国文化の理解を通じ、国際感覚を高め、相互の個性を尊重し、信頼し合う精神を養うことを目的とする。

共通目標

上記の目的を達成するために英語と第二外国語それぞれの全学共通の基本目標をおく。



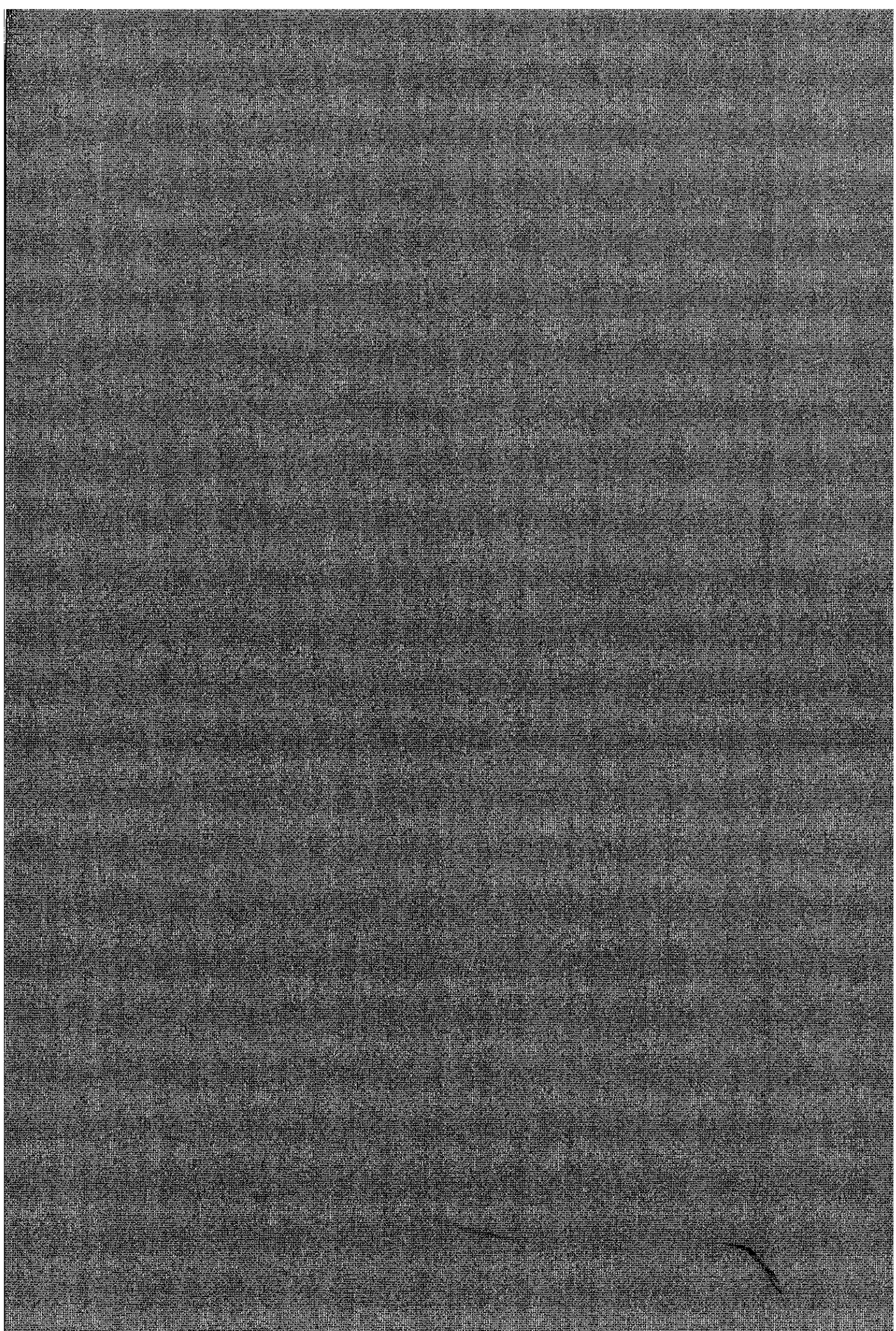
外国語科目

英語

医療薬学科

創薬科学科

*平成26年度以前入学の医療薬学科および創薬科学科学生は別添頁を参照



英語履修案内

英語教育の共通基本目標

From

中学・高校を通じて6年間英語の語彙や文法を一通り学習し、英文もある程度は読めるけれど、聞いたり話したりは自信がない。卒業後、社会に出たときに役立つかどうか分からない。



To

- ① 実社会、特に産業界で役に立つ英語コミュニケーション力が身につく。
- ② 社会力（教養）の一部となる英語力が身につく。



“From⇔To”を実現する手段としての「近畿大学の英語教育」
— 専門教育と教養をリンクさせる実践的な英語教育 —

共通基本目標

1. 国際社会の共通言語としての英語をコミュニケーションの道具として使いこなすために、バランスのとれた4技能の能力を養成する。
2. 自分の意見を英語で書いたり、発表したり、人とディスカッションしたりする積極的な態度を養成する。
3. 自分の考えを持って課題に取り組み、英語で発表したり、異なる文化をもつ人々とインタラクションしたりできる能力を養成する。
4. 自己評価に基づいて目標を設定し、確実に目標を達成する自律力を養成する。

具体的方策

上記の目標を達成するために以下の具体的方策を実施する。

1. 基幹科目：プレイスメントテストによる比較的少人数（15人～30人）の均等レベルクラスの編成。協同学習により様々なレベルの学習者が協力する授業の展開。
2. 発展科目：学生のニーズに合わせた科目を開講。基幹科目で養った英語力をさらに深める。
3. 1年生全員にネイティブ教員によるオーラルコミュニケーションの授業の提供。間違いを恐れず、積極的に英語を話し、発表できる態度の養成。
4. コンテンツを重視した教材の使用。一般的な教養から専門の導入的話題について、学生同士が考え、話し合い、発表するやり甲斐のある活動を多く提供する。
5. フレームワーク（近畿大学英語能力指標〈5レベル〉）を共通基盤とし、学生の自己評価による目標レベルの設定。できれば2レベルアップを達成できるような教員による学生支援。
6. 授業外活動の充実による学生の自律性の養成。英語村（English café ‘e-cube’）や語学センターなどの利用促進。E-learning用ソフトや多読用図書整備と、学生の利用促進。

英語科目一覧

科目名	配当 学年	単位	開講	備考		
英語演習 1	1	2	前	日本人教員担当科目	基 幹 科 目	
英語演習 2	1	2	後			
英語演習 3	2	1(医療) 2(創薬)	前 後	日本人教員担当科目		
英語演習 4	2	1(医療) 2(創薬)				
オーラルイングリッシュ 1	1	1	前	ネイティブ教員担当科目		
オーラルイングリッシュ 2	1	1	後			
オーラルイングリッシュ 3	2	1	前	ネイティブ教員担当科目		
オーラルイングリッシュ 4	2	1	後			
TOEIC A	2-4	1	前	日本人教員担当科目		発 展 科 目
TOEIC B	2-4	1	後			
TOEFL A	2-4	1	前	日本人教員担当科目		
TOEFL B	2-4	1	後			
ライティング A	2-4	1	前	日本人教員担当科目		
ライティング B	2-4	1	後			

*2 単位は原則として同一教員週 2 回担当科目、1 単位は週 1 回の科目

英語科目

<基幹科目： 科目名・概要>

英語演習 1・2（一年前期・後期科目）

医薬系学生としての英語に必要な4技能（読む、書く、聞く、話す）の基礎力の育成を目標とする。基礎的な文法・語彙知識の習得を目指し、基本的なリスニング・速読能力の定着をはかる。比較的読み易い理系、医薬系の内容の文章を理解し、それを日本語や英語で要約できる力、さらに読み取った内容を論理的に整理し、他者に正確に伝えることができる理系・医薬系の英語基礎力を身につける。

英語演習 3・4（二年前期・後期科目）

英語演習 1・2 で習得した語学力をさらに向上させ、情報収集と、確実な伝達の手段としての英語力をより一層確実なものとするを目標とする。専門的な英語（English for Specific Purposes、ESP）の入門的な文章なら、分速 150 語程度スピードで読み、その要点をまとめる能力を身につける。またさまざまな英語資料を集め、簡単な口頭発表の原稿が書けるようになり、発表を行える英語力の養成を目指す。

オーラルイングリッシュ 1・2（一年前期・後期科目）

英語母語話者の指導により、日常会話に必要な基礎的語彙を増やし、その用法に習熟させるとともに、ことばの機能（許可、依頼、招待、提案、予定、謝罪など）を学び、基礎的な会話能力の向上を図る。また英語文献の多読訓練 extensive reading を行い、内容について議論や意見発表を行いながら、大学生に必要な教養力の強化を、英語を英語による授業を通じて行う。

オーラルイングリッシュ 3・4（二年前期・後期科目）

英語母語話者の指導により、特定のトピックについて聞いたり、読んだりしたことを、口頭で伝達し、自分の意見や感想を加えて発表でき、特定の、与えられたトピックについてのディスカッションを行う能力や、さらに高い会話力を身につける。スピーチ、ディスカッションやディベートを行い、オーラルイングリッシュ 1・2 より高いプレゼンテーション能力を獲得し、英語のコミュニケーション能力の向上を図るべく、英語の授業を英語により行う。

英語科目

<発展科目：科目名・概要>

以下の発展科目は、第1回目の授業日から必ず出席し、担当教員の指示に従うこととする。

1クラスの受講者人数の基準を40名とし、受講希望者が40名を大きく超える場合は、教育効果を考慮し、担当教員または専任教員の指示により、何らかの方法で受講者数の調整を行う場合がある。

●TOEIC A・B

TOEIC 500点以上取得するための演習を行う。TOEICに必要な語彙を強化し、文法事項を再確認するとともに、応答問題や会話問題の聞き取り練習を重点的に行い、リスニング能力を養成する。問題演習だけでなく、問題を聴解し読解するための英語の文法や発音に関する基本事項を復習する。

*学内の団体受験 TOEIC テストを受けることを奨励し、学内団体受験テスト、個人受験テストの結果は、担当者の判断で、加点対象とする。

●TOEFL A・B

TOEFL ITP (団体受験テスト) で 460 点以上取得するための演習を行う。TOEFL に必要な語彙を強化し、文法事項を再確認するとともに、応答問題や会話問題の聞き取り練習を重点的に行い、リスニング能力を養成する。また TOEFL iBT (インターネットテスト) の出題についての基本知識を学ぶ。TOEFL の問題演習だけでなく、北米の大学教育の事情やキャンパスの基礎知識を学ぶ。問題を聴解し読解するための英語の文法や発音に関する基本事項を復習する。

*学内の団体受験 TOEFL ITP テストを受けることを奨励し、学内団体受験テスト、個人受験テストの結果は担当者の判断で、加点対象とする。

●ライティング A・B

日常生活で使う英語ライティングを基礎に、医薬系の研究や仕事をする上で必要な英文文書を作成する能力を養成することを目標とし、自分の伝えたいことを、簡潔で正確な英語で表現する訓練を行う。また英語文書の論理的構造を理解できることを目標とする。具体的には、主題文→トピックセンテンスと具体例→結論、という英文構造を理解し、接続詞を論理的につかった医薬系英文を書くための基礎訓練をする。

＜英語基幹科目：1年次、2年次到達目標＞

	クラス	Listening	Speaking	Reading	Writing	文法・語彙	TOEIC スコア
1 年 次		ネイティブの発音による医薬系英語の内容をほぼ理解できる。	音読上の規則を理解し、一定の速度で音読できる。客観的事実や、自分の考える論理的内容を簡潔な英語で話せる。	比較的平易な理系の内容の英文を1分で100語程度の速度で読め、その要点を的確に把握することができる。	客観的な事実や自分の意見、読んだ英文の要約を一つの段落にまとめることができる。	医薬系英文を読むのに必要な文法基本事項を理解している。3000語程度の基本語彙と必要な専門語彙を理解できる。	400 470
2 年 次		ネイティブ発音のやや長めの理系英文を聞き、要点を整理し理解できる。	特定の話題について、3分間以上のプレゼンテーション・ディスカッションができる。	医薬計専門分野の入門的な文章を分速150語以上で読むことができ、要点を把握することができる。	医薬系の特定の話題について、2つ以上の段落を用いて表現することができる。	医薬系のやや長めの英文を含めて、文法基本事項理解している。3500語程度の基本語彙と必要な専門語彙を理解できる。	450 520

発展科目：到達目標

● TOEIC A・B

TOEIC テストで 500 点以上の取得を目指す。TOEIC で出題される語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身につけるとともに、英語長文の速読能力を身につける。

● TOEFL A・B

- ・ TOEFL 550 点 (PBT) 以上を目指す。
- ・ コンピューターによるテスト形式に対応できる技能を身につける。
- ・ 日常生活における会話、また大学構内や教室内でかわされる会話内容が理解できる能力を身につける。
- ・ 主要文法項目を理解し、すばやく問題に対応できる能力を身につける。
- ・ 読解では、ジャンル別・科目別の特徴を理解し、速読・速解の能力を身につける。
- ・ 文法・読解問題で学んだ知識を、レポートなどアカデミックなライティングに応用できる能力を身につける。

● ライティング A・B

研究や仕事上で必要な文書を書くに際し、比較的平易な英文を用いて、複数のパラグラフの文章にまとめる能力を身につける。特に、基本的な単語、熟語、構文、接続表現などを使いこなし、意図したことを正確に伝達する英文を作る能力を身につける。医薬系の英文、発表の英作文の基礎を養う。

発展科目履修のガイドライン

*履修希望者は、下記の履修条件を満たしている者に限る。また科目ごとに示す TOEIC 等のスコア程度の学力が必要である。

科目名	履修条件	履修に必要な学力の目安
TOEICA・B	英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みの者。	TOEIC400 以上
TOEFLA・B	英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みの者。	TOEIC400 以上
ライティング A・B	英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みの者。	TOEIC400 以上

<TOEIC 等の得点による在学生の単位認定基準>

*平成23年度以降の入学生には

TOEIC等の得点による単位認定は行わない。

<海外英語研修による単位認定>

留学生センター主催の海外英語研修に参加し、所定の成績を得た者は、所定の手続きを経て以下の単位が認定単位として与えられる。

TOEIC、TOEFL、ライティングのいずれか履修していない英語発展科目の
A・B（計2単位）として認定する

統一英語試験(定期試験)について

- 1) 英語演習 1, 2, 3, 4の各学期末にそれぞれ統一英語試験を実施します。
- 2) 英語演習 2の成績によって、英語演習 3(2年時) のクラス編成をおこないます。
- 3) 統一英語試験は、成績評価 (100点満点) の内40%分となります。残りの60%は各担当教員が授業中での小テスト、課題発表等で配点され、合算した後、成績評価します。
- 4) 統一英語試験 (定期試験) は、必ず受験しなければなりません。

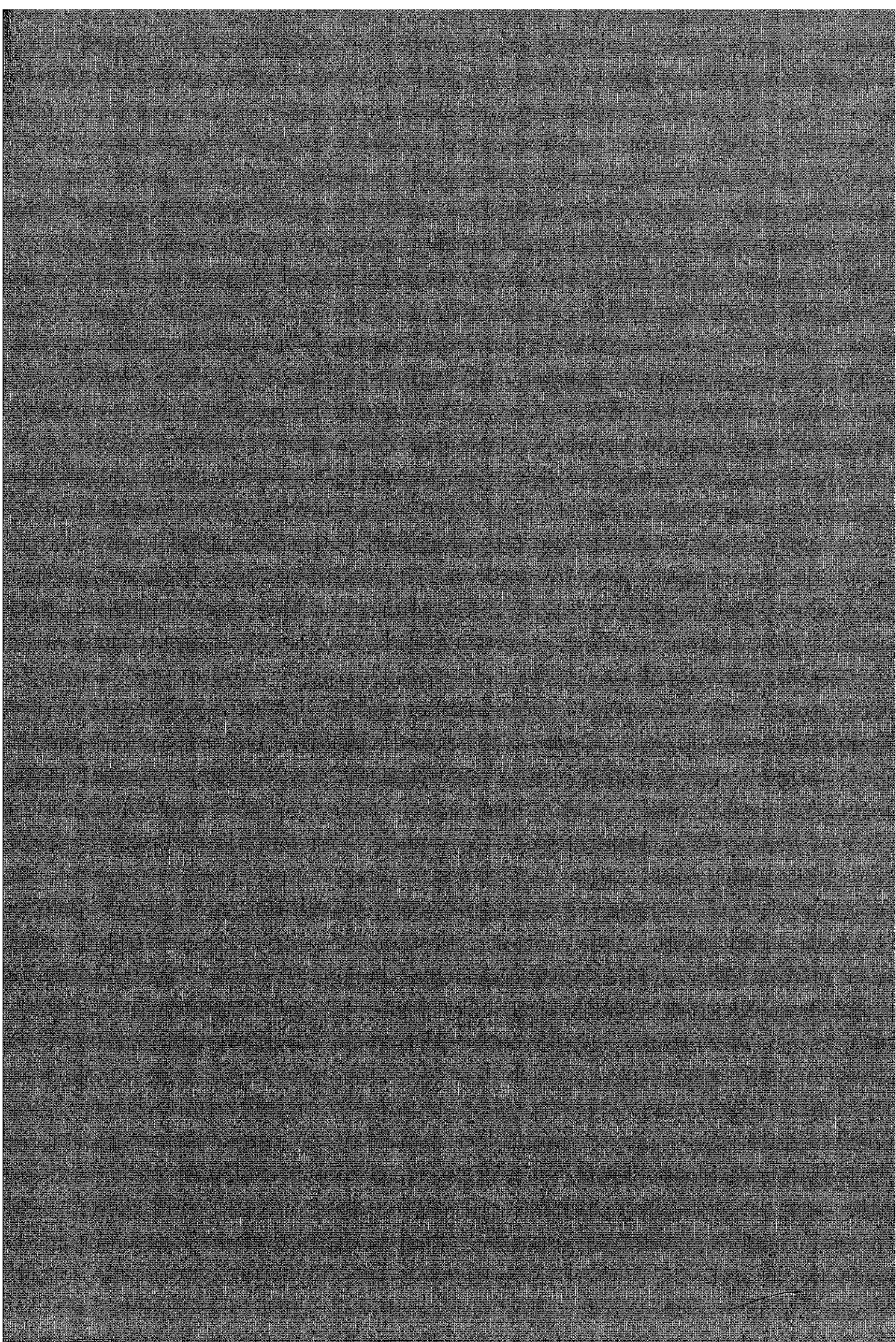
		前・後期統一試験	クラス編成対象科目
1 年	英語演習1	前期授業時間内に実施	クラス編成はおこなわない
	英語演習2	後期授業時間内に実施	英語演習3
2 年	英語演習3	前期授業時間内に実施	クラス編成はおこなわない
	英語演習4	後期授業時間内に実施	クラス編成はおこなわない

外国語科目

英語

医療薬学科 (平成 26 年度以前入学生)

創薬科学科 (平成 23 年度以前入学生)



英語履修案内

英語教育の共通基本目標

From

中学・高校を通じて6年間英語の語彙や文法を一通り学習し、英文もある程度は読めるけれど、聞いたり話したりは自信がない。卒業後、社会に出たときに役立つかどうか分からない。



To

- ③ 実社会、特に産業界で役に立つ英語コミュニケーション力が身につく。
- ④ 社会力（教養）の一部となる英語力が身につく。



“From⇔To”を実現する手段としての「近畿大学の英語教育」
— 専門教育と教養をリンクさせる実践的な英語教育 —

共通基本目標

1. 国際社会の共通言語としての英語をコミュニケーションの道具として使いこなすために、バランスのとれた4技能の能力を養成する。
2. 自分の意見を英語で書いたり、発表したり、人とディスカッションしたりする積極的な態度を養成する。
3. 自分の考えを持って課題に取り組み、英語で発表したり、異なる文化をもつ人々とインタラクションしたりできる能力を養成する。
4. 自己評価に基づいて目標を設定し、確実に目標を達成する自律力を養成する。

具体的方策

上記の目標を達成するために以下の具体的方策を実施する。

1. 基幹科目：プレイスメントテストによる比較的少人数（15人～30人）の均等レベルクラスの編成。協同学習により様々なレベルの学習者が協力する授業の展開。
2. 発展科目：学生のニーズに合わせた科目を開講。基幹科目で養った英語力をさらに深める。
3. 1年生全員にネイティブ教員によるオーラルコミュニケーションの授業の提供。間違いを恐れず、積極的に英語を話し、発表できる態度の養成。
4. コンテンツを重視した教材の使用。一般的な教養から専門の導入的話題について、学生同士が考え、話し合い、発表するやり甲斐のある活動を多く提供する。
5. フレームワーク（近畿大学英語能力指標〈5レベル〉）を共通基盤とし、学生の自己評価による目標レベルの設定。できれば2レベルアップを達成できるような教員による学生支援。
6. 授業外活動の充実による学生の自律性の養成。英語村（English café ‘e-cube’）や語学センターなどの利用促進。E-learning用ソフトや多読用図書整備と、学生の利用促進。

英語科目一覧

科目名	配当 学年	単位	開講	備 考	
英語演習 1	1	2	前	日本人教員担当科目	基 幹 科 目
英語演習 2	1	2	後		
英語演習 3	2	1	前	日本人教員担当科目	
英語演習 4	2	1	後		
オーラルイングリッシュ 1	1	1	前	ネイティブ教員担当科目	
オーラルイングリッシュ 2	1	1	後		
オーラルイングリッシュ 3	2	1	前	ネイティブ教員担当科目	
オーラルイングリッシュ 4	2	1	後		
TOEIC 1	2-4	1	前	日本人教員担当科目	発 展 科 目
TOEIC 2	2-4	1	後		
TOEIC 3	2-4	1	前	日本人教員担当科目	
TOEIC 4	2-4	1	後		
留学英語 A	2-4	1	前	日本人教員担当科目	
留学英語 B	2-4	1	後		
ライティング A	2-4	1	前	日本人教員担当科目	
ライティング B	2-4	1	後		
イングリッシュカルチャーセミナー A	3-4	1	前	日本人教員担当科目	
イングリッシュカルチャーセミナー B	3-4	1	後		
イングリッシュスペシャルスタディーズ A	3-4	1	前	ネイティブ または日本人教員担当科目	
イングリッシュスペシャルスタディーズ B	3-4	1	後		
アドバンスト TOEIC A	2-4	1	前	日本人教員担当科目	
アドバンスト TOEIC B	2-4	1	後		
TOEFL A	2-4	1	前	日本人教員担当科目	
TOEFL B	2-4	1	後		
インターネットイングリッシュ A	2-4	1	前	日本人 教員担当科目	
インターネットイングリッシュ B	2-4	1	後		
アドバンストオーラルイングリッシュ	3-4	1	前(2コマ) または 後(2コマ)	ネイティブ教員担当科目	

*2 単位は原則として同一教員週 2 回担当科目、1 単位は週 1 回の科目

英語科目

<基幹科目： 科目名・概要>

英語演習1・2（一年前期・後期科目）

理系・医薬系学生としての英語に必要な4技能（読む、書く、聞く、話す）の基礎力の育成を目標とする。基礎的な文法・語彙知識の習得を目指し、基本的なリスニング・速読能力の定着をはかる。比較的読み易い理系、医薬系の内容の文章を理解し、それを日本語や英語で要約できる力、さらに読み取った内容を論理的に整理し、他者に正確に伝えることができる理系・医薬系の英語基礎力を身につける。

英語演習3・4（二年前期・後期科目）

英語演習1・2で習得した語学力をさらに向上させ、情報収集と、確実な伝達の手段としての英語力をより一層確実なものとするを目標とする。専門的な英語（English for Specific Purposes、ESP）の入門的な文章なら、分速150語程度スピードで読み、その要点をまとめる能力を身につける。またさまざまな英語資料を集め、簡単な口頭発表の原稿が書けるようになり、発表を行える英語力の養成を目指す。

オーラルイングリッシュ1・2（一年前期・後期科目）

日常会話に必要な基礎的語彙を増やし、その用法に習熟させるとともに、病院・薬局などを含めさまざまな場面で、ことばの機能（許可、依頼、招待、提案、予定、謝罪など）を学び、基礎的な会話能力の向上を図る。また英字新聞記事などを読み、内容について議論や意見発表を行いながら、大学生に必要な教養力の強化を英語を通じて行う。

オーラルイングリッシュ3・4（二年前期・後期科目）

特定のトピックについて聞いたり、読んだりしたことを口頭で伝達し、自分の意見や感想をつけ加えて発表でき、またトピックについてのディスカッションを行うことによって、さらに高い会話力を身につける。また、スピーチ、ディスカッションやディベートを行い、プレゼンテーション能力の向上とともに、英語のコミュニケーション能力の向上を図る。

英語科目

<発展科目：科目名・概要>

以下の発展科目は、第1回目の授業日から必ず出席し、担当教員の指示に従うこととする。

また、15回の授業に出席し、必ず定期試験を受けることとする。

TOEIC 1・2

TOEIC 420 点以上を目安に、TOEIC 520 点以上取得するための演習を行う。TOEIC に必要な語彙を強化し、文法事項を再確認するとともに、応答問題や会話問題の聞き取り練習を重点的に行い、リスニング能力を養成する。

TOEIC 3・4

TOEIC 500 点以上取得している学生を対象に、TOEIC 600 点以上取得するための演習を行う。比較的長いナレーションを正確に聞き取るリスニング能力の養成を図る。

留学英語 A・B

留学を考慮・想定して、TOEFL 対策の演習を中心に、英語圏の大学、大学院生活に必要な英語力の養成を目指す。ナチュラルスピードで話される講義を聞き取り、レポートを英語で作成できることを目指す。

ライティング A・B

日常生活で使う文章を含め、理科系の研究や仕事をする上で必要な文書の英文を作成する能力を養成することを目標とし、自分の伝えたいことを正確な英語で表現する訓練を行う。また英語文書の論理的構造を理解できるようになる。主題文→トピックセンテンスと具体例→結論、という英文構造を理解し、接続詞を論理的につかった理科系英文を書くための基礎訓練をする。

イングリッシュカルチャーセミナー A・B

ゼミ形式で英語圏の文化に対する理解を深めながら英語を学ぶ。英語圏の国々の言語、文化、社会などの話題について読み、自分の意見をレポートにまとめ、発表し、ディスカッションすることにより、課題解決能力と高度な英語力を養成する。

イングリッシュスペシャルスタディーズ A・B

異文化にかかわる話題を聞き、読んで、ディスカッションやディベートに参加し、異文化間に潜む問題の要因や、異文化理解をさまたげるさまざまな要因について学ぶ。また、専門分野に関する記事を読んだり聞いたりして、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーションを行う。

アドバンスト TOEIC A・B

すでに TOEIC 550 点以上を取得している学生を対象に、TOEIC 700 点以上取得を目指して、リスニング・文法・読解能力の向上を図る。さらにビジネスシーンに必要な会話表現を習得し、自然な発音・イントネーション

ョンでコミュニケーションできるように訓練する。また TOEIC に頻出の主要文法項目、語彙・表現を用いて、Eメールやビジネスレター、注文書、広告、グラフなど読解に頻出のジャンルの特徴を学び、それらの書き方も学ぶ。

TOEFL A・B

外国の大学の学部・大学院への留学を希望し、TOEIC550 点以上または TOEFL487 点(PBT)を取得している学生を対象に、TOEFL 550 点(PBT)以上を目指して、リスニング・文法・読解能力の向上を図る。さらに外国での学生生活に必要な会話表現を学び、自然な発音・イントネーションでコミュニケーションできるように訓練する。TOEFL に頻出の重要文法項目を習得し、アカデミックライティングの訓練も行う。また説明文や講義に用いられる語彙・表現の特徴を習得し、速読・速解ができるように訓練する。

インターネットイングリッシュ A・B

TOEIC 550 点以上を取得していることを目安に、インターネットを活用するために必要とされる英語能力の向上を図る。情報収集や発信の方法を学び、速読・速解を行い、インターネットを活用した問題解決能力を育成する。英文のホームページの作成や調べたことのプレゼンテーションに取り組む場合もある。

アドバンストオーラルイングリッシュ (前期2コマまたは後期2コマ 週2回)

TOEIC 550 点以上を取得していることを目安に、高度で説得力のある英語を話せる能力の育成を目標とする。交渉・議論・プレゼンテーションなどをより効果的に行うための理論と方法を学び、視覚資料の作成法や提示法について実践的な訓練を行う。

＜英語基幹科目：1年次、2年次到達目標＞

	クラス	Listening	Speaking	Reading	Writing	文法・語彙	TOEIC スコア
1 年 次		ネイティブの発音による理科系英語の内容をほぼ理解できる。	音読上の規則を理解し、一定の速度で音読できる。客観的事実や、自分の考える論理的内容を簡潔な英語で話せる。	比較的平易な理系の内容の英文を1分で100語程度の速度で読め、その要点を的確に把握することができる。	客観的な事実や自分の意見、読んだ英文の要約を一つの段落にまとめることができる。	理系英文を読むのに必要な文法基本事項を理解している。3000語程度の基本語彙と必要な専門語彙を理解できる。	400 470
2 年 次		ネイティブ発音のやや長めの理系英文を聞き、要点を整理し理解できる。	特定の話題について、3分間以上のプレゼンテーション・ディスカッションができる。	専門分野の入門的な文章を分速150語以上で読むことができ、要点を把握することができる。	理系の特定の話題について、2つ以上の段落を用いて表現することができる。	理系のやや長めの英文を含めて、文法基本事項理解している。3500語程度の基本語彙と必要な専門語彙を理解できる。	450 520

発展科目：到達目標

- TOEIC 1・2

TOEIC テストで520点以上の取得を目指す。語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身につけるとともに、問題文の速読能力を身につける。

- TOEIC 3・4

TOEIC テストで600点以上の取得を目指す。TOEIC1・2で目標とした能力の一層の向上を図るとともに、ナレーションを正確に聞き取る能力、オフィスで使用される文書の速読能力を身につける。

- 留学英語 A・B

英語圏での日常生活や学生生活に必要な会話力を身につける。英語圏の大学で学ぶ際に必要となる知識を吸収し、TOFEL (PBT) 460点、TOEFL (CBT) 140点以上取得の英語力を身につける。

- ライティング A・B

研究や仕事上で必要な文書を書くに際し、比較的平易な英文を用いて複数のパラグラフの文章にまとめる能力を身につける。特に、基本的な単語、熟語、構文、接続表現などを使いこなし、意図したことを正確に伝達する英文を作る能力を身につける。理系英文、発表の英文の基礎を養う。

- イングリッシュカルチャーセミナー A・B

英語圏の文化に関する基礎的な情報を理解し、英語で書かれた新聞、雑誌、インターネット上の今日的話題について概要、要点を理解する能力を身につける。また、そうした情報を整理し、自分なりにまとめる能力や、自分の意見を発表したりする能力を身につける。

- イングリッシュスペシャルスタディーズ A・B

異文化の話題に関する話を聞いたり、読んだりして、ディスカッションやディベートに参加し、口頭発表能力を身につける。また、専門分野に関する記事を読んだり、聞いたりして、その内容についてディスカッションやディベートやプレゼンテーションを行う能力を身につける。

発展科目：到達目標

● アドバンスト TOEIC A・B

- ・ TOEIC 700 点以上を目指す。
- ・ リスニングでは、会話、説明文対策に力点をおいて学習し、内容理解のための語彙力を増強し、問題文の速読・本文の内容把握能力を身につける。
- ・ TOEIC 頻出の主要文法項目を理解し、短時間で穴埋め部分の品詞や、間違い部分を発見する能力を身につける。
- ・ 読解では、ジャンル別の文章の特徴を学び、文章中の必要な情報をすばやく把握する能力を身につける。

● TOEFL A・B

- ・ TOEFL 550 点 (PBT) 以上を目指す。
- ・ コンピューターによるテスト形式に対応できる技能を身につける。
- ・ 日常生活における会話、また大学構内や教室内でかわされる会話内容が理解できる能力を身につける。
- ・ 主要文法項目を理解し、すばやく問題に対応できる能力を身につける。
- ・ 読解では、ジャンル別・科目別の特徴を理解し、速読・速解の能力を身につける。
- ・ 文法・読解問題で学んだ知識をレポートなどアカデミックなライティングに応用できる能力を身につける

● インターネットイングリッシュ A・B

- ・ コンピューターを用いた情報収集の方法（検索機能の効果的な利用方法など）を習得する。
- ・ メール、申し込み、注文などの書き方を身につける。
- ・ 英文のホームページの作成方法を身につける。

● アドバンストオーラルイングリッシュ

- ・ 交渉、議論、さらにプレゼンテーションの効果的な進め方を身につける。
- ・ パワーポイントなどの視覚資料の作成ができるようにする。
- ・ 説得力のある話し方、身振り、自然な発音やイントネーションを身につける。

発展科目履修のガイドライン （平成19年度以前の入学生に適用）

*履修希望者は、下記の履修条件を満たしている者に限る。また各科目ごとに示すTOEIC等のスコア程度の学力が必要である。

科目名	履修条件	履修に必要な学力の目安
TOEIC 1・2	英語演習1・2＋オーラルイングリッシュ1・2を取得済みの者。	TOEIC420点 TOEFL443点(PBT)/ 127点(CBT)
TOEIC 3・4	TOEIC 1・2の単位を取得済みの者または、TOEIC 1・2の単位認定基準に必要なスコアを取得し、単位認定された者。	TOEIC 500点 TOEFL 470点(PBT)/ 150点(CBT)
イングリッシュ カルチャー セミナーA・B	英語演習1・2＋オーラルイングリッシュ1・2を取得済みで、英語演習3・4も取得済みの者。	TOEIC 470点 TOEFL 460点(PBT)/ 140点(CBT)
イングリッシュ スペシャル スタディーズA・B	英語演習1・2＋オーラルイングリッシュ1・2を取得済みで、オーラルイングリッシュ3・4も取得済みの者。	TOEIC 470点 TOEFL 460点(PBT)/ 140点(CBT)
留学英語A・B ライティングA・B	英語演習1・2＋オーラルイングリッシュ1・2を取得済みの者。	
アドバンストTOEIC A・B	履修条件 なし	TOEIC 550点 TOEFL 487点(PBT)/ 163点(CBT) 以上取得済み
TOEFLA・B	履修条件 なし	TOEIC 550点 TOEFL487点(PBT)/ 163点(CBT) 以上取得済み
インターネット イングリッシュA・B	履修条件 なし	TOEIC 550点 TOEFL487点(PBT)/ 163点(CBT) 以上取得済み
アドバンストオーラル イングリッシュ	履修条件 なし	TOEIC 550点 TOEFL487点(PBT)/ 163点(CBT) 以上取得済み

発展科目履修のガイドライン

〈平成20年度以降の入学生に適用〉

*履修希望者は、下記の履修条件を満たしている者に限る。また各科目ごとに示すTOEIC等のスコア程度の学力が必要である。

科目名	履修条件	履修に必要な学力の目安
TOEIC 1・2	英語演習1・2＋オーラルイングリッシュ1・2を取得済みの者。	TOEIC420点 TOEFL443点(PBT)/ 43点(iBT)
TOEIC 3・4	TOEIC 1・2の単位を取得済みの者または、TOEIC 1・2の単位認定基準に必要なスコアを取得し、単位認定された者。	TOEIC 500点 TOEFL 470点(PBT)/ 52点(iBT)
イングリッシュ カルチャー セミナーA・B	英語演習1・2＋オーラルイングリッシュ1・2を取得済みで、英語演習3・4も取得済みの者。	TOEIC 470点 TOEFL 460点(PBT)/ 48点(iBT)
イングリッシュ スペシャル スタディーズA・B	英語演習1・2＋オーラルイングリッシュ1・2を取得済みで、オーラルイングリッシュ3・4も取得済みの者。	TOEIC 470点 TOEFL 460点(PBT)/ 48点(iBT)
留学英語A・B ライティングA・B	英語演習1・2＋オーラルイングリッシュ1・2を取得済みの者。	
アドバンストTOEIC A・B	TOEIC 550点以上取得済みの者。	TOEIC 550点 TOEFL 488点(PBT)/ 57点(iBT) 以上取得済み
TOEFLA・B	TOEIC 550点以上取得済みの者。	TOEIC 550点 TOEFL 488点(PBT)/ 57点(iBT) 以上取得済み
インターネット イングリッシュA・B	英語演習1・2＋オーラルイングリッシュ1・2を取得済みの者。	TOEIC 550点 TOEFL 488点(PBT)/ 57点(iBT) 以上取得済み
アドバンストオーラル イングリッシュ	英語演習1・2＋オーラルイングリッシュ1・2を取得済みの者。	TOEIC 550点 TOEFL 488点(PBT)/ 57点(iBT) 以上取得済み

＜TOEIC 等の得点による在学生の単位認定基準＞

〈平成19年度以前の入学生に適用〉

TOEIC 等の得点

TOEIC 得点	TOEFL CBT 得点 (かっこ内は PBT)	単位認定される科目	備考
500-595	150 (470) -179 (508)	英語演習 3・4 TOEIC 1・2	計4単位
600 以上	180 (510) 以上	英語演習 3・4 TOEIC 1・2 TOEIC 3・4	計6単位 *英語検定準一級以上合格者も同じ扱いとする。

*1 単位の認定を受けるためには所定の申請期間内にスコア原本・学生証を持参のうえ薬学部事務部に申請しなくてはならない。申請期間は、掲示で通知します。(取得後、一年以内のスコアに限る)

*2 同一科目の重複認定は行わない。

*3 入学時一年以内に取得したスコアについても準用する。

＜海外英語研修による単位認定＞

留学生センター主催の海外英語研修に参加し、所定の成績を得た者は、所定の手続きを経て以下の単位が認定単位として与えられる。

留学英語 A・B (計2単位)

＜TOEIC 等の得点による在学生の単位認定基準＞

〈平成20年～22年度の入学生に適用〉

TOEIC 等の得点

TOEIC 得点	TOEFL iBT 得点 (かっこ内は PBT)	単位認定される科目	備考
550-645	57 (488) -68 (520)	TOEIC 3・4	計2単位
650 以上	69 (523) 以上	TOEIC 3・4 アドバンスト TOEIC 1・2	計4単位 *英語検定準一級以上合格者も同じ扱いとする。

- *1 単位の認定を受けるためには所定の申請期間内にスコア原本・学生証を持参のうえ薬学部事務部に申請しなくてはならない。申請期間は、掲示で通知します。(取得後、一年以内のスコアに限る)
- *2 同一科目の重複認定は行わない。
- *3 入学時一年以内に取得したスコアについても準用する。

***平成23年度以降の入学生には**

TOEIC等の得点による単位認定は行わない。

＜海外英語研修による単位認定＞

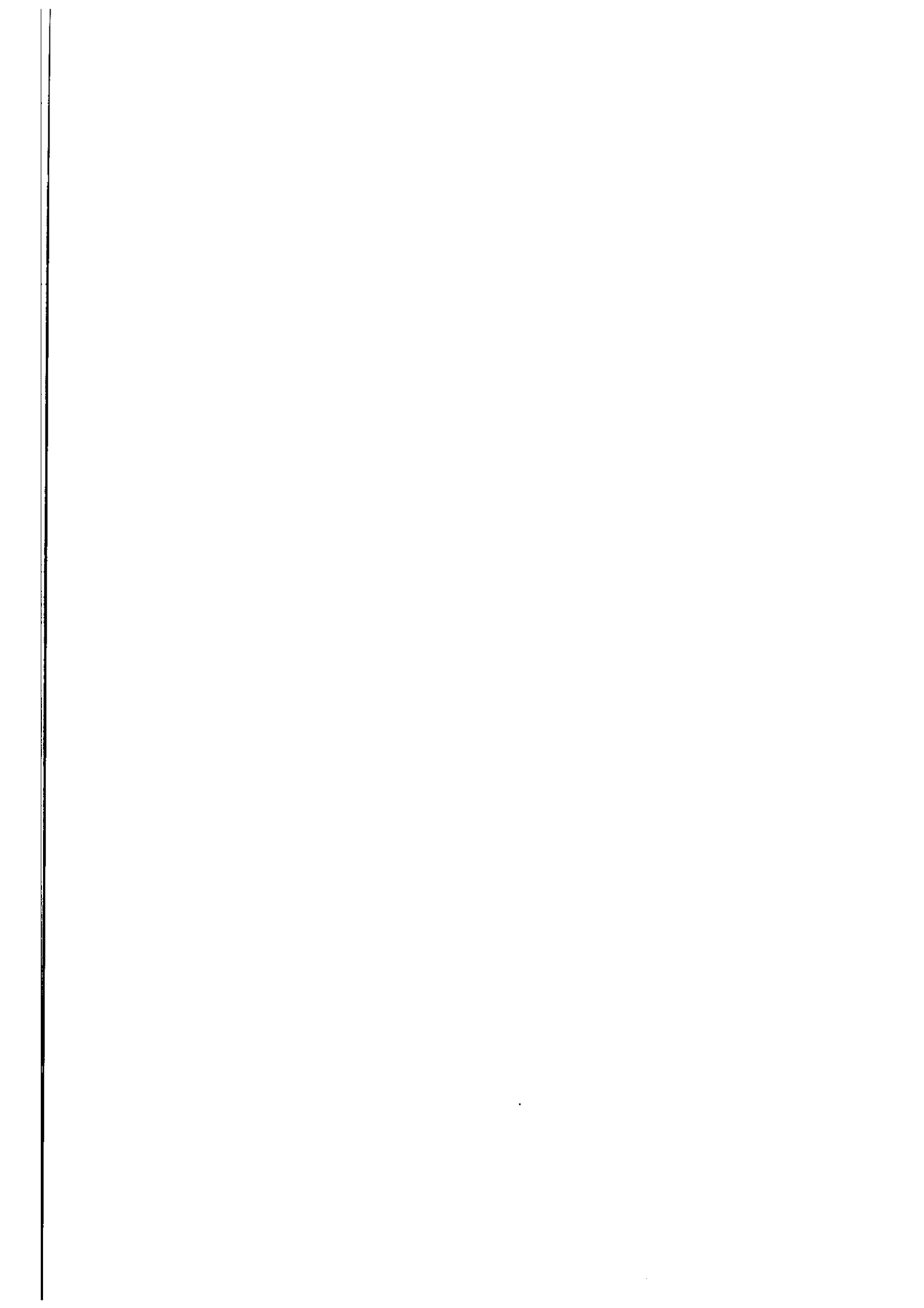
留学生センター主催の海外英語研修に参加し、所定の成績を得た者は、所定の手続きを経て以下の単位が認定単位として与えられる。

留学英語 A・B (計2単位)

統一英語試験(定期試験)について

- 1) 英語演習 1, 2, 3, 4 の各学期末にそれぞれ統一英語試験を実施します。
- 2) 英語演習 2 の成績によって、英語演習 3 (2 年時) のクラス編成をおこないます。
- 3) 統一英語試験は、成績評価 (100 点満点) の内 40% 分となります。残りの 60% は各担当教員が授業中での小テスト、課題発表等で配点され、合算した後、成績評価します。
- 4) 統一英語試験 (定期試験) は、必ず受験しなければなりません。

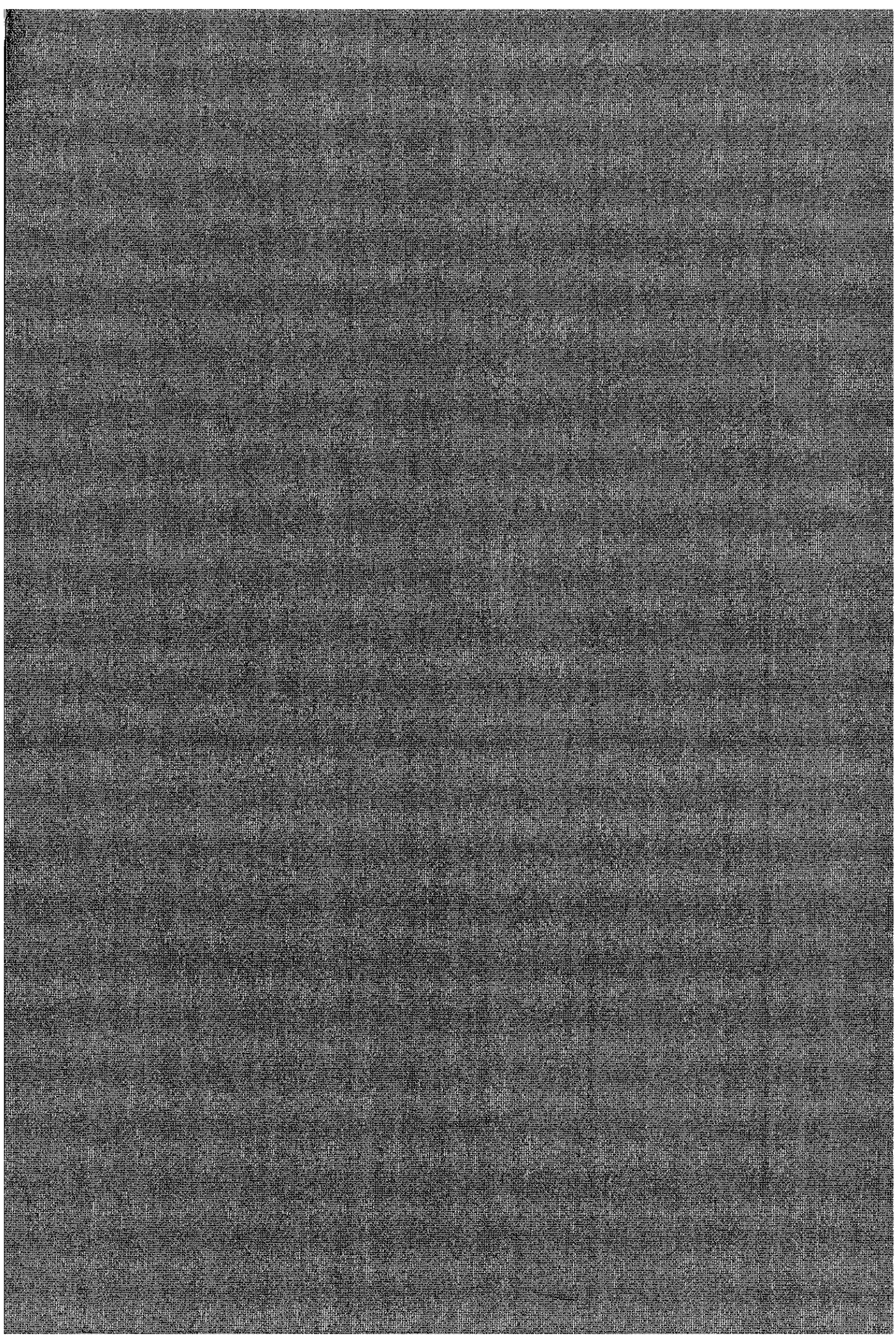
		前・後期統一試験	クラス編成対象科目
1 年	英語演習1	前期定期試験期間中に実施	クラス編成はおこなわない
	英語演習2	後期定期試験期間中に実施	英語演習3
2 年	英語演習3	前期定期試験期間中に実施	クラス編成はおこなわない
	英語演習4	後期定期試験期間中に実施	クラス編成はおこなわない



外国語科目

英語

創薬科学科 (平成 24 ~ 26 年度入学生)



英語履修案内

英語教育の共通基本目標

From

中学・高校を通じて6年間英語の語彙や文法を一通り学習し、英文もある程度は読めるけれど、聞いたり話したりは自信がない。卒業後、社会に出たときに役立つかどうか分からない。



To

- ⑤ 実社会、特に産業界で役に立つ英語コミュニケーション力が身につく。
- ⑥ 社会力（教養）の一部となる英語力が身につく。



“From⇔To”を実現する手段としての「近畿大学の英語教育」

— 専門教育と教養をリンクさせる実践的な英語教育 —

共通基本目標

1. 国際社会の共通言語としての英語をコミュニケーションの道具として使いこなすために、バランスのとれた4技能の能力を養成する。
2. 自分の意見を英語で書いたり、発表したり、人とディスカッションしたりする積極的な態度を養成する。
3. 自分の考えを持って課題に取り組み、英語で発表したり、異なる文化をもつ人々とインタラクションしたりできる能力を養成する。
4. 自己評価に基づいて目標を設定し、確実に目標を達成する自律力を養成する。

具体的方策

上記の目標を達成するために以下の具体的方策を実施する。

1. 基幹科目：プレイスメントテストによる比較的少人数（15人～30人）の均等レベルクラスの編成。協同学習により様々なレベルの学習者が協力する授業の展開。
2. 発展科目：学生のニーズに合わせた科目を開講。基幹科目で養った英語力をさらに深める。
3. 1年生全員にネイティブ教員によるオーラルコミュニケーションの授業の提供。間違いを恐れず、積極的に英語を話し、発表できる態度の養成。
4. コンテンツを重視した教材の使用。一般的な教養から専門の導入的課題について、学生同士が考え、話し合い、発表するやり甲斐のある活動を多く提供する。
5. フレームワーク（近畿大学英語能力指標〈5レベル〉）を共通基盤とし、学生の自己評価による目標レベルの設定。少なくとも2レベルアップを達成できるような教員による学生支援。
6. 授業外活動の充実による学生の自律性の養成。英語村（English café ‘e-cube’）や語学センターなどの利用促進。E-learning用ソフトや多読用図書を整備と、学生の利用促進。

英語科目一覧

科目名	配当 学年	単位	開講	備考	
英語演習 1	1	2	前	日本人教員担当科目	基 幹 科 目
英語演習 2	1	2	後		
英語演習 3	2	2	前	日本人教員担当科目	
英語演習 4	2	2	後		
オーラルイングリッシュ 1	1	1	前	ネイティブ教員担当科目	
オーラルイングリッシュ 2	1	1	後		
オーラルイングリッシュ 3	2	1	前	ネイティブ教員担当科目	
オーラルイングリッシュ 4	2	1	後		
TOEIC A	2-4	1	前	日本人教員担当科目	発 展 科 目
TOEIC B	2-4	1	後		
ライティング A	2-4	1	前	日本人教員担当科目	
ライティング B	2-4	1	後		

*英語演習 1, 2, 3, 4 の 2 単位科目は、原則として同一教員週 2 回担当科目、
その他の 1 単位科目は週 1 回の科目です。

英語科目

＜基幹科目： 科目名・概要＞

英語演習 1・2（一年前期・後期科目）

理系・医薬系学生としての英語に必要な4技能（読む、書く、聞く、話す）の基礎力の育成を目標とする。基礎的な文法・語彙知識の習得を目指し、基本的なリスニング・速読能力の定着をはかる。比較的読み易い理系、医薬系の内容の文章を理解し、それを日本語や英語で要約できる力、さらに読み取った内容を論理的に整理し、他者に正確に伝えることができる理系・医薬系の英語基礎力を身につける。

英語演習 3・4（二年前期・後期科目）

英語演習 1・2 で習得した語学力をさらに向上させ、情報収集と、確実な伝達の手段としての英語力をより一層確実なものとするを目標とする。専門的な英語（English for Specific Purposes、ESP）の入門的な文章なら、分速 150 語程度スピードで読み、その要点をまとめる能力を身につける。またさまざまな英語資料を集め、簡単な口頭発表の原稿が書けるようになり、発表を行える英語力の養成を目指す。

オーラルイングリッシュ 1・2（一年前期・後期科目）

日常会話に必要な基礎的語彙を増やし、その用法に習熟させるとともに、病院・薬局などを含めさまざまな場面で、ことばの機能（許可、依頼、招待、提案、予定、謝罪など）を学び、基礎的な会話能力の向上を図る。また英字新聞記事を読み、内容について議論や意見発表を行いながら、大学生に必要な教養力の強化を英語を通じて行う。

オーラルイングリッシュ 3・4（二年前期・後期科目）

特定のトピックについて聞いたり、読んだりしたことを口頭で伝達し、自分の意見や感想をつけ加えて発表でき、またトピックについてのディスカッションを行うことによって、さらに高い会話力を身につける。また、スピーチ、ディスカッションやディベートを行い、プレゼンテーション能力の向上とともに、英語のコミュニケーション能力の向上を図る。

英語科目

<発展科目：科目名・概要>

以下の発展科目は、第1回目の授業日から必ず出席し、担当教員の指示に従うこととする。

また、15回の授業に出席し、必ず定期試験を受けることとする。

TOEIC A・B

TOEIC 420点以上を目安に、TOEIC 520点以上取得するための演習を行う。TOEICに必要な語彙を強化し、文法事項を再確認するとともに、応答問題や会話問題の聞き取り練習を重点的に行い、リスニング能力を養成する。

ライティング A・B

日常生活で使う簡単な文章を含め、理科系の研究や仕事をする上で必要な文書までの英文を作成する能力を養成することを目標とし、自分の伝えたいことを正確な英語で表現する訓練を行う。また英語文書の論理的構造を理解できるようになる。主題文→トピックセンテンスと具体例→結論を明示、という英文構造を理解し、接続詞を論理的につかった理科系英文を書くための基礎訓練をする。

＜英語基幹科目：1年次、2年次到達目標＞

	クラス	Listening	Speaking	Reading	Writing	文法・語彙	TOEIC スコア
1 年 次		ネイティブの発音による理科系英語の内容をほぼ理解できる。	音読上の規則を理解し、一定の速度で音読できる。客観的事実や、自分の考える論理的内容を簡潔な英語で話せる。	比較的平易な理系の内容の英文を1分で100語程度の速度で読め、その要点を的確に把握することができる。	客観的な事実や自分の意見、読んだ英文の要約を一つの段落にまとめることができる。	理系英文を読むのに必要な文法基本事項を理解している。3000語程度の基本語彙と必要な専門語彙を理解できる。	400 470
2 年 次		ネイティブ発音のやや長めの理系英文を聞き、要点を整理し理解できる。	特定の話題について、3分間以上のプレゼンテーション・ディスカッションができる。	専門分野の入門的な文章を分速150語以上で読むことができ、要点を把握することができる。	理系の特定の話題について、2つ以上の段落を用いて表現することができる。	理系のやや長めの英文を含めて、文法基本事項理解している。3500語程度の基本語彙と必要な専門語彙を理解できる。	450 520

発展科目：到達目標

- TOEIC A・B

TOEIC テストで520点以上の取得を目指す。語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身につけるとともに、問題文の速読能力を身につける。

- ライティング A・B

研究や仕事上で必要な文書を書くに際し、比較的平易な英文を用いて複数のパラグラフの文章にまとめる能力を身につける。特に、基本的な単語、熟語、構文、接続表現などを使いこなし、意図したことを正確に伝達する英文を作る能力を身につける。理系英文、発表の英文の基礎を養う。

発展科目履修のガイドライン

〈平成24年度以降の創薬科学科入学生に適用〉

*履修希望者は、下記の履修条件を満たしている者に限る。また各科目ごとに示す TOEIC 等のスコア程度の学力が必要である。

科目名	履修条件	履修に必要な学力の目安
TOEIC A・B	英語演習1・2 + オーラルイングリッシュ1・2 を取得済みの者。	TOEIC420 点 TOEFL443 点(PBT)/ 43 点(iBT)
ライティング A・B	英語演習1・2 + オーラルイングリッシュ1・2 を取得済みの者。	TOEIC420 点 TOEFL443 (PBT)/ 43 点(iBT)

＜TOEIC 等の得点による在学生の単位認定は行わない＞

＜海外英語研修による単位認定＞

国際交流センター主催の海外英語研修に参加し、所定の成績を得た者は、所定の手続きを経て以下の単位が認定単位として与えられる。

TOEIC A・B または ライティング A・B

のいずれか、未修得の発展科目の単位として認定する。

(計 2 単位)

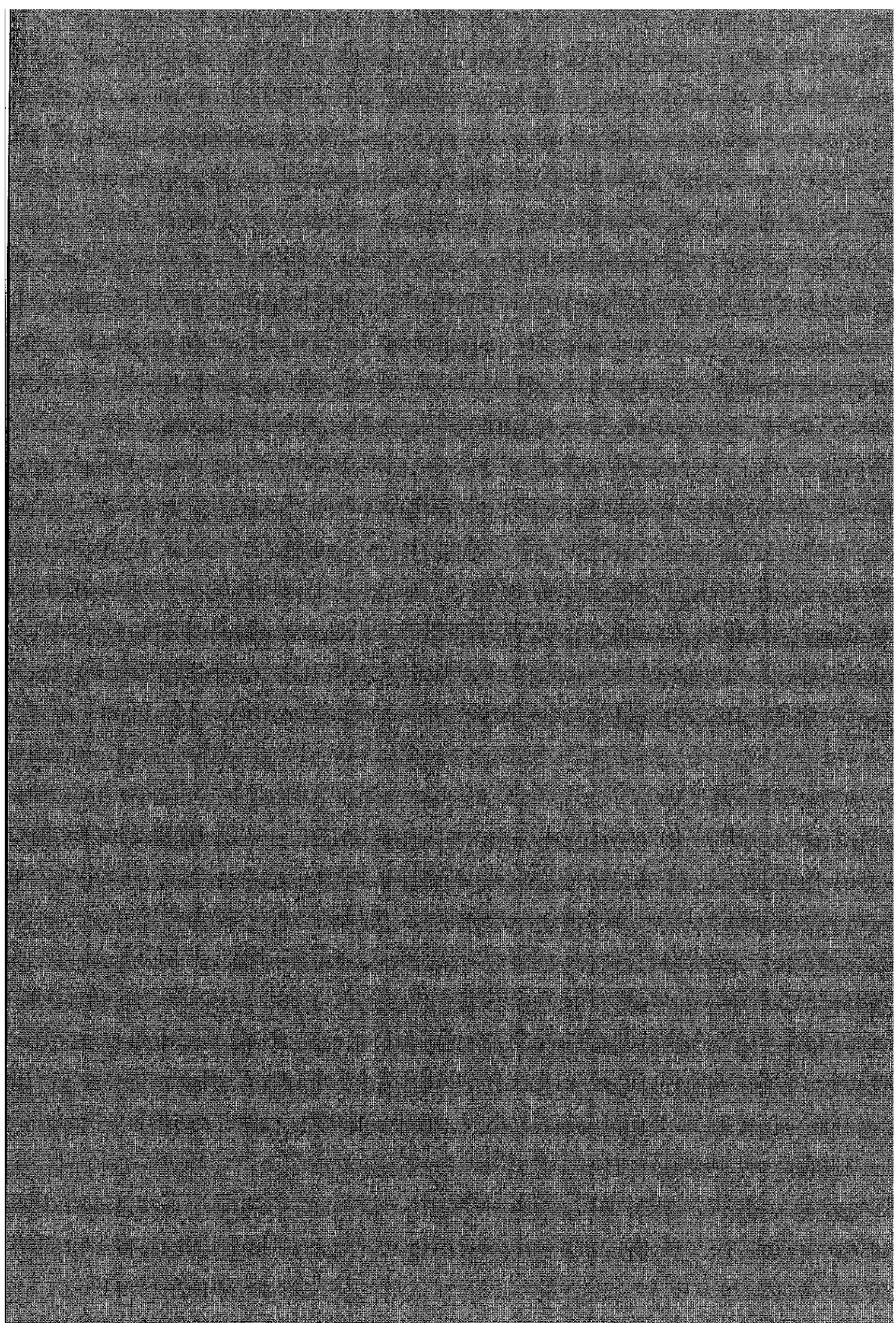
統一英語試験(定期試験)について

- 1) 英語演習 1, 2, 3, 4 の各学期末にそれぞれ統一英語試験を実施します。
- 2) 英語演習 2 の成績によって、英語演習 3 (2 年時) のクラス編成をおこないます。
- 3) 統一英語試験は、成績評価 (100 点満点) の内 40% 分となります。残りの 60% は各担当教員が授業中での小テスト、課題発表等で配点され、合算した後、成績評価します。
- 4) 統一英語試験 (定期試験) は必ず受験しなければなりません。

		前・後期統一試験	クラス編成対象科目
1 年	英語演習 1	前期授業時間内に実施	クラス編成はおこなわない
	英語演習 2	後期授業時間内に実施	英語演習 3
2 年	英語演習 3	前期授業時間内に実施	クラス編成はおこなわない
	英語演習 4	後期授業時間内に実施	クラス編成はおこなわない

外国語科目

英語



科目名：英語演習1			
英文名：English 1			
担当者： <small>シモムラ トモノリ</small> 下村 智典・ <small>クボ キミヒト</small> 久保 公人・ <small>コイタ ヒロミ</small> 小坂 裕美・ <small>タナカ ヒロアキ</small> 田中 博晃・ <small>ヒラカワ キミコ</small> 平川 公子・ <small>ヒロシゲ ナオミ</small> 廣重 尚実・ <small>マサゴ カオル</small> 眞砂 薫			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

英語の基本4技能（読む、聞く、書く、話す）を、科学・医療に関連した話題の英文を教材として学ぶ。また、大学生に必要な語彙力を習得するための例文集を使い、語彙力の定着を行う。授業は演習形式で、必要に応じてSmall Group Discussion, Team Based Learningやペア・ワークを取り入れた授業を行う。

■学習・教育目標および到達目標

医療系学生が必要とする英語の4技能（読む、書く、聞く、話す）に必要な、文法を理解しており、3000語レベルの語彙力を持ち、科学的な内容の英文を1分100語程度のスピードで読み、同程度のスピードのリスニングができ、内容を理解し、理解した内容を整理し、英語または日本語で伝達する力を持つ。

■授業時間外に必要な学修

教科書の単語、熟語を調べ、練習問題はすべて、事前に解答しておく。

■教科書

[ISBN]9784523176466 『医療系学生のための総合英語』高津昌宏 他、南雲堂

[ISBN]9784764739635 『LINKS1500:大学生のためのトピック別必修英単語』望月正道 他、金星堂

■参考文献

[ISBN]9784523251521 『英文法ビフォー & アフター 普及版』(豊永彰, 南雲堂)

■関連科目

英語演習2, 3, 4.

■成績評価方法および基準

授業中の演習実績（小テスト・レポート・プレゼンテーション）60%

定期試験 英語運用能力テストVELCを使用 40%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規定に準拠して行う。

■研究室・E-mailアドレス

39号館4階 s402眞砂研究室 masagok@kindai.ac.jp

■オフィスアワー

水曜日2時間目 および月、水、木、土の12:10～13:10

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Introduction 教材Unit1 および授業概要説明

Unit1 The Human Body-1

Links1500の演習について（次回から小テスト）

第2回 Unit1 The Human Body-2

Links 1500

Unit1 後半 問題演習

Links1500 (0001-0050)小テスト

第3回 Unit 2 Nutrition and Fitness-1

Links1500

Unit2 前半演習

Links1500 (0051-0100)小テスト1回目

第4回 Unit2 Nutrition and Fitness-2

Links1500

Unit2 後半演習

Links1500 (0051-0100)小テスト2回目

第5回 Unit3 Communicable Disease-1

Links1500

Unit3 前半演習

Links1500 (0101-0150)小テスト1回目

第6回 Unit3 Communicable Disease-2

Links1500

Unit3 後半演習

Links1500 (0101-0150)小テスト2回目

第7回 Unit4 Hygiene and Public Health-1

Links1500

Unit4 前半演習

Links1500(0151-0200)小テスト1回目

第8回 Unit4 Hygiene and Public Health-2

Links1500

Unit4 後半演習

Links1500(0151-0200)小テスト2回目

第9回 Unit5 Reforming Japanese Healthcare-1

Links1500

Unit5 前半演習

Links1500 (0201-0250)小テスト1回目

第10回 Unit5 Reforming Japanese Healthcare-2

Links1500

Unit5 後半演習

Links1500(0201-0250)小テスト2回目

第11回 Unit6 Needlesick Injuries in Medicine-1

Links1500

Unit6 前半演習

Links1500 (0251-0300)小テスト1回目

第12回 Unit6 Needlesick Injuries in Medicine-2

Links1500

Unit6 後半演習
Links1500(0251-0300)小テスト2回目

第13回 Unit7 Dr. Kitasato and the Development of Medicine in Japan-1

Links1500

Unit 7 前半演習
Links1500 (0301-350)小テスト1回目

第14回 Unit7 Dr. kitasato and the Development of Medicine in Japan-2

Links1500

Unit 7後半演習
Links1500 (0301-350)小テスト2回目

第15回 Unit8 The Medical Laboratory Technologist-1

Links1500

Unit8 前半演習
Links1500 (0351-400) 小テスト1回目

第16回 Unit8 The Medical Laboratoru Technologist-2

Links1500

Unit8 後半演習
Links1500 (0351-400)小テスト2回目

第17回 Unit9 Clinical Engineering-1

Links1500

Unit9 前半演習
Links1500(0401-450)小テスト1回目

第18回 Unit9 Clinical Engineering-2

Links1500

Unit9 後半演習
Links1500(0401-450)小テスト2回目

第19回 Unit10 Radiological Technology-1

Links1500

Unit10 前半演習
Links1500 (0451-500)小テスト1回目

第20回 Unit10 Radiological Technology-2

Links1500

Unit10 後半演習
Links1500 (0451-500)小テスト2回目

第21回 Unit11 Physical Therapy-1

Links1500

Unit11 前半演習

Links1500 (0501-550)小テスト1回目

第22回 Unit11 Physical Therapy-2

Links1500

Unit11 後半演習

Links1500 (0501-550)小テスト2回目

第23回 Unit12 Working in Occupational Therapy-1

Links1500

Unit12 前半演習

Links1500 (0551-600)小テスト1回目

第24回 Unit12 Workingb in Occupational Therapy-2

Links1500

Unit12 後半演習

Links1500 (0551-600)小テスト2回目

第25回 Unit13 Speech-Language Therapy as a Vocation-1

Links1500

Unit13前半演習

Links1500 (0601-650)小テスト1回目

第26回 Unit13 Speech-Language Therapy as a Vocation-2

Links1500

Unit13 後半演習

Links1500 (0601-650)小テスト2回目

第27回 Unit14 Orthoptics and Visual Science-1

Links1500

Unit14 前半演習

Links1500 (0651-700)小テスト1回目

第28回 Unit14 Orthoptics aand Visual Science-2

Links1500

Unit14 後半演習

Links1500 (0651-700)小テスト2回目

第29回 Unit15 Why Is Team Medical Treatment Necessary?-1

Links1500

Unit15 前半演習

Links1500 (0701-750)小テスト1回目

第30回 Unit15 Why Is Team Medical Treatment Necessary?-2

Links1500

Unit15 後半演習

Links1500 (0701-750)小テスト2回目

定期試験 (VELC テスト)

定期試験としてVELCテスト (リスニングを含む:70分) を行う。

科目名：英語演習1（再）			
英文名：English Language Seminar 1			
担当者： ^{マサゴ カオル} 眞砂 薫			
単 位：	開講年次：	開講期：	必修選択の別：

■授業概要・方法等

医療薬学科、創薬科学科の1年次で英語演習1の単位を取得できなかった人のための科目です。創薬科学科では必修科目です。医療薬学科、創薬科学科ともに英語の基幹科目です。この科目を履修し単位を取得しなければ、2年での発展選択英語科目を履修することができません。薬学部1年の基幹科目である英語演習1と同じレベルの教材を使用し、演習形式で英語の基本4技能の養成をはかり1年で必要な英語力の定着を目指します。

■学習・教育目標および到達目標

受講者はこの科目を受講することによって、科学、医薬に関連した英文を確実に読解でき、同じ英文を聞いて内容を理解でき、理解した内容を簡潔な日本語あるいは英語で要約し、他者に伝えることができるようになります。上記の英語を1分間100語程度のスピードで読み、聞き取ることができます。

■授業時間外に必要な学修

基本的に前回の授業時に配布される教材で、本文英文を日本語訳し、語彙を調べ、練習問題の解答を事前に用意する。授業時に辞書なしでほぼ本文英文の意味が理解でき、練習問題の解答が迅速にできるように準備しておく。

■教科書

教材プリントを配布する。原則として授業の1回前の授業で教材プリントを配布し、準備学習ができるようにする。

■参考文献

授業中に適宜指示、紹介する。

■関連科目

英語演習2の単位が未修得であれば、英語演習2再。英語演習3、英語演習4。

■成績評価方法および基準

定期試験VELCテスト 40%
授業演習の積算総合計点 60%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

39号館4階「眞砂」研究室。maasagok@kindai.ac.jp

■オフィスアワー

水曜日2時間目。月、水、木、土曜日の12:10～13:10。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Part1: General Background Informationのうち

(1) 人間の体-1

- ①Reading Comprehension
- ②Vocabulary

第2回 (1) 人間の体-2

- ③Topic Dialogue
 - ④Translation
 - ⑤Information
- その他追加演習

第3回 (2) 高カロリーと健康-1

上記演習①②

第4回 (2) 高カロリーと健康－2

上記演習③④⑤、追加演習

第5回 (3) 伝染病－1

上記演習①②

第6回 (3) 伝染病－2

上記演習③④⑤、追加演習

第7回 (4) 個人と公衆の衛生管理－1

上記演習①②

第8回 (4) 個人と公衆の衛生管理－2

上記演習③④⑤、追加演習

第9回 (5) 日本の医療の改善策－1

上記演習①②

第10回 (5) 日本の医療の改善策－2

上記演習③④⑤、追加演習

第11回 (6) 医療における「針刺し損傷」－1

上記演習①②

第12回 (6) 医療における「針刺し損傷」－2

上記演習③④⑤、追加演習

第13回 (7) 北里柴三郎と日本の医療－1

上記演習①②

第14回 (7) 北里柴三郎と日本の医療－1

上記演習①②

第15回 Part 2: Specific Medical Technologies

(8) 臨床検査技師の仕事－1

上記演習①②

第16回 (8) 臨床検査技師の仕事－2

上記演習③④⑤

第17回 (9) 臨床工学技士の仕事－1

上記演習①②

第18回 (9) 臨床工学技士の仕事－2

上記演習③④⑤、追加演習

第19回 (10) 診療放射線技術－1

上記演習①②

第20回 (10) 診療放射線技術－2

上記演習③④⑤、追加演習

第21回 (1 1) 理学療法士とその仕事-1

上記演習①②

第22回 (1 1) 理学療法士とその仕事-2

上記演習③④⑤、追加演習

第23回 (1 2) 作業療法士の仕事とは-1

上記演習①②

第24回 (1 2) 作業療法士の仕事とは-2

上記演習③④⑤、追加演習

第25回 (1 3) 言語聴覚士とその仕事-1

上記演習①②

第26回 (1 3) 言語聴覚士とその仕事-2

上記演習③④⑤、追加演習

第27回 (1 4) 視覚機能療法-1

上記演習①②

第28回 (1 4) 視覚機能療法-2

上記演習③④⑤、追加演習

第29回 (1 5) チーム医療の必要性-1

上記演習①②

第30回 (1 5) チーム医療の必要性-2

上記演習③④⑤、追加演習

定期試験としてVELCテストを行う。

VELCテストはリスニングを含む70分の英語運用能力テストである。

科目名：英語演習2			
英文名：English 2			
担当者： <small>シモムラ トモノリ</small> 下村 智典・ <small>クボ キミヒト</small> 久保 公人・ <small>コイタ ヒロミ</small> 小坂 裕美・ <small>タナカ ヒロアキ</small> 田中 博晃・ <small>ヒラカワ キミコ</small> 平川 公子・ <small>ヒロシゲ ナオミ</small> 廣重 尚実・ <small>マサゴ カオル</small> 眞砂 薫			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

英語の基本4技能（読む、聞く、書く、話す）を、科学・医療に関連した話題の英文を教材として学ぶ。また、大学生に必要な語彙力を習得するための例文集を使い、語彙力の定着を行う。授業は演習形式で、必要に応じてSmall Group Discussion, Team Based Learningやペア・ワークを取り入れた授業を行う。

■学習・教育目標および到達目標

医薬系学生が必要とする英語の4技能（読む、書く、聞く、話す）に必要な、文法を理解しており、3000語レベルの語彙力を持ち、科学的な内容の英文を1分100語程度のスピードで読み、同程度のスピードのリスニングができ、内容を理解し、理解した内容を整理し、英語または日本語で伝達する力を持つ。

■授業時間外に必要な学修

教科書の単語、熟語を調べ、練習問題はすべて、事前に解答しておく。

■教科書

[ISBN]9784523176466 『医療コラム『バイタル・サイエンス』で学ぶ医学用語演習』大下晴美 他、南雲堂
 [ISBN]9784764739635 『LINKS1500:大学生のためのトピック別必修英単語』望月正道 他、金星堂

■参考文献

[ISBN]9784523251521 『英文法ビフォー & アフター 普及版』(豊永彰, 南雲堂)

■関連科目

英語演習1, 3, 4.

■成績評価方法および基準

授業中の演習実績（小テスト・レポート・プレゼンテーション）60%
 定期試験 英語運用能力テストVELCを使用 40%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規定に準拠して行う。

■研究室・E-mailアドレス

各クラス担当教員から指示します。

■オフィスアワー

各クラス担当教員から指示します。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

各クラス担当教員の指示により、共通シラバスの内容については調整、変更することがある。

第1回 1 And Down She Goes(1)-1

Links1500

1 -(1)前半演習

Links1500(751-800)小テスト1回目

第2回 1-(1)-2

Links 1500

1 -(1)後半 問題演習

Links1500 (751-800)小テスト2回目

第3回 2 And Down She Goes(2)-1

Links1500

2 前半演習

Links1500 (801-850)小テスト1回目

第4回 2-2

Links1500

2 後半演習

Links1500 (801-850)小テスト2回目

第5回 3 Simple Sickness Gone Away(1)-1

Links1500

3 前半演習

Links1500 (851-900)小テスト1回目

第6回 3-2

Links1500

3 後半演習

Links1500 (851-900)小テスト2回目

第7回 4 Simple Sickness Gone Away(2)-1

Links1500

4 前半演習

Links1500(901-950)小テスト1回目

第8回 4-2

Links1500

4 後半演習

Links1500(901-950)小テスト2回目

第9回 5 Confusion That Comes And Goes(1)-1

Links1500

5 前半演習

Links1500 (951-1000)小テスト1回目

第10回 5-2

Links1500

5 後半演習

Links1500(951-1000)小テスト2回目

第11回 6 Confusion That Comes And Goes(2)-1

Links1500

6 前半演習

Links1500 (1001-1050)小テスト1回目

第12回 Unit6 -2

Links1500

6 後半演習

Links1500(1001-1050)小テスト2回目

第13回 7 Brain Got Your Tongue?(1)-1

Links1500

7 前半演習

Links1500 (1051-1100)小テスト1回目

第14回 7 -2

Links1500

7後半演習

Links1500 (1051-1100)小テスト2回目

第15回 8 Brain Got Your Tongue?(2)-1

Links1500

8 前半演習

Links1500 (1101-1150) 小テスト1回目

第16回 8 -2

Links1500

8 後半演習

Links1500 (1101-1150)小テスト2回目

第17回 9 Those Who Know Us Best(1)-1

Links1500

9 前半演習

Links1500(1151-1200)小テスト1回目

第18回 Unit9 -2

Links1500

9 後半演習

Links1500(1151-1200)小テスト2回目

第19回 10 Those Who Know Us Best(2)-1

Links1500

10 前半演習

Links1500 (1201-1250)小テスト1回目

第20回 10 -2

Links1500

10 後半演習

Links1500 (1201 - 1250)小テスト2回目

第21回 11 Treating Disease In The Big Easy(1)-1

Links1500

11 前半演習

Links1500 (1251-1300)小テスト1回目

第22回 11 -2

Links1500

11 後半演習

Links1500 (1251 - 1300)小テスト2回目

第23回 12 Treating Disease In The Big Easy(2)-1

Links1500

12 前半演習

Links1500 (1301-1350) 小テスト1回目

第24回 12 -2

Links1500

12 後半演習

Links1500 (1301 - 1350)小テスト2回目

第25回 13 Bugs Are Crawling In My Skin-1

Links1500

13前半演習

Links1500 (1351-1400)小テスト1回目

第26回 13 -2

Links1500

13 後半演習

Links1500 (1351 - 1400)小テスト2回目

第27回 14 Attacked From Within-1

Links1500

14 前半演習

Links1500 (1401 - 1450) 小テスト1回目

第28回 14 -2

Links1500

14 後半演習

Links1500 (1401 - 1450)小テスト2回目

第29回 15 Unusual Urine-1

Links1500

15 前半演習

Links1500 (1451-1500)小テスト1回目

第30回 15 -2

Links1500

15 後半演習

Links1500 (1451-1500)小テスト2回目

統一定期試験 (VELC テスト)

統一期試験としてVELCテスト (リスニングを含む：70分) を行う。

科目名：英語演習2（再）			
英文名：English Language Seminar 2			
担当者：眞砂 薫 <small>マサゴ カオル</small>			
単 位：	開講年次：	開講期：	必修選択の別：

■授業概要・方法等

医療薬学科、創薬科学科の1年次で英語演習2の単位を取得できなかった人のための科目です。創薬科学科では必修科目です。医療薬学科、創薬科学科ともに英語の基幹科目です。この科目を履修し単位を取得しなければ、2年での発展選択英語科目を履修することができません。
薬学部1年の基幹科目である英語演習2と同じレベルの教材を使用し、演習形式で英語の基本4技能の養成をはかり1年で必要な英語力の定着を目指します。

■学習・教育目標および到達目標

受講者はこの科目を受講することによって、科学、医薬に関連した英文を確実に読解でき、同じ英文を聞いて内容を理解でき、理解した内容を簡潔な日本語あるいは英語で要約し、他者に伝えることができるようになります。上記の英語を1分間100語程度のスピードで読み、聞き取ることができます。

■授業時間外に必要な学修

基本的に前回の授業時に配布される教材で、本文英文を日本語訳し、語彙を調べ、練習問題の解答を事前に用意する。授業時に辞書なしでほぼ本文英文の意味が理解でき、練習問題の解答が迅速にできるように準備しておく。

■教科書

教材プリントを配布する。原則として授業の1回前の授業で教材プリントを配布し、準備学習ができるようにする。

■参考文献

授業中に適宜指示、紹介する。

■関連科目

英語演習1の単位が未修得であれば、英語演習1再。英語演習3、英語演習4。

■成績評価方法および基準

定期試験VELCテスト 40%
授業演習の積算総合計点 60%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

39号館4階「眞砂」研究室。maasagok@kindai.ac.jp

■オフィスアワー

水曜日2時間目。月、水、木、土曜日の12:10～13:10。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 And Down She Goes1-1

- ①Reading Comprehension
- ②Vocabulary

第2回 And Down She Goes1-2

Excercises
その他追加演習

第3回 And Down She Goes 2-1

第4回 And Down She Goes 2-2

第5回 Simple Sickness Gone Away1-1

- 第6回 Simple Sickness gone Away1-2
- 第7回 Simple Sickness Gone Away2-1
- 第8回 Simple Sickness Gone Away2-2
- 第9回 Confusion That Comes And Goes1-1
- 第10回 Confusion That Comes And Goes1-2
- 第11回 Confusion That Comes And Goes2-1
- 第12回 Confusion That Comes And Goes2-2
- 第13回 Brain Got Your Tongue?1-1
- 第14回 Brain Got Your Tongue?1-2
- 第15回 Brain Got Your Tongue?2-1
- 第16回 Brain Got Your Tongue?2-2
- 第17回 Those Who Know Us Best1-1
- 第18回 Those Who Know Us Best1-2
- 第19回 Those Who Know Us Best2-1
- 第20回 Those Who Know Us Best2-2
- 第21回 Treating Disease In The Big Easy1-1
- 第22回 Treating Disease In The Big Easy1-2
- 第23回 Treating Diseases In The Big Easy2-1
- 第24回 Treating Diseases In The Big Easy2-2
- 第25回 Bugs Are Crawling In My Skin-1
- 第26回 Bugs Are Crawling In My Skin-2
- 第27回 Attacked From Within-1
- 第28回 Attacked From Within-2

第29回 Unusual Urine-1

第30回 Unusual Urine-2

定期試験としてVELCテストを行う。

定期試験はVELCテストで行う（リスニングを含む70分の英語運用能力テスト）。

科目名：英語演習3【Ⅱ-1】(医療)			
英文名：English 3			
担当者：久保 公人・東野 ツヤ子・霧道 哲彦・廣重 尚実			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

英語演習1,2で習得した語学力をさらに向上させ、情報収集と、確実な伝達手段としての英語力をより一層確実なものとする。科学、医薬系の話題の英文テキストによる演習を行う。

■学習・教育目標および到達目標

専門的な医薬系英文を分速150語以上のスピードで読み、その要点を英語または日本語で整理要約し、他者にわかりやすく伝達できる。読んだ内容に関連する話題をリサーチし、1～3分の英語または日本語のプレゼンテーションができる。

■授業時間外に必要な学修

テキスト本文の語彙調べ。テキストの練習問題を事前に解答しておく。必要に応じて、提出課題レポートの作成、小テストの準備を行う。

■教科書

[ISBN]9784764740105 『Health Matters』Tetsuro Fujii他著 金星堂

■参考文献

授業中に随時、指示・紹介する。

■関連科目

英語演習1,2,4。オーラルイングリッシュ 1,2,3,4。

■成績評価方法および基準

授業中の小テスト、レポート、発表など 60%
統一定期試験としての英語運用能力テストVELCテスト 40%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

各クラス担当教員の指示に従う。

■オフィスアワー

各クラス担当教員の指示に従う。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 授業説明。Unit1演習。

Unit1 Why English? The Basis for Academic Inquiry

第2回 Unit2 演習

Unit2 Sleep: Sweet Dreams

第3回 Unit3 演習

Unit3 Allergies: Got an Itch to Scratch?

第4回 Unit4 演習

Unit4 Stress Management: Don't Let it Get yo You!

第5回 Unit5 演習

Unit5 Skin: Beauty is Only Skin Deep

第6回 Unit6 演習

Unit6 Sports Injuries: RICE is Nice

第7回 Review Unit1-6

Test of English for Health Matters TOEHM Unit1-6

第8回 Unit7 演習

Personality: You Need to Chill Out!

第9回 Unit8 演習

Unit8 Nutrition: Nutritious is Delicious

第10回 Unit9 演習

Unit9 Aromatherapy: What's that Smell?

第11回 Unit10 演習

Unit10 Aging: Forever Young

第12回 Unit11 演習

Unit11: Acupuncture - On Pins and Needles

第13回 Unit12 演習

Unit12 Three Major Causes of Death - Are You Insured?

第14回 Review Unit 7 -12

TOEHM (Test of English for Health Matters) 7-12

第15回 Review

語彙復習、復習総括と確認

統一定期試験(VELCテスト)

英語運用能力テストVELC(リスニングを含む70分テスト)による統一定期試験

科目名：英語演習3【Ⅱ-3】(創薬)			
英文名：English 3			
担当者：久保 公人・廣重 尚実			
単 位：	開講年次：	開講期：	必修選択の別：

■授業概要・方法等

英語演習1,2で習得した語学力をさらに向上させ、情報収集と、確実な伝達手段としての英語力をより一層確実なものとする。科学、医薬系の話題の英文テキストによる演習を行う。なお創薬科学科は週2回の授業とし、前半では科学英語演習を行い、後半では科学系研究者の留学、海外研究や国際発表にそなえ、アカデミックイングリッシュを習得するためのTOEFL演習を行う。

■学習・教育目標および到達目標

専門的な医薬系英文を分速150語以上のスピードで読み、その要点を英語または日本語で整理要約し、他者にわかりやすく伝達できる。読んだ内容に関連する話題をリサーチし、1～3分の英語または日本語のプレゼンテーションができる。TOEFL iBTテストで60点以上、ITPテストで460点以上のスコアを目標とする。

■授業時間外に必要な学修

テキスト本文の語彙調べ。テキストの練習問題を事前に解答しておく。必要に応じて、提出課題レポートの作成、小テストの準備を行う。

■教科書

[ISBN]9784764740105 『Health Matters』 Tetsuro Fujii他著 金星堂

[ISBN]9784881986585 『Get Ready for the TOEFL iBT: Listening & Reading』 鶴岡公幸他 松柏社

■参考文献

授業中に随時、指示・紹介する。

■関連科目

英語演習1,2,4。オーラルイングリッシュ 1,2,3,4。

■成績評価方法および基準

授業中の小テスト、レポート、発表など 60%

統一定期試験としての英語運用能力テストVELCテスト 40%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

各クラス担当教員の指示に従う。

■オフィスアワー

各クラス担当教員の指示に従う。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 授業説明。Unit1演習。

Unit1 Why English? The Basis for Academic Inquiry

第2回 Unit2 演習

Unit2 Sleep: Sweet Dreams

第3回 Unit3 演習

Unit3 Allergies: Got an Itch to Scratch?

第4回 Unit4 演習

Unit4 Stress Management: Don't Let it Get yo You!

第5回 Unit5 演習

Unit5 Skin: Beauty is Only Skin Deep

第6回 Unit6 演習

Unit6 Sports Injuries: RICE is Nice

第7回 Review Unit1-6

Test of English for Health Matters TOEHM Unit1-6

第8回 Unit7 演習

Personality: You Need to Chill Out!

第9回 Unit8 演習

Unit8 Nutrition: Nutritious is Delicious

第10回 Unit9 演習

Unit9 Aromatherapy: What's that Smell?

第11回 Unit10 演習

Unit10 Aging: Forever Young

第12回 Unit11 演習

Unit11: Acupuncture - On Pins and Needles

第13回 Unit12 演習

Unit12 Three Major Causes of Death - Are You Insured?

第14回 Review Unit 7 -12

TOEHM (Test of English for Health Matters) 7-12

第15回 Review

語彙復習、復習総括と確認

第16回 テキストGet Ready for the TOEFL IBTの説明

Chapter1 演習

Listening: The Irish Potato Famine

Reading: Baseball History

第17回 Chapter2 演習

Listening: Music and History

Reading: Boston Orchestra

第18回 Chapter3 演習

Listening: Kurt Vonnegut

Reading: Emerson and Thoreau

第19回 Chapter4 演習

Listening: Information Technology

Reading: Adapting to the Era of Information

第20回 Chapter5 演習

Listening: Living Organisms

Reading: Idea for a New Biology

第21回 Chapter6 演習

Listening: All Sports Bring Something to Our Life

Reading: Sports Science

第22回 Chapter7 演習

Listening: Sample Set

Reading: Demographic Segmentation and How it Can Help

第23回 Chapter8 演習

Listening: History of Modern Art

Reading: Cave Paintings

第24回 Chapter9 演習

Listening: Critical Thinking

Reading: Critical Thinking

第25回 Chapter10 演習

Listening: Acid Rain

Reading: Cloud Control

第26回 Chapter11 演習

Listening: Media Effects and Transmission Technologies

Reading: How Media Drives Obesity in Children

第27回 Chapter12 演習

Listening: AED

Reading: Modern Health Care

第28回 Chapter13 演習

Listening: Welcome Speech

Reading: History of MBA Education

第29回 Chapter14 演習

listening: Light and Matter

Reading: How Fireworks Work

第30回 Unit15 演習と総括

Listening: Anthropological research

Reading: Anthropology and the study of War

統一定期試験

英語運用能力テストVELC(リスニング含む70分テスト)を統一定期試験として行う。

科目名：英語演習4【Ⅱ-2】(医療)

英文名：English 4

担当者：久保 公人・東野 ツヤ子・霧道 哲彦・廣重 尚実

単 位：1単位

開講年次：2年次

開講期：後期

必修選択の別：

■授業概要・方法等

英語演習1,2で習得した語学力をさらに向上させ、情報収集と、確実な伝達手段としての英語力をより一層確実なものとする。科学、医薬系の話題の英文テキストによる演習を行う。

■学習・教育目標および到達目標

専門的な医薬系英文を分速150語以上のスピードで読み、その要点を英語または日本語で整理要約し、他者にわかりやすく伝達できる。読んだ内容に関連する話題をリサーチし、1～3分の英語または日本語のプレゼンテーションができる。

■授業時間外に必要な学修

テキスト本文の語彙調べ。テキストの練習問題を事前に解答しておく。必要に応じて、提出課題レポートの作成、小テストの準備を行う。

■教科書

[ISBN]9784764740068 『SCIENCE MATTERS』YOSHINOBU NOZAKI他著 金星堂

■参考文献

授業中に随時、指示・紹介する。

■関連科目

英語演習1,2,4。オーラルイングリッシュ 1,2,3,4。

■成績評価方法および基準

授業中の小テスト、レポート、発表など 60%

統一定期試験としての英語運用能力テストVELCテスト 40%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

各クラス担当教員の指示に従う。

■オフィスアワー

各クラス担当教員の指示に従う。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 授業説明。Unit1演習。

Unit1 Solar Impulse

第2回 Unit2 演習

Unit2 The Lyrebird

第3回 Unit3 演習

Unit3 Busy Bees

第4回 Unit4 演習

Unit4 Biometric Data

第5回 Unit5 演習

Unit5 Rare Earth

第6回 Unit6 演習

Unit6 Herd Immunity

第7回 Unit7 演習

Unit7 Geothermal Energy

第8回 Unit8 演習

Unit8 Insects for Food

第9回 Unit9 演習

Unit9 Ivory

第10回 Unit10 演習

Unit10 Maglev Train

第11回 Unit11 演習

Unit11 Robots

第12回 Unit12 演習

Unit12 International Space Station

第13回 Unit13 演習

Unit13 Pipe Organ

第14回 Unit14 演習

Unit14 Earthquake and Detection Systems

第15回 Unit15 演習

Unit15 Abyss

復習総括と確認

統一定期試験(VELCテスト)

英語運用能力テストVELC(リスニングを含む70分テスト)による統一定期試験

科目名：英語演習4【Ⅱ-4】(創薬)

英文名：English 4

担当者：久保 公人・廣重 尚実

単 位：

開講年次：

開講期：

必修選択の別：

■授業概要・方法等

英語演習1,2で習得した語学力をさらに向上させ、情報収集と、確実な伝達手段としての英語力をより一層確実なものとする。科学、医薬系の話題の英文テキストによる演習を行う。後半は科学系研究者の留学、在外研究のためのTOFL演習を行い、アカデミックイングリッシュをつかった演習を行う。

■学習・教育目標および到達目標

専門的な医薬系英文を分速150語以上のスピードで読み、その要点を英語または日本語で整理要約し、他者にわかりやすく伝達できる。読んだ内容に関連する話題をリサーチし、1～3分の英語または日本語のプレゼンテーションができる。

■授業時間外に必要な学修

テキスト本文の語彙調べ。テキストの練習問題を事前に解答しておく。必要に応じて、提出課題レポートの作成、小テストの準備を行う。

■教科書

[ISBN]9784764740068 『SCIENCE MATTERS』YOSHINOBU NOZAKI他著 金星堂

[ISBN]9784881986288 『Preparations for new TOEFL iBT:Listening & Reading』鶴岡公幸他 松柏社

■参考文献

授業中に随時、指示・紹介する。

■関連科目

英語演習1,2,4。オーラルイングリッシュ 1,2,3,4。

■成績評価方法および基準

授業中の小テスト、レポート、発表など 60%

統一定期試験としての英語運用能力テストVELCテスト 40%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

各クラス担当教員の指示に従う。

■オフィスアワー

各クラス担当教員の指示に従う。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 授業説明。Unit1演習。

Unit1 Solar Impulse

第2回 Unit2 演習

Unit2 The Lyrebird

第3回 Unit3 演習

Unit3 Busy Bees

第4回 Unit4 演習

Unit4 Biometric Data

第5回 Unit5 演習

Unit5 Rare Earth

第6回 Unit6 演習

Unit6 Herd Immunity

第7回 Unit7 演習

Unit7 Geothermal Energy

第8回 Unit8 演習

Unit8 Insects for Food

第9回 Unit9 演習

Unit9 Ivory

第10回 Unit10 演習

Unit10 Maglev Train

第11回 Unit11 演習

Unit11 Robots

第12回 Unit12 演習

Unit12 International Space Station

第13回 Unit13 演習

Unit13 Pipe Organ

第14回 Unit14 演習

Unit14 Earthquake and Detection Systems

第15回 Unit15 演習

Unit15 Abyss

復習総括と確認

第16回 Preparations for new TOEFL iBT: Listening & Reading 授業説明

Chapter1 演習

Listening: Conversation between Professor and Student

Reading: How to mark a Book

第17回 Chapter2 演習

Listening: Financial Accounting

Reading: Stock Market Crash

第18回 Chapter3 演習

Listening: History of Exploration

Reading: Erie Canal

第19回 Chapter4 演習

Listening: Psychology Class

Reading: Ten Languages Die out Every Year

第20回 Chapter5 演習

Listening: Chemistry Class

Reading: Hydrogen Energy

第21回 Chapter6 演習

Listening: Medical Silver

Reading: Statins

第22回 Chapter7 演習

Listening: Management Accounting

Reading: Project Management

第23回 Chapter8 演習

Listening: Student Conversation

Reading: Scholarship

第24回 Chapter9 演習

Listening: Graduation recognition Ceremony

Reading: Food Crisis

第25回 Chapter10 演習

Listening: Astronomy Class

Reading: Solar System and Pluto

第26回 Chapter11 演習

Listening: Research Work

Reading: Symbolism and Mustang Horses

第27回 Chapter12 演習

Listening: Modern Media as a Resource

Reading: Lee Strasberg and Method Acting

第28回 追加TOEFL演習

TOEFL ITP Section1 Listening

第29回 追加TOEFL演習－2

TOEFL ITP Section2 文法問題

第30回 追加TOEFL演習

TOEFL ITP Section3 読解問題

統一定期試験(VELCテスト)

英語運用能力テストVELC(リスニング含む70分テスト)で、統一定期試験を行う。

科目名： **オーラルイングリッシュ 1**

英文名： Oral English 1

担当者： シェーン リーチ・トマス サイモン マーク・ハディング スティーブン・フィゴーニ ウィリアム・マーク ジョン シェフナー

単 位： 1単位

開講年次： 1年次

開講期： 前期

必修選択の別：

■授業概要・方法等

日常会話に必要な基礎的語彙を増やすと共に、その語法に習熟させることを目標とする。その上で、場面や機能に応じた会話力の向上を目指す。

通常のオーラル・イングリッシュ1の授業に加えて、1 Semesterのうち、少なくとも2回は、近畿大学英語村E³(e-cube) スタッフと様々なトピックでディスカッションを行うこと。なお、あらかじめ、英語村E³(e-cube) パスポート申請書に必要事項を記入し、英語村E³(e-cube) にて同パスポートの交付を受けること。

■学習・教育目標および到達目標

音読上の規則を理解し、5～10語前後からなる会話ができる。様々な場面に応じた表現を使うことができる。

■授業時間外に必要な学修

授業で習ったことを身近なものへ適用や応用し、その理解を深めること。そして、各授業で指示された課題に取り組むこと。

■教科書

クラスにより使用テキストが異なります。

最初の授業で指示する。

■参考文献

最初の授業で指示する。

■関連科目

英語演習1:

■成績評価方法および基準

口頭発表 50%

小テスト 25%

宿題／レポート 25%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

最初の授業で指示する。

■オフィスアワー

最初の授業で指示する。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 授業目標と説明、挨拶

第2回 挨拶、自己紹介、他己を紹介する

第3回 情報の収集、目的の説明、郵便局での会話

第4回 情報の確認（相手に繰り返してもらおう）銀行での会話（数字、数え方など）

第5回 相手の意見を求める、意見を述べる、同意する、反対する

第6回 物事を説明する、理由を述べる

第7回 日本文化、ホームステイでの会話

第8回 好き嫌い、趣味

第9回 依頼する、引き受ける、断る

第10回 レストランでの注文、チップの習慣など

第11回 招待する、招待を受ける、断る

第12回 電話での会話（予定、予約、計画など）

第13回 許可を求める、与える、断る

第14回 申し出る、申し出を受ける、断る

第15回 総合復習

科目名：オーラルイングリッシュ 1 (再)			
英文名：Oral English 1			
担当者：トラスコット ジョージ			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

日常会話に必要な基礎的語彙を増やすと共に、その語法に習熟させることを目標とする。その上で、場面や機能に応じた会話力の向上を目指す。

通常のオーラルイングリッシュ1の授業に加えて、1 Semesterのうち、少なくとも2回は、近畿大学英語村E³(e-cube)スタッフと様々なトピックでディスカッションを行うこと。なお、あらかじめ、英語村E³(e-cube)パスポート申請書に必要事項を記入し、英語村E³(e-cube)にて同パスポートの交付を受けること。

■学習・教育目標および到達目標

音読上の規則を理解し、5～10語前後からなる会話ができる。様々な場面に応じた表現を使うことができる。

■授業時間外に必要な学修

授業で習ったことを身近なものへ適用や応用し、その理解を深めること。そして、各授業で指示された課題に取り組むこと。

■教科書

クラスにより使用テキストが異なります。
最初の授業で指示する。

■参考文献

最初の授業で指示する。

■関連科目

英語演習1

■成績評価方法および基準

口頭発表 50%

小テスト 25%

宿題／レポート 25%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

最初の授業で指示する。

■オフィスアワー

最初の授業で指示する。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 授業目標と説明、挨拶

第2回 挨拶、自己紹介、他己を紹介する

第3回 情報の収集、目的の説明、郵便局での会話

第4回 情報の確認(相手に繰り返してもらおう)銀行での会話(数字、数え方など)

第5回 相手の意見を求める、意見を述べる、同意する、反対する

第6回 物事を説明する、理由を述べる

第7回 日本文化、ホームステイでの会話

第8回 好き嫌い、趣味

第9回 依頼する、引き受ける、断る

第10回 レストランでの注文、チップの習慣など

第11回 招待する、招待を受ける、断る

第12回 電話での会話（予定、予約、計画など）

第13回 許可を求める、与える、断る

第14回 申し出る、申し出を受ける、断る

第15回 総合復習

科目名： オーラルイングリッシュ 2			
英文名： Oral English 2			
担当者： シェーン リーチ・トマス サイモン マーク・ハテイング スティーブン・フィゴーニ ウィリアム・マーク ジョン シェフナー			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

この科目はオーラルイングリッシュ1で学習した内容を発展させ、初歩的な日常会話力のさらなる向上を目指す。通常のオーラル・イングリッシュ2の授業に加えて、1セメスターのうち、少なくとも2回は、近畿大学英語村E³(e-cube)スタッフと様々なトピックでディスカッションを行うこと。なお、あらかじめ、英語村E³(e-cube)パスポート申請書に必要事項を記入し、英語村E³(e-cube)にて同パスポートの交付を受けること。

■学習・教育目標および到達目標

音読上の規則を理解し、一定の速度で音読できる。様々な場面での日常会話を伝達機能を理解した上で使いこなせる。

■授業時間外に必要な学修

授業で習ったことを身近なものへ適用や応用し、その理解を深めること。そして、各授業で指示された課題に取り組むこと。

■教科書

クラスにより使用テキストが異なります。
最初の授業で指示する。

■参考文献

最初の授業で指示する。

■関連科目

英語演習 1, 2
オーラルイングリッシュ 1

■成績評価方法および基準

口頭発表 50%
小テスト 25%
宿題／レポート 25%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

最初の授業で指示する。

■オフィスアワー

最初の授業で指示する。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 過去についての会話

第2回 道順を尋ねる、答える／交通（乗り物）の会話

第3回 旅行の会話、場所の描写

第4回 人の描写（身体的特徴、性格など）

第5回 家族についての会話

第6回 洋服や身に着けるものについての会話／天候についての会話

第7回 買い物の会話、必要な物を求める、物の描写、比較、対照

第8回 感情の表現

第9回 病院での会話（症状と治療法）／健康維持に関する会話

第10回 提案や忠告を求める、与える

第11回 苦情を言う、謝る／ホテルでの会話

第12回 相手を説得する

第13回 ほめる、お世辞を言う、感謝する

第14回 将来についての会話

第15回 総合復習

科目名：オーラルイングリッシュ 2 (再)			
英文名：Oral English 2			
担当者：トラスコット ジョージ			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

この科目はオーラルイングリッシュ1で学習した内容を発展させ、初歩的な日常会話力のさらなる向上を目指す。通常のオーラル・イングリッシュ2の授業に加えて、1セメスターのうち、少なくとも2回は、近畿大学英語村E³(e-cube)スタッフと様々なトピックでディスカッションを行うこと。なお、あらかじめ、英語村E³(e-cube)パスポート申請書に必要事項を記入し、英語村E³(e-cube)にて同パスポートの交付を受けること。

■学習・教育目標および到達目標

音読上の規則を理解し、一定の速度で音読できる。様々な場面での日常会話を伝達機能を理解した上で使いこなせる。

■授業時間外に必要な学修

授業で習ったことを身近なものへ適用や応用し、その理解を深めること。そして、各授業で指示された課題に取り組むこと。

■教科書

クラスにより使用テキストが異なります。最初の授業で指示する。

■参考文献

最初の授業で指示する。

■関連科目

英語演習 1, 2
オーラルイングリッシュ1

■成績評価方法および基準

口頭発表 50%
小テスト 25%
宿題／レポート 25%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

最初の授業で指示する。

■オフィスアワー

最初の授業で指示する。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 過去についての会話

第2回 道順を尋ねる、答える／交通(乗り物)の会話

第3回 旅行の会話、場所の描写

第4回 人の描写(身体的特徴、性格など)

第5回 家族についての会話

第6回 洋服や身に着けるものについての会話／天候についての会話

第7回 買い物の会話、必要な物を求める、物の描写、比較、対照

第8回 感情の表現

第9回 病院での会話（症状と治療法）／健康維持に関する会話

第10回 提案や忠告を求める、与える

第11回 苦情を言う、謝る／ホテルでの会話

第12回 相手を説得する

第13回 ほめる、お世辞を言う、感謝する

第14回 将来についての会話

第15回 総合復習

科目名： オーラルイングリッシュ 3			
英文名： Oral English 3			
担当者： シェーン リーチ・ハディング スティーブン・フィゴーニ ウィリアム・マーク ジョン シェフナー			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

身近なトピックについて聞いたり、読んだりしたことを説明したり、自分の意見や感想を少しつけ加えて発表したり、簡単なディスカッションをしたりして、会話表現力を身につけることを目標とする。

■学習・教育目標および到達目標

特定の話題について1分間以上のプレゼンテーションやディスカッションができる。

■授業時間外に必要な学修

授業で習ったことを身近なものへ適用や応用し、その理解を深めること。そして、各授業で指示された課題に取り組むこと。

■教科書

最初の授業で指示する。

■参考文献

最初の授業で指示する。

■関連科目

オーラルイングリッシュ1, 2

英語演習1, 2

■成績評価方法および基準

口頭発表 50%

小テスト 25%

宿題/レポート 25%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

最初の授業で指示する。

■オフィスアワー

最初の授業で指示する。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 授業目標と説明

第2回 挨拶、自己紹介

第3回 食べ物

第4回 日本文化

第5回 買い物

第6回 プレゼンテーション

第7回 音楽

第8回 交通

第9回 仕事

第10回 家族

第11回 プレゼンテーション

第12回 旅行

第13回 ヨーロッパ

第14回 有名人

第15回 総合復習

科目名： オーラルイングリッシュ 3 (再)			
英文名： Oral English 3			
担当者： フィゴーニ ウィリアム			
単 位： 1単位	開講年次： 3年次	開講期： 後期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

身近なトピックについて聞いたり、読んだりしたことを説明したり、自分の意見や感想を少しつけ加えて発表したり、簡単なディスカッションをしたりして、会話表現力を身につけることを目標とする。

■学習・教育目標および到達目標

特定の話題について1分間以上のプレゼンテーションやディスカッションができる。

■授業時間外に必要な学修

授業で習ったことを身近なものへ適用や応用し、その理解を深めること。そして、各授業で指示された課題に取り組むこと。

■教科書

最初の授業で指示する。

■参考文献

最初の授業で指示する。

■関連科目

オーラルイングリッシュ1, 2
英語演習1, 2

■成績評価方法および基準

口頭発表 50%
小テスト 25%
宿題／レポート 25%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

最初の授業で指示する。

■オフィスアワー

最初の授業で指示する。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 授業目標と説明

第2回 挨拶、自己紹介

第3回 食べ物

第4回 日本文化

第5回 買い物

第6回 プレゼンテーション

第7回 音楽

第8回 交通

第9回 仕事

第10回 家族

第11回 プレゼンテーション

第12回 旅行

第13回 ヨーロッパ

第14回 有名人

第15回 総合復習

科目名：オーラルイングリッシュ 4			
英文名：Oral English 4			
担当者：シェーン リーチ・ハディング スティーブン・フィゴーニ ウィリアム・マーク ジョン シェフナー			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

この科目はオーラルイングリッシュ3で学習した内容を発展させ、簡単なスピーチやディベートを通して一層進んだ会話表現力を身につけることを目指す。

■学習・教育目標および到達目標

特定の話題について2分間以上のプレゼンテーションやディスカッションができる。

■授業時間外に必要な学修

授業で習ったことを身近なものへ適用や応用し、その理解を深めること。そして、各授業で指示された課題に取り組むこと。

■教科書

最初の授業で指示する。

■参考文献

最初の授業で指示する。

■関連科目

オーラルイングリッシュ1, 2, 3

英語演習1, 2, 3

■成績評価方法および基準

口頭発表 50%

小テスト 25%

宿題/レポート 25%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

最初の授業で指示する。

■オフィスアワー

最初の授業で指示する。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 夏休みについての話

第2回 スポーツ

第3回 住まいや生活

第4回 健康

第5回 プレゼンテーション

第6回 娯楽、メディア、エンターテイメントなど

第7回 動物

第8回 天候

第9回 アメリカ

第10回 プレゼンテーション

第11回 迷信 (信じる／信じない)

第12回 教育

第13回 異文化

第14回 プレゼンテーション

第15回 総合復習

科目名：オーラルイングリッシュ 4 (再)			
英文名：Oral English 4			
担当者：フィゴーニ ウィリアム			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：前期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

この科目はオーラルイングリッシュ3で学習した内容を発展させ、簡単なスピーチやディベートを通して一層進んだ会話表現力を身につけることを目指す。

■学習・教育目標および到達目標

特定の話題について2分間以上のプレゼンテーションやディスカッションができる。

■授業時間外に必要な学修

授業で習ったことを身近なものへ適用や応用し、その理解を深めること。そして、各授業で指示された課題に取り組むこと。

■教科書

最初の授業で指示する。

■参考文献

最初の授業で指示する。

■関連科目

オーラルイングリッシュ1, 2, 3

英語演習1, 2, 3

■成績評価方法および基準

口頭発表 50%

小テスト 25%

宿題／レポート 25%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

最初の授業で指示する。

■オフィスアワー

最初の授業で指示する。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 夏休みについての話

第2回 スポーツ

第3回 住まいや生活

第4回 健康

第5回 プレゼンテーション

第6回 娯楽、メディア、エンターテイメントなど

第7回 動物

第8回 天候

第9回 アメリカ

第10回 プレゼンテーション

第11回 迷信 (信じる／信じない)

第12回 教育

第13回 異文化

第14回 プレゼンテーション

第15回 総合復習

科目名： TOEIC A			
英文名： TOEIC A			
担当者： 田中 博晃			
単 位：	開講年次：	開講期：	必修選択の別：

■授業概要・方法等

英語力の客観的判定や企業への就職活動の際に使われるTOEICテストの対策を実践的に行う。適切な練習を豊富に行うという、いわば理論と実践を兼ね備えた総合的対策を、文法や語彙という基礎的な知識を再確認しながら行っていく。

■学習・教育目標および到達目標

TOEIC 420点以上を目安に、TOEIC 500点以上取得するための演習を行う。TOEICに必要な語彙を強化し、文法事項を再確認するとともに、応用問題や会話問題の聞き取り練習を重点的に行い、リスニング能力を養成する。

■授業時間外に必要な学修

英字新聞、英語雑誌、インターネットの英語で書かれているサイトなど、自分の興味のある分野のものを中心に読んだり聞いたりする。市販のTOEICの対策本を実践的に解くのも、相乗効果があり非常に効果的である。

■教科書

[ISBN]9784764738188 『Kick Off for the TOEIC Test—新・基礎から始めるTOEICテスト対策教本・リスニング・リーディング演習』(松岡 昇, 金星堂: 2006)

■成績評価方法および基準

授業での取り組みや小テスト 60%
定期試験 40%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規定に準拠して行います。

■オフィスアワー

水曜日 2時間目

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

授業の説明を行う。

第2回 At an Airport

空港の場面で使われる表現を中心に、リスニング演習を行う。

第3回 At an Airport

空港の場面で使われる表現を中心に、文法と読解の演習を行う。

第4回 At a Hotel

ホテルの場面で使われる表現を中心に、リスニング演習を行う。

第5回 At a Hotel

ホテルの場面で使われる表現を中心に、文法と読解の演習を行う。

第6回 On the Street

街なかの場面で使われる表現を中心に、リスニング演習を行う。

第7回 On the Street

街なかの場面で使われる表現を中心に、文法と読解の演習を行う。

第8回 At a Restaurant

レストランの場面で使われる表現を中心に、リスニング演習を行う。

第9回 At a Restaurant

レストランの場面で使われる表現を中心に、文法と読解の演習を行う。

第10回 Shopping

買い物の場面で使われる表現を中心に、リスニング演習を行う。

第11回 Shopping

買い物の場面で使われる表現を中心に、文法と読解の演習を行う。

第12回 At a Bank

銀行の場面で使われる表現を中心に、リスニング演習を行う。

第13回 At a Bank

銀行の場面で使われる表現を中心に、文法と読解の演習を行う。

第14回 Taking a Trip

旅行の場面で使われる表現を中心に、リスニング演習を行う。

第15回 Taking a Trip

旅行の場面で使われる表現を中心に、文法と読解の演習を行う。

期末テストを実施します。

科目名：TOEIC A/1			
英文名：TOEIC A			
担当者：高橋 奈穂子			
単 位：	開講年次：	開講期：	必修選択の別：

■授業概要・方法等

TOEIC420点以上を目安に、TOEIC500点以上取得するための演習を行う。TOEICに必要な語彙を強化し、文法事項を再確認するとともに、応用問題や会話問題の聞き取り練習を重点的に行い、リスニング能力を養成する。

■学習・教育目標および到達目標

このクラスを受講することで、TOEICテストの性質、問題のパターンに慣れるとともに、文法を含む読む、書くの技能を向上させる。またあらゆる分野の内容をカバーすることで語彙力を増強をはかる。少なくとも、TOEIC500点前後の点数を獲得できる程度の英語力を養うことを目指す。

■授業時間外に必要な学修

普段から、英語圏のニュースを聞いたり、英字新聞や英語雑誌などを介して、国内外の事柄についての見聞を広めること。特に、映画や音楽、スポーツなど、自分の興味のある分野についてインターネット等で検索し、英語でどのように表現されているのかなどをインターネット等で調べるなど、日常的に英語に触れるよう習慣づけること。

■教科書

[ISBN]978491933853 『Best Practice for the TOEIC Test』(吉塚 弘, 成美堂:2014)

■参考文献

[ISBN]9784764739581 『GEAR UP FOR THE TOEIC TEST』(Mark D.Stafford, 金星堂:2013)

■関連科目

TOEIC B/2

■成績評価方法および基準

定期試験 40%

小テスト 20%

発表・課題 40%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

21号館2F 講師控室

メールアドレス: yutauzer2000@yahoo.co.jp

■オフィスアワー

火、水、金 12:20-12:50

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Orientation

Unit1: Restaurant

クラスの概要、および成績評価、TOEICテストの内容に関する説明を行う。

第2回 Unit1

Unit1: Restarant (Grammar(以下GR):人称代名詞)

第3回 Unit2

Unit2: Entertainment (GR:不定代名詞と再帰代名詞)

第4回 Unit3

Unit3: Business (GR:現在・過去の時制)

第5回 Unit4

Unit4: Office (GR:現在完了)

第6回 Unit5

Unit5: Telephone (GR:時・期間を表す前置詞)

第7回 Unit6

Unit6: Letter&E-mail (GR:位置、場所を表す前置詞)

第8回 Unit7

Unit7: Health (GR:数量形容詞)

第9回 Unit8

Unit8 : Bank&Post Office (GR:自動詞と他動詞)

第10回 Unit9

Unit9 : New Product (GR:形容詞を作る接尾辞)

第11回 Unit10

Unit10 : Travel① (GR:副詞を作る接尾辞)

第12回 Unit11

Unit11 : Travel② (GR:分詞構文)

第13回 Unit12

Unit12 : Job offer (GR : 比較)

第14回 Unit13

Unit13 : Shopping (GR:受動態)

第15回 Unit14

Unit14 : Education (GR:関係代名詞)

定期試験

科目名：TOEIC A/1			
英文名：TOEIC A			
担当者： ^{ヒラカワ} ^{キミコ} 平川 公子			
単 位：	開講年次：	開講期：	必修選択の別：

■授業概要・方法等

英語の発展科目です。

いまや就職活動や職業生活に必須ともいえる、英語コミュニケーション能力を測る試験であるTOEICを受検する人向けの授業です。試験問題の構成ならびに問われる英語運用能力を知り、自分が設定する目標スコアに到達するにはどのように学習すればよいかを学びます。具体的には、TOEICの形式に沿った実践的な問題演習を通じて、文法の理解を深化させ、頻出語彙の確認を行うと同時に、各種英語能力試験にはある程度必要な、テスト・テイキング・スキルの伸長も図ります。また、リスニングについては、日本人にとって難しい、いくつかの英語音声の聞き取り練習を中心に据え、全体の流れの把握方法や、TOEICに登場する各種英語（米語、豪語など）の特徴についても適宜学習していきます。

■学習・教育目標および到達目標

この授業により

1. TOEIC Testの内容について知ります
2. TOEIC Testにおいて求められる文法理解や読解力のレベルを知ります
3. TOEIC Testにおいて求められるリスニング能力のレベルを知ります
4. 自分の設定する目標スコアへ到達するために必要な英語運用能力の程度を理解し、そこへ至るに足る英語運用能力について、読解・聴解各々で学習します。
5. 推奨されるTOEIC受験を通じて、自己の英語運用能力を客観的に評価できます。
6. いわゆるテスト・テイキングの技術についても有用なものについては学習します。

■授業時間外に必要な学修

- ・ この授業の受講者は開講期間中のTOEIC受験が推奨されます
(IPテスト可、スコア要報告、ただし成績評価対象外)
- ・ テキスト各ユニットにおけるVocabulary Quizは、予習範囲として指定します
- ・ 各自のレベルや必要に応じて、TOEIC問題集等に取り組むことが奨励されます

■教科書

[ISBN]9784881987056『目標スコアを超えるためのTOEICパート別完全戦略—Strategic Learning for the TOEIC Test』
(森田光宏, 松柏社: 2015)

■関連科目

TOEIC B/2
TOEIC 3/4

■成績評価方法および基準

定期試験 40%
中間試験・小テスト 30%
授業参加・受講姿勢 30%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規定に準拠して行います。

■オフィスアワー

月曜日 12:30 ~ 13:00 21号館講師控室

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Chapter 1

Part 1の主な特徴およびPart 5の頻出問題（形容詞と副詞）について学習します

第2回 Chapter 2

Part 2の主な特徴およびPart 5の頻出問題（名詞と代名詞）について学習します

第3回 Chapter 3

Part 2の主な特徴およびPart 5の頻出問題（時制「現在・過去・未来」）について学習します

第4回 Chapter 4

Part 3の主な特徴およびPart 5の頻出問題（時制「完了形」）について学習します

第5回 Chapter 5

Part 4の主な特徴およびPart 5の頻出問題（受動態と動詞の形）について学習します

第6回 Chapter 6

Part 6の主な特徴およびPart 5の頻出問題（to不定詞）について学習します

第7回 Chapter 7

Part 7の主な特徴およびPart 5の頻出問題（接続詞と前置詞）について学習します

第8回 中間試験

第1回～第7回の学習内容を踏まえた、ミニ模擬試験を行います

第9回 Chapter 8

Part 1の攻略法およびPart 5の復習問題に取り組みます

第10回 Chapter 9

Part 2の攻略法およびPart 5の復習問題に取り組みます

第11回 Chapter 10

Part 3の攻略法およびPart 5の復習問題に取り組みます

第12回 Chapter 11

Part 4の攻略法およびPart 5の復習問題に取り組みます

第13回 Chapter 12

Part 6の攻略法およびPart 5の復習問題に取り組みます

第14回 Chapter 13

Part 7の攻略法およびPart 5の復習問題に取り組みます

第15回 Review

第9回～第14回に学習した内容を実戦問題で振り返ります

定期試験

第9回～第15回の学習内容を踏まえた、ミニ模擬試験を行います

科目名：TOEIC B			
英文名：TOEIC B			
担当者： <small>タナカ ヒロアキ</small> 田中 博晃			
単 位：	開講年次：	開講期：	必修選択の別：

■授業概要・方法等

英語力の客観的判定や企業への就職活動の際に使われるTOEICテストの対策を実践的に行う。適切な練習を豊富に行うという、いわば理論と実践を兼ね備えた総合的対策を、文法や語彙という基礎的な知識を再確認しながら行っていく。

■学習・教育目標および到達目標

TOEIC 420点以上を目安に、TOEIC 500点以上取得するための演習を行う。TOEICに必要な語彙を強化し、文法事項を再確認するとともに、応用問題や会話問題の聞き取り練習を重点的に行い、リスニング能力を養成する。

■授業時間外に必要な学修

英字新聞、英語雑誌、インターネットの英語で書かれているサイトなど、自分の興味のある分野のものを中心に読んだり聞いたりする。市販のTOEICの対策本を実践的に解くのも、相乗効果があり非常に効果的である。

■教科書

[ISBN]9784764738188 『Kick Off for the TOEIC Test—新・基礎から始めるTOEICテスト対策教本・リスニング・リーディング演習』(松岡 昇, 金星堂:2006)

■成績評価方法および基準

授業での取り組みや小テスト 60%
定期試験 40%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規定に準拠して行います。

■オフィスアワー

水曜日 2時間目

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

授業の説明を行う。

第2回 Seeing the Doctor

病院の場面で用いられる表現を中心に、リスニング中心に演習を行う。

第3回 Seeing the Doctor

病院の場面で用いられる表現を中心に、文法と読解の演習を行う。

第4回 Renting an Apartment

アパートを借りる場面で用いられる表現を中心に、リスニング中心に演習を行う。

第5回 Renting an Apartment

アパートを借りる場面で用いられる表現を中心に、文法と読解の演習を行う。

第6回 Sports

スポーツの場面で用いられる表現を中心に、リスニング中心に演習を行う。

第7回 Sports

スポーツの場面で用いられる表現を中心に、文法と読解の演習を行う。

第8回 Job Hunting

就職活動の場面で用いられる表現を中心に、リスニング中心に演習を行う。

第9回 Job Hunting

就職活動の場面で用いられる表現を中心に、文法と読解の演習を行う。

第10回 Talking on the Phone

電話での応対場面で用いられる表現を中心に、リスニング中心に演習を行う。

第11回 Talking on the Phone

電話での応対場面で用いられる表現を中心に、文法と読解の演習を行う。

第12回 Appointments

アポを取る場面で用いられる表現を中心に、リスニング中心に演習を行う。

第13回 Appointments

アポを取る場面で用いられる表現を中心に、文法と読解の演習を行う。

第14回 Giving a Presentation

プレゼンをする場面で用いられる表現を中心に、リスニング中心に演習を行う。

第15回 Giving a Presentation

プレゼンをするの場面で用いられる表現を中心に、文法と読解の演習を行う。

期末テストを実施します

科目名：TOEIC B/2			
英文名：TOEIC B			
担当者：高橋 奈穂子			
単 位：	開講年次：	開講期：	必修選択の別：

■授業概要・方法等

TOEIC420点以上を目安に、TOEIC500点以上取得するための演習を行う。TOEICに必要な語彙を強化し、文法事項を再確認するとともに、応用問題や会話問題の聞き取り練習を重点的に行い、リスニング能力を養成する。

■学習・教育目標および到達目標

このクラスを受講することで、TOEICテストの性質、問題のパターンに慣れるとともに、文法を含めた読む、各の技能を向上させる。また、あらゆる分野の内容をカバーすることで語彙力も同時に身に付けていく。最終的に少なくともTOEIC500点前後の点数を獲得できる程度の英語力を養うことを目指す。

■授業時間外に必要な学修

普段から、英語圏のニュースや英字新聞などを使って見聞を広めること。特に、映画や音楽、スポーツなど自分の興味のある分野についてインターネット等で検索し、英語でどのように表現されているのかななどを調べ、身近なところで日常的に英語に触れること。

■教科書

[ISBN]9784764739581 『GEAR UP FOR THE TOEIC TEST』 (Mark D.Stafford, 金星堂:2013)

■参考文献

[ISBN]978491933853 『Best Practice for the TOEIC Test』 (吉塚 弘, 成美堂:2014)

■関連科目

TOEIC A/1

■成績評価方法および基準

定期テスト 40%

小テスト 20%

口頭発表・課題 40%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

21号館2F 講師控室

メールアドレス：yutauzer2000@yahoo.co.jp

■オフィスアワー

火、水、金 12:20-12:50

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Orientation

Unit1: Events

クラスの概要、および成績評価、TOEICテストの内容に関する説明を行う。

第2回 Unit1: Events

Part1:状況把握

Part2:提案、依頼、許可の表現

Part3:同僚同士の会話

Part4:イベントでのアナウンス

Part5:動詞

Part6:イベント出店許可

Part7:イベント告知、相談の手紙

第3回 Unit2 :Eating Out

- Part1:一人一人の人物が写っている場合
- Part2:適切な応答の表現
- Part3:レストランでの会話
- Part4:店の宣伝 (1)
- Part5:名詞 (1)
- Part6:苦情に対する謝罪
- Part7:飲食店リスト、広告

第4回 Unit3 :Shopping

- Part1:二名以上が写っている場合など
- Part2:Yes/Noでこたえる問題、答えない問題
- Part3:買い物についての会話
- Part4:店の宣伝 (2)
- Part5:動詞の時制
- Part6:返品方法の案内
- Part7:店からの案内、割引クーポン

第5回 Unit4 :Housing

- Part1:室内が写っている場合
- Part2:Howで始まる質問文
- Part3:電話での問い合わせ
- Part4:不動産情報
- Part5:名詞 (2)
- Part6:入居前の注意事項
- Part7:物件案内、不動産屋へのメール

第6回 Unit5 :Employment

- Part1:物がアップで写っている場合など
- Part2:面接などの応答
- Part3:面接での会話
- Part4:就職オリエンテーション
- Part5:形容詞、副詞
- Part6:求人案内
- Part7:関連する2通のメール

第7回 Unit6 :Personnel

- Part1:2名以上の位置関係
- Part2:職業に関する応答
- Part3:人事に関する会話
- Part4:会議での発言 (1)
- Part5:品詞の選択
- Part6:昇進に関するメール
- Part7:社内告知 (1)

第8回 Unit7 :Office

- Part1:Lの発音の違いについて
- Part2:職業などに関する応答
- Part3:社内設備に関する会話
- Part4:会話での発言 (2)
- Part5:前置詞
- Part6:地震発生時の安全確認
- Part7:社内告知 (2)

第9回 Unit8 :Finance and Banking

- Part1:VとB、SとSHとTH、LとRの発音の違いについて
- Part2:金銭などに関する応答
- Part3:銀行での会話
- Part4:セミナーの導入

Part5:不定詞をとる動詞と動名詞をとる動詞

Part6:顧客への謝罪

Part7:投資の広告、記事

第10回 Unit9 :Management

Part1:音声変化 (1)

Part2:管理業務に関する応答

Part3:仕事に関する会話 (1)

Part4:会議での告知

Part5:代名詞

Part6:人事に関するメール

Part7:売上報告書、セミナー告知

第11回 Unit10 :Transactions

Part1:音声変化 (2)

Part2:管理業務に関する応答

Part3:仕事に関する会話 (2)

Part4:商品発送のお知らせ

Part5:接続詞

Part6:支払い最速

Part7:関連する手紙と請求書

第12回 Unit11 :Documents

Part1:canとcan'tの発音

Part2:付加疑問文

Part3:仕事に関する会話 (3)

Part4:応募方法の説明

Part5:現在完了

Part6:役所からの通知

Part7:不動産関連の書類

第13回 Unit12 :Public Announcements

Part1:内容の聞き取り (1)

Part2:否定疑問の質問文 (1)

Part3:仕事に関する会話 (4)

Part4:天気予報

Part5:助動詞

Part6:社内告知

Part7:新聞記事、緊急時の案内

第14回 Unit13 :Commuting

Part1:内容の聞き取り (2)

Part2:否定疑問文の質問文 (2)

Part3:通勤に関する会話

Part4:交通情報

Part5:仮定法

Part6:友人へのメール

Part7:市からの告知、時刻表

第15回 Unit14 :Travel

Part1:内容の聞き取り (3)

Part2:適切な応答の練習 (1)

Part3:旅行に関する会話

Part4:アナウンス

Part5:関係詞

Part6:税関からの説明

Part7:旅の案内、旅費についての相談メール

定期試験

科目名：TOEIC B/2			
英文名：TOEIC B			
担当者： ^{ヒラカワ} ^{キミコ} 平川 公子			
単 位：	開講年次：	開講期：	必修選択の別：

■授業概要・方法等

英語の発展科目です。

いまや就職活動や職業生活に必須ともいえる、英語コミュニケーション能力を測る試験であるTOEICの受検を考えている人に向けた授業です。TOEICの試験内容ならびに問われる英語運用能力を知り、自分が設定する目標スコアに到達するにはどのように学習すればよいかを学びます。具体的には、前期に引き続き、TOEICの形式に沿った実戦的な問題演習を通じて、文法の理解を深化させ、頻出語彙の確認を行うと同時に、英語能力試験においてある程度必要なテスト・テイキング・スキルの伸長を図ります。また、リスニングについては、さらに実戦的な英語音声の聞き取り練習を行い、同時に、全体の内容把握とともに、細部の確認方法や、よく問われるシチュエーションの特徴・専門用語についても適宜学習していきます。

■学習・教育目標および到達目標

この授業により

1. TOEIC Testの内容について知ります
2. TOEIC Testにおいて求められる文法理解や読解力のレベルを知ります
3. TOEIC Testにおいて求められるリスニング能力のレベルを知ります
4. 自分の設定する目標スコアへ到達するために必要な英語運用能力の程度を理解し、そこへ至るに足る英語運用能力について、読解・聴解各々で学習します。
5. 奨励されるTOEIC受験を通じて、自己の英語運用能力を客観的に評価できます。
6. いわゆるテスト・テイキングの技術についても有用なものについては学習します。

■授業時間外に必要な学修

- ・ この授業の受講者は開講期間中のTOEIC受検が推奨されます
(IPテスト可、スコア要報告、ただし成績評価対象外)
- ・ 各自の必要に応じて、TOEIC問題集等に取り組むことが奨励されます

■教科書

[ISBN]9784764738386 『More Power for the TOEIC Test—新TOEICテスト集中コース リスニング・リーディング演習』
(松岡 昇, 金星堂: 2007)

■関連科目

TOEIC A/1
TOEIC 3/4

■成績評価方法および基準

定期試験 40%
中間試験・小テスト 30%
授業参加・受講態度 30%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規定に準拠して行います。

■オフィスアワー

月曜日 12:30 ~ 13:00 21号館講師控室

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Chapter 1 Meeting New People

英語のナチュラルスピードに慣れるための練習をします

第2回 Chapter 2 Shopping

Part2、Part3対策として、「機能表現」に慣れるための練習をします

第3回 Chapter 3 Entertainment

「何が」「どうする」をつかむための練習をします

第4回 Chapter 4 Transportation

「意味のかたまり」(sense group) でつかむための練習をします

第5回 Chapter 5 News

「主役の文」と「脇役の文」をつかむための学習をします

第6回 Chapter 6 Nature & the Environment

「後ろからの修飾」(後置修飾)に慣れるための練習をします

第7回 Chapter 7 Housing

「専門用語」を覚えるための練習をします

第8回 中間試験

第1回～第7回に学習した内容に基づく、ミニ模擬試験を行います

第9回 Chapter 8 Health & Medical Care

Part2対策として、「脱形式」に慣れるための練習をします

第10回 Chapter 9 Housework & Electrical Appliances

「英語圏の単位」をすぐに換算するための練習をします

第11回 Chapter 10 Vacations

「英語の地名」に注意するための練習をします

第12回 Chapter 11 Getting a Job

「動詞と目的語の組み合わせ」を意識するための練習をします

第13回 Chapter 12 Working in an Office

「音の変化」に注意するための練習をします

第14回 Chapter 13 Business Communication

「助動詞の過去形」(仮定法)に慣れるための練習をします

第15回 Chapter 14 Manufacturing

図表問題対策として、「過去分詞(受け身)」の用法に慣れるための練習をします

定期試験

第9回～第15回に学習した内容に基づく、ミニ模擬試験を行います

科目名： ライティングA			
英文名： Writing A			
担当者： <small>ヤスグ サチコ</small> 安田 幸子			
単 位：	開講年次：	開講期：	必修選択の別：

■授業概要・方法等

自分の言いたいことが読み手に正確に伝わるように、英文を考えて書く練習をする。さまざまなテーマの英文を読み、それを参考にしてまとまりのある文を書く。

■学習・教育目標および到達目標

語彙、文法、英語らしい表現を習得し、適切に使うことができる。
トピックに適した文章を書くことができる。

■授業時間外に必要な学修

授業に向けてテキストの単語の意味の確認、練習問題の予習をしておく。授業後には基本的な語(句)や英文を覚えて使えるようになっておく。小テストや課題提出のための準備をする。

■教科書

[ISBN]9784764739574 『Eメールで学ぶ英文ライティングの基礎—Write Me Back Soon!』(成岡 恵子, 金星堂 : 2013)

■関連科目

ライティングB

■成績評価方法および基準

定期試験 40%
授業平常点(小テスト、課題提出、口頭発表) 60%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行う。

■研究室・E-mailアドレス

21号館2階 講師控室

■オフィスアワー

月曜日、水曜日 12:30～13:00

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 インTRODクシヨン

授業の進め方、注意事項等。ライティングの練習。

第2回 Unit 1 Let me introduce myself

自己紹介の英文

第3回 Unit 2 Would you do me a favor?

依頼文を書く

第4回 Unit 3 Please give me some advice

アドバイスを求めるための英文を書く

第5回 Unit 4 How about going to the museum?

アドバイスや提案をする

第6回 Unit 5 Let's decide when to meet

約束をする場合の英文を書く

第7回 Unit 6 I have to apologize to you

謝罪の文を考える

第8回 Unit 1 ～ Unit 6 (復習)

Unit 1 から Unit 6 までの重要表現や語彙の復習をする

第9回 Unit 7 Room for two?

予約する場合の英文を考える

第10回 Unit 8 I have a problem

苦情を述べる場合の英文

第11回 Unit 9 We would like to invite you to a party!

招待する場合に使える英文

第12回 Unit 10 How to get to his place?

道案内の英文を書く

第13回 Unit 11 This is just a reminder

リマインダーを送る場合

第14回 Unit 12 Thank you for the invitation, but...

誘いを断る場合の英文を考える

第15回 Unit 7 ～ Unit 12(復習)

Unit 7 ～ Unit 12 の重要表現や語彙の復習をする

定期試験

科目名：ライティングA			
英文名：Writing A			
担当者：木南 法子			
単 位：	開講年次：	開講期：	必修選択の別：

■授業概要・方法等

自分の伝えたいことが読み手に正確に伝わるように英文を考え、書く練習をする。英文エッセイの構造を理解し、論理的な英文を書くための基礎訓練をする。

■学習・教育目標および到達目標

語彙、文法、英語らしい表現を習得し、適切に使うことができる。
ライティングに必要な英文構造を理解する。
理科系の研究や仕事をする上で必要な英文を作成する能力を養成する。

■授業時間外に必要な学修

授業前には配布資料または教科書の指示された箇所を予習し、わからない単語は辞書で確認しておくこと。課題の下書きは原則として授業時間外に仕上げること。

■教科書

[ISBN]9784523176046 『Skills for Better Writing—構造で書く英文エッセイ』(石谷 由美子, 南雲堂: 2008)

■関連科目

ライティングB

■成績評価方法および基準

定期試験 40%
授業平常点(課題、ペア・グループワーク、口頭発表等) 60%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行う。

■研究室・E-mailアドレス

初回の授業で通知する。

■オフィスアワー

月曜日2限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 インTRODクシヨン

成績評価、授業運営等の説明。process writingについて。

第2回 パラグラフの構成①

パラグラフの構成、Topic Sentence、Supporting Sentences、Concluding Sentenceの書き方。

第3回 パラグラフの構成②

パラグラフの構成、Topic Sentence、Supporting Sentences、Concluding Sentenceの書き方。パラグラフを書く際の注意点。

第4回 Unit 1: Conclusions/ Reasons

A: Model Essay
B: Writing Task

第5回 Unit 1: Conclusions/ Reasons

C: オリジナル・エッセイの作成

第6回 Unit 2: Analysis

A: Model Essay

B : Writing Task

第7回 Unit 2: Analysis

C:オリジナル・エッセイの作成

第8回 Unit3: Theory/ Proof

A : Model Essay

B : Writing Task

第9回 Unit3: Theory/ Proof

C:オリジナル・エッセイの作成

第10回 Unit 4: Controversy

A : Model Essay

B : Writing Task

第11回 Unit 4: Controversy

C:オリジナル・エッセイの作成

第12回 Unit 5: Comparison/ Contrast

A : Model Essay

B : Writing Task

第13回 Unit 5: Comparison/ Contrast

C:オリジナル・エッセイの作成

第14回 Unit 6 Classification

A : Model Essay

B : Writing Task

第15回 Unit 6 Classification

C:オリジナル・エッセイの作成

定期試験

エッセイ・ライティング

科目名：ライティングA			
英文名：Writing A			
担当者：ハマザキ ヨシコ 濱崎 佳子			
単 位：	開講年次：	開講期：	必修選択の別：

■授業概要・方法等

グローバル化が最も進んでいる理系の研究や職場環境では、日常生活で使われる簡単な英文から、レポートや論文まで様々な文書を作成できることが求められています。一つの文書は、いくつかのパラグラフによって論理的に組み立てられています。優れたエッセイや記事、医療系の企業のホームページから、英文がどのように組み立てられているか、英文構造や品詞の役割を確認し、応用していきましょう。授業を通して、小論文を書く練習をし、本格的な報告書や学術論文を完成させる土台を築いてください。

大まかな授業計画は下記に示していますが、授業の進行に応じて調整する場合があります。
この授業は、「ライティングB」と連携しています。

■学習・教育目標および到達目標

- ・パラグラフの構造が理解できる。
- ・読み手を念頭にした文章の作成法を理解する。
- ・文法の用法を理解し、用途に応じた英文の構造を理解しながら、エッセイのパラグラフを作成できるようになる。

■授業時間外に必要な学修

- ・テキスト、関連資料の予習・復習
- ・課題の作成

■教科書

1. [ISBN]9784764739888『Get It Write—コーパス活用英文ライティング入門』(市川泰弘, 金星堂: 2014)
2. プリント配布教材

■関連科目

ライティング B

■成績評価方法および基準

授業運営（発表、ペア、グループワーク、課題、小テスト）60%
定期レポート試験 40%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

21号館2階講師控室

■オフィスアワー

原則として授業時間の後または別途指示する時間帯

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション（授業運営および成績評価等について）、自己紹介

授業の運営の方法と最終目標について確認する。授業では、ペアやグループでの作業を説明する。自己紹介をする。

第2回 Unit 1 Making Friends at College

パラグラフの構成の復習をする。

基本的な動詞の使い方（1）

第3回 Unit 2 My Frantic Day

時間軸でパラグラフを構成する

基本的な動詞の使い方（2）

第4回 Unit 3 Time is Not Money

重要度の順でパラグラフを構成する

動詞＋名詞句の使い方（1）

第5回 Unit 4 Tokyo Disney Resort

空間秩序でパラグラフを構成する
動詞＋名詞句の使い方（2）

第6回 Unit 5 Overseas Travel

メインアイデアを補う
間違いやすい動詞の使い方（1）

第7回 Unit 6 Sugar Blamed for Increased Obesity Worldwide

指示を与えるパラグラフの書き方
間違いやすい動詞の使い方（2）

第8回 第1回から第7回のまとめ

アウトラインの作成をしてから、小論文を書く練習をする。

第9回 Unit 7 Making the Perfect Cup of Coffee

指示を与えるパラグラフの書き方
間違いやすい名詞の使い方（1）

第10回 Unit 8 The Statue of Liberty

描写をするパラグラフの書き方
間違いやすい名詞の使い方（2）

第11回 Unit 9 Opinion

主張を述べるパラグラフの書き方
間違いやすい形容詞の使い方（1）

第12回 Unit 10 English Language Newspaper

比較と対照を使ったパラグラフの書き方
間違いやすい形容詞の使い方（2）

第13回 Unit 11 Managing Stress

原因と結果についてのパラグラフの書き方
間違いやすい副詞の使い方

第14回 Unit 12 Writing Personal and Business Letters

私信とビジネス・レターの書き方
その他の間違いやすい表現

第15回 総括

それぞれのレポートについて、発表を行う。

定期レポート試験

科目名：ライティングB

英文名：Writing B

担当者：^{キスダ サチコ}安田 幸子

単 位：

開講年次：

開講期：

必修選択の別：

■授業概要・方法等

自分の言いたいことが読み手に正確に伝わるように英文を考えて書く練習をする。さまざまなテーマの英文を読み、それを参考にして、まとまりのある文章を書く。

■学習・教育目標および到達目標

語彙、文法、英語らしい表現を習得し、適切に使うことができる。
各トピックに適した文章を書くことができる。

■授業時間外に必要な学修

授業に向けてテキストの単語等の意味の確認、練習問題の予習をしておく。小テストや課題提出のための準備をする。

■教科書

[ISBN]9784764739574 『Eメールで学ぶ英文ライティングの基礎—Write Me Back Soon!』(成岡 恵子, 金星堂: 2013)

■参考文献

授業時に必要に応じて指示する。

■関連科目

ライティングA

■成績評価方法および基準

定期試験 40%

授業平常点(小テスト、提出課題、口頭発表) 60%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行う。

■研究室・E-mailアドレス

21号館 講師控室

■オフィスアワー

月曜日、水曜日 12:30～13:00

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 インTRODクションとUnit 13

授業の進め方の説明、その他の注意事項。Unit 13 から英作文の練習

第2回 Unit 13 Good luck!

励ましの表現

第3回 Unit 14 Congratulations!

祝福する場合の表現

第4回 Unit 15 It would be appreciated if...

フォーマルな依頼をする

第5回 Unit 16 Can I make an offer?

申し出のさまざまな表現

第6回 Unit 17 Thank you!

感謝の意を述べる

第7回 Unit 18 You know what?

報告する場合の表現

第8回 Unit 13～Unit 18(復習)

Unit 13～Unit 18の語彙と表現の復習

第9回 Unit 19 Get well soon!

お見舞いの気持ちを伝える英文を書く

第10回 Unit 20 Anybody interested?

複数の相手に呼びかけるメッセージを書く

第11回 Unit 21 Season's Greetings!

季節の挨拶を考える

第12回 Unit 22 I would like to apply for a position

応募する内容や志望動機を伝える英文を書く

第13回 Unit 23 Inquiry about scholarship

問い合わせの表現を学ぶ

第14回 Unit 24 Sorry for your loss

お悔やみを述べる文を考える

第15回 Unit 19～Unit 24(復習)

Unit 19～Unit 24から語彙と表現の復習をする

定期試験

科目名：ライティングB			
英文名：Writing B			
担当者： ^{キナミ ノリコ} 木南 法子			
単 位：	開講年次：	開講期：	必修選択の別：

■授業概要・方法等

自分の伝えたいことが読み手に正確に伝わるように英文を考え、書く練習をする。英文エッセイの構造を理解し、論理的な英文を書くための基礎訓練をする。

■学習・教育目標および到達目標

語彙、文法、英語らしい表現を習得し、適切に使うことができる。
ライティングに必要な英文構造を理解する。
理科系の研究や仕事をする上で必要な英文を作成する能力を養成する。

■授業時間外に必要な学修

授業前には配布資料または教科書の指示された箇所を予習し、わからない単語は辞書で確認しておくこと。課題の下書きは原則として授業時間外に仕上げること。

■教科書

[ISBN]9784523176046 『Skills for Better Writing—構造で書く英文エッセイ』(石谷 由美子, 南雲堂:2008)

■関連科目

ライティングA

■成績評価方法および基準

定期試験 40%
授業平常点(課題、ペア・グループワーク、口頭発表等) 60%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行う。

■研究室・E-mailアドレス

初回の授業で通知する。

■オフィスアワー

月曜日2限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Unit 7 Instructions

A: Model Essay
B: Writing Task

第2回 Unit 7 Instructions

C:オリジナル・エッセイの作成

第3回 Unit 8 Chronological Order (History)

A: Model Essay
B: Writing Task

第4回 Unit 8 Chronological Order (History)

C:オリジナル・エッセイの作成

第5回 Unit 9 Cause & Effect

A: Model Essay
B: Writing Task

第6回 Unit 9 Cause & Effect

C:オリジナル・エッセイの作成

第7回 Unit 10 Process

A : Model Essay

B : Writing Task

第8回 Unit 10 Process

C:オリジナル・エッセイの作成

第9回 Unit 11 Explanation (New Product)

A : Model Essay

B : Writing Task

第10回 Unit 11 Explanation (New Product)

C:オリジナル・エッセイの作成

第11回 Unit 12 Definition

A : Model Essay

B : Writing Task

第12回 Unit 12 Definition

C:オリジナル・エッセイの作成

第13回 Unit 13 Explanation (Statistics)

A : Model Essay

B : Writing Task

第14回 Unit 13 Explanation (Statistics)

C:オリジナル・エッセイの作成

第15回 総復習

エッセイ・ライティングの総復習。エッセイの構造の確認など。

定期試験

エッセイ・ライティング

科目名：ライティングB			
英文名：Writing B			
担当者：濱崎 佳子 <small>ハマザキ ヨシコ</small>			
単 位：	開講年次：	開講期：	必修選択の別：

■授業概要・方法等

グローバル化が最も進んでいる理系の研究や職場環境では、日常生活で使われる簡単な英文から、レポートや論文まで様々な文書を作成できることが求められています。一つの文書は、いくつかのパラグラフによって論理的に組み立てられています。優れたエッセイや記事、医療系の企業のホームページから、英文がどのように組み立てられているか、英文構造や品詞の役割を確認し、応用していきましょう。授業を通して、小論文を書く練習をし、本格的な報告書や学術論文を完成させる土台を築いてください。

大まかな授業計画は下記に示していますが、授業の進行に応じて調整する場合があります。
この授業は、「ライティングA」と連携しています。

■学習・教育目標および到達目標

- ・パラグラフの構造が理解できる。
- ・読み手を念頭にした文章の作成法を理解する。
- ・文法の用法を理解し、用途に応じた英文の構造を理解しながら、エッセイのパラグラフを作成できるようになる。

■授業時間外に必要な学修

- ・テキスト、関連資料の予習・復習
- ・課題の作成

■教科書

1. Kate Elwood, Leonid Yoffe 『From Paragrash to Essay』、2012年、南雲堂。
2. プリント配布教材

■関連科目

ライティング A

■成績評価方法および基準

授業運営（発表、ペア、グループワーク、課題、小テスト）60%
定期レポート試験 40%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

21号館2階講師控室

■オフィスアワー

原則として授業時間の後または別途指示する時間帯

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション（授業運営および成績評価等について）、自己紹介

授業の運営の方法と最終目標について確認する。授業では、ペアやグループでの作業を説明する。自己紹介をする。

第2回 Unit 1 I am going to write one paragraph

パラグラフの構成の復習をする。

第3回 Unit 2 Trying to be polite

適切な文体を選択する練習をする。

第4回 Unit 3 What do you think?

意見を明確に述べることを学ぶ。根拠に基づいて意見を主張する練習をする。

第5回 Unit 4 This may work!

問題解決の方法を学ぶ。問題を明確にし、適切な解決法を提示する練習をする。

第6回 Unit 5 How could it happen?

因果関係を示すパラグラフを分析し、まとめていく練習をする。

第7回 Unit 6 What is an essay?

小論文の構成（序論、本論、結論）とアウトラインの作成法を学ぶ。

第8回 Unit7 Who am I?

アウトラインの作成をしてから、小論文を書く練習をする。

第9回 Unit 8 Let me tell you about a beautiful place (1)!

叙述（描写）文の特徴を分析する。

第10回 Unit 9 Let me tell you about a beautiful place (2)!

叙述文（描写）を書く練習をする。

第11回 Unit 10 That's a good point!(1)

説得文の特徴を分析する。

第12回 Unit 11 That's a good point! (2)

説得文を書く練習をする。

第13回 Unit 12 How are they different? (1) (2)

比較をする文の特徴を分析する。比較をする文を書く練習をする。

第14回 Unit 14 Let's sort it out! (1)

分類をする文の特徴を分析する。

第15回 Unit 15 Let's sort it out! (2)

分類をする文を書く練習をする。

定期試験

科目名： TOEIC 3			
英文名： TOEIC 3			
担当者： ^{トウノ} 東野 ツヤ子			
単 位：	開講年次：	開講期：	必修選択の別：

■授業概要・方法等

既にTOEIC550点以上を取得している学生を対象に、600点以上取得するための演習を行います。

■学習・教育目標および到達目標

受講生は、この授業を履修することによって、以下の事ができることを目指します。

- (1)TOEICに必要な語彙力が身につく
- (2)比較的長い英文を正確に聞き取れることができる
- (3)問題解答のポイントがわかる

■授業時間外に必要な学修

各講義で指示された課題に取り組むこと

■教科書

[ISBN]9784863122505 『LEVEL-UP TRAINER FOR THE TOEIC TEST』(横川綾子、センゲージラーニング：2014)

■参考文献

[ISBN]9784906033430 『TOEICテスト新公式問題集vol.5』(国際ビジネスコミュニケーション協会：2012)

[ISBN]9784906033461 『TOEICテスト新公式問題集vol.6』(国際ビジネスコミュニケーション協会：2014)

■関連科目

TOEIC 4

■成績評価方法および基準

定期試験 40%

小テスト 20%

発表・課題 40%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

21号館2階講師控室、t.touno@kzc.biglobe.ne.jp

■オフィスアワー

月曜日と金曜日の昼休み

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

Unit 1

オリエンテーション：履修の諸注意、授業の進め方等について説明します。

Unit 1 TOEICを知る

第2回 Unit 2

基本戦略(1)

第3回 Unit 3

基本戦略(2)

第4回 Pre-test

テキストのPre-testを実施します

第5回 Unit 4

英文の基本構造を見抜く

第6回 Unit 5

解答根拠の登場順

第7回 Unit 6

正解の言い換えパターンを知る

第8回 Unit 7

機能疑問文を聞き取る

第9回 Unit 8

動詞の時制を見極める

第10回 Unit 9

接続詞 vs. 前置詞

第11回 Unit 10

ダブルパッセージの攻略

第12回 Unit 11

接続副詞に強くなる

第13回 Unit 12

NOT型設問のコツ

第14回 Post-test

テキストのPost-testを実施します。

第15回 まとめ

テキスト以外の教材での演習

定期試験

前期の授業内容に関して、試験を実施します。

科目名： TOEIC 4			
英文名： TOEIC 4			
担当者： トウノ 東野 ツヤ子			
単 位：	開講年次：	開講期：	必修選択の別：

■授業概要・方法等

既にTOEIC550点以上を取得している学生を対象に、600点以上を取得するための演習を行います。

■学習・教育目標および到達目標

受講生は、この授業を履修することによって、以下の事ができるようになることを目指します。

- (1)TOEICに必要な語彙力が身につく
- (2)比較的長い英文を正確に聞き取れることができる
- (3)問題解答のポイントがわかる

■授業時間外に必要な学修

各講義で指示された課題に取り組むこと

■教科書

[ISBN]9784791933853 『TOEICテストへの総合アプローチ—Best Practice for the TOEIC Test』(吉塚 弘, 成美堂 : 2014)

■参考文献

[ISBN]9784906033430 『TOEICテスト新公式問題集vol.5』(国際ビジネスコミュニケーション協会 : 2012)

[ISBN]9784906033461 『TOEICテスト新公式問題集vol.6』(国際ビジネスコミュニケーション協会 : 2014)

■関連科目

TOEIC 3

■成績評価方法および基準

定期試験 40%

小テスト 20%

発表・課題 40%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

21号館2階講師控室、t.touno@kzc.biglobe.ne.jp

■オフィスアワー

月曜日と金曜日の昼休み

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

Unit 1

オリエンテーション：履修の諸注意、授業の進め方等について説明します。

Unit 1 Restaurant

第2回 Unit 1

Restaurant

第3回 Unit 2

Entertainment

第4回 Unit 3

Business

第5回 Unit 4

Office

第6回 Unit 5

Telephone

第7回 Unit 6

Letter & E-mail

第8回 Unit 7

Health

第9回 Unit 8

Bank & Post Office

第10回 Unit 9

New Product

第11回 Unit 10

Travel (1)

第12回 Unit 11

Travel (2)

第13回 Unit 12

Job Offer

第14回 Unit 13

Shopping

第15回 Unit 14

Education

定期試験

後期の授業内容に関して、試験を実施します。

科目名：アドバンストTOEIC A

英文名：Advanced TOEIC A

担当者：久保 祐美子

単 位：

開講年次：

開講期：

必修選択の別：

■授業概要・方法等

総合的な英語力と解法のtechniqueを習得することで、TOEICのscore upを目指します。

■学習・教育目標および到達目標

- 1) TOEIC 700点以上を目指す。
- 2) 授業では、language building activitiesを通じて語彙力を強化する。
- 3) 問題を解く中で、既習内容の定着を図りながら、TOEICのListening TestとReading Testを効果的に攻略できるような能力を身につける。

■授業時間外に必要な学修

- 1) 本文中の重要表現・新出単語の意味をcontextから推察する習慣をつけること。
- 2) paragraph readingを習慣付けることで、本文の内容を把握する力を身につけること。
- 3) 授業で指示された課題に取り組むこと。
- 4) 授業で取り上げる頻出文法事項について、予習復習をすること。
- 5) 不得意箇所がある場合は、授業中に質問できるように準備しておくこと。
- 6) 普段から英語でNewsを聴くなど、英語を聞く習慣を身につけること。
- 7) 学期中に一度はTOEICを受験しScoreを提出することが望ましい。

■教科書

[ISBN]9780194529594 『Tactics for Toeic: Listening and Reading Test Pack(Book+CD-ROM)』 (Grant Trew,Oxford Univ Pr (Sd))

■参考文献

[ISBN]9784906033423 『TOEICテスト公式プラクティス リスニング編』 (Educational Testing Service, 国際ビジネスコミュニケーション協会)

[ISBN]9784906033409 『TOEICテスト新公式問題集 vol.4』 (Educational Testing Service, 国際ビジネスコミュニケーション協会)

■関連科目

Advanced TOEIC B/ TOEIC 上級B

■成績評価方法および基準

定期試験 40%

小テスト 20%

口頭発表および課題 40%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

21号館2階講師控室

kuboy-yuming@kindai.ac.jp

■オフィスアワー

月曜日12:40-13:00

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 講義概要の説明+Unit 7 Reading Test Part 7

講義の進め方の説明、成績評価方法と基準の説明を行った後、授業に入ります。

第2回 Unit 4 Listening Test Part 4

確認クイズ (Unit 7) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。
listening strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

第3回 Unit 3 Listening Test Part 3

確認クイズ (Unit 4) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。
listening strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

第4回 Unit 2 Listening Test Part 2

確認クイズ (Unit 3) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。
listening strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

第5回 Unit 5 Reading Test Part 5

確認クイズ (Unit 2) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。
Reading strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

第6回 Unit 6 Reading Test Part 6

確認クイズ (Unit 5) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。
Reading strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

第7回 Unit 1 Listening Test Part 1

確認クイズ (Unit 6) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。
listening strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

第8回 Unit 14 Reading Test Part 7

確認クイズ (Unit 1) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。
Reading strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

第9回 Unit 11 Listening Test Part 1

確認クイズ (Unit 14) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。
listening strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

第10回 Unit 10 Listening Test Part 3

確認クイズ (Unit 11) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。
listening strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習にします。

第11回 Unit 9 Listening Test Part 2

確認クイズ (Unit 10) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。
listening strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

第12回 Unit 12 Reading Test Part 5

確認クイズ (Unit 9) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。
Reading strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

第13回 Unit 13 Reading Test Part 6

確認クイズ (Unit 12) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。
Reading strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

第14回 Unit 8 Listening Test Part 1

確認クイズ (Unit 13) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。
listening strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

第15回 Review

確認クイズ (Unit 8) を行った後、これまで練習してきた中で特に不得意に感じた箇所の練習を重点的に行います。

定期試験

科目名：アドバンストTOEIC B

英文名：Advanced TOEIC B

担当者：久保 祐美子

単 位：	開講年次：	開講期：	必修選択の別：
------	-------	------	---------

■授業概要・方法等

総合的な英語力と解法のtechniqueを習得することで、TOEICのscore upを目指す。

■学習・教育目標および到達目標

- 1) TOEIC 700点以上をめざす。
- 2) language building activitiesを通じて語彙力を強化する。
- 3) 問題を解く中で既習内容の定着を図りながら、TOEICのListening TestとReading Testを効果的に攻略できるような能力を身につける。

■授業時間外に必要な学修

- 1) 本文中の重要表現・新出単語の意味を、contextから推察する習慣をつけること。
- 2) paragraph readingを習慣付けることで、本文の内容を把握する力を身につけること。
- 3) 授業で取り上げる頻出文法事項について、予習復習をすること。
- 4) 不得意箇所がある場合は、授業中に質問できるように準備をしておくこと。
- 5) 普段から英語でNewsを聴くなど、英語を聞く習慣を身につけること。
- 6) 学期中に一度はTOEICを受験し、Scoreを提出することが望ましい。

■教科書

[ISBN]9780194529594 『Tactics for ToEIC: Listening and Reading Test Pack(Book+CD-ROM)』(Grant Trew,Oxford Univ Pr (Sd))

■参考文献

[ISBN]9784906033423 『TOEICテスト公式プラクティス リスニング編』(Educational Testing Service, 国際ビジネスコミュニケーション協会)

[ISBN]9784906033430 『TOEICテスト新公式問題集 vol.5』(Educational Testing Service, 国際ビジネスコミュニケーション協会)

■関連科目

アドバンストTOEIC A/ TOEIC 上級A

■成績評価方法および基準

定期試験 40%

小テスト 30%

口頭発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

21号館2階講師控室

kuboy-yuming@kindai.ac.jp

■オフィスアワー

月曜日12:40-13:00

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 講義概要の説明、Unit 21 Reading Test Part 7

授業方針や、評価の仕方等を説明した後、授業に入ります。

Reading strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

第2回 Unit 18 Listening Test Part 4

確認クイズ (Unit 21) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。

listening strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

第3回 Unit 17 Listening Test Part 3

確認クイズ (Unit 18) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。
listening strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

第4回 Unit 16 Listening Test Part 2

確認クイズ (Unit 17) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。
listening strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

第5回 Unit 19 Reading test Part 5

確認クイズ (Unit 16) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。
Reading strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

第6回 Unit 20 Reading Test Part 6

確認クイズ (Unit 19) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。
Reading strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

第7回 Unit 15 Listening Test Part 1

確認クイズ (Unit 20) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。
listening strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

第8回 Unit 28 Reading Test Part 7

確認クイズ (Unit 15) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。
Reading strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

第9回 Unit 25 Listening Test Part 4

確認クイズ (Unit 28) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。
listening strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

第10回 Unit 24 Listening Test Part 3

確認クイズ (Unit 25) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。
listening strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

第11回 Unit 23 Listening Test Part 2

確認クイズ (Unit 24) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。
listening strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

第12回 Unit 26 Reading Test Part 5

確認クイズ (Unit 23) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。
Reading strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

第13回 Unit 27 Reading Test Part 6

確認クイズ (Unit 26) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。
Reading strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

第14回 Unit 22 Listening Test Part 1

確認クイズ (Unit 27) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。
listening strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

第15回 Review

確認クイズ (Unit 22) を行った後、これまで練習してきた中で、特に不得意に感じた箇所の練習を重点的に行います。

定期試験

科目名：インターネットイングリッシュ A

英文名：Internet English A

担当者：^{カメダ エイチロウ}亀田 英一郎

単 位：

開講年次：

開講期：

必修選択の別：

■授業概要・方法等

この授業では、学生が関心のあるテーマについてインターネットでリサーチし様々な資料を集める。また、ネット上な様々なデータベースも利用する。そして、その成果をパワーポイントを使い英語で発表する。
また、インターネットの安全性に関する英語のエッセイも読む。

■学習・教育目標および到達目標

- ◆ 関心のあるテーマについてリサーチし、幅広い知識を獲得する。
- ◆ インターネットを使ったりリサーチの技術を身に付ける。
- ◆ 関心のあるテーマについてパワーポイントを使って英語で発表する。

■授業時間外に必要な学修

- ◆ テーマに関するリサーチを進める。
- ◆ 課題に取り組む。

■教科書

レジユメを準備する。

■関連科目

インターネットイングリッシュ B

■成績評価方法および基準

- ◆ 定期試験 40%
- ◆ 発表・課題 60%

■研究室・E-mailアドレス

21号館2階講師室
kameda@kindai.ac.jp

■オフィスアワー

木曜日12:20～12:45

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 テーマを決める リサーチの手順
 - 第3回 ジャパンナレッジを使う
 - 第4回 マインドマップを作ってテーマを深める
 - 第5回 英語での発表の仕方 スライドの使い方
 - 第6, 7回 中間発表
 - 第8回 中間発表の講評 発表の仕方
 - 第9回 ファンクションキーの使い方を学ぶ
 - 第10, 11回 エッセイ” Safe Use of Computers” を読む
 - 第12回 最終発表に向けて
 - 第13～15回 最終発表
- 定期試験

科目名：インターネットイングリッシュ B			
英文名：Internet English B			
担当者： <small>カメダ エイチロウ</small> 亀田 英一郎			
単 位：	開講年次：	開講期：	必修選択の別：

■授業概要・方法等

この授業では、学生が関心のあるテーマについてインターネットやでリサーチし様々な資料を集める。また、ネット上な様々なデータベースも利用する。そして、リサーチの結果をパワーポイントを使い英語で発表する。また、リサーチの結果を英語のレポートにまとめる。そのために、レポート・論文の構成・書き方と参考文献表の作り方を学ぶ。

■学習・教育目標および到達目標

- ◆ 自分の関心事をもとにリサーチを行い、その成果を英語で発表することができるようになる。
- ◆ 様々なデータベースを使いこなせるようになる。
- ◆ 分かりやすいスライドを作れるようになる。
- ◆ 英語の論文の構成と書き方を身に付ける。
- ◆ 1000語くらいの英語の論文を書けるようになる。

■授業時間外に必要な学修

- ◆ テーマに関するリサーチを進める。
- ◆ 課題に取り組む。

■教科書

レジュメを用意する。

■関連科目

インターネットイングリッシュ A

■成績評価方法および基準

- ◆ 定期試験 40%
- ◆ 発表・課題 60%

■研究室・E-mailアドレス

21号館2階講師室
kameda@kindai.ac.jp

■オフィスアワー

月曜日12:20～12:45

■授業計画の項目・内容及び到達目標

【導入】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 英語論文の書き方入門

【リサーチの下準備（アイデアを練る）】

- 第3回 Free writingでアイデアを練る
- 第4回 情報を集める

【論文の書き方①】

- 第5回 パラグラフ・ライティングの方法
- 第6回 論文の構成を学ぶ

【中間発表】

- 第7回 中間発表

【論文の書き方②】

- 第8回 序論の書き方
- 第9回 結論の書き方
- 第10回 校正と参考文献の作成
- 第11回 アブストラクト（要約）の書き方

【発表準備】

- 第12回 最終発表の準備

【最終発表】

- 第13～15回 最終発表、レポート提出

定期試験

科目名： 留学英語A

英文名： English for Studying Abroad A

担当者： 小坂 裕美

単 位：

開講年次：

開講期：

必修選択の別：

■授業概要・方法等

英語圏の大学への留学の際に必要なTOEFLテスト受験を視野に入れ、グローバル化に対応できる英語力を身に付けるための授業です。TOEFLテストのリスニング・リーディングセクションの練習問題に取り組んでTOEFLテストの形式を把握し、各セクションの問題の攻略法を学習します。TOEFLテストの練習問題を用いたディクテーションや音読の練習も適宜行い、様々な角度から英語力の底上げを図ります。

■学習・教育目標および到達目標

- ・ TOEFLテスト問題の効果的な攻略法を身に付け、TOEFL(ITP)460点、TOEFL(iBT)80点以上取得レベルの英語力を身に付けます。
- ・ リスニング力とリーディング力を向上させ、グローバル化に対応するための英語力を培います。
- ・ 大学レベルで必要とされるAcademic Englishがどのようなものであるかを理解します。

■授業時間外に必要な学修

- ・ 指定された箇所の予習や宿題を行うこと。(特にリーディング問題)
- ・ 目標を立てて、授業で学習した箇所の復習に積極的に取り組むこと。

■教科書

プリント教材を配布して使用します。

■参考文献

必要に応じて授業中に紹介します。

■関連科目

留学英語B

■成績評価方法および基準

定期試験 40%

小テスト 20%

口頭発表および課題 40%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

21号館2階 講師控室

■オフィスアワー

月曜 12:20-13:00

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 イン트로ダクション

授業の進め方や成績評価方法についての説明と、TOEFLテストの概要説明

第2回 TOEFLミニ模擬試験

全体像把握のためのミニ模擬試験と解説

第3回 Lesson 1: Listening Part A/B & Reading

リスニング(短い会話・長めの会話)、文法(文構造(1))、長文読解

第4回 Lesson 2: Listening Part C & Reading

リスニング(講義・学術的なトーク)、文法(文構造(2))、長文読解

第5回 Lesson 3: Listening Part A/B & Reading

リスニング(短い会話・長めの会話)、文法(動詞(1))、長文読解

第6回 Lesson 4: Listening Part C & Reading

リスニング(講義・学術的なトーク)、文法(動詞(2))、長文読解

第7回 Lesson 5: Listening Part A/B & Reading

リスニング(短い会話・長めの会話)、文法(名詞・代名詞(1))、長文読解

第8回 Lesson 6: Listening Part C & Reading

リスニング(講義・学術的なトーク)、文法(名詞・代名詞(2))、長文読解

第9回 Review (Lesson 1-6)

Lesson 1-6の学習内容の理解度チェック

第10回 Lesson 7: Listening Part A/B & Reading

リスニング(短い会話・長めの会話)、文法(形容詞・副詞・比較(1))、長文読解

第11回 Lesson 8: Listening Part C & Reading

リスニング(講義・学術的なトーク)、文法(形容詞・副詞・比較(2))、長文読解

第12回 Lesson 9: Listening Part A/B & Reading

リスニング(短い会話・長めの会話)、文法(接続詞・関係詞・前置詞(1))、長文読解

第13回 Lesson 10: Listening Part C & Reading

リスニング(講義・学術的なトーク)、文法(接続詞・関係詞・前置詞(2))、長文読解

第14回 Lesson 11: Listening Part C & Reading

リスニング(講義・学術的なトーク)、文法(語順・慣用表現など)、長文読解

第15回 Review (Lesson 7-11)

Lesson 7-11の学習内容の理解度チェック

定期試験

授業での学習事項に基づいて出題します。

科目名： 留学英語A			
英文名： English for Studying Abroad A			
担当者： <small>タナカ ヒロアキ</small> 田中 博晃			
単 位：	開講年次：	開講期：	必修選択の別：

■授業概要・方法等

英語圏の大学への留学に必要なTOEFLテストの基礎的知識を習得し、リーディングを中心とした問題演習を行います。

■学習・教育目標および到達目標

- ・ TOEFL (ITP) で460以上、(iBT) で80以上取得の英語力を身につける。
- ・ TOEFL問題演習を通じて、Academic EnglishあるいはCampus Englishを学び、グローバル化に対応するための学習をする。

■授業時間外に必要な学修

英字新聞、英語雑誌、インターネットの英語で書かれているサイトなど、自分の興味のある分野のものを中心に読みたり聞いたりすることが効果的である。

■教科書

[ISBN]9784523175865『Topics and Tactics for the TOEFL Test—戦略的トーフルテスト対策演習』(ジム クヌーセン, 南雲堂: 2008)

■成績評価方法および基準

授業への取り組みと小テスト 60%
定期試験 40%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規定に基づいて行う。

■オフィスアワー

水曜日 2時間目

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

授業の説明を行います。

第2回 Critical Thinking and Reading

言語運用科目に関連するTOEFLのリスニングの問題演習を行う。

第3回 Critical Thinking and Reading

言語運用科目に関連するTOEFLのリーディングの問題演習を行う。

第4回 Essay Types and Strategies

言語運用科目に関連するTOEFLのリスニングの問題演習を行う。

第5回 Essay Types and Strategies

言語運用科目に関連するTOEFLのリーディングの問題演習を行う。

第6回 The Elements of Fiction and Drama

言語運用科目に関連するTOEFLのリスニングの問題演習を行う。

第7回 The Elements of Fiction and Drama

言語運用科目に関連するTOEFLのリーディングの問題演習を行う。

第8回 Sociology and Religion

社会学に関連するTOEFLのリスニングの問題演習を行う。

第9回 Sociology and Religion

社会学に関連するTOEFLのリーディングの問題演習を行う。

第10回 PTSD

社会学に関連するTOEFLのリスニングの問題演習を行う。

第11回 PTSD

社会学に関連するTOEFLのリーディングの問題演習を行う。

第12回 Transforming Business

社会学に関連するTOEFLのリスニングの問題演習を行う。

第13回 Transforming Business

社会学に関連するTOEFLのリーディングの問題演習を行う。

第14回 Zoos

科学と自然に関連するTOEFLのリスニングの問題演習を行う。

第15回 Zoos

科学と自然に関連するTOEFLのリーディングの問題演習を行う。

期末テストを実施します。

科目名： 留学英語B			
英文名： English for Studying Abroad B			
担当者： <small>ロイタ ヒロミ</small> 小坂 裕美			
単 位：	開講年次：	開講期：	必修選択の別：

■授業概要・方法等

英語圏の大学への留学の際に必要なTOEFLテスト受験を視野に入れ、グローバル化に対応できる英語力を身に付けるための授業です。TOEFLテストのリスニング・リーディングセクションの練習問題に取り組んでTOEFLテストの形式を把握し、各セクションの問題の攻略法を学習します。TOEFLテストの練習問題を用いたディクテーションや音読の練習も適宜行い、様々な角度から英語力の底上げを図ります。

■学習・教育目標および到達目標

- ・ TOEFLテスト問題の効果的な攻略法を身に付け、TOEFL(ITP)460点、TOEFL(iBT)80点以上取得レベルの英語力を身に付けます。
- ・ リスニング力とリーディング力を向上させ、グローバル化に対応するための英語力を培います。
- ・ 大学レベルで必要とされるAcademic Englishがどのようなものであるかを理解します。

■授業時間外に必要な学修

- ・ 指定された箇所の予習や宿題を行うこと。(特にリーディング問題)
- ・ 目標を立てて、授業で学習した箇所の復習に積極的に取り組むこと。

■教科書

プリント教材を配布して使用します。

■参考文献

必要に応じて授業中に紹介します。

■関連科目

留学英語A

■成績評価方法および基準

定期試験 40%
小テスト 20%
口頭発表および課題 40%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

21号館2階 講師控室

■オフィスアワー

月曜 12:20-13:00

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 イン트로ダクション

授業の進め方や成績評価方法についての説明を行う。

第2回 Lesson 12: Listening (授業/自然科学)

授業や自然科学をテーマにしたリスニング問題に取り組む。ディクテーションや音読練習も併せて行う。

第3回 Lesson 13: Reading (文法ミックス問題/長文読解)

さまざまな文法事項を織り交ぜた問題演習と、より発展的な長文読解。音読練習も適宜行う。

第4回 Lesson 14: Listening (課題/歴史)

課題や歴史をテーマにしたリスニング問題に取り組む。ディクテーションや音読練習も併せて行う。

第5回 Lesson 15: Reading (文法ミックス問題/長文読解)

さまざまな文法事項を織り交ぜた問題演習と、より発展的な長文読解。音読練習も適宜行う。

第6回 Lesson 16: Listening (履修登録/伝記)

履修登録や伝記をテーマにしたリスニング問題に取り組む。ディクテーションや音読練習も併せて行う。

第7回 Lesson 17: Reading (文法ミックス問題/長文読解)

さまざまな文法事項を織り交ぜた問題演習と、より発展的な長文読解。音読練習も適宜行う。

第8回 Review (Lesson 12-17)

Lesson 12-17の理解度チェックを行う。

第9回 Lesson 18: Listening (課外活動/社会科学)

課外活動や社会科学をテーマにしたリスニング問題に取り組む。ディクテーションや音読練習も併せて行う。

第10回 Lesson 19: Reading (文法ミックス問題/長文読解)

さまざまな文法事項を織り交ぜた問題演習と、より発展的な長文読解。音読練習も適宜行う。

第11回 Lesson 20: Listening (その他大学関連事項/一般的な関心事)

その他大学関連事項や一般的な関心事をテーマにしたリスニング問題に取り組む。ディクテーションや音読練習も併せて行う。

第12回 Lesson 21: Reading (文法ミックス問題/長文読解)

さまざまな文法事項を織り交ぜた問題演習と、より発展的な長文読解。音読練習も適宜行う。

第13回 Review (Lesson 18-21)

Lesson 18-21の理解度チェックを行う。

第14回 Feedback (Lesson 12-21)

弱点分析をもとにして、学期全体を通したフィードバックを行う。

第15回 ミニ模擬試験

ここまでの総括として、短く編集した模擬試験を用いた力試しを行う。

定期試験

授業での学習事項に基づいて出題します。

科目名： 留学英語B

英文名： English for Studying Abroad B

担当者： 田中 博晃

単 位： 開講年次： 開講期： 必修選択の別：

■授業概要・方法等

英語圏の大学への留学に必要なTOEFLテストの基礎的知識を習得し、リーディングを中心とした問題演習を行います。

■学習・教育目標および到達目標

- ・ TOEFL (ITP) で460以上、(iBT) で80以上取得の英語力を身につける。
- ・ TOEFL問題演習を通じて、Academic EnglishあるいはCampus Englishを学び、グローバル化に対応するための学習をする。

■授業時間外に必要な学修

英字新聞、英語雑誌、インターネットの英語で書かれているサイトなど、自分の興味のある分野のものを中心に読んで聞き聞いたりすることが効果的である。

■教科書

[ISBN]9784523175865『Topics and Tactics for the TOEFL Test—戦略的トーフルテスト対策演習』(ジム クヌーセン, 南雲堂: 2008)

■成績評価方法および基準

授業への取り組みと小テスト 60%
定期試験 40%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規定に基づいて行う。

■オフィスアワー

水曜日 2時間目

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

授業の説明を行う。

第2回 Energy and Energy Resources

自然科学に関連するTOEFLのリスニングの問題演習を行う。

第3回 Energy and Energy Resources

自然科学に関連するTOEFLのリーディングの問題演習を行う。

第4回 Bats

自然科学に関連するTOEFLのリスニングの問題演習を行う。

第5回 Bats

自然科学に関連するTOEFLのリーディングの問題演習を行う。

第6回 The Blacking Factory

人文科学に関連するTOEFLのリスニングの問題演習を行う。

第7回 The Blacking Factory

人文科学に関連するTOEFLのリーディングの問題演習を行う。

第8回 Oil Painting

人文科学に関連するTOEFLのリスニングの問題演習を行う。

第9回 Oil Painting

人文科学に関連するTOEFLのリーディングの問題演習を行う。

第10回 Philosophy and the good life

人文科学に関連するTOEFLのリスニングの問題演習を行う。

第11回 Philosophy and the good life

人文科学に関連するTOEFLのリーディングの問題演習を行う。

第12回 The Hoax

歴史に関連するTOEFLのリスニングの問題演習を行う。

第13回 The Hoax

歴史に関連するTOEFLのリーディングの問題演習を行う。

第14回 The Panama Canal

歴史に関連するTOEFLのリスニングの問題演習を行う。

第15回 The Panama Canal

歴史に関連するTOEFLのリーディングの問題演習を行う。

期末テストを実施します。

科目名： イングリッシュカルチャーセミナー A			
英文名： English Culture Seminar A			
担当者： <small>マキムラ コウワ</small> 牧村 興和			
単 位：	開講年次：	開講期：	必修選択の別：

■授業概要・方法等

ゼミ・演習形式で英語圏の文化に関する理解を深めながら英語を学ぶ。英語圏の人々の国々の言語、文化、社会などの話題について読み、自分の意見をレポートにまとめ、発表したり、ディスカッションをしたりすることにより、課題解決能力と高度な英語力を養成する。英語圏の文化に関する基礎的な情報を理解し、英語で書かれた新聞、雑誌、インターネット上の今日的话题について概要、要点を理解する能力を身につける。また、そうした情報を整理し、自分なりにまとめる能力や、自分の意見を発表したりする能力を身につける。

■学習・教育目標および到達目標

1) 比較的長め(約1,000語強)の文章の英文構造を正確に捉えながら、読み、内容を理解できるようになること、2) 各文章に出てきた単語、慣用句等々の意味と用法を身に付けること、3) 各文章に出てきた単語、慣用句の正確な聞き取りが出来るようになることを主目的とする。

■授業時間外に必要な学修

今回の授業で扱う文章のうち、正確な理解ができない文をあらかじめ把握した上で授業に臨むための下読み、および、その部分の試訳をしてもらうこと。小テストに向けて、教員が配布するプリントにある単語や慣用句等々の意味と用法を、同プリント、教科書該当文章、辞書を使って、十文に理解しておくこと。各文章中で発音が分からない英語を授業前に把握し、調べてくるか、教員に聞くかして、聞き取り課題に備えること、および、課題返却後、次の聞き取り課題までに、聞き逃し箇所に関して、発音を改めて身に付け直すための復習を行うこと。

■教科書

[ISBN]9784523177180『世界の視点を読む—A World of Ideas』(ジム・クヌーセン, 南雲堂: 2013)

■関連科目

履修希望者は「発展科目履修ガイドライン」中の「履修条件」を満たしている者に限る。

■成績評価方法および基準

定期試験 40%
小テスト 30%
発表・課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

21号館 2階 講師控室・kowam@hotmail.com

■オフィスアワー

金曜日 5限終了以降、要予約

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Psychology

小テストおよび本文の内容理解

第2回 Psychology

聞き取り課題

第3回 小テストおよび本文の内容理解

Women

第4回 Women

聞き取り課題

第5回 Young People

小テストおよび本文の内容理解

第6回 Young People

聞き取り課題

第7回 The Environment

小テストおよび本文の内容理解

第8回 The Environment

聞き取り課題

第9回 Politics

小テストおよび本文の内容理解

第10回 Politics

聞き取り課題

第11回 History

小テストおよび本文の内容理解

第12回 History

聞き取り課題

第13回 Sports

小テストおよび本文の内容理解

第14回 Sports

聞き取り課題

第15回 A World of Ideas 1

小テストおよび本文の内容理解

定期試験

学期中に扱った文章全てを範囲とし、教科書では問いていない、内容把握問題(選択問題および記述問題)を教員が作成し、出題する。

科目名： イングリッシュカルチャーセミナー B			
英文名： English Culture Seminar B			
担当者： 牧村 興和 <small>マキムラ コウワ</small>			
単 位：	開講年次：	開講期：	必修選択の別：

■授業概要・方法等

ゼミ・演習形式で英語圏の文化に関する理解を深めながら英語を学ぶ。英語圏の人々の国々の言語、文化、社会などの話題について読み、自分の意見をレポートにまとめ、発表したり、ディスカッションをしたりすることにより、課題解決能力と高度な英語力を養成する。英語圏の文化に関する基礎的な情報を理解し、英語で書かれた新聞、雑誌、インターネット上の今日的话题について概要、要点を理解する能力を身につける。また、そうした情報を整理し、自分なりにまとめる能力や、自分の意見を発表したりする能力を身につける。

■学習・教育目標および到達目標

1) 比較的長め(約1,000語強)の文章の英文構造を正確に捉えながら、読み、内容を理解できるようになること、2) 各文章に出てきた単語、慣用句等々の意味と用法を身に付けること、3) 各文章に出てきた単語、慣用句の正確な聞き取りが出来るようになることを主目的とする。

■授業時間外に必要な学修

今回の授業で扱う文章のうち、正確な理解ができない文をあらかじめ把握した上で授業に臨むための下読み、および、その部分の試訳をしてもらうこと。小テストに向けて、教員が配布するプリントにある単語や慣用句等々の意味と用法を、同プリント、教科書該当文章、辞書を使って、十文に理解しておくこと。各文章中で発音が分からない英語を授業前に把握し、調べてくるか、教員に聞くかして、聞き取り課題に備えること、および、課題返却後、次の聞き取り課題までに、聞き逃し箇所に関して、発音を改めて身に付け直すための復習を行うこと。

■教科書

[ISBN]9784523177180『世界の視点を読む—A World of Ideas』(ジム・クヌーセン, 南雲堂: 2013)

■関連科目

履修希望者は「発展科目履修ガイドライン」中の「履修条件」を満たしている者に限る。

■成績評価方法および基準

定期試験 40%
小テスト 30%
発表・課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

21号館 2階 講師控室・kowam@hotmail.com

■オフィスアワー

金曜日 5 限終了以降、要予約

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Food

小テストおよび本文の内容理解

第2回 Food

聞き取り課題

第3回 Space

小テストおよび本文の内容理解

第4回 Space

聞き取り課題

第5回 Language

小テストおよび本文の内容理解

第6回 Language

聞き取り課題

第7回 Reading

小テストおよび本文の内容理解

第8回 Reading

聞き取り課題

第9回 Family

小テストおよび本文の内容理解

第10回 Family

聞き取り課題

第11回 Work

小テストおよび本文の内容理解

第12回 Work

聞き取り課題

第13回 Education

小テストおよび本文の内容理解

第14回 Education

聞き取り課題

第15回 A World of Ideas 2

小テストおよび本文の内容理解

定期試験

学期中に扱った文章全てを範囲とし、教科書では問いていない、内容把握問題(選択問題および記述問題)を教員が作成し、出題する。

科目名： イングリッシュスペシャルスタディズA			
英文名： English Special Studies A			
担当者： ジョナサン クルー			
単 位： 1単位	開講年次： 3～4年次	開講期： 前期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

English Special Studies A: DISCUSSION

In principle, this is a 3rd year Discussion Course. Students will listen to and read various articles on various cultures, participate in discussion and debate, and make presentations comparing Japan with other countries. They will study a wide-variety of characteristics that are considered rooted in cultural difference, and are possible obstacles to cross-cultural understanding.

■学習・教育目標および到達目標

In principle, this is a 3rd year Discussion Course. Students must actively participate in a wide variety of English speaking activities.授業中は積極的に英語を話しましょう。

■授業時間外に必要な学修

Students are expected to come to class on time and fully prepared.
予習を必ず行って授業に出席すること。

■教科書

Teachers will assign textbooks on the first day of class. Textbooks MUST be purchased and ready to use for the 2nd class.

二回目の授業までに教科書を購入しておくこと。

■参考文献

Announced by the instructor at first class meeting.
An English-Japanese dictionary may be useful.

■関連科目

イングリッシュスペシャルスタディズ B

■成績評価方法および基準

Active in class oral discussion 50%

Tests and quizzes 25%

Homework, assignments, and reports 25%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

最初の授業で指示する。

■オフィスアワー

質問や面談等の希望者は事前にアポイントを取ってください。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Class explanation, Greetings and Self-introductions

第2回 Goals check

第3回 Language, Culture & Society:

- values, cultural relativity, body language
- religion & folk beliefs (i.e., superstition, astrology, blood types), taboos

- stereotypes, prejudice & discrimination, immigration
- Japanese concepts (gift-giving, 'giri' , 'ninjo' , 'on' , etc.)

第4回 Language, Culture & Society (continued)

第5回 Language, Culture & Society (continued)

第6回 Work, Lifestyles & Leisure:

- career choice, 'freetas' , salaries, women' s issues, investments & retirement
- sexual harassment, sexuality, fashion
- homelessness, city vs. country living, vegetarianism, spiritualism

第7回 Work, Lifestyles & Leisure (continued)

第8回 Work, Lifestyles & Leisure (continued)

第9回 Presentations

第10回 Relationships, Marriage & Family:

- friendship, love, dating, living together & marriage,
- child rearing, discipline, working parents & housework
- child and/or spousal abuse, single parents, adultery, divorce

第11回 Relationships, Marriage & Family (continued)

第12回 Relationships, Marriage & Family (continued)

第13回 Education:

- education in Japan & abroad, teacher evaluation, private vs. public schools
- required English, 'juku / yobiko' , 'ekimae' English conversation schools
- entrance exams, 'gakureki shakai' , 'suisen' admissions, school violence

第14回 Education (continued)

第15回 Education (continued)

科目名： **イングリッシュスペシャルスタディズB**

英文名： English Special Studies B

担当者： ジョナサン クルー

単 位：1単位	開講年次：3～4年次	開講期：後期	必修選択の別：
---------	------------	--------	---------

■ **授業概要・方法等**

English Special Studies B: DISCUSSION

Students will read and listen to articles on culture, and/or their field of study, and practice how to quickly answer related questions. They will also discuss and debate, and give presentations on these topics.

■ **学習・教育目標および到達目標**

In principle, this is a 3rd year Discussion Course. Students must actively participate in a wide variety of English speaking activities.授業中は積極的に英語を話しましょう。

■ **授業時間外に必要な学修**

Students are expected to come to class on time and fully prepared.
予習を必ず行って授業に出席すること。

■ **教科書**

Teachers will assign textbooks on the first day of class. Textbooks MUST be purchased and ready to use for the 2nd class.

二回目の授業までに教科書を購入しておくこと。

■ **参考文献**

An English-Japanese Dictionary - For the best vocabulary references, cell phone dictionaries are not recommended. 確実な語彙力をつけるため、辞書（携帯電話の辞書は不可）は必ず持参すること。

■ **関連科目**

イングリッシュスペシャルスタディズ A

■ **成績評価方法および基準**

Active in class oral discussion 50%

Tests and quizzes 25%

Homework, assignments, and reports 25%

■ **授業評価アンケート実施方法**

Surveys will be conducted according to the bylaws of the university. 大学実施規程に準拠して行います。

■ **研究室・E-mailアドレス**

最初の授業で指示する。

■ **オフィスアワー**

質問や面談等の希望者は事前にアポイントを取ってください。

■ **授業計画の項目・内容及び到達目標**

第1回 Talking about Summer vacation

第2回 Media & Entertainment:

- influence of TV, movies & music, news programs, cable & satellite TV
- censorship, political spin, propaganda, pornography, IT revolution
- celebrity worship, 'talento', paparazzi

第3回 Media & Entertainment (continued)

第4回 Media & Entertainment (continued)

第5回 Health, Science and Technology:

- nutrition, fitness & exercise
- smoking, drinking & drugs
- health insurance, welfare, aging, death, euthanasia
- digital revolution, cell-phones, IT, AI, cloning, experimenting on animals

第6回 Health, Science and Technology (continued)

第7回 Health, Science and Technology (continued)

第8回 Presentations

第9回 Environmental and Humanitarian Issues:

- global warming, natural resources, endangered species
- over-population, hunger & famine
- AIDS & pandemics, disaster relief, war & militarism, terrorism

第10回 Environmental and Humanitarian Issues (continued)

第11回 Environmental and Humanitarian Issues (continued)

第12回 Law and Ethics:

- crime, drugs, prostitution, gambling, white collar crime, doping in sports
- gun control, death penalty, cruelty to animals
- medical ethics, abortion, euthanasia

第13回 Law and Ethics (continued)

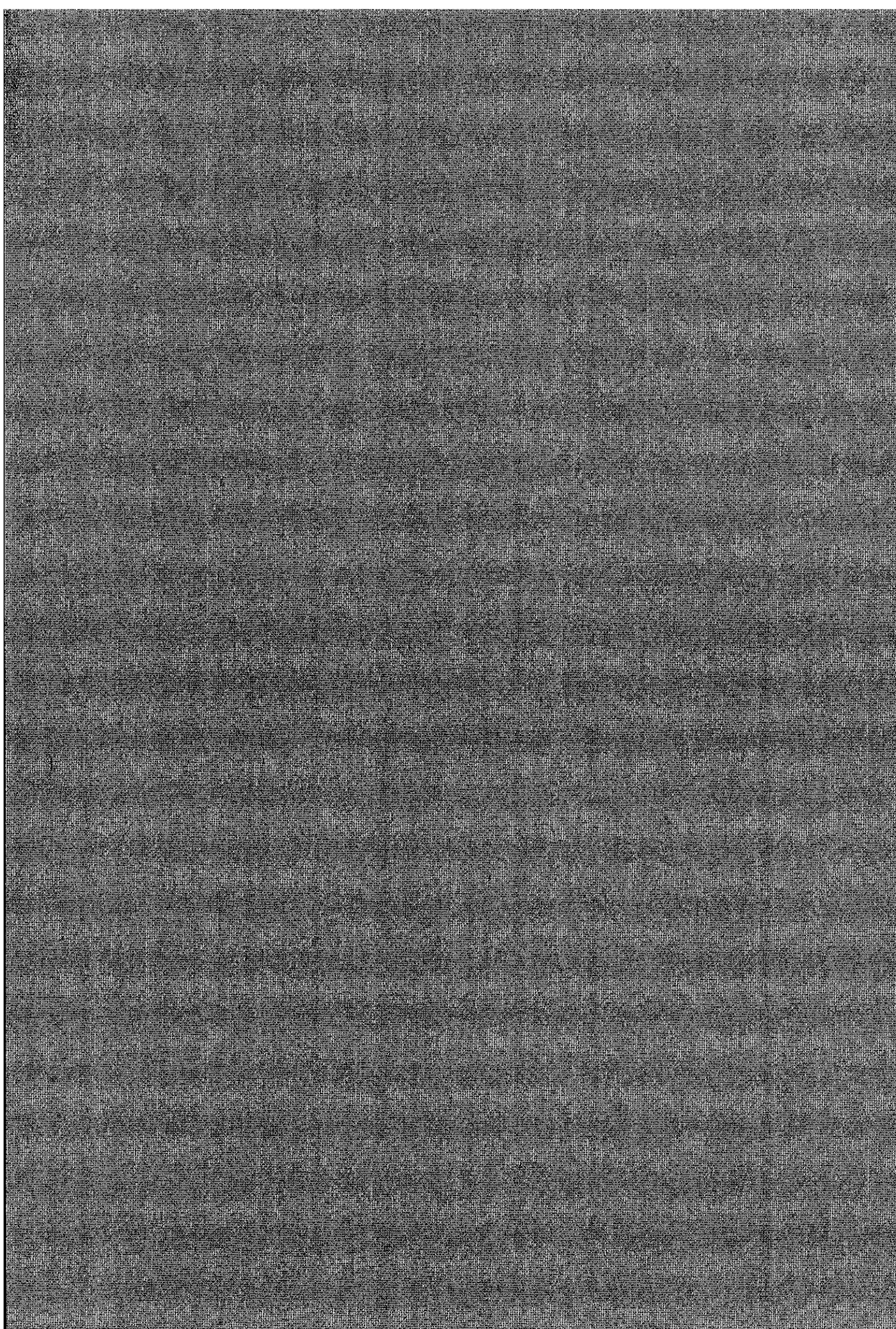
第14回 Law and Ethics (continued)

第15回 Goals check



外国語科目

第二外国語



第二外国語教育の共通基本目標

From

中学・高校を通じて英語を勉強したが、英語以外の外国語も今から身につけておきたい。



To

- ① 外国人と臆することなくコミュニケーションができる。
- ② 国際感覚と広い視野が身につく。



“From ⇔ To”を実現する手段としての「近畿大学の第二外国語教育」

— 今しかない、ゼロから始める楽しい第二外国語 —

共通基本目標

1. 独仏中韓を基軸とした英語以外の言語も学習し、これらの外国語の学習を通して多面的な世界の見方ができる力を培う。
2. 一人一人のレベルに応じて到達目標を設定し、その達成度を確認しつつ段階的に外国語の運用能力を向上させる。
3. 多様化する国際社会において相互に尊重し信頼し合う上で必要な知識を習得し、異文化への理解を深め、国際的な感覚を高める。

具体的方策

上記の目標を達成するために以下の具体的方策を実施する。

1. 希望する第二外国語を選択し履修できるクラス編成。新しく学ぶ外国語の基本要素が確実に身につく基幹科目。知識を実用レベルにまで高める発展科目。
2. 自己評価により現在のレベルを確認し、次の目標を設定して自律的に学習できるシステム。教員によるきめ細かい学習支援。
3. 「ことばと文化」「国際化と異文化理解」などの教養講座と語学教育との連携。ことばを通して文化に接し、文化を学ぶことによって国際的視野と深い教養が身につく授業。
4. 授業外活動による学生の学習意欲の向上。語学センター講座（検定対策講座を含む）、留学生との交歓会、スピーチコンテストなど学内における交流。留学及び海外研修の支援。
5. 学生一人一人の意欲とニーズに応える学習指導体制。教員による学生個人を対象とする学習相談。
6. 学部専門教育との連携・橋渡し。各学部の特色を最大限に生かした第二外国語教育。専門教育と多様な外国語をリンクさせる発展科目の整備・充実。

第二外国語について

なぜ大学で第二外国語を学ぶのでしょうか？

あなたは、第二外国語を学びたいと思いますか？ 本学では、多くの学部において第二外国語は必修科目ではなく、選択科目のひとつです。しかし、実際はほとんどの学生が第二外国語を履修しています。みなさんの先輩にその動機を尋ねると、「英語以外の外国語を話せるようになりたい」、「英語の単位だけでは足りないから」といった答えが返ってきます。

どうして大学で第二外国語を学ぶのでしょうか？ 地球規模でのネットワーク化が進行している今日にあって、国際社会におけるコミュニケーション言語として、英語が重要なことは言うまでもありません。しかし一方で、世界は、新たな多文化・多言語社会へと向かっています。中国や韓国をはじめとするアジアの国々との交流だけでなく、EU諸国との関係も日本にとって重要です。現代の日本を作り上げてきた歴史や文化は、英語圏以外の多様な国々からの影響も受けているのです。第二外国語を学ぶことは、自分の知見や価値観を広げ、またそのことばを母語とする人々について、深く学ぶ機会であり、国際社会において不可欠な教養を得る機会と言えるでしょう。

しかし、一部の学部を除いて、一年次に履修可能な第二外国語の授業は週一回の90分しかありません。ただ受動的に授業を聴いているだけでは、流暢に話せるようにはなりません。それでは意味がないと思う人もいるでしょう。しかし、実際に、第二外国語の授業を楽しみにしている人たちがたくさんいるのです。それはなぜか、答えは単純です。第二外国語を学ぶことには「新しいことを知る喜び」があるからです。

そもそも、大学での外国語学習は、流暢に話せるようになることだけを目的としてはいません。話すことはあくまで手段の一つなのです。大学では、そのことばを形成してきた文化的背景や、ことばの構造から日本とは異なる文化を知ることが目的としています。そこに「知る喜び」を感じて、そのことばを積極的に学べば学ぶほど、語学もまた自然と上達していきます。事実、毎年、語学検定試験の高難度の級に合格し、語学力と多様な価値観を身につけて、世界に羽ばたいてゆく先輩も少なくありません。

日本にも外国の方がたくさんいます。かれらが一生懸命日本語で話しかけてくれると、自分たちの文化を認めてもらえたような気がして、うれしくはありませんか？ 多様なことばを知ることが、多様な文化を認め、そこに住む人々と文化的に近づくことでもあるのです。それは旅行や留学、将来の海外赴任にも活かされることでしょう。たとえ流暢でなくとも、さまざまなことばを話そうとする人は多くの友人や思い出を得られるものです。

本学では、多様化する国際社会の要請に応じて、諸外国の言語を学び、その文化に固有の伝統や考え方を理解することを第二外国語教育の最重要目標としています。世界を見渡す視点を日本や英語圏からずらしてみるとまた違った世界が見えてきます。視点は多ければ多いほど、世界は広がりをもつはずで、ことばを学ぶことによって開かれる世界は、無限なのです。

いまこそ、第二外国語を学んでみませんか？

ドイツ語について

「ドイツ語」と聞くと、何だか堅苦しくて難しそう、というイメージを抱く人が多いかもしれませんが。本当にそうでしょうか。ドイツ語は英語と同じ西ゲルマン語という仲間に関し、英語とかなり近い関係にあるので、単語や文法体系に共通点が多く、しかも発音は英語よりずっと簡単です。語順などもむしろ日本語に似ているところがあり、私たち日本人にとっては特に学びやすい外国語だと言えます。

ではドイツ語はどこで、どのくらい多くの人々が話しているのでしょうか。ドイツ語圏にはドイツ（人口約 8200 万人）を始め、オーストリア（約 800 万人）、スイス（ドイツ語人口は約 500 万人）、そしてリヒテンシュタイン（約 3 万人）が含まれます。この他ルクセンブルクでもドイツ語が公用語のひとつとなっており、またドイツと国境を接する地域や東欧でもドイツ語を話す人たちがおり、世界のドイツ語話者人口はほぼ 1 億人、EU（ヨーロッパ連合）の中でドイツ語は最も多く話されている言葉となっています。

さて皆さんは、ドイツ語やドイツ語圏について、何を知っているのでしょうか。最近ではゲームを通じてドイツ語やドイツ文化（ゲルマン神話を含む）にふれる機会が増えているようですが、子供の時にグリム童話を読んだという人、モーツァルトやベートーヴェン、あるいはクラフトワークに代表されるテクノ・ミュージシャンの音楽が好きだという人も少なくないでしょう。オーストリアの首都ウィーンで花開いた世紀末の文化は今もなお私たちに惹きつけて離しません。また、環境先進国・福祉先進国として有名なドイツから、日本が多くのことを学んでいることはよく知られています。ドイツと言えばやはりベンツやBMWに代表されるクルマがあり、一度はアウトバーンを走ってみたいと思っている人、サッカーのブンデスリーガに興味を持っている人もいるでしょう。最近ではドイツ語圏の映画が日本公開される機会も増えました。そうした関心や興味を手がかりにして、ドイツ語の勉強を始めてみましょう。現在はインターネットを使ってドイツ語圏の情報が瞬時に手に入り、英語圏のソースとは異なったものの見方、考え方に触れることもできます。また、ドイツ語圏での旅行や語学研修も簡単に行える時代です。たとえ片言でもドイツ語を使って買い物や現地の人との会話ができれば、旅の楽しみが増し、印象も全然違ったものになるでしょう。ドイツ語を学ぶことを通して、自分の世界を広げていきましょう。

<辞書と参考書>

語学を学ぶには辞書が必要です。初級の段階では、なるべく紙の辞書を使うようにしましょう。用例が見やすく、書き込みも容易だからです。参考書は必需品ではありませんが、必要に応じて自主学習に役立てましょう。どちらも先生の説明を聞いて自分に合ったものを選び、早く使い慣れてください。

おすすめ辞書 『クラウン独和辞典』（三省堂） 『新アクセス独和辞典』（三修社）
『新アポロン独和辞典』（同学社） 『エクセル独和辞典』（郁文堂） 他
おすすめ参考書 『ドイツ語のしくみ（CDつき）』（白水社） 他

フランス語について

フランスというと、皆さんは何を思い浮かべますか？ フランス料理やワインなど、グルメの国。スイーツ大国。最近ではミシュランガイドの名前がテレビで聞かれることも多くなりました。また世界のファッションをリードする国でもあります。スポーツでも、サッカーや柔道やフィギュアスケートなどさまざまな種目で、フランス語圏の選手たちがめざましい活躍をしていますね。それにロワールの古城やモン・サン・ミッシェルに代表される数多くの世界遺産を有する国でもあります。でもそれだけではなく、フランスはヨーロッパで一番のマンガ大国という意外な一面も持っているのです！ そんな多様で豊かな文化への入口として「フランス語」を勉強してみませんか？

フランス語は英語と同じアルファベットを使い、英語と共通する単語も多いので、とても簡単に学ぶことができます。しかも国連やオリンピックでも英語と並んで使われる「第二の国際語」です。それにフランス語はフランス本国だけでなく、ヨーロッパのベルギーやスイス、アフリカ諸国、カナダのケベック州やアメリカの一部、中南米諸国やアジア、オセアニア、中東など、世界中で広く使われています。世界でフランス語を話す人は、何とフランスの人口の4倍もいるのです！ 世界で2億6千万人が話している言語、それがフランス語です。

グローバル化がしきりに言われる現代にあって、国際言語としてのフランス語の重要性はますます高まっています。フランス語を知ることによって、日本やアメリカとは違った視点から世界を眺めることができるようになるでしょう。英語だけではなく、さらにフランス語の知識を身につけることは、皆さんにとっても貴重な知的財産の一つとなるはずです。また検定試験に挑戦したい、留学したい、フランス語圏の国々に旅行に行きたいという人も積極的にサポートします。フランス語は明晰さと論理性に富む言語であると言われるますが、フランス語の学習が論理的な思考力の育成と、新しい視点からの異文化理解に役立つことを願っています。さあ、一緒に楽しくフランス語を学びましょう！

<辞書と参考書>

辞書 外国語を勉強する上で一番基本となる参考書は、何と言っても辞書に他なりません。最初からいきなり語彙数の多い大型辞書を買うよりも、次に挙げるような「学習仏和辞典」で勉強を始めるのがいいでしょう。

「ディコ仏和辞典」(白水社) 「プチ・ロワイヤル仏和辞典」(旺文社)

「クラウン仏和辞典」(三省堂) など

参考書 講義の中でも文法は分かりやすく詳しく説明しますが、自分で分からないところを確認し、知識をさらに深めるには、次のような文法参考書をおすすめします。

「新・リュミエール フランス文法参考書」(駿河台出版社)

「大学で始めるフランス語」(駿河台出版社) など

中国語について

「中国」と聞いてみなさんはどんなことを連想しますか？ 反日デモ、尖閣諸島をめぐる問題、PM2.5……。最近の中国をめぐる報道を見て、中国に対してよいイメージを持っていない人もいることでしょう。中国は広大な国土を抱え、13億を超えるさまざまな人々が暮らしています。中国人13億人すべてが「反日」？ そんなことはないはずです。

中国は、改革開放以来、急速な経済発展を遂げてきました。今や日本にとって最大の貿易相手国であり、生産地としても市場としても、日本経済の重要な鍵を握っています。また、日中の距離は、飛行機でわずか2時間程度。人々の交流も活発で、ビジネスや観光での往来はますます増すでしょう。みなさんもアルバイト先などで中国の人と会う機会も多いのではないのでしょうか。

日本と中国、お互いの理解を深めるために私たちができることは何でしょう？ その答えの一つは、「中国語」を学ぶことです。広大な中国には、お互いの意思疎通が不可能なほど多様な方言が存在しますが、私たちが学ぶ中国語は、「普通話」と呼ばれる標準語であり、中国全土だけでなく、台湾や香港、シンガポール、世界中にあるチャイナタウンでも使える、中華圏の共通語です。また、日本は中国と同じく、漢字文化圏に属します。中国では「簡体字」という簡略化された漢字、台湾や香港では「繁体字」という旧来の漢字を用いていますが、いずれにせよ漢字。日本人は中国語を学ぶのに極めて有利です。漢字に助けられつつ、中国語を学べば、広い中華圏への扉を開くことができるのです。

百聞は一見にしかず、在学中にぜひ一度、中国や台湾へ、旅行や留学をしてみたいかがでしょうか。本学では、短期語学研修（台湾3週間、北京4週間）を提供しています。研修に参加し、異なる文化や価値観に触れることで、大きな刺激を得られることでしょう。

また、実用的な中国語を資格として身に付け、就職活動に備えるのもいいでしょう。本学のカリキュラムは、「中国語検定試験」にも対応して構成されています。語学センター（11月ホール2階）では、会話や検定対策など、無料で豊富な講座を提供しています。

日中両国の関係がぎくしゃくしている時代だからこそ、確かで豊かな知識と広い視野を備えた国際人が求められています。今こそ、中国語を学びませんか？

<辞書と参考書>

辞書 旅行や留学へ持参し、コミュニケーションツールとして活用することを考えると、最初は携帯用で、日中と併せて一冊のものを購入するのがいいでしょう。

『デイリーコンサイス中日・日中辞典』（三省堂）

『ポケットプログレッシブ中日・日中辞典』（小学館）

『中日辞典 第二版』（小学館） 『中日辞典 第三版』（講談社）

『東方中国語辞典』（東方書店） 『中国語辞典』（白水社）

参考書 授業と並行して、気軽な入門書を読んでみてはいかが。

『はじめての中国語』（講談社現代新書） 『中国語はじめの一步』（ちくま新書）

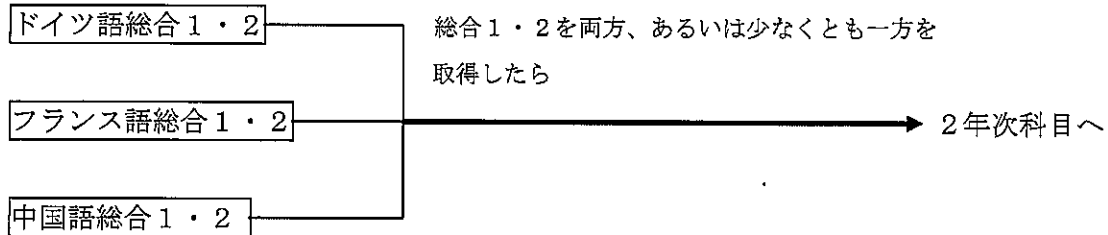
『中国語文法・完成マニュアル』（白帝社） 『よくわかる中国語文法』（白帝社）

第二外国語科目一覧

科目名	配当学年	単位	学期	備考	
ドイツ語総合1	1	1	前	日本人または ネイティブ教 員担当科目	基幹科目
ドイツ語総合2	1	1	後		
フランス語総合1	1	1	前		
フランス語総合2	1	1	後		
中国語総合1	1	1	前		
中国語総合2	1	1	後		
ドイツ語総合3	2	1	前	日本人または ネイティブ教 員担当科目	基幹科目
ドイツ語総合4	2	1	後		
フランス語総合3	2	1	前		
フランス語総合4	2	1	後		
中国語総合3	2	1	前		
中国語総合4	2	1	後		
ドイツ語コミュニケーション1	2-4	1	前	ネイティブま たは日本人教 員担当科目	発展科目
ドイツ語コミュニケーション2	2-4	1	後		
フランス語コミュニケーション1	2-4	1	前		
フランス語コミュニケーション2	2-4	1	後		
中国語コミュニケーション1	2-4	1	前		
中国語コミュニケーション2	2-4	1	後		
ドイツ語コミュニケーション3	3-4	1	前	ネイティブま たは日本人教 員担当科目	発展科目
ドイツ語コミュニケーション4	3-4	1	後		
フランス語コミュニケーション3	3-4	1	前		
フランス語コミュニケーション4	3-4	1	後		
中国語コミュニケーション3	3-4	1	前		
中国語コミュニケーション4	3-4	1	後		

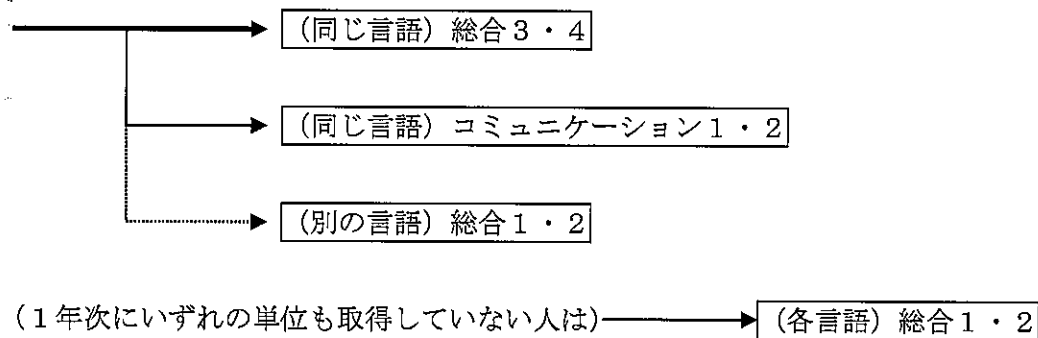
第二外国語履修フローチャート

1年次



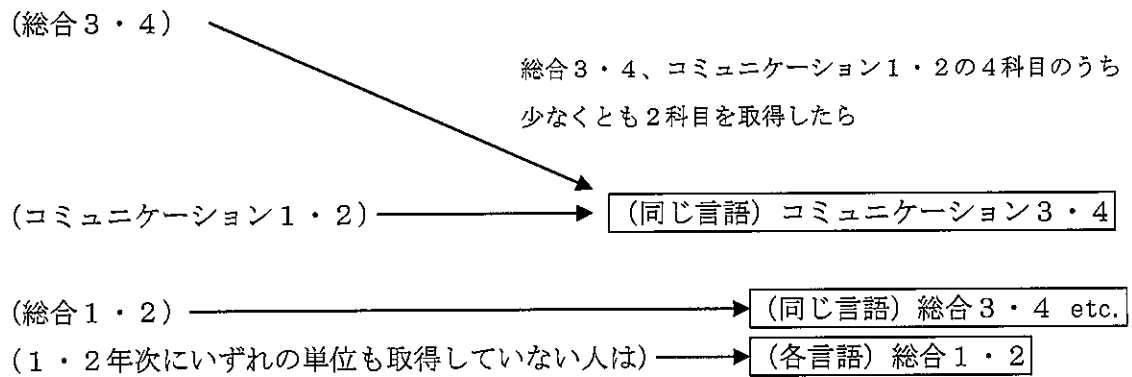
- ・「総合1」は前期科目、「総合2」は後期科目。同一言語を1・2継続して履修登録すること。

2年次



- ・1と3は前期科目、2と4は後期科目。1・2および3・4は継続して履修登録すること。
- ・「総合1・2」と「総合3・4」は基幹科目。「コミュニケーション1・2」は発展科目。
- ・「総合3・4」と「コミュニケーション1・2」は並行して履修することができる。
これらの科目は必ず1年次と同じ言語で履修すること。

3・4年次



- ・「コミュニケーション3」は前期科目、「同4」は後期科目。3・4は同一言語を継続して履修登録すること。
- ・これらの科目は必ず2年次と同じ言語で履修すること。

第二外国語科目〈科目名・概要〉

〈ドイツ語・フランス語・中国語 総合1・2〉

(一年選択科目、1は前期、2は後期)(基幹科目)(同一言語を1・2継続して履修する)

新しい外国語に慣れ親しみ、初歩的なコミュニケーションが図れるようにする。文字、発音、基本語彙と表現、文構造など、聞き、話し、読み、書くというバランスの取れた言語運用に不可欠な基礎的知識を習得する。週1回の授業。

〈ドイツ語・フランス語・中国語 総合3・4〉

(二年選択科目、3は前期、4は後期)(基幹科目)(総合1あるいは2いずれか1科目修得を先修条件とする)

総合1・2で学んだ知識をもとに、その言語のさらにスムーズな運用ができるようにする。比較的長い表現を聞き取って、自分でも言えるように練習する。また平易な文章を読みこなし、手紙や簡単な文章を書ける能力も養う。週1回の授業。

〈ドイツ語・フランス語・中国語 コミュニケーション1・2〉

(二年選択科目、1は前期、2は後期)(発展科目)(総合1あるいは2いずれか1科目修得を先修条件とする)

「話す」と「聞く」という二つの側面に重点を置く。外国旅行で必ず出会う場面や日常生活によくある場面などを用いて、必要な情報を聞き取り、自分を表現する方法を練習する。週1回の授業。

〈ドイツ語・フランス語・中国語 コミュニケーション3・4〉

(三年次選択科目、3は前期、4は後期)(発展科目)(総合3・4、コミュニケーション1・2の4科目のうちいずれか2科目修得を先修条件とする)

主に日常会話中心に口頭による言語運用能力の基礎を完成させる。より詳細な表現を聞き取って、自分でも正確に言えるように口頭練習し、様々な場面でさらに詳しい情報交換ができるようにする。週1回の授業。

第二外国語履修のガイドライン

*履修希望者は、下記の履修条件を満たしている者に限る。

科目名		履修条件
ドイツ語 フランス語 中国語	総合1・2	同一言語を1・2継続して履修登録すること 履修する言語において、「総合1」を履修せず に、それぞれの「総合2」を履修することは できない
ドイツ語 フランス語 中国語	総合3・4	同一言語を3・4継続して履修登録すること 前年までに同一言語の総合1・2のうち、少な くとも一方の単位を取得していることを条件と する
ドイツ語 フランス語 中国語	コミュニケーション1・2	同一言語を1・2継続して履修登録すること 前年までに同一言語の総合1・2のうち、少な くとも一方の単位を取得していることを条件と する
ドイツ語 フランス語 中国語	コミュニケーション3・4	同一言語を3・4継続して履修登録すること 前年までに同一言語の総合3・4、コミュニケ ーション1・2のうち、少なくとも2科目の単 位を取得していることを条件とする（組み合わ せは問わない）

科目名：ドイツ語総合1			
英文名：Basic German 1			
担当者：吉田 由美子・向井 直己・三宅 博子・大前 智美			
単 位：1単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

日常のさまざまな場面で使われる会話を中心とするテキストに従って、文法事項の説明、語彙や表現の聴き取り、口頭練習などを段階的、反復的に行ない、ドイツ語の基本的な仕組みを学びます。またテキストの内容に関連して、ドイツ語圏の事情についても紹介します。

■学習・教育目標および到達目標

「読む」「書く」「聴く」「話す」能力を総合的に養い、ドイツ語検定で言えば5級に相当する語彙と基本フレーズを習得することを通じて、実際に使える初歩的なドイツ語力の獲得を目指します。

■授業時間外に必要な学修

初めて学ぶ言語なので予習よりも復習に重点を置き、課題としての練習問題を自ら解くことによって、理解を確かなものにするのが大切です。わからない単語は前もって調べ、辞書を引く習慣をつけましょう。

■教科書

[ISBN]9784560064146 『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール (改訂版)』(白水社)

■参考文献

授業で紹介します。
「ドイツ語について」の項を参照

■関連科目

ドイツ語総合2・3・4
ドイツ語コミュニケーション1・2・3・4
ドイツ語カルチャーセミナー A・B

■成績評価方法および基準

定期試験 50%
小テスト 20%
口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

各担当教員が初回授業で伝えます。

■オフィスアワー

各担当教員が初回授業で伝えます。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Aussprache (発音)

挨拶の表現／アルファベット／発音の原則／母音の発音／子音の発音

第2回 Lektion 1. Was lernst du? - Ich lerne Japanisch. (出会いと紹介／動詞の現在人称変化)

動詞の現在人称変化／定動詞第2位の原則／seinの現在人称変化

第3回 Lektion 1. Was lernst du? - Ich lerne Japanisch. (出会いと紹介／動詞の現在人称変化)

動詞の現在人称変化／定動詞第2位の原則／seinの現在人称変化

第4回 Lektion 2. Hast du Geschwister? - Ja, ich habe einen Bruder. (家族について尋ねる／名詞の性・冠詞の格変化)

名詞の性と数／定冠詞・不定冠詞の格変化／habenの現在人称変化

第5回 Lektion 2. Hast du Geschwister? - Ja, ich habe einen Bruder. (家族について尋ねる／名詞の性・冠詞の格変化)

名詞の性と数／定冠詞・不定冠詞の格変化／habenの現在人称変化

第6回 Lektion 3. Wann fährst du nach München? - Morgen früh. (明日の予定を尋ねる／不規則変化動詞・命令形)

不規則な現在人称変化：①a→ä型 ②e→i/e→ie型／命令形

第7回 Lektion 3. Wann fährst du nach München? - Morgen früh. (明日の予定を尋ねる／不規則変化動詞・命令形)

不規則な現在人称変化：①a→ä型 ②e→i/e→ie型／命令形

第8回 Lektion 4. Welche Uhr kaufst du? - Ich kaufe diese Uhr. (買い物に行く・1／定冠詞類・不定冠詞類)

定冠詞類の格変化／不定冠詞類の格変化／所有冠詞

第9回 Lektion 4. Welche Uhr kaufst du? - Ich kaufe diese Uhr. (買い物に行く・1／定冠詞類・不定冠詞類)

定冠詞類の格変化／不定冠詞類の格変化／所有冠詞

第10回 Lektion 5. Kaufst du diese Bücher? - Ja, ich kaufe sie. (買い物に行く・2／複数形・人称代名詞)

名詞の複数形／人称代名詞の格変化／3格・4格の語順

第11回 Lektion 5. Kaufst du diese Bücher? - Ja, ich kaufe sie. (買い物に行く・2／複数形・人称代名詞)

名詞の複数形／人称代名詞の格変化／3格・4格の語順

第12回 Lektion 6. Was machst du an diesem Wochenende? - Ich gehe ins Kino. (週末の予定を尋ねる／前置詞の格支配)

2格・3格・4格支配／3・4格支配／前置詞と定冠詞の融合形

第13回 Lektion 6. Was machst du an diesem Wochenende? - Ich gehe ins Kino. (週末の予定を尋ねる／前置詞の格支配)

2格・3格・4格支配／3・4格支配／前置詞と定冠詞の融合形

第14回 Lektion 7. Was liest du gern? - Ich lese gern japanische Mangas. (趣味について尋ねる／形容詞の格変化)

無冠詞型／定冠詞(類) + 形容詞型／不定冠詞(類) + 形容詞型

第15回 Lektion 7. Was liest du gern? - Ich lese gern japanische Mangas. (趣味について尋ねる／形容詞の格変化)

無冠詞型／定冠詞(類) + 形容詞型／不定冠詞(類) + 形容詞型

定期試験

科目名：ドイツ語総合1			
英文名：Basic German 1			
担当者： <small>コンドウ サトル</small> 近藤 悟			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

日常のさまざまな場面で使われる会話を中心とするテキストに従って、文法事項の説明、語彙や表現の聴き取り、口頭練習などを段階的、反復的に行ない、ドイツ語の基本的な仕組みを学びます。またテキストの内容に関連して、ドイツ語圏の事情についても紹介します。

■学習・教育目標および到達目標

「読む」「書く」「聴く」「話す」能力を総合的に養い、ドイツ語検定で言えば5級に相当する語彙と基本フレーズを習得することを通じて、実際に使える初歩的なドイツ語力の獲得を目指します。

■授業時間外に必要な学修

初めて学ぶ言語なので予習よりも復習に重点を置き、課題としての練習問題を自ら解くことによって、理解を確かなものにすることが大切です。わからない単語は前もって調べ、辞書を引く習慣をつけましょう。

■教科書

[ISBN]9784560064146『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール (改訂版)』(白水社)

■参考文献

授業で紹介します。

「ドイツ語について」の項を参照

■関連科目

ドイツ語総合2・3・4

ドイツ語コミュニケーション1・2・3・4

ドイツ語ガルチャーセミナー A・B

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

各担当教員が初回授業で伝えます。

■オフィスアワー

各担当教員が初回授業で伝えます。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Aussprache (発音)

挨拶の表現／アルファベット／発音の原則／母音の発音／子音の発音

第2回 Lektion 1. Was lernst du? - Ich lerne Japanisch. (出会いと紹介／動詞の現在人称変化)

動詞の現在人称変化／定動詞第2位の原則／seinの現在人称変化

第3回 Lektion 1. Was lernst du? - Ich lerne Japanisch. (出会いと紹介／動詞の現在人称変化)

動詞の現在人称変化／定動詞第2位の原則／seinの現在人称変化

第4回 Lektion 2. Hast du Geschwister? - Ja, ich habe einen Bruder. (家族について尋ねる／名詞の性・冠詞の格変化)

名詞の性と数／定冠詞・不定冠詞の格変化／habenの現在人称変化

- 第5回 Lektion 2. Hast du Geschwister? - Ja, ich habe einen Bruder. (家族について尋ねる／名詞の性・冠詞の格変化)
名詞の性と数／定冠詞・不定冠詞の格変化／habenの現在人称変化
- 第6回 Lektion 3. Wann fährst du nach München? - Morgen früh. (明日の予定を尋ねる／不規則変化動詞・命令形)
不規則な現在人称変化：①a→ä型 ②e→i/e→ie型／命令形
- 第7回 Lektion 3. Wann fährst du nach München? - Morgen früh. (明日の予定を尋ねる／不規則変化動詞・命令形)
不規則な現在人称変化：①a→ä型 ②e→i/e→ie型／命令形
- 第8回 Lektion 4. Welche Uhr kaufst du? - Ich kaufe diese Uhr. (買い物に行く・1／定冠詞類・不定冠詞類)
定冠詞類の格変化／不定冠詞類の格変化／所有冠詞
- 第9回 Lektion 4. Welche Uhr kaufst du? - Ich kaufe diese Uhr. (買い物に行く・1／定冠詞類・不定冠詞類)
定冠詞類の格変化／不定冠詞類の格変化／所有冠詞
- 第10回 Lektion 5. Kaufst du diese Bücher? - Ja, ich kaufe sie. (買い物に行く・2／複数形・人称代名詞)
名詞の複数形／人称代名詞の格変化／3格・4格の語順
- 第11回 Lektion 5. Kaufst du diese Bücher? - Ja, ich kaufe sie. (買い物に行く・2／複数形・人称代名詞)
名詞の複数形／人称代名詞の格変化／3格・4格の語順
- 第12回 Lektion 6. Was machst du an diesem Wochenende? - Ich gehe ins Kino. (週末の予定を尋ねる／前置詞の格支配)
2格・3格・4格支配／3・4格支配／前置詞と定冠詞の融合形
- 第13回 Lektion 6. Was machst du an diesem Wochenende? - Ich gehe ins Kino. (週末の予定を尋ねる／前置詞の格支配)
2格・3格・4格支配／3・4格支配／前置詞と定冠詞の融合形
- 第14回 Lektion 7. Was liest du gern? - Ich lese gern japanische Mangas. (趣味について尋ねる／形容詞の格変化)
無冠詞型／定冠詞(類)＋形容詞型／不定冠詞(類)＋形容詞型
- 第15回 Lektion 7. Was liest du gern? - Ich lese gern japanische Mangas. (趣味について尋ねる／形容詞の格変化)
無冠詞型／定冠詞(類)＋形容詞型／不定冠詞(類)＋形容詞型
- 定期試験

科目名：ドイツ語総合2			
英文名：Basic German 2			
担当者：吉田 由美子・向井 直己・三宅 博子・大前 智美			
単 位：1単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

日常のさまざまな場面で使われる会話を中心とするテキストに従って、文法事項の説明、語彙や表現の聴き取り、口頭練習などを段階的、反復的に行ない、ドイツ語の基本的な仕組みを学びます。またテキストの内容に関連して、ドイツ語圏の事情についても紹介します。

■学習・教育目標および到達目標

「読む」「書く」「聴く」「話す」能力を総合的に養い、ドイツ語検定で言えば5級に相当する語彙と基本フレーズを習得することを通じて、実際に使える初歩的なドイツ語力の獲得を目指します。

■授業時間外に必要な学修

初めて学ぶ言語なので予習よりも復習に重点を置き、課題としての練習問題を自ら解くことによって、理解を確かなものにするのが大切です。わからない単語は前もって調べ、辞書を引く習慣をつけましょう。

■教科書

[ISBN]9784560064146『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール (改訂版)』(白水社)

■参考文献

授業で紹介します。
「ドイツ語について」の項を参照

■関連科目

ドイツ語総合1・3・4
ドイツ語コミュニケーション1・2・3・4
ドイツ語カルチャーセミナー A・B

■成績評価方法および基準

定期試験 50%
小テスト 20%
口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

各担当教員が初回授業で伝えます。

■オフィスアワー

各担当教員が初回授業で伝えます。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Lektion 8. Wohin willst du gehen? - Ich will ins Restaurant gehen. (昼食を食べに行く／話法の助動詞・未来形)

話法の助動詞／werdenの現在人称変化／未来形

第2回 Lektion 8. Wohin willst du gehen? - Ich will ins Restaurant gehen. (昼食を食べに行く／話法の助動詞・未来形)

話法の助動詞／werdenの現在人称変化／未来形

第3回 Lektion 9. Ich weiß nicht, wann der Zug abfährt. - Er fährt um 9 Uhr ab. (駅の窓口で尋ねる／分離動詞・接続詞と副文)

分離動詞／非分離動詞／分離動詞の構文／従属接続詞と副文

第4回 Lektion 9. Ich weiß nicht, wann der Zug abfährt. - Er fährt um 9 Uhr ab. (駅の窓口で尋ねる／分離動詞・接続詞と副文)

分離動詞／非分離動詞／分離動詞の構文／従属接続詞と副文

第5回 Lektion 10. Hast du vor, München zu besuchen? - Ich freue mich darauf. (休暇の計画を尋ねる／zu不定詞・再帰代名詞)

zu不定詞／再帰代名詞／再帰動詞

第6回 Lektion 10. Hast du vor, München zu besuchen? - Ich freue mich darauf. (休暇の計画を尋ねる／zu不定詞・再帰代名詞)

zu不定詞／再帰代名詞／再帰動詞

第7回 Lektion 11. Als ich das Museum besuchte, fand eine Ausstellung statt. (旅の経験を語る・1／動詞の3基本形・過去形)

動詞の3基本形／過去形の人称変化／分離動詞の3基本形・過去形

第8回 Lektion 11. Als ich das Museum besuchte, fand eine Ausstellung statt. (旅の経験を語る・1／動詞の3基本形・過去形)

動詞の3基本形／過去形の人称変化／分離動詞の3基本形・過去形

第9回 Lektion 12. Hast du Weimar besucht? - Ja. Es gefällt mir in Weimar. (旅の経験を語る・2／現在完了形・非人称表現)

現在完了形／他動詞と自動詞／非人称表現

第10回 Lektion 12. Hast du Weimar besucht? - Ja. Es gefällt mir in Weimar. (旅の経験を語る・2／現在完了形・非人称表現)

現在完了形／他動詞と自動詞／非人称表現

第11回 Lektion 13. Es wird gesagt, dass Tokio die teuerste Stadt ist. (意見を交換する・1／受動態・比較表現)

受動態／形容詞の比較級・最上級／副詞の比較級・最上級

第12回 Lektion 13. Es wird gesagt, dass Tokio die teuerste Stadt ist. (意見を交換する・1／受動態・比較表現)

受動態／形容詞の比較級・最上級／副詞の比較級・最上級

第13回 Lektion 14. Ich will gern Menschen helfen, die Hilfe brauchen. (意見を交換する・2／関係代名詞・関係副詞)

定関係代名詞／不定関係代名詞／関係副詞

第14回 Lektion 14. Ich will gern Menschen helfen, die Hilfe brauchen. (意見を交換する・2／関係代名詞・関係副詞)

定関係代名詞／不定関係代名詞／関係副詞

第15回 Lektion 15 (補足). Wenn ich Geld hätte, würde ich auch nach Japan gehen. (別れと再会の約束／接続法)

第I式：間接話法／第II式：非現実話法／願望・婉曲表現

定期試験

科目名：ドイツ語総合2			
英文名：Basic German 2			
担当者： ^{コンドウ サトル} 近藤 悟			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

日常のさまざまな場面で使われる会話を中心とするテキストに従って、文法事項の説明、語彙や表現の聴き取り、口頭練習などを段階的、反復的に行ない、ドイツ語の基本的な仕組みを学びます。またテキストの内容に関連して、ドイツ語圏の事情についても紹介します。

■学習・教育目標および到達目標

「読む」「書く」「聴く」「話す」能力を総合的に養い、ドイツ語検定で言えば5級に相当する語彙と基本フレーズを習得することを通じて、実際に使える初歩的なドイツ語力の獲得を目指します。

■授業時間外に必要な学修

初めて学ぶ言語なので予習よりも復習に重点を置き、課題としての練習問題を自ら解くことによって、理解を確かなものにするのが大切です。わからない単語は前もって調べ、辞書を引く習慣をつけましょう。

■教科書

[ISBN]9784560064146 『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール (改訂版)』(白水社)

■参考文献

授業で紹介します。

「ドイツ語について」の項を参照

■関連科目

ドイツ語総合1・3・4

ドイツ語コミュニケーション1・2・3・4

ドイツ語カルチャーセミナー A・B

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

各担当教員が初回授業で伝えます。

■オフィスアワー

各担当教員が初回授業で伝えます。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Lektion 8. Wohin willst du gehen? - Ich will ins Restaurant gehen. (昼食を食べに行く／話法の助動詞・未来形)

話法の助動詞／werdenの現在人称変化／未来形

第2回 Lektion 8. Wohin willst du gehen? - Ich will ins Restaurant gehen. (昼食を食べに行く／話法の助動詞・未来形)

話法の助動詞／werdenの現在人称変化／未来形

第3回 Lektion 9. Ich weiß nicht, wann der Zug abfährt. - Er fährt um 9 Uhr ab. (駅の窓口で尋ねる／分離動詞・接続詞と副文)

分離動詞／非分離動詞／分離動詞の構文／従属接続詞と副文

第4回 Lektion 9. Ich weiß nicht, wann der Zug abfährt. - Er fährt um 9 Uhr ab. (駅の窓口で尋ねる／分離動詞・接続詞と副文)

分離動詞／非分離動詞／分離動詞の構文／従属接続詞と副文

第5回 Lektion 10. Hast du vor, München zu besuchen? - Ich freue mich darauf. (休暇の計画を尋ねる／zu不定詞・再帰代名詞)

zu不定詞／再帰代名詞／再帰動詞

第6回 Lektion 10. Hast du vor, München zu besuchen? - Ich freue mich darauf. (休暇の計画を尋ねる／zu不定詞・再帰代名詞)

zu不定詞／再帰代名詞／再帰動詞

第7回 Lektion 11. Als ich das Museum besuchte, fand eine Ausstellung statt. (旅の経験を語る・1／動詞の3基本形・過去形)

動詞の3基本形／過去形の人称変化／分離動詞の3基本形・過去形

第8回 Lektion 11. Als ich das Museum besuchte, fand eine Ausstellung statt. (旅の経験を語る・1／動詞の3基本形・過去形)

動詞の3基本形／過去形の人称変化／分離動詞の3基本形・過去形

第9回 Lektion 12. Hast du Weimar besucht? - Ja. Es gefällt mir in Weimar. (旅の経験を語る・2／現在完了形・非人称表現)

現在完了形／他動詞と自動詞／非人称表現

第10回 Lektion 12. Hast du Weimar besucht? - Ja. Es gefällt mir in Weimar. (旅の経験を語る・2／現在完了形・非人称表現)

現在完了形／他動詞と自動詞／非人称表現

第11回 Lektion 13. Es wird gesagt, dass Tokio die teuerste Stadt ist. (意見を交換する・1／受動態・比較表現)

受動態／形容詞の比較級・最上級／副詞の比較級・最上級

第12回 Lektion 13. Es wird gesagt, dass Tokio die teuerste Stadt ist. (意見を交換する・1／受動態・比較表現)

受動態／形容詞の比較級・最上級／副詞の比較級・最上級

第13回 Lektion 14. Ich will gern Menschen helfen, die Hilfe brauchen. (意見を交換する・2／関係代名詞・関係副詞)

定関係代名詞／不定関係代名詞／関係副詞

第14回 Lektion 14. Ich will gern Menschen helfen, die Hilfe brauchen. (意見を交換する・2／関係代名詞・関係副詞)

定関係代名詞／不定関係代名詞／関係副詞

第15回 Lektion 15 (補足). Wenn ich Geld hätte, würde ich auch nach Japan gehen. (別れと再会の約束／接続法)

第I式：間接話法／第II式：非現実話法／願望・婉曲表現

定期試験

科目名：ドイツ語総合3			
英文名：Basic German 3			
担当者：トーマス シュピンレル			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

Im Mittelpunkt dieses Kurses stehen aktive Sprechübungen. Wir werden anhand kurzer Videoszenen wichtige grammatische Strukturen und den Grundwortschatz wiederholen. Im Hauptteil bereiten die Übungen auf das Niveau der deutschen Alltagssprache in normaler Sprechgeschwindigkeit vor. In Ergänzung zu den Videoszenen werden geeignete Textmaterialien eingesetzt.

■学習・教育目標および到達目標

Diese Veranstaltung verfolgt zwei Ziele:

1. die Grundlage für eine zwanglose deutschsprachige Kommunikation zu schaffen und bereits vorhandene Kenntnisse auszubauen und
2. über das aktuelle Leben im deutschsprachigen Raum zu informieren.

この授業の目的は、ドイツで見られる典型的なヨーロッパの生活様式と文化について知り、ドイツ語の基本的な伝達能力を身につけることです。中心となるのは、多少の基礎知識をもつ学生と全くのドイツ語初心者である学生が一緒になって、容易に基本的なコミュニケーションの技術を高めることを可能にするシャドウイングおよびパターン・ドリルです。

■授業時間外に必要な学修

付属のCDやメディアライブラリーを利用して、聞き取りの練習をしましょう。

■教科書

教科書は使用しません。

■参考文献

授業の際に指示します。

■関連科目

ドイツ語総合1, 2, 4
ドイツ語コミュニケーション1, 2, 3, 4
ドイツ語カルチャーセミナー A, B

■成績評価方法および基準

口頭発表 30%
小テスト 20%
定期試験を行わず、まとめテスト 50%

■授業評価アンケート実施方法

授業の際に指示します。

■研究室・E-mailアドレス

初回の授業で伝えます。

■オフィスアワー

初回の授業で伝えます。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 基本的語彙、名詞、文章の作り方と質問。

基本的語彙、名詞、文章の作り方と質問。

第2回 基本的語彙、名詞、文章の作り方と質問。(パート2)

基本的語彙、名詞、文章の作り方と質問。(パート2)

第3回 ドイツの動詞(規則)

ドイツの動詞(規則)

第4回 ドイツの動詞 (habenおよびsein)、否定

ドイツの動詞 (habenおよびsein)、否定

第5回 ドイツの動詞 (不規則) 定冠詞、不定冠詞、冠詞

ドイツの動詞 (不規則) 定冠詞、不定冠詞、冠詞

第6回 数、価格、時間

数、価格、時間

第7回 1-6のためのエクササイズ、ゲームおよびロールプレイ

1-6のためのエクササイズ、ゲームおよびロールプレイ

第8回 Akkusativ (4格)

Akkusativ(4格)

第9回 ビデオ・レッスン：ヨーロッパの生活様式および文化

ビデオ・レッスン：ヨーロッパの生活様式および文化

第10回 代名詞

代名詞

第11回 話法の助動詞 müssen, wollen, können

話法の助動詞 müssen, wollen, können

第12回 エクササイズおよびロールプレイ (買い物)

エクササイズおよびロールプレイ (買い物)

第13回 Dativ (3格)

Dativ(3格)

第14回 エクササイズおよび復習

エクササイズおよび復習

第15回 エクササイズおよびロールプレイ

エクササイズおよびロールプレイ

科目名：ドイツ語総合4			
英文名：Basic German 4			
担当者：トーマス シュピンレル			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

Im Mittelpunkt dieses Kurses stehen aktive Sprechübungen. Wir werden anhand kurzer Videoszenen wichtige grammatische Strukturen und den Grundwortschatz wiederholen. Im Hauptteil bereiten die Übungen auf das Niveau der deutschen Alltagssprache in normaler Sprechgeschwindigkeit vor. In Ergänzung zu den Videoszenen werden geeignete Textmaterialien eingesetzt.

■学習・教育目標および到達目標

Diese Veranstaltung verfolgt zwei Ziele:

1. die Grundlage für eine zwanglose deutschsprachige Kommunikation zu schaffen und bereits vorhandene Kenntnisse auszubauen und
2. über das aktuelle Leben im deutschsprachigen Raum zu informieren.

この授業の目的は、ドイツで見られる典型的なヨーロッパの生活様式と文化について知り、ドイツ語の基本的な伝達能力を身につけることです。中心となるのは、多少の基礎知識をもつ学生と全くのドイツ語初心者である学生が一緒になって、容易に基本的なコミュニケーションの技術を高めることを可能にするシャドウイングおよびパターン・ドリルです。

■授業時間外に必要な学修

付属のCDやメディアライブラリーを利用して、聞き取りの練習をしましょう。

■教科書

教科書は使用しません。

■参考文献

授業の際に指示します。

■関連科目

ドイツ語総合1, 2, 3
ドイツ語コミュニケーション1, 2, 3, 4
ドイツ語カルチャーセミナー A, B

■成績評価方法および基準

口頭発表 30%
小テスト 20%
定期試験を行わず、まとめテスト 50%

■授業評価アンケート実施方法

授業の際に指示します。

■研究室・E-mailアドレス

初回の授業で伝えます。

■オフィスアワー

初回の授業で伝えます。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Dativ (3格) Akkusativ (4格)

Dativ(3格) Akkusativ(4格)

第2回 再帰代名詞

再帰代名詞

第3回 現在完了形(I)

現在完了形(I)

第4回 現在完了形(II)

現在完了形(II)

第5回 現在完了形(III)

現在完了形(III)

第6回 エクササイズおよびロールプレイ (現在完了形)

エクササイズおよびロールプレイ (現在完了形)

第7回 過去形

過去形

第8回 どれ?どのような?

どれ?どのような?

第9回 受動 (現在形、過去形、現在完了形)

受動 (現在形、過去形、現在完了形)

第10回 形容詞

形容詞

第11回 形容詞II

形容詞II

第12回 ビデオ・レッスン：ヨーロッパの生活様式および文化

ビデオ・レッスン：ヨーロッパの生活様式および文化

第13回 エクササイズおよび復習

エクササイズおよび復習

第14回 エクササイズおよびロールプレイ

エクササイズおよびロールプレイ

第15回 集中的な復習

集中的な復習

科目名：ドイツ語コミュニケーション1			
英文名：German Communication 1			
担当者：トーマス シュピンレル			
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：前期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

Im Mittelpunkt dieses Kurses stehen aktive Sprechübungen. Wir werden anhand kurzer Videoszenen wichtige grammatische Strukturen und den Grundwortschatz wiederholen. Im Hauptteil bereiten die Übungen auf das Niveau der deutschen Alltagssprache in normaler Sprechgeschwindigkeit vor. In Ergänzung zu den Videoszenen werden geeignete Textmaterialien eingesetzt.

■学習・教育目標および到達目標

Diese Veranstaltung verfolgt zwei Ziele:

1. die Grundlage für eine zwanglose deutschsprachige Kommunikation zu schaffen und bereits vorhandene Kenntnisse auszubauen und
2. über das aktuelle Leben im deutschsprachigen Raum zu informieren.

この授業の目的は、ドイツで見られる典型的なヨーロッパの生活様式と文化について知り、ドイツ語の基本的な伝達能力を身につけることです。中心となるのは、多少の基礎知識をもつ学生と全くのドイツ語初心者である学生が一緒になって、容易に基本的なコミュニケーションの技術を高めることを可能にするシャドウイングおよびパターン・ドリルです。

■授業時間外に必要な学修

付属のCDやメディアライブラリーを利用して、聞き取りの練習をしましょう。

■教科書

教科書は使用しません。

■参考文献

授業の際に指示します。

■関連科目

ドイツ語総合1, 2, 3, 4
ドイツ語コミュニケーション2, 3, 4
ドイツ語カルチャーセミナー A, B

■成績評価方法および基準

口頭発表 30%
小テスト 20%
定期試験を行わず、まとめテスト 50%

■授業評価アンケート実施方法

授業の際に指示します。

■研究室・E-mailアドレス

初回の授業で伝えます。

■オフィスアワー

初回の授業で伝えます。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 基本的語彙、名詞、文章の作り方と質問。

基本的語彙、名詞、文章の作り方と質問。

第2回 基本的語彙、名詞、文章の作り方と質問。(パート2)

基本的語彙、名詞、文章の作り方と質問。(パート2)

第3回 ドイツの動詞(規則)

ドイツの動詞(規則)

第4回 ドイツの動詞 (habenおよびsein)、否定

ドイツの動詞 (habenおよびsein)、否定

第5回 ドイツの動詞 (不規則) 定冠詞、不定冠詞、冠詞

ドイツの動詞 (不規則) 定冠詞、不定冠詞、冠詞

第6回 数、価格、時間

数、価格、時間

第7回 1-6のためのエクササイズ、ゲームおよびロールプレイ

1-6のためのエクササイズ、ゲームおよびロールプレイ

第8回 Akkusativ (4格)

Akkusativ(4格)

第9回 ビデオ・レッスン：ヨーロッパの生活様式および文化

ビデオ・レッスン：ヨーロッパの生活様式および文化

第10回 代名詞

代名詞

第11回 話法の助動詞 müssen, wollen, können

話法の助動詞 müssen, wollen, können

第12回 エクササイズおよびロールプレイ (買い物)

エクササイズおよびロールプレイ (買い物)

第13回 Dativ (3格)

Dativ(3格)

第14回 エクササイズおよび復習

エクササイズおよび復習

第15回 エクササイズおよびロールプレイ

エクササイズおよびロールプレイ

科目名：ドイツ語コミュニケーション1			
英文名：German Communication 1			
担当者：小田 ^{オダ} 直史・田中 ^{タナカ} 誠 ^{マコト}			
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：前期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

「話す」と「聞く」という二つの側面に重点を置き、実践的な活動を中心に授業を進めます。外国旅行でよく出会う場面や日常生活によくある場面などを用いて、情報を聞き取り、自分を表現する方法を練習します。また、ドイツ語圏の文化や歴史についての知識も深めます。週1回の授業です。

■学習・教育目標および到達目標

旅行や日常生活で困らない程度のドイツ語力を身につけましょう。春・秋に実施されるドイツ語検定試験4,5級に合格する実力を身につけるといった目標にも対応しています。

■授業時間外に必要な学修

復習に重点を置き、課題としての練習問題を自ら解くことによって、理解を確かなものにするのが大切です。わからない単語は前もって調べ、辞書を引く習慣をつけましょう。また、ドイツ語技能検定試験への参加等を勧めます。

■教科書

[ISBN]9784255253701『ドイツ語の時間〈ときめきミュンヘン〉DVD-ROM付コミュニケーション版』(清野智昭ほか,朝日出版社)

■参考文献

授業で紹介します。

■関連科目

ドイツ語総合1, 2, 3, 4
 ドイツ語総合A, B, C, D
 ドイツ語コミュニケーション2 (B), 3, 4
 ドイツ語カルチャーセミナーA, B

■成績評価方法および基準

定期試験 50%
 小テスト 20%
 課題および口頭発表 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

各担当教員が初回授業で伝えます。

■オフィスアワー

各担当教員が初回授業で伝えます。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Lektion 1 自己紹介

動詞の人称変化/動詞seinとhabenの変化/動詞の位置

第2回 Lektion 1 自己紹介

動詞の人称変化/動詞seinとhabenの変化/動詞の位置

第3回 Lektion 2 私の家族

名詞の性/名詞の1格・4格/所有冠詞

第4回 Lektion 2 私の家族

名詞の性/名詞の1格・4格/所有冠詞

第5回 Lektion 3 私の趣味

不規則動詞の現在人称変化／名詞の複数形

第6回 Lektion 3 私の趣味

不規則動詞の現在人称変化／名詞の複数形

第7回 中間テスト

中間テスト

第8回 Lektion 4 キームゼーへ

名詞の3格／前置詞と名詞の格

第9回 Lektion 4 キームゼーへ

名詞の3格／前置詞と名詞の格

第10回 Lektion 5 健康

人称代名詞の3格・4格／分離動詞／非分離動詞

第11回 Lektion 5 健康

人称代名詞の3格・4格／分離動詞／非分離動詞

第12回 Lektion 6 買い物

話法の助動詞／命令形

第13回 Lektion 6 買い物

話法の助動詞／命令形

第14回 学び残しの部分と復習

学び残しの部分と復習

第15回 総復習

総復習

定期試験

科目名：ドイツ語コミュニケーション2			
英文名：German Communication 2			
担当者： ^{コウノ エイジ} 河野 英二			
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：後期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

「話す」と「聞く」という二つの側面に重点を置き、実践的な活動を中心に授業を進めます。外国旅行でよく出会う場面や日常生活によくある場面などを用いて、情報を聞き取り、自分を表現する方法を練習します。また、ドイツ語圏の文化や生活についての知識も深めます。

■学習・教育目標および到達目標

旅行や日常生活で困らない程度のドイツ語力を身につけましょう。春・秋に実施されるドイツ語検定試験4, 5級に合格する実力を身につけるという目標にも対応しています。

■授業時間外に必要な学修

復習に重点を置き、課題としての練習問題を自ら解くことによって、理解を確かなものにするのが大切です。わからない単語は前もって調べ、辞書を引く習慣をつけましょう。また、ドイツ語技能検定試験への参加等を勧めます。

■教科書

[ISBN]9784255253701『ドイツ語の時間〈ときめきミュンヘン〉DVD-ROM付コミュニケーション版』(清野智昭ほか,朝日出版社)

■参考文献

授業で紹介します。

■関連科目

ドイツ語総合1, 2, 3, 4,
ドイツ語総合A, B, C, D
ドイツ語コミュニケーション1 (A), 3, 4
ドイツ語カルチャーセミナーA, B

■成績評価方法および基準

定期試験 50%
小テスト 20%
口頭発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

各担当教員が初回授業で伝えます。

■オフィスアワー

各担当教員が初回授業で伝えます。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Lektion 7 ミュンヘン

3・4格支配の前置詞／並列接続詞

第2回 Lektion 7 ミュンヘン

3・4格支配の前置詞／並列接続詞

第3回 Lektion 8 休暇の後

現在完了形／過去形

第4回 Lektion 8 休暇の後

現在完了形／過去形

第5回 Lektion 9 食事

定冠詞類／副文

第6回 Lektion 9 食事

定冠詞類／副文

第7回 中間テスト

中間テスト

第8回 Lektion 10 クリスマス

比較級と最上級／再帰代名詞と再帰動詞

第9回 Lektion 10 クリスマス

比較級と最上級／再帰代名詞と再帰動詞

第10回 Lektion 11 ファッション

形容詞の格変化／非人称表現 (esの用法)

第11回 Lektion 11 ファッション

形容詞の格変化／非人称表現 (esの用法)

第12回 Lektion 12 私の夢

接続法第2式／zu不定詞句

第13回 Lektion 12 私の夢

接続法第2式／zu不定詞句

第14回 学び残しの部分と復習

学び残しの部分と復習

第15回 総復習

総復習

定期試験

科目名：ドイツ語コミュニケーション3			
英文名：German Communication 3			
担当者：トーマス シュピンレル			
単 位：1単位	開講年次：3～4年次	開講期：前期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

Im Mittelpunkt dieses Kurses stehen aktive Sprechübungen. Wir werden anhand kurzer Videoszenen wichtige grammatische Strukturen und den Grundwortschatz wiederholen. Im Hauptteil bereiten die Übungen auf das Niveau der deutschen Alltagssprache in normaler Sprechgeschwindigkeit vor. In Ergänzung zu den Videoszenen werden geeignete Textmaterialien eingesetzt.

■学習・教育目標および到達目標

Diese Veranstaltung verfolgt zwei Ziele:

1. die Grundlage für eine zwanglose deutschsprachige Kommunikation zu schaffen und bereits vorhandene Kenntnisse auszubauen und
2. über das aktuelle Leben im deutschsprachigen Raum zu informieren.

この授業の目的は、ドイツで見られる典型的なヨーロッパの生活様式と文化について知り、ドイツ語の基本的な伝達能力を身につけることです。中心となるのは、多少の基礎知識をもつ学生と全くのドイツ語初心者である学生が一緒になって、容易に基本的なコミュニケーションの技術を高めることを可能にするシャドウイングおよびパターン・ドリルです。

■授業時間外に必要な学修

付属のCDやメディアライブラリーを利用して、聞き取りの練習をしましょう。

■教科書

教科書は使用しません。

■参考文献

授業の際に指示します。

■関連科目

ドイツ語総合1, 2, 3, 4
ドイツ語コミュニケーション1, 2, 4
ドイツ語カルチャーセミナー A, B

■成績評価方法および基準

口頭発表 30%
小テスト 20%
定期試験を行わず、まとめテスト 50%

■授業評価アンケート実施方法

授業の際に指示します。

■研究室・E-mailアドレス

初回の授業で伝えます。

■オフィスアワー

初回の授業で伝えます。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 基本的語彙、名詞、文章の作り方と質問。

基本的語彙、名詞、文章の作り方と質問。

第2回 基本的語彙、名詞、文章の作り方と質問。(パート2)

基本的語彙、名詞、文章の作り方と質問。(パート2)

第3回 ドイツの動詞(規則)

ドイツの動詞(規則)

第4回 ドイツの動詞 (habenおよびsein)、否定

ドイツの動詞 (habenおよびsein)、否定

第5回 ドイツの動詞 (不規則) 定冠詞、不定冠詞、冠詞

ドイツの動詞 (不規則) 定冠詞、不定冠詞、冠詞

第6回 数、価格、時間

数、価格、時間

第7回 1-6のためのエクササイズ、ゲームおよびロールプレイ

1-6のためのエクササイズ、ゲームおよびロールプレイ

第8回 Akkusativ (4格)

Akkusativ(4格)

第9回 ビデオ・レッスン：ヨーロッパの生活様式および文化

ビデオ・レッスン：ヨーロッパの生活様式および文化

第10回 代名詞

代名詞

第11回 話法の助動詞 müssen, wollen, können

話法の助動詞 müssen, wollen, können

第12回 エクササイズおよびロールプレイ (買い物)

エクササイズおよびロールプレイ (買い物)

第13回 Dativ (3格)

Dativ(3格)

第14回 エクササイズおよび復習

エクササイズおよび復習

第15回 エクササイズおよびロールプレイ

エクササイズおよびロールプレイ

科目名：ドイツ語コミュニケーション4			
英文名：German Communication 4			
担当者：トーマス シュピンレル			
単 位：1単位	開講年次：3～4年次	開講期：後期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

Im Mittelpunkt dieses Kurses stehen aktive Sprechübungen. Wir werden anhand kurzer Videoszenen wichtige grammatische Strukturen und den Grundwortschatz wiederholen. Im Hauptteil bereiten die Übungen auf das Niveau der deutschen Alltagssprache in normaler Sprechgeschwindigkeit vor. In Ergänzung zu den Videoszenen werden geeignete Textmaterialien eingesetzt.

■学習・教育目標および到達目標

Diese Veranstaltung verfolgt zwei Ziele:

1. die Grundlage für eine zwanglose deutschsprachige Kommunikation zu schaffen und bereits vorhandene Kenntnisse auszubauen und
2. über das aktuelle Leben im deutschsprachigen Raum zu informieren.

この授業の目的は、ドイツで見られる典型的なヨーロッパの生活様式と文化について知り、ドイツ語の基本的な伝達能力を身につけることです。中心となるのは、多少の基礎知識をもつ学生と全くのドイツ語初心者である学生が一緒になって、容易に基本的なコミュニケーションの技術を高めることを可能にするシャドウイングおよびパターン・ドリルです。

■授業時間外に必要な学修

付属のCDやメディアライブラリーを利用して、聞き取りの練習をしましょう。

■教科書

教科書は使用しません。

■参考文献

授業の際に指示します。

■関連科目

ドイツ語総合1, 2, 3, 4
ドイツ語コミュニケーション1, 2, 3
ドイツ語カルチャーセミナー A, B

■成績評価方法および基準

口頭発表 30%
小テスト 20%
定期試験を行わず、まとめテスト 50%

■授業評価アンケート実施方法

授業の際に指示します。

■研究室・E-mailアドレス

初回の授業で伝えます。

■オフィスアワー

初回の授業で伝えます。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Dativ (3格) Akkusativ (4格)

Dativ(3格) Akkusativ(4格)

第2回 再帰代名詞

再帰代名詞

第3回 現在完了形(I)

現在完了形(I)

第4回 現在完了形(II)

現在完了形(II)

第5回 現在完了形(III)

現在完了形(III)

第6回 エクササイズおよびロールプレイ (現在完了形)

エクササイズおよびロールプレイ (現在完了形)

第7回 過去形

過去形

第8回 どれ?どのような?

どれ?どのような?

第9回 受動 (現在形、過去形、現在完了形)

受動 (現在形、過去形、現在完了形)

第10回 形容詞

形容詞

第11回 形容詞II

形容詞II

第12回 ビデオ・レッスン：ヨーロッパの生活様式および文化

ビデオ・レッスン：ヨーロッパの生活様式および文化

第13回 エクササイズおよび復習

エクササイズおよび復習

第14回 エクササイズおよびロールプレイ

エクササイズおよびロールプレイ

第15回 集中的な復習

集中的な復習

科目名： フランス語総合1			
英文名： Basic French 1			
担当者： ^{クダワラ} 久田原 ^{キスコ} 泰子			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

フランスというと、何を思い浮かべますか？ フランス料理とスイーツの国、世界のファッションをリードする国、ロワールの古城やモン・サン・ミッシェルなどの世界遺産を有する国。でもそれだけではなく、フランスは例えばヨーロッパで一番のマンガ大国でもあります！ フランス語はフランスだけではなく世界各地で使われる国際語で、しかも英語と共通する単語も多いので、とても簡単に学ぶことができます。そんなフランス語を学んでみませんか？

この講義では、フランス語を聞き、話し、読み、書くためのバランスの取れた能力の育成を目指します。基本的な文法を、日常的な会話文をもとに楽しく学びながら、自分でも使える力を身につけます。一人一人の積極的な参加を望みます！

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、フランス語を聞き、話し、書くことに慣れ親しみ、初歩的なコミュニケーションが図れるようになります。またフランスの言葉と文化への理解を深め、より広い国際感覚を養うことができます。

■授業時間外に必要な学修

講義で学んだ内容をテキストで再確認し、新しい単語は必ず辞書でチェックします。テキスト付録のCDを聞いて、単語や例文を自分で正しく発音し読む練習をしておきましょう。

■教科書

[ISBN]9784384210446 『CD[MP3]付 シェリーとフランス語 仏検5級・4級・3級対応フランス語文法』(近藤 由佳,三修社)
【留意事項】 第1回目の授業で購入先等の説明をします。教員の指示があるまで購入しないこと。

■参考文献

[ISBN]9784560000380 『ディコ仏和辞典』(白水社)
[ISBN]9784385119342 『クラウン仏和辞典 第7版 小型版』(三省堂:2015)
[ISBN]9784411005328 『新・リュミエール—フランス文法参考書 増補改訂版』(森本 英夫,駿河台出版社)
【留意事項】 辞書・参考書については、教員の指示に従って下さい。

■関連科目

全てのフランス語科目、国際化と異文化理解

■成績評価方法および基準

定期試験 50%
小テスト 20%
口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

第2回 発音とつづり字の関係 ～単語を読んでみよう！～

第3回 教室や日常生活で用いる挨拶や表現を使ってみよう！

第4回 Leçon 1：名詞と冠詞

第5回 Leçon 1 続き：提示表現（「これは…です」「ここに～があります」etc.）（数字1～10）

第6回 Leçon 2：主語人称代名詞、動詞 être 「…である」の活用

第7回 Leçon 2 続き：動詞 avoir 「持っている」と avoirを用いたその他の表現（数字11～69）

第8回 Leçon 2 続き：avoirを用いたその他の表現（数字11～69）

第9回 Leçon 3：さまざまな動詞を用いて表現してみよう～第一群規則動詞—er～

第10回 Leçon 3 続き：フランス語の否定文

第11回 Leçon 3 続き：フランス語の疑問文と答え方

第12回 Leçon 4：形容詞の基本的用法

第13回 Leçon 4 続き：名詞と形容詞の複数形

第14回 Leçon 4 続き：さまざまな形容詞（男性単数第2形、不定形容詞toutの用法）

第15回 前期のまとめ

定期試験（定期試験期間中に行います）

科目名：フランス語総合1			
英文名：Basic French 1			
担当者： ^{イワムライズミ} 岩村 和泉			
単 位：1単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

「フランス語総合1」に引き続き、日常生活に即した会話を楽しく学びながら、フランス語をさらに自由に使えるように知識を深めていきます。

「フランス語総合2」では、さまざまな動詞を使いこなし、いろいろな種類の語彙を身に付けながら、会話でより自由にいろいろなことを表現できるようにします。また文法では過去形も学び、簡単な文章も読みこなせるレベルまで進んでいきます。前期と同様、毎回休まずに出席し、授業には積極的に参加しましょう！

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、フランス語を聞き、話し、読み、書くことに慣れ親しみ、初歩的なコミュニケーションが図れるようになります。またフランスの言葉と文化への理解を深め、より広い国際感覚を養うことができます。

■授業時間外に必要な学修

講義で学んだ内容をテキストで再確認し、新しい単語は必ず辞書でチェックします。
テキスト付録のCDを聞いて、単語や例文を自分で正しく発音し読む練習をしておきましょう。

■教科書

[ISBN]9784384210446『CD[MP3]付 シェリーとフランス語 仏検5級・4級・3級対応フランス語文法』(近藤 由佳,三修社)

■参考文献

[ISBN]9784560000380『ディコ仏和辞典』(白水社)

[ISBN]9784385119342『クラウン仏和辞典 第7版 小型版』(三省堂:2015)

[ISBN]9784411005328『新・リュミエールフランス文法参考書 増補改訂版』(森本 英夫,駿河台出版社)

■関連科目

全てのフランス語科目、国際化と異文化理解

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション、前期の復習(1)

第2回 前期の復習(2)

第3回 Leçon 5：指示形容詞(「この～」「あの～」)、所有形容詞(「私の～」「君の～」)、強勢形

第4回 Leçon 5 続き：第二群規則動詞—irと動詞 partir「出発する」の活用と用法

第5回 Leçon 6：動詞aller「行く」とvenir「来る」の活用と用法

第6回 Leçon 6 続き：定冠詞の縮約、国名と前置詞

第7回 Leçon 6 続き：近接未来「～するつもりです」と近接過去「～したところだ」、命令法

第8回 Leçon 7：動詞prendre「取る、乗る、食べる etc.」とfaire「する、作る」の活用と用法

第9回 Leçon 7 続き：使役動詞 faireとlaisser「～させる、させておく」の用法

第10回 Leçon 7 続き：非人称構文を用いて、天候や時間を表現しよう！ 疑問形容詞 quel

第11回 Leçon 8：さまざまな疑問文 ～ 疑問代名詞と疑問副詞 ～ (数字70以降)

第12回 Leçon 8 続き：否定表現のヴァリエーション

第13回 Leçon 9：動詞 vouloir (～したい、欲しい), pouvoir (～できる), devoir (～しなければならない)の活用と用法

第14回 Leçon 9 続き：補語人称代名詞 (「～に」、「～を」 etc.)

第15回 後期のまとめと復習

定期試験 (定期試験期間中に行います)

科目名： フランス語総合2			
英文名： Basic French 2			
担当者： <small>タダハラ</small> 久田原 泰子			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

「フランス語総合1」に引き続き、日常生活に即した会話を楽しく学びながら、フランス語をさらに自由に使えるように知識を深めていきます。

「フランス語総合2」では、さまざまな動詞を使いこなし、いろいろな種類の語彙を身に付けながら、会話でより自由にいろいろなことを表現できるようにします。また文法では過去形も学び、簡単な文章も読みこなせるレベルまで進んでいきます。前期と同様、毎回休まずに出席し、授業には積極的に参加しましょう！

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、フランス語を聞き、話し、読み、書くことに慣れ親しみ、初歩的なコミュニケーションが図れるようになります。またフランスの言葉と文化への理解を深め、より広い国際感覚を養うことができます。

■授業時間外に必要な学修

講義で学んだ内容をテキストで再確認し、新しい単語は必ず辞書でチェックします。

テキスト付録のCDを聞いて、単語や例文を自分で正しく発音し読む練習をしておきましょう。

■教科書

[ISBN]9784384210446『CD[MP3]付 シェリーとフランス語 仏検5級・4級・3級対応フランス語文法』(近藤 由佳,三修社)

■参考文献

[ISBN]9784560000380『ディコ仏和辞典』(白水社)

[ISBN]9784385119342『クラウン仏和辞典 第7版 小型版』(三省堂:2015)

[ISBN]9784411005328『新・リュミエール—フランス文法参考書 増補改訂版』(森本 英夫,駿河台出版社)

■関連科目

全てのフランス語科目、国際化と異文化理解

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション、前期の復習(1)

第2回 前期の復習(2)

第3回 Leçon 5: 指示形容詞(「この～」 「あの～」)、所有形容詞(「私の～」 「君の～」)、強勢形

第4回 Leçon 5 続き: 第二群規則動詞—irと動詞 partir「出発する」の活用と用法

第5回 Leçon 6: 動詞aller「行く」とvenir「来る」の活用と用法

第6回 Leçon 6 続き: 定冠詞の縮約、国名と前置詞

第7回 Leçon 6 続き: 近接未来「～するつもりです」と近接過去「～したところだ」、命令法

第8回 Leçon 7: 動詞prendre「取る、乗る、食べる etc.」とfaire「する、作る」の活用と用法

第9回 Leçon 7 続き：使役動詞 faireとlaisser「～させる、させておく」の用法

第10回 Leçon 7 続き：非人称構文を用いて、天候や時間を表現しよう！ 疑問形容詞 quel

第11回 Leçon 8：さまざまな疑問文 ～ 疑問代名詞と疑問副詞 ～ (数字70以降)

第12回 Leçon 8 続き：否定表現のヴァリエーション

第13回 Leçon 9：動詞 vouloir (～したい、欲しい), pouvoir (～できる), devoir (～しなければならない)の活用と用法

第14回 Leçon 9 続き：補語人称代名詞 (「～に」、「～を」 etc.)

第15回 後期のまとめと復習

定期試験 (定期試験期間中に行います)

科目名： フランス語総合2			
英文名： Basic French 2			
担当者： <small>イワムラ イズミ</small> 岩村 和泉			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

「フランス語総合1」に引き続き、日常生活に即した会話を楽しく学びながら、フランス語をさらに自由に使えるように知識を深めていきます。

「フランス語総合2」では、さまざまな動詞を使いこなし、いろんな種類の語彙を身に付けながら、会話でより自由にいろいろなことを表現できるようにします。また文法では過去形も学び、簡単な文章も読みこなせるレベルまで進んでいきます。前期と同様、毎回休まずに出席し、授業には積極的に参加しましょう！

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、フランス語を聞き、話し、読み、書くことに慣れ親しみ、初歩的なコミュニケーションが図れるようになります。またフランスの言葉と文化への理解を深め、より広い国際感覚を養うことができます。

■授業時間外に必要な学修

講義で学んだ内容をテキストで再確認し、新しい単語は必ず辞書でチェックします。
テキスト付録のCDを聞いて、単語や例文を自分で正しく発音し読む練習をしておきましょう。

■教科書

[ISBN]9784384210446 『CD[MP3]付 シェリーとフランス語 仏検5級・4級・3級対応フランス語文法』(近藤 由佳,三修社)

■参考文献

[ISBN]9784560000380 『ディコ仏和辞典』(白水社)

[ISBN]9784385119342 『クラウン仏和辞典 第7版 小型版』(三省堂:2015)

[ISBN]9784411005328 『新・リュミエール—フランス文法参考書 増補改訂版』(森本 英夫,駿河台出版社)

■関連科目

全てのフランス語科目、国際化と異文化理解

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション、前期の復習(1)

第2回 前期の復習(2)

第3回 Leçon 5: 指示形容詞(「この～」 「あの～」)、所有形容詞(「私の～」 「君の～」)、強勢形

第4回 Leçon 5 続き: 第二群規則動詞—irと動詞 partir「出発する」の活用と用法

第5回 Leçon 6: 動詞aller「行く」とvenir「来る」の活用と用法

第6回 Leçon 6 続き: 定冠詞の縮約、国名と前置詞

第7回 Leçon 6 続き: 近接未来「～するつもりです」と近接過去「～したところだ」、命令法

第8回 Leçon 7: 動詞prendre「取る、乗る、食べる etc.」とfaire「する、作る」の活用と用法

第9回 Leçon 7 続き：使役動詞 faireとlaisser「～させる、させておく」の用法

第10回 Leçon 7 続き：非人称構文を用いて、天候や時間を表現しよう！ 疑問形容詞 quel

第11回 Leçon 8：さまざまな疑問文 ～ 疑問代名詞と疑問副詞 ～ (数字70以降)

第12回 Leçon 8 続き：否定表現のヴァリエーション

第13回 Leçon 9：動詞 vouloir (～したい、欲しい), pouvoir (～できる), devoir (～しなければならない)の活用と用法

第14回 Leçon 9 続き：補語人称代名詞 (「～に」、 「～を」 etc.)

第15回 後期のまとめと復習

定期試験 (定期試験期間中に行います)

科目名： フランス語総合3			
英文名： Basic French 3			
担当者： <small>チュウジョ セイイチ</small> 中所 聖一			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

すでに「フランス語総合1,2」を履修した学生を対象とします。

新しい文法の知識を増やしながら日常的な会話を楽しく学び、文化的背景についても理解を深めながら、フランス語を使いこなすための能力の完成を目指します。フランス語ネイティブと基本的な会話をしたり、旅行に行つてフランス語を話したり、検定の4級を受験できるレベルのフランス語が身につけられるでしょう。

授業は知識を積み重ねていくことが必要ですので、休まず出席しましょう。予習と復習を欠かさないようにして、知識をしっかりと身に付けるようにしてください。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、フランス語の文法知識を深めながら、フランス語を使っていろいろな表現ができるようになる。また身の回りの直接的なことがらについて、フランス語で理解し説明したりできる能力を身に付けることができる。

■授業時間外に必要な学修

講義で学んだ内容をテキストで再確認し、新しい単語は必ず辞書でチェックします。

テキスト付録のCDを聞いて、ダイアログや例文を自分で正しく発音し読む練習をしておきましょう。

■教科書

[ISBN]9784384210446『シェリーとフランス語 仏検5級・4級・3級対応フランス語文法』(近藤 由佳, 三修社: 2014) 【留意事項】総合1・2から継続して使用します。持っていない場合は教員が購入先等について説明します。

■参考文献

[ISBN]9784560000380『ディコ仏和辞典』(白水社)

[ISBN]9784385119342『クラウン仏和辞典 第7版 小型版』(三省堂: 2015)

[ISBN]9784411005328『新・リュミエールフランス文法参考書 増補改訂版』(森本 英夫, 駿河台出版社)

【留意事項】辞書・参考書については、教員の指示に従って下さい。

■関連科目

全てのフランス語科目、国際化と異文化理解

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

第2回 これまで学んだ内容の復習と活用(1)

第3回 これまで学んだ内容の復習と活用(2)

第4回 Leçon 10：比較級と最上級(1)

第5回 Leçon 10：比較級と最上級(2)

第6回 Leçon 10：現在分詞とジェロンディフ

第7回 Leçon 11：中性代名詞

第8回 Leçon 11：中性代名詞

第9回 Leçon 11：「知る」を意味する二つの動詞 savoir と connaître

第10回 Leçon 12：フランス語の過去形（複合過去）(1)

第11回 Leçon 12：フランス語の過去形（複合過去）(2)

第12回 Leçon 13：関係代名詞(1)

第13回 Leçon 13：関係代名詞(2) 指示代名詞

第14回 Leçon 13：受動態・強調構文

第15回 前期のまとめと復習

定期試験（定期試験期間中に行う）

科目名：フランス語総合4			
英文名：Basic French 4			
担当者： <small>チュウジヨ セイイチ</small> 中所 聖一			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

これまでに習得した知識にさらに磨きをかけながら、フランス語の文法を完成に近づけます。日常のさまざまな場面での会話文を楽しく学びながら、それらの表現を自分でも使えるように練習し、より幅広い分野の語彙も身につけて、簡単な文章なども読みこなせるようにします。そうすることによって、フランス語圏の文化についてもより深く知ることができるとでしょう。

前期と同様、休まず出席しましょう。また予習や復習もして知識をしっかりと身に付けてください。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、フランス語の文法知識を深めながら、フランス語を使っているいろいろな表現ができるようになる。また身の回りの直接的なことがらについて、フランス語で理解し説明したりできる能力を身に付けることができる。

■授業時間外に必要な学修

講義で学んだ内容をテキストで再確認し、新しい単語は必ず辞書でチェックします。

テキスト付録のCDを聞いて、ダイアログや例文を自分で正しく発音し読む練習をしておきましょう。

■教科書

[ISBN]9784384210446『シェリーとフランス語 仏検5級・4級・3級対応フランス語文法』(近藤 由佳, 三修社: 2014)

■参考文献

[ISBN]9784560000380『ディコ仏和辞典』(白水社)

[ISBN]9784385119342『クラウン仏和辞典 第7版 小型版』(三省堂: 2015)

[ISBN]9784411005328『新・リュミエール—フランス文法参考書 増補改訂版』(森本 英夫, 駿河台出版社)

【留意事項】辞書・参考書については、教員の指示に従って下さい。

■関連科目

全てのフランス語科目、国際化と異文化理解

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

第2回 Leçon 14：代名動詞の使い方(1)

第3回 Leçon 14：代名動詞の使い方(2) 複合過去

第4回 Leçon 15：半過去の使い方(1)

第5回 Leçon 15：半過去の使い方(2)・大過去

第6回 Leçon 15：道順の尋ね方・説明の仕方

第7回 Leçon 16：フランス語の未来形 (単純未来)

第8回 Leçon 16：特殊な疑問代名詞・関係代名詞

第9回 Leçon 17：仮定を表す言い方（条件法）(1)

第10回 Leçon 17：仮定を表す言い方（条件法）(2)

第11回 Leçon 17：直接話法と間接話法

第12回 Leçon 18：接続法の使い方(1)

第13回 Leçon 18：接続法の使い方(2)

第14回 これまで学んだ内容の復習と活用(1)

第15回 これまで学んだ内容の復習と活用(2)

定期試験（定期試験期間中に行う）

科目名：フランス語コミュニケーション1			
英文名：French Communication 1			
担当者：ハットリ エツコ 服部 悦子			
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：前期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

フランス語総合1あるいは2いずれか1科目修得を履修条件とする。
「話す」「聞く」という二つの側面に重点を置き、実践的な活動を中心に授業を進める。旅行でよく出会う場面や日常によくある場面などを用いて、情報を聞き取り、フランス語で表現する方法を練習する。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は日常生活や旅行に必要なフランス語の表現、コミュニケーション能力を既習の文法事項の復習をしながら、習得する。

■授業時間外に必要な学修

単語を調べる、練習問題等、毎回指示された課題に取り組む。
CDを聴く。

■教科書

[ISBN]4808621479『やさしく学ぶ旅のフランス語』(中村敦子,第三書房)

■参考文献

仏和辞典

■関連科目

すべてのフランス語科目、国際化と異文化理解

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学学部実施規定に準拠して行います。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 発音練習、フランス紹介

第2回 挨拶表現

第3回 文法確認1

第4回 パリ案内

第5回 文法確認2

第6回 ホテルでの会話

第7回 文法確認

第8回 両替を依頼する

第9回 文法確認(不規則動詞)

第10回 道、行き方を尋ねる

第11回 復習問題

第12回 文法確認

第13回 買い物をする時の会話 1

第14回 買い物をする時の会話 2

第15回 まとめ

〔定期試験〕（定期試験期間中に行う）

科目名： フランス語コミュニケーション2			
英文名： French Communication 2			
担当者： ^{ハットリ} ^{エツコ} 服部 悦子			
単 位： 1単位	開講年次： 2～4年次	開講期： 後期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

フランス語総合1あるいは2いずれか1科目修得を履修条件とする。

コミュニケーション1に引き続き、「話す」「聞く」という二つの側面に重点を置き、実践的な活動を中心に授業を進める。旅行でよく出会う場面や日常によくある場面などを用いて、情報を聞き取り、自分を表現する方法を練習する。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は日常生活や旅行に必要なフランス語の表現、コミュニケーション能力を既習の文法事項の復習をしながら、習得する。

■授業時間外に必要な学修

単語を調べる、練習問題等、毎回指示された課題に取り組む。
CDを聴く。

■教科書

コミュニケーション1と同じ

[ISBN]4808621479『やさしく学ぶ旅のフランス語』(中村敦子 第三書房)

■参考文献

仏和辞典

■関連科目

すべてのフランス語科目、国際化と異文化理解

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学学部実施規定に準拠して行います。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 発音の復習

第2回 文法復習

第3回 列車に乗る時のフランス語 1

第4回 列車に乗る時のフランス語 2

第5回 文法確認 (命令文、代名動詞)

第6回 レストランでのフランス語 1

第7回 レストランでのフランス語 2

第8回 文法確認 (複合過去 1)

第9回 文法確認 (複合過去 2)

第10回 手紙を書く 1

第11回 手紙を書く 2

第12回 フランス語の歌を訳してみる。1

第13回 フランス語の歌を訳してみる。

第14回 まとめと応用演習。

第15回 まとめと応用演習。

〔定期試験〕(定期試験期間中に行う)

科目名： フランス語コミュニケーション3			
英文名： French Communication 3			
担当者： ^{マツムラ ヒロシ} 松村 博史			
単 位： 1単位	開講年次： 3～4年次	開講期： 前期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

「フランス語総合3・4」あるいは「コミュニケーション1・2」をすでに履修した人を対象に、さらに幅広い会話ができるように実践します。

基礎的な内容から始めるテキストを使い、これまで学んできた知識を駆使して、さらに細やかに自分の感じたこと、伝えたいことを表現できるように練習を重ねていきます。その中で、語彙力や文法の知識もさらに増やしていけるように工夫した授業をします。

またテキストは文化的な要素も多く盛り込まれており、その他にもさまざまな資料や映像を使ってライブ感のある授業にしたいと思っています。興味のある人は、ぜひどうぞ！

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、より幅広い語彙や文法知識を使いこなしながら、多様な内容についてフランス語で話し、フランス語圏の人々とも交流できるようになる。また文化的背景についても理解を深め、それを踏まえて異文化コミュニケーションを図ることができる。

■授業時間外に必要な学修

講義で学んだ内容をテキストで再確認し、新しい単語は必ず辞書でチェックします。

テキスト付録のCDを聞いて、ダイアログや例文を自分で正しく発音し読む練習をしておきましょう。

■教科書

[ISBN]9784411011183『フラッシュⅡ(CD付): 絵とアクティヴィテで学ぶフランス語』(エマニュエル アンティエ, 駿河台出版社: 2015)

【留意事項】 第1回目の授業で購入先等の説明をします。教員の指示があるまで購入しないこと。

■参考文献

[ISBN]9784560000427『パスポート仏和・和仏小辞典 第2版』(白水社: 2012)

[ISBN]9784385119342『クラウン仏和辞典 第7版 小型版』(三省堂: 2015)

【留意事項】 辞書・参考書については、教員の指示を聞いて参考にすること。

■関連科目

全てのフランス語科目、国際化と異文化理解

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

課題および口頭発表 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

研究室： A館6階 e-mail： hmatsu@kindai.ac.jp

■オフィスアワー

木曜2限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

第2回 自分の職業や身分、国籍などを言ってみよう

第3回 住んでいるところを尋ねたり言ったりしよう

第4回 自分が話せる言語を説明しよう

第5回 自分の家族について話してみよう

第6回 数字を使いこなせるようになろう

第7回 自分の好みを言ってみよう

第8回 理由を尋ねたり、説明したりできるようになろう

第9回 物について尋ねたり説明したりしよう

第10回 位置や場所を尋ねたり、言ったりしてみよう

第11回 容姿や服装について説明してみよう

第12回 移動手段について説明してみよう

第13回 天候や時刻について話してみよう

第14回 会話の実践的な練習

第15回 前期の復習とまとめ

定期試験（定期試験期間中に行う）

科目名：フランス語コミュニケーション4			
英文名：French Communication 4			
担当者： ^{マツムラ ヒロシ} 松村 博史			
単 位：1単位	開講年次：3～4年次	開講期：後期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

前期に続いて、より幅広く高度なフランス語の会話能力を身につけるための練習をしていきます。

基礎的な表現を出発点に、語彙力や文法能力も少しずつ向上させながら、ありきたりな会話表現を脱出して、より深く、より広く、より細やかな内容について自分で表現できるようになることを目指します。

またフランス語圏の文化についての理解もさまざまな資料や映像を使ってさらに深めていき、それを日本の文化とも比較しながら、異文化間の情報交換も会話に織り込むことができればと考えています。フランス語圏で明日にも使える会話力をつけたい人は、ぜひどうぞ！

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、より幅広い語彙や文法知識を使いこなしながら、多様な内容についてフランス語で話し、フランス語圏の人々とも交流できるようになる。また文化的背景についても理解を深め、それを踏まえて異文化コミュニケーションを図ることができる。

■授業時間外に必要な学修

講義で学んだ内容をテキストで再確認し、新しい単語は必ず辞書でチェックします。

テキスト付録のCDを聞いて、ダイアログや例文を自分で正しく発音し読む練習をしておきましょう。

■教科書

[ISBN]9784411011183『フラッシュ (CD付) 絵とアクティヴィテで学ぶフランス語』(エマニュエル アンティエ, 駿河台出版社：2015)

■参考文献

[ISBN]9784560000427『パスポート仏和・和仏小辞典 第2版』(白水社：2012)

[ISBN]9784385119342『クラウン仏和辞典 第7版 小型版』(三省堂：2015)

■関連科目

全てのフランス語科目、国際化と異文化理解

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

課題および口頭発表 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

研究室： A館6階 e-mail： hmatsu@kindai.ac.jp

■オフィスアワー

木曜2限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

第2回 食習慣について話し合ってみよう

第3回 自分の習慣や、日常の活動について話してみよう

第4回 過去のことを話そう(1) いつのことだったかを言う

第5回 過去について話そう(2) 期間を言う

第6回 過去について話そう(3) 過去の習慣について話す

第7回 人を誘ったり、できることを言ったりしよう

第8回 行動の目的を説明したり、許可を求めたりしよう

第9回 未来について話してみよう(1)

第10回 未来について話してみよう(2)

第11回 条件や仮定について話してみよう(1)

第12回 条件や仮定について話してみよう(2)

第13回 自分の願望を言ってみよう

第14回 比較表現を使ってみよう

第15回 前期の復習とまとめ

定期試験（定期試験期間中に行う）

科目名：中国語総合1			
英文名：Basic Chinese 1			
担当者： ^{ハラダ マコト} 原田 信・ ^{ハタ シノブ} 畑 忍			
単 位：1単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

中国語を聞き、話し、読み、書くことに慣れ親しみ、初歩的な中国語を用いてコミュニケーションが図れるようにします。「総合1」では、中国語の音節構造を理解し、発音表記（ピンイン）に習熟することが第一の目標となりますが、簡単な自己紹介や日常会話ができるよう、文法の基礎もしっかりと学んでいきます。

■学習・教育目標および到達目標

この科目の単位修得は電気電子工学科総合エレクトロニクスコースで設定した学習・教育目標Cの達成に付随的に関与している。「総合2」と併せて、中国語検定準4級程度の基本語彙と文法力を身につけます。

■授業時間外に必要な学修

授業で学修した発音・文法・表現を把握し、それを応用できるよう練習を積極的に行うこと。講義内で重要とされる部分をノートし、予復習に益するよう工夫をする。また授業内で配布された参考プリントなども丁寧にファイルし、授業に活用すること。学修済の項目に関し、問題点や疑問点を具体的に授業に臨むこと。

■教科書

[ISBN]9784764706880『音読で学ぶ中国語』（本間 史,金星堂）

■参考文献

辞書：

[ISBN]9784385121703『デイリーコンサイズ中日・日中辞典 第3版, 中型版』（杉本達夫,三省堂）

[ISBN]9784095156958『中日辞典 第2版, 大活字版』（北京・商務印書館, 小学館）

参考書：

[ISBN]9784061489875『はじめての中国語（講談社現代新書 987）』（相原茂, 講談社）

[ISBN]9784480056665『中国語はじめての一步（ちくま新書 066）』（木村英樹, 筑摩書房）

■関連科目

中国語総合2、中国語総合3, 4（理工・薬学・農のみ）

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

教室で各教員に直接確認して下さい。

■オフィスアワー

教室で各教員に直接確認して下さい。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 第1課 声調・単母音・複合母音

第2回 第2課 鼻母音・子音・巻舌母音

第3回 第3課 軽声・声調の変化

第4回 第4課 声調の組み合わせ・音の区別

第5回 発音の復習 第5課 人称代名詞・動詞述語文・副詞「也」と「都」

第6回 第6課 指示代名詞・「是」の文・否定を表わす「不」・「～吗？」の疑問文・疑問詞疑問文

第7回 第5課～第6課の復習

第8回 第7課 形容詞述語文・反復疑問文・省略疑問文・「的」の使い方

第9回 第8課 物の数え方・「吧」の用法・選択疑問文

第10回 第9課 所有をあらわす「有」・存在をあらわす「有」・曜日の言い方

第11回 第7課～第9課の復習

第12回 第10課 年月日の言い方・連動文・金額の言い方

第13回 第11課 場所をあらわす代名詞・存在をあらわす「在」と「有」・動詞の重ね型

第14回 第12課 時刻の言い方・介詞・動作を行う時間量

第15回 総合1の総復習

定期試験

科目名：中国語総合1			
英文名：Basic Chinese 1			
担当者： ^{イイツカ キミホ} 飯塚 君穂			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

中国語を聞き、話し、読み、書くことに慣れ親しみ、初歩的な中国語を用いてコミュニケーションが図れるようにします。「総合1」では、中国語の音節構造を理解し、発音表記（ピンイン）に習熟することが第一の目標となりますが、簡単な自己紹介や日常会話ができるよう、文法の基礎もしっかりと学んでいきます。

■学習・教育目標および到達目標

この科目の単位修得は電気電子工学科総合エレクトロニクスコースで設定した学習・教育目標Cの達成に付随的に関与している。「総合2」と併せて、中国語検定準4級程度の基本語彙と文法力を身につけます。

■授業時間外に必要な学修

授業で学修した発音・文法・表現を把握し、それを応用できるよう練習を積極的に行うこと。講義内で重要とされる部分をノートし、予復習に益するよう工夫をする。また授業内で配布された参考プリントなども丁寧にファイルし、授業に活用すること。学修済の項目に関し、問題点や疑問点を具体的に授業に臨むこと。

■教科書

[ISBN]9784764706880『音読で学ぶ中国語』(本間 史,金星堂)

■参考文献

辞書：
 [ISBN]9784385121703『デイリーコンサイズ中日・日中辞典 第3版, 中型版』(杉本達夫, 三省堂)
 [ISBN]9784095156958『中日辞典 第2版, 大活字版』(北京・商務印書館, 小学館)
 参考書：
 [ISBN]9784061489875『はじめての中国語 (講談社現代新書 987)』(相原茂, 講談社)
 [ISBN]9784480056665『中国語はじめての一步 (ちくま新書 066)』(木村英樹, 筑摩書房)

■関連科目

中国語総合2、中国語総合3、4 (理工・薬学・農のみ)

■成績評価方法および基準

定期試験 50%
 小テスト 20%
 口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

教室で各教員に直接確認して下さい。

■オフィスアワー

教室で各教員に直接確認して下さい。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 第1課 声調・単母音・複合母音

第2回 第2課 鼻母音・子音・巻舌母音

第3回 第3課 軽声・声調の変化

第4回 第4課 声調の組み合わせ・音の区別

第5回 発音の復習 第5課 人称代名詞・動詞述語文・副詞「也」と「都」

第6回 第6課 指示代名詞・「是」の文・否定を表わす「不」・「～吗？」の疑問文・疑問詞疑問文

第7回 第5課～第6課の復習

第8回 第7課 形容詞述語文・反復疑問文・省略疑問文・「的」の使い方

第9回 第8課 物の数え方・「吧」の用法・選択疑問文

第10回 第9課 所有をあらわす「有」・存在をあらわす「有」・曜日の言い方

第11回 第7課～第9課の復習

第12回 第10課 年月日の言い方・連動文・金額の言い方

第13回 第11課 場所をあらわす代名詞・存在をあらわす「在」と「有」・動詞の重ね型

第14回 第12課 時刻の言い方・介詞・動作を行う時間量

第15回 総合1の総復習

定期試験

科目名：中国語総合2			
英文名：Basic Chinese 2			
担当者：原田 信・畑 忍			
単 位：1単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：

■授業概要・方法等

「総合2」では、「総合1」で習熟したピンインを見て、一字一句正確に発音できることを目指します。また平易な文章を聞き、話すことができるよう中国語の基礎的知識を身につけ、初級レベルのコミュニケーションが図れるようにします。

■学習・教育目標および到達目標

「総合1」と併せて、中国語検定準4級程度の基本語彙と文法力を身につけます。

■授業時間外に必要な学修

授業で学修した発音・文法・表現を把握し、それを応用できるよう練習を積極的に行うこと。
講義内で重要とされる部分をノートし、予復習に益するよう工夫をする。また授業内で配布された参考プリントなども丁寧にファイルし、授業に活用すること。
学修済の項目に関し、問題点や疑問点を具体的にして授業に臨むこと。

■教科書

[ISBN]9784764706880『音読で学ぶ中国語』(本間 史,金星堂)

■参考文献

辞書：

[ISBN]9784385121703『デイリーコンサイス中日・日中辞典 第3版, 中型版』(杉本達夫, 三省堂)

[ISBN]9784095156958『中日辞典 第2版, 大活字版』(北京・商務印書館, 小学館)

参考書：

[ISBN]9784061489875『はじめての中国語 (講談社現代新書 987)』(相原茂, 講談社)

[ISBN]9784480056665『中国語はじめの一步 (ちくま新書 066)』(木村英樹, 筑摩書房)

■関連科目

中国語総合1・中国語総合3, 4 (理工・薬学・農のみ)

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

教室で各教員に直接確認して下さい。

■オフィスアワー

教室で各教員に直接確認して下さい。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 総合1の復習 第13課 ふたつの「了」

第2回 第13課 動態助詞「着」・「できる」の意をあらわす助動詞

第3回 第14課 経験をあらわす「过」・「是～的」の構文

第4回 第14課 動作の進行と動作の回数・禁止の表現

第5回 第13課・第14課の復習

第6回 第15課 主述述語文・比較の表現

第7回 第16課 「もうすぐ～する」・様態補語

第8回 第16課 助動詞の「得」

第9回 第17課 結果補語

第10回 第17課 方向補語・複合方向補語

第11回 第18課 兼語文・二つの目的語をとる動詞

第12回 第15課～第18課の復習

第13回 第19課 受け身文

第14回 第19課 可能補語・「又」と「再」

第15回 第20課 目的を表わす表現・存現文・主述構造の目的語

定期試験

科目名：中国語総合2			
英文名：Basic Chinese 2			
担当者： ^{イツカ キミホ} 飯塚 君穂			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

「総合2」では、「総合1」で習熟したピンインを見て、一字一句正確に発音できることを目指します。また平易な文章を聞き、話すことができるよう中国語の基礎的知識を身につけ、初級レベルのコミュニケーションが図れるようにします。

■学習・教育目標および到達目標

「総合1」と併せて、中国語検定準4級程度の基本語彙と文法力を身につけます。

■授業時間外に必要な学修

授業で学修した発音・文法・表現を把握し、それを応用できるよう練習を積極的に行うこと。
講義内で重要とされる部分をノートし、予復習に益するよう工夫をする。また授業内で配布された参考プリントなども丁寧にファイルし、授業に活用すること。
学修済の項目に関し、問題点や疑問点を具体的にして授業に臨むこと。

■教科書

[ISBN]9784764706880『音読で学ぶ中国語』(本間 史,金星堂)

■参考文献

辞書：

[ISBN]9784385121703『デイリーコンサイス中日・日中辞典 第3版, 中型版』(杉本達夫,三省堂)

[ISBN]9784095156958『中日辞典 第2版, 大活字版』(北京・商務印書館, 小学館)

参考書：

[ISBN]9784061489875『はじめての中国語 (講談社現代新書 987)』(相原茂, 講談社)

[ISBN]9784480056665『中国語はじめの一步 (ちくま新書 066)』(木村英樹, 筑摩書房)

■関連科目

中国語総合1・中国語総合3, 4 (理工・薬学・農のみ)

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

教室で各教員に直接確認して下さい。

■オフィスアワー

教室で各教員に直接確認して下さい。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 総合1の復習 第13課 ふたつの「了」

第2回 第13課 動態助詞「着」・「できる」の意をあらわす助動詞

第3回 第14課 経験をあらわす「过」・「是～的」の構文

第4回 第14課 動作の進行と動作の回数・禁止の表現

第5回 第13課・第14課の復習

第6回 第15課 主述述語文・比較の表現

第7回 第16課 「もうすぐ～する」・様態補語

第8回 第16課 助動詞の「得」

第9回 第17課 結果補語

第10回 第17課 方向補語・複合方向補語

第11回 第18課 兼語文・二つの目的語をとる動詞

第12回 第15課～第18課の復習

第13回 第19課 受け身文

第14回 第19課 可能補語・「又」と「再」

第15回 第20課 目的を表わす表現・存現文・主述構造の目的語

定期試験

科目名：中国語総合3			
英文名：Basic Chinese 3			
担当者： <small>ロイデ アツシ</small> 小出 敦			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

中国語総合1, 2を履修し、基礎的事項をマスターした学生を対象とする科目です。
中国語総合1, 2で学習した単語や文法事項を復習しながら、中国文化をテーマに、自分の言葉で表現できる力を養います。「総合3」では、主に「読む」と「書く」に重点を置き、中国語による文章表現力の基礎を身につけます。中国語を読んで適切に理解し、自分の言いたいことが書けること、また情報や自分の考えを場面や目的に応じて適切に伝えることを学びます。

■学習・教育目標および到達目標

総合4と併せて、中国語検定3級程度の常用語彙と文法力を身につけます。

■授業時間外に必要な学修

中国語総合1, 2で学修した内容を十分に復習し、その知識を授業内で運用できるよう日頃より準備すること。
授業で学修した発音・文法・表現を把握し、それを応用できるよう練習を積極的に行うこと。
講義内で重要とされる部分をノートし、予復習に益するよう工夫をする。また授業内で配布された参考プリントなども丁寧にファイルし、授業に活用すること。
学修済の項目に関し、問題点や疑問点を具体的に授業に臨むこと。

■教科書

[ISBN]9784261018660『楽しく学ぼう やさしい中国語 〈講読編〉』(王 武雲、張 慧娟、朱藝、郁文堂)

■参考文献

「中国語について」の項を参照

■関連科目

中国語総合1, 2、中国語総合4

■成績評価方法および基準

定期試験 50%
小テスト 20%
口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

教室で各教員に直接確認して下さい。

■オフィスアワー

教室で各教員に直接確認して下さい。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 中国語基礎文法の復習

第2回 第1課 “的” を用いる名詞句

第3回 第1課 まとめ・練習問題

第4回 第2課 “因为A, 所以B”

第5回 第2課 まとめ・練習問題

第6回 第3課 介詞“把”の構文

第7回 第3課 まとめ・練習問題

第8回 第1課から第3課までの復習

第9回 第4課 “会”の用法

第10回 第4課 まとめ・練習問題

第11回 第5課 “不但A, 而且B”

第12回 第5課 まとめ・練習問題

第13回 第6課 “一A就B”

第14回 第6課 まとめ・練習問題

第15回 「総合3」の総復習

定期試験

科目名：中国語総合4			
英文名：Basic Chinese 4			
担当者： ^{ムラタ ヒロシ} 村田 浩			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

「総合3」に引き続き、中国文化をテーマに、中国語による自己表現力を高めていきます。語彙を増やすとともに文法力や表現力も強化し、総合的な中国語運用能力を伸ばしていきます。

■学習・教育目標および到達目標

総合3と併せて、中国語検定3級程度の常用語彙と文法力を身につけます。

■授業時間外に必要な学修

中国語総合1, 2, 3で学修した内容を十分に復習し、その知識を授業内で運用できるよう日頃より準備すること。

授業で学修した発音・文法・表現を把握し、それを応用できるよう練習を積極的に行うこと。

講義内で重要とされる部分をノートし、予復習に益するよう工夫をする。また授業内で配布された参考プリントなども丁寧にファイルし、授業に活用すること。

学修済の項目に関し、問題点や疑問点を具体的にして授業に臨むこと。

■教科書

[ISBN]9784261018660『楽しく学ぼう やさしい中国語 〈講読編〉』(王 武雲、張 慧娟、朱 藝、郁文堂)

■参考文献

「中国語について」の項を参照

■関連科目

中国語総合1, 2、中国語総合3

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

教室で各教員に直接確認して下さい。

■オフィスアワー

教室で各教員に直接確認して下さい。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 「総合3」の復習

第2回 第7課 “只要A, 就B”

第3回 第7課 まとめ・練習問題

第4回 第8課 複合方向補語 “下来”

第5回 第8課 まとめ・練習問題

第6回 第9課 “无论A都B”

第7回 第9課 まとめ・練習問題

第8回 第7から第9課までの復習

第9回 第10課 “如果～ (的话)”

第10回 第10課 まとめ・練習問題

第11回 第11課 “虽然A, 但是B”

第12回 第11課 まとめ・練習問題

第13回 第12課 “为了～”

第14回 第12課 まとめ・練習問題

第15回 「総合4」の総復習

定期試験

科目名：中国語コミュニケーション1			
英文名：Chinese Communication 1			
担当者：加納 巧			
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

中国語総合1, 2を履修し、基礎的事項をマスターした学生を対象とする科目です。
中国語総合1, 2で学習した単語や文法事項を復習しながら、日常の身近な話題をテーマに、自分の言葉で表現できる力を養います。「コミュニケーション1」では、主に「聞く」と「話す」に重点を置き、中国語による会話能力の基礎を身につけます。中国語を聞いて適切に反応し、質問のやりとりができること、また情報や自分の考えを場面や目的に応じて適切に伝えることを学びます。
この科目を受講する人は、「中国語総合3」と併せて受講されることをお勧めします。

■学習・教育目標および到達目標

日常生活の具体的な場面で、最低限必要とされる語彙や慣用表現を身につけます。簡単な文を聞き取って、基本的な言い回しを用いて自己表現できるようにします。

■授業時間外に必要な学修

中国語総合1, 2で学修した内容を十分に復習し、その知識を授業内で運用できるよう日頃より準備すること。
授業で学修した発音・文法・表現を把握し、それを応用できるよう練習を積極的に行うこと。
講義内で重要とされる部分をノートし、予復習に益するよう工夫をする。また授業内で配布された参考プリントなども丁寧にファイルし、授業に活用すること。
学修済の項目に関し、問題点や疑問点を具体的に授業に臨むこと。

■教科書

[ISBN]9784560069233『中国語つぎへの一歩(解答なし)』(尹 景春,白水社)

■参考文献

「中国語について」の項を参照

■関連科目

中国語総合1, 2, 3, 4
中国語コミュニケーション2, 3, 4
中国語カルチャーセミナーA, B

■成績評価方法および基準

定期試験 50%
小テスト 20%
口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

教室で各教員に直接確認して下さい。

■オフィスアワー

教室で各教員に直接確認して下さい。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 中国語発音の復習 復習1

基本動詞・形容詞をチェックしよう 復習2 基本文型をチェックしよう

第2回 第1課 中国に行こう！

助動詞「可以」「要」・主述述語文

第3回 第1課 中国に行こう！

目的語が主述句のとき

第4回 第2課 ジャスミン茶を飲もう！

「的」の用法・原因理由の表現

第5回 第2課 ジャスミン茶を飲もう！

文末の助詞

第6回 第3課 友だちをつくろう！

連動文

第7回 第3課 友だちをつくろう！

「是～的」の文・疑問詞「怎么」

第8回 第1課～第3課の復習

第9回 第4課 長城に登ろう！

「了」の三つの用法

第10回 第4課 長城に登ろう！

副詞「就」

第11回 第5課 卓球を楽しもう！

様態補語

第12回 第5課 卓球を楽しもう！

可能性の予測をあらわす「会」・「假定」をあらわす「要是」

第13回 第6課 漢字を覚えよう！

結果補語（1）

第14回 第6課 漢字を覚えよう！

副詞 有点儿

第15回 「コミュニケーション1」の復習

定期試験

科目名：中国語コミュニケーション2

英文名：Chinese Communication 2

担当者：加納 巧

単 位：1単位

開講年次：2～4年次

開講期：後期

必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

「コミュニケーション1」に引き続き、日常の身近な話題や生活習慣をテーマに、中国語による自己表現力を高めていきます。語彙を増やすとともに文法力や表現力も強化し、中国語による会話能力をいっそう高めていきます。この科目を受講する人は、「中国語総合4」と併せて受講されることをお勧めします。

■学習・教育目標および到達目標

日常生活の具体的な場面で、最低限必要とされる語彙や慣用表現を身につけます。簡単な文を聞き取って、基本的な言い回しを用いて自己表現できるようにします。

■授業時間外に必要な学修

中国語総合1、2、コミュニケーション1で学修した内容を十分に復習し、その知識を授業内で運用できるよう日頃より準備すること。

授業で学修した発音・文法・表現を把握し、それを応用できるよう練習を積極的に行うこと。

講義内で重要とされる部分をノートし、予復習に益するよう工夫をする。また授業内で配布された参考プリントなども丁寧にファイルし、授業に活用すること。

学修済の項目に関し、問題点や疑問点を具体的に授業に臨むこと。

■教科書

[ISBN]9784560069233『中国語つぎへの一歩(解答なし)』(尹 景春,白水社)

■参考文献

「中国語について」の項を参照

■関連科目

中国語総合1、2、3、4

中国語コミュニケーション1、3、4

中国語カルチャーセミナーA、B

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

教室で各教員に直接確認して下さい。

■オフィスアワー

教室で各教員に直接確認して下さい。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 「コミュニケーション1」の復習

第2回 第7課 街を歩こう！

存現文

第3回 第7課 街を歩こう！

主語がフレーズるとき・「～了～了」の用法

第4回 第8課 中国映画を見よう！

「状態の持続」をあらわす「着」

第5回 第8課 中国映画を見よう！

副詞「再」・疑問詞の不定用法

第6回 第9課 チャイナドレスを買おう！

方向補語

第7回 第9課 使役の文

第8回 第7課～第9課の復習

第9回 第10課 中華を食べよう！

可能補語

第10回 第10課 中華を食べよう！

強調表現

第11回 第11課 西遊記を読もう！

結果補語 (2)

第12回 第11課 西遊記を読もう！

受け身の文

第13回 第12課 春節を祝おう！

近い未来の表現

第14回 第12課 春節を祝おう！

処置式の文

第15回 「コミュニケーション2」の総復習

定期試験

科目名：中国語コミュニケーション3

英文名：Chinese Communication 3

担当者：^{イヅカ キミホ}飯塚 君穂

単 位：1単位

開講年次：3～4年次

開講期：前期

必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

中国語総合3、4及び中国語コミュニケーション1、2の4科目のうち、少なくともいずれか2科目を修得した学生を対象とする科目です。日常の基本的な表現をマスターし、旅行先のホテル・ショッピング・キャンパスライフ・趣味・恋愛・将来の夢など様々な場面や話題での会話を学び、中国語による会話能力の基礎を完成させます。

■学習・教育目標および到達目標

主に日常会話中心に口頭によるコミュニケーション能力の基礎を完成させることを目指します。簡単な文からやや複雑な文まで、正確に自己表現ができるようにします。

■授業時間外に必要な学修

授業で学修した発音・文法・表現を把握し、それを応用できるよう練習を積極的に行うこと。

講義内で重要とされる部分をノートし、予復習に益するよう工夫をする。また授業内で配布された参考プリントなども丁寧にファイルし、授業に活用すること。

学修済の項目に関し、問題点や疑問点を具体的に於て授業に臨むこと。

■教科書

詳細は第1回目の授業でお知らせします。

■参考文献

「中国語について」の項を参照

■関連科目

中国語総合1、2、3、4

中国語コミュニケーション1、2、4

中国語カルチャーセミナーA、B

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

11号館406号室

E-mail:k-iizuka@kindai.ac.jp

■オフィスアワー

金曜日3限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 中国語発音の復習 あいさつ、簡単な日常会話の練習

第2回 第1課 新学習・新希望

第3回 第1課 まとめ

第4回 第2課 交朋友

第5回 第2課 まとめ

第6回 第3課 谈爱好

第7回 第3課 まとめ

第8回 中間テスト

第9回 第4課 谈学习

第10回 第4課 まとめ

第11回 第5課 谈恋爱

第12回 第5課 まとめ

第13回 第7課 谈暑假

第14回 第7課 まとめ

第15回 「コミュニケーション3」の総復習

定期試験

科目名：中国語コミュニケーション4

英文名：Chinese Communication 4

担当者：飯塚 君穂
イヅカ キミホ

単 位：1単位 開講年次：3～4年次 開講期：後期 必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

中国語総合3, 4及び中国語コミュニケーション1, 2の4科目のうち、少なくともいずれか2科目を修得した学生を対象とする科目です。日常の基本的な表現と簡単なビジネス中国語をマスターし、旅行先のホテル・ショッピング・キャンパスライフ・趣味・恋愛・将来の夢など様々な場面や話題での会話を学び、中国語による会話能力の基礎を完成させます。また、中国語でEメールや手紙を書けるようになることを目指しています。

■学習・教育目標および到達目標

主に日常会話中心に口頭によるコミュニケーション能力の基礎を完成させることを目指します。簡単な文からやや複雑な文まで、正確に自己表現ができるようにします。

■授業時間外に必要な学修

授業で学修した発音・文法・表現を把握し、それを応用できるよう練習を積極的に行うこと。講義内で重要とされる部分をノートし、予復習に益するよう工夫をする。また授業内で配布された参考プリントなども丁寧にファイルし、授業に活用すること。学修済の項目に関し、問題点や疑問点を具体的にして授業に臨むこと。

■教科書

詳細は第1回目の授業でお知らせします。

■参考文献

「中国語について」の項を参照

■関連科目

中国語総合1, 2, 3, 4
中国語コミュニケーション1, 2, 3
中国語カルチャーセミナーA, B

■成績評価方法および基準

定期試験 50%
小テスト 20%
口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

11号館406号室
E:mail:k-iizuka@kindai.ac.jp

■オフィスアワー

金曜日3限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 「コミュニケーション3」の復習

第2回 第7課 旅行

第3回 第7課 まとめ

第4回 第8課 买东西

第5回 第8課 まとめ

第6回 第9課 写信

第7回 第9課 まとめ

第8回 中間テスト

第9回 第10課 理想与梦想

第10回 第10課 まとめ

第11回 第11課 电子邮件

第12回 第11課 まとめ

第13回 第12課 找工作

第14回 第12課 まとめ

第15回 「コミュニケーション4」の総復習

定期試験

薬学部 授業計画 (2015)

2015.4 印刷発行

発行者 近畿大学薬学部

編集 近畿大学薬学部 教務委員会

所在地 〒577-8502 東大阪市小若江3-4-1

電話番号 (06)4307-3058

インターネット版シラバス

下記のアドレスでもシラバスを公開しています。

<http://syllabus.itp.kindai.ac.jp/customer/Form/sy01000.aspx>

※インターネット版シラバスでは、学科名以外にも、キーワードや、開講年次、単位、開講期、科目区分、必修・選択の別などの科目属性からシラバスを検索することができます。



1845693R00147

Produced by Amazon
Printed in Japan
落丁、乱丁本のお問い合わせは
Amazon.co.jp カスタマーサービスへ

 近畿大学



MOD1006920827